仙台市文化財調査報告書第205集

仙台市宮城地区

野川遺跡

—NOGAWA SITE—

1996. 3

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第205集

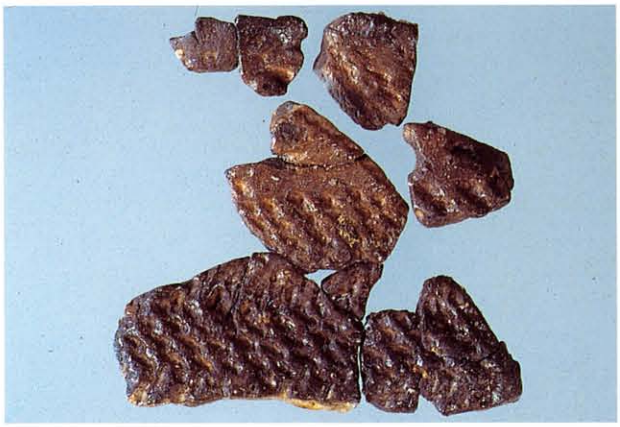
仙台市宮城地区

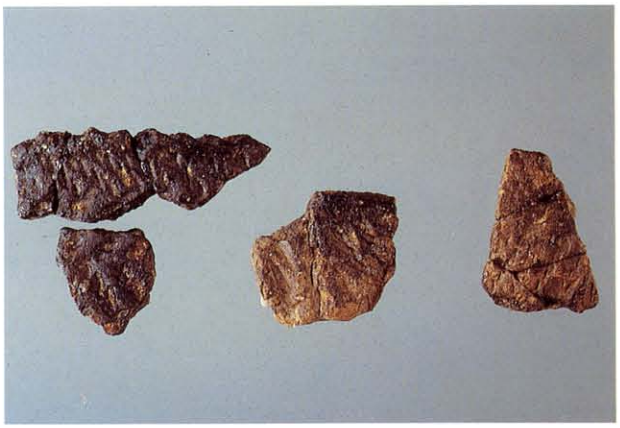
野　川　遺　跡

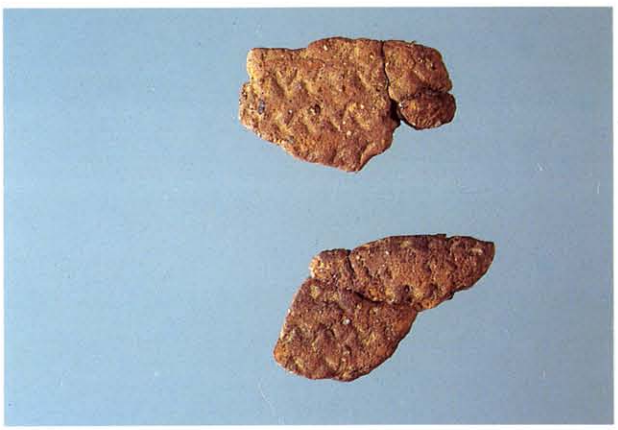
—NOGAWA SITE—

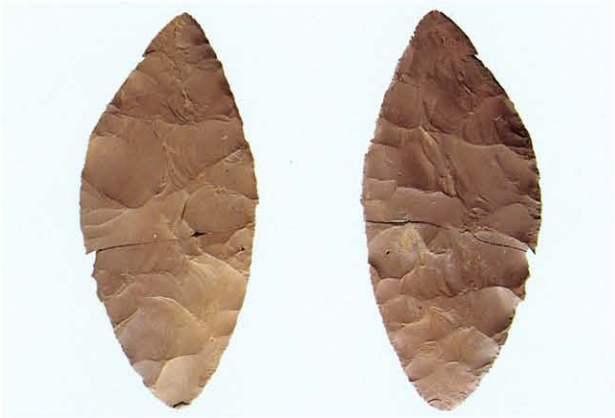
1996.3

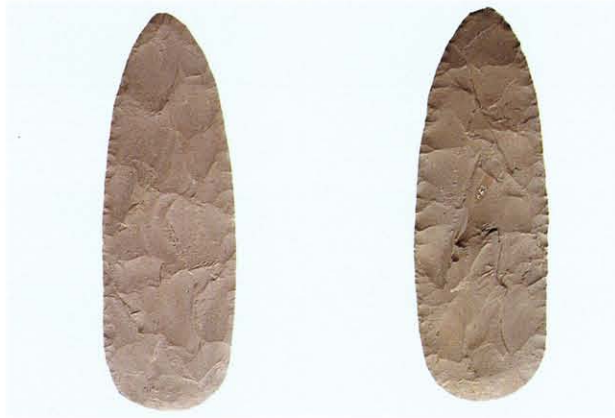
仙台市教育委員会











序　文

仙台市内西部に位置する青葉区宮城地区は、豊かな緑と広瀬川の清流が流れる、自然環境に恵まれたところです。しかし、近年、急速に宅地開発が進み、そうした環境も変わりつつあります。

今回の調査は、市道の拡幅工事に伴い実施された非常に狭い範囲のものでしたが、当初予想されなかった約一万年前の縄文人が残した石器の貯蔵跡が、宮城県内で初めて発見されるという大きな成果がありました。同時に出土した土器の文様などから、野川遺跡は縄文時代の遺跡としては市内最古の遺跡となり、この時期に市内で早くも縄文人の活動が始まっていたことを物語る資料ともなりました。

そして野川遺跡での発見は、縄文時代始め頃の人々の活動の様子を示す貴重な発見として、全国的にも注目されるところとなりました。

先人たちの遺した貴重な文化遺産を次の世代に継承していくことは、現代に生きる私達の大きな責務であると考えます。文化財保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。その意味でも今回の発見が、地域の歴史を説き明かしていくための貴重な資料となり、この報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習の場で活用されれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際しまして御協力いただきました地元の皆様はじめ、関係された方々に心より御礼申し上げます。

1996年３月

仙台市教育委員会

教育長　坪　山　　繁

例　　言

1　本書は、仙台市青葉区熊ケ根地区での市道熊ケ根定義線の路線拡幅工事に伴う、野川遺跡の発掘調査報告書である。

2　報告書作成のための遺物整理は、吉岡恭平・工藤信一郎が担当し、石器実測については荒井格が協力した。
　本書の編集・執筆は工藤が行い、吉岡・荒井がこれを補佐した。

3　本書中の実測図作成にあたり、石器の実測用写真撮影を㈱シン技術コンサルに委託している。

4　本調査における出土遺物・実測図・写真等の資料は、仙台市教育委員会文化財課で保管しているので活用されたい。

5　本書の作成にあたり、下記の方々にご指導・ご助言を頂戴した。(順不同・敬称略)
　芹沢長介　須藤　隆　阿子島香　梶原　洋　鎌田俊昭　石川俊英　山田晃弘　林　謙作　大塚達朗
　栗嶋義明　神村　透　小林恵美子

6　自然科学的分析として放射性炭素年代測定について、名古屋大学年代測定資料研究センター中村俊夫助教授にお願いし原稿を頂いた。また、石器の使用痕については東北大学文学部阿子島香助教授に教示いただいた。記して感謝の意を表す次第である。

7　本遺跡の調査成果については、いくつかの研究会での発表資料および概要報告についての刊行物があるが、本書の記載内容がそれらに優先するものである。

凡　　例

1　本書中で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の１：25,000「熊ケ根」の一部を使用している。

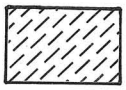
2　本書中で使用した航空写真は、建設省国土地理院（1956年米軍撮影）のものを使用している。

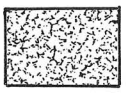
3　本書中の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原1973) を使用した。

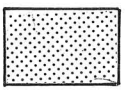
4　実測図中の水糸高は標高で統一している。

5　実測図中の方位は磁北で統一している。仙台市において磁北は真北に対して西偏約７°20′である。

6　石器の用語・図化・計測について
　石器の計測については竹岡編（1989）にもとづいた。石器実測図中スクリーントーンを貼付したものは次の状態を示している。


節理面


焼　面


磨　面

7　本書中で使用したカラー図版写真は、仙台市史編さん室のものを使用している。

8　石器の登録については、縄文時代後期遺物包含層出土の石器と、第６トレンチ３層～４層上面出土の石器について登録Ｎｏの頭にＡをつけている。

9　剥片の腹面（主要剥離面）が不明の場合、実測図の左側を表面、右側を裏面として記述した。

調　査　要　項

1　対象遺跡　　野川遺跡（宮城県遺跡登録番号21011）

2　遺跡の所在地　仙台市青葉区熊ケ根字町地内

3　調査主体　　仙台市教育委員会

4　調査担当　　仙台市教育局社会教育部文化財課調査係

5　担当職員　　調査第二係長　田中則和　　主事　吉岡恭平　　主事　工藤信一郎

6　調査期間　　野外調査　1991年８月28日～９月27日

　　1991年12月17日・18日

　　整理　　1994年10月～95年３月（高砂埋蔵文化財整理室）

　　1995年４月～96年３月（泉埋蔵文化財整理室）

7　調査面積　　調査対象面積　約360m²

　　発掘調査面積　約120m²

8　整理作業参加者

　　井田千賀　砂金よしえ　大平いちみ　佐藤啓子　高橋朝子　中島いく子　湯浅ます枝

　　佐藤久栄　大槻明美　曽根ちよ子　佐竹さく子　高橋美香　小泉幸子　及川のり子

　　若生洋子　本間春美　坂本千枝　鈴木広子　高橋喜子　吉川陽子　小野妙子

本　文　目　次

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境……1
　1 遺跡の位置……1
　2 周辺の歴史的環境……1

Ⅲ　調査の方法と概要……2
　1 調査の方法……2
　2 調査概要……2

Ⅳ　基本層序……4

Ⅴ　発見された遺構と出土遺物……4
　1　発見された遺構と遺物……4
　(1)第 5 ・第 6 トレンチ 4 層上面……4
　①遺物出土状況……4
　②第 6 トレンチ 4 層出土土器……8
　③第 6 トレンチ 4 層出土石器……10
　(2)石器一括出土土坑……19
　①第 1 土坑……19
　②第 2 土坑……30
　(3)土坑出土石器接合資料……39
　(4)水洗選別による微細遺物の検出……68
　(5)剝片の形状についての属性……70
　・剝片計測属性表……72
　2　縄文時代後期の遺構と遺物……84
　(1)遺物包含層……84
　①包含層出土土器・土製品……84
　②包含層出土石器……95

Ⅵ　分　　析……100
　1　放射性炭素年代測定　　名古屋大学助教授　中村　俊夫……100

Ⅶ　考　　察……103
　1　野川遺跡出土土器の編年的位置づけについて……103
　2　遺構と遺物の関連性と遺跡の性格……105

(1)遺構と遺物の関連性 ……105
(2)土坑出土石器の使用痕分析について ……105
(3)石器の集積と遺跡の性格 ……106
3　蒲沢山遺跡出土石器について（参考資料） ……107

Ⅷ　まとめと今後の課題 ……111

挿 図 ・ 表 目 次

第１図　野川遺跡と宮城県内関連遺跡……２
第２図　野川遺跡と周辺の遺跡……３
第３図　調査トレンチ配置図……５・６
第４図　野川遺跡周辺の地形と調査地点……７
第５図　調査区西壁セクション・土層注記表……９
第６図　第５・第６トレンチ４層遺物出土状態
……11・12
第７図　第６トレンチ４層出土土器(1)……13
第８図　第６トレンチ４層出土土器(2)……14
第９図　第６トレンチ４層出土土器(3)……15
第10図　第６トレンチ４層出土土器(4)……16
第11図　第６トレンチ３～４層出土石器(1)……17
第12図　第６トレンチ３～４層出土石器(2)……18
第13図　第６トレンチ３～４層出土石器(3)……19
第14図　第１土坑遺物出土状態……20
第15図　第１土坑出土石器(1)……23
第16図　第１土坑出土石器(2)……24
第17図　第１土坑出土石器(3)……25
第18図　第１土坑出土石器(4)……26
第19図　第１土坑出土石器(5)……27
第20図　第１土坑出土石器(6)……28
第21図　第１土坑出土石器(7)……29
第22図　第１土坑出土石器(8)……30
第23図　第２土坑遺物出土状態……31
第24図　第２土坑出土石器(1)……33
第25図　第２土坑出土石器(2)……34
第26図　第２土坑出土石器(3)……35
第27図　第２土坑出土石器(4)……36
第28図　第２土坑出土石器(5)……37
第29図　第２土坑出土石器(6)……38
第30図　第１土坑出土石器接合資料(S1～S5)
平面・垂直分布図(1)……41
第31図　第１土坑出土石器接合資料(S6～S10)
平面・垂直分布図(2)……42
第32図　第１土坑出土石器接合資料(S11～S14)
平面・垂直分布図(3)……43
第33図　第１土坑出土石器接合資料(S16～S20)
平面・垂直分布図(4)……44
第34図　第１土坑出土石器接合資料(S21～S25)
平面・垂直分布図(5)……45
第35図　第１土坑出土石器接合資料(S26～S30)
平面・垂直分布図(6)……46
第36図　第１土坑出土石器接合資料
(S41.S59～S61)平面・垂直分布図(7)……47
第37図　第１土坑出土石器接合資料(S31～S67)
平面・垂直分布図(8)……48
第38図　第１土坑出土石器接合資料(1)……49
第39図　第１土坑出土石器接合資料(2)……50
第40図　第１土坑出土石器接合資料(3)……51
第41図　第１土坑出土石器接合資料(4)……52
第42図　第１土坑出土石器接合資料(5)……53
第43図　第１土坑出土石器接合資料(6)……54
第44図　第１土坑出土石器接合資料(7)……55
第45図　第１土坑出土石器接合資料(8)……56
第46図　第１土坑出土石器接合資料(9)……57
第47図　第１土坑出土石器接合資料(10)……58
第48図　第１土坑出土石器接合資料(11)……59
第49図　第１土坑出土石器接合資料(12)……60
第50図　第１土坑出土石器接合資料(13)……61
第51図　第１土坑出土石器接合資料(14)……62
第52図　土坑・トレンチ出土石器接合資料(15)……63
第53図　第１土坑出土石器接合資料（折面)(1)……64
第54図　第１土坑出土石器接合資料（折面)(2)……65
第55図　水洗選別遺物グリッド別出土分布図……69
第56図　剥片長幅分布図……70
第57図　剥片の計測について……71
第58図　包含層出土土器(1)……86
第59図　包含層出土土器(2)……87
第60図　包含層出土土器(3)……88
第61図　包含層出土土器(4)……89
第62図　包含層出土土器(5)……90
第63図　包含層出土土器(6)……91

第64図　包含層出土土器(7)……92
第65図　包含層出土土器(8)……93
第66図　包含層出土円盤状土製品……94
第67図　包含層出土石器(1)……96
第68図　包含層出土石器(2)……97
第69図　表面採集石器……98
第70図　包含層出土石器(3)……99
第71図　蒲沢山遺跡剝片接合資料出土状態 ……108
第72図　蒲沢山遺跡出土石器 ……109・110

表　目　次

第１表　宮城県内関連遺跡地名表…… 2
第２表　土坑出土石器剝片剝離工程表(1)……66
第３表　土坑出土石器剝片剝離工程表(2)……67
第４表　水洗選別遺物グリッド別集計表 ……142
第５表　剝片計測属性表(1)……72
第６表　剝片計測属性表(2)……73
第７表　剝片計測属性表(3)……74
第８表　剝片計測属性表(4)……75
第９表　剝片計測属性表(5)……76
第10表　剝片計測属性表(6)……77
第11表　剝片計測属性表(7)……78
第12表　剝片計測属性表(8)……79
第13表　剝片計測属性表(9)……80
第14表　剝片計測属性表(10)……81
第15表　剝片計測属性表(11)……82
第16表　剝片計測属性表(12)……83

写　真　図　版

写真１　調査区近景（東から） …… 115
写真２　第１土坑Ａ検出状況 …… 115
写真３　第１土坑Ｂ検出状況 …… 115
写真４　第２土坑石器出土状況 …… 115
写真５　第２土坑石器出土状況 …… 115
写真６　石器出土状況（№189） …… 115
写真７　第１土坑出土石器(1) …… 116
写真８　第１土坑出土石器(2) …… 117
写真９　第１土坑出土石器(3) …… 118
写真10　第１土坑出土石器(4) …… 119
写真11　第１土坑出土石器(5) …… 120
写真12　第１土坑出土石器(6) …… 121
写真13　第２土坑出土石器(1) …… 122
写真14　第２土坑出土石器(2) …… 123
写真15　第２土坑出土石器(3) …… 124
写真16　第２土坑出土石器(4) …… 125
写真17　第２土坑出土石器(5) …… 126
写真18　第２土坑出土石器(6) …… 127
写真19　第６トレンチ３～４層出土石器(1) …… 128
写真20　第６トレンチ３～４層出土石器(2) …… 129
写真21　第１土坑出土石器接合資料(1) …… 130
写真22　第１土坑出土石器接合資料(2) …… 131
写真23　第１土坑出土石器接合資料(3) …… 132
写真24　第１土坑出土石器接合資料(4) …… 133
写真25　第１土坑出土石器接合資料(5) …… 134
写真26　包含層出土土器(1) …… 135
写真27　包含層出土土器(2) …… 135
写真28　包含層出土土器(3) …… 136
写真29　包含層出土土器(4) …… 136
写真30　包含層出土土器(5) …… 137
写真31　包含層出土土器(6) …… 137
写真32　包含層出土土器(7) …… 138
写真33　包含層出土土器(8) …… 138
写真34　包含層出土円盤状土製品 …… 139
写真35　包含層出土石器(1) …… 139
写真36　包含層出土石器(2) …… 140
写真37　包含層出土石器(3) …… 141
写真38　蒲沢山遺跡出土石器(1) …… 142
写真39　蒲沢山遺跡出土石器(2) …… 143
写真40　野川遺跡航空写真 …… 143

I　調査に至る経過

野川遺跡は、仙台市西北部の青葉区熊ケ根（旧宮城町）に所在している。今回の調査は、国道48号線から分岐する市道熊ケ根定義線の、新青下橋の架橋による路線拡幅工事に伴う緊急調査として実施された。宮城地域を東西に走る国道48号線は、仙台市を起点として山形県天童市に至る国道で、藩政時代に関山街道として整備されて以来宮城県と山形県とを結ぶ幹線道路となっている。また地域の市民の生活道路でもあり、沿線では大小の住宅地開発が行われている。同時に沿線に点在する観光資源の振興を図る重要な道路としても位置付けられている。市道熊ケ根定義線の延びる大倉地区には、大倉ダムや定義山西方寺といった観光地があり多くの観光客が訪れている。しかし現在の市道は幅員も狭く、歩道も設置できないような区間がほとんどで、観光シーズンなどには交通渋滞も生じており、また車両の大型化などから歩行者の通行にも大きな危険を伴う状況となっていた。

そこで青葉区宮城総合支所建設課では、これらの状況を解決し交通安全の確保を図るために路線拡幅工事を計画した。その第1期工事として熊ケ根地区が計画され、路線にかかる野川遺跡について協議があり、今回の拡幅工事対象となる市道の東側部分について発掘調査を実施することとなった。

II　遺跡の位置と環境

1．遺跡の位置

野川遺跡は、市内中心部から国道48号線で約20㎞の地点にある。JR仙山線熊ケ根駅からは、およそ北東方向に約2㎞のところである。現状は、今回調査対象となった市道東側は畑地で一部荒地となっていた。

仙台市西部域の地形を概観すると、西側には南奥羽山系の山並みが連なり、ここから派生する国見・七北田丘陵と蕃山・青葉山丘陵によって北と南を挟まれ、この間を開析して広瀬川が東流している。広瀬川は、作並付近で新川川と合流し、青下川と大倉川が合流する熊ケ根付近では比高差50ｍにおよぶ深い峡谷を形成しながら蛇行し、愛子に入ると数段の河岸段丘を形成している。

遺跡は、広瀬川の支流である青下川との合流点から北へ約500ｍのぼった河岸段丘上に位置している。標高は約187ｍで、青下川との比高差は約50ｍである。遺跡の立地する段丘面は、南東方向に緩やかに傾斜しており、調査地点から東方へ約100ｍで段丘崖となり青下川に臨んでいる。

2．周辺の歴史的環境

遺跡周辺の段丘上には、12ヵ所の縄文時代前期～中期の遺跡が点在しているが、これまで本格的な発掘調査が行なわれたことはなく、詳しい内容は不明である。野川遺跡についてもこれまでは縄文時代中期～後期の遺跡として知られており、仙台市内において縄文時代草創期の遺跡は確認されていなかった（第2図）。

宮城県内ではこれまで座散乱木遺跡、馬場壇Ｂ遺跡、大原Ｂ遺跡など、県北部の鳴瀬川・江合川流域を中心として、8ヵ所の当該期に相当する遺跡が発見されている。仙台市周辺では、多賀城市の志引遺跡が知られている程度であった（第1図）。

縄文時代早期～前期の遺跡としては、東方約8㎞の広瀬川北岸丘陵上の芋沢字赤坂にある蒲沢山遺跡に資料的なまとまりがみられる。区画整理事業（現赤坂ニュータウン）の実施に伴い、1982～84年にかけて行なわれた調査では、上川名Ⅱ式～大木1式期の竪穴住居跡・土坑群がまとまって発見されたほか、出土遺物としては当該期を中心とする遺物のほかに、草創期の可能性のある石器が出土している（宮城町教育委員会：1983）（注1）。

この他の調査例としては、青下川対岸の大原・下倉地区において、1989年・91年にかけて土地改良総合整備事業の実施に伴う遺跡範囲確認調査が行なわれている（工藤：1994）。

二か年にわたった調査では、整備事業に係る中世の館跡を含む7遺跡について調査を実施し、縄文時代および近

世の遺構・遺物が発見されている。縄文時代の遺構としては、前期初頭大木１～２式期の土坑と中期後葉大木９式期の遺物包含層が発見されている。また中世の大原館跡・下大倉館跡の調査では、館跡内部の調査は実施していないもの、土塁・堀跡等の遺構が発見されている。近世以降のものとしては水田跡・ピット群・溝状遺構などがあった。

弥生時代の遺跡は今のところ確認されていないが、古代の遺跡としては、檀ノ原Ｂ遺跡・町Ａ遺跡などがある。

中世の遺跡としては、野川遺跡の南側に熊ケ根城跡があり、土塁や平場、堀跡等が残っている。熊ケ根城は、「安永風土記」や「仙台領古城書上」に、城跡の規模と共に国分氏家臣六丁目氏の居館であったことなどが記載されている（注２）。

城跡西側に隣接する興禅寺は、「安永風土記」によれば六丁目氏によって開基され、その墓所である五輪塔があると記載されている（注３）。現在興禅寺にはこの五輪塔はみられないが、国分盛重とその次男の名の刻まれた墓石が開山碑とともに覆堂のなかにある。

（注１）東北福祉大学助教授梶原洋氏の御教示による。野川遺跡については、１万年前よりも古いとする年代観での縄文時代草創期としている。

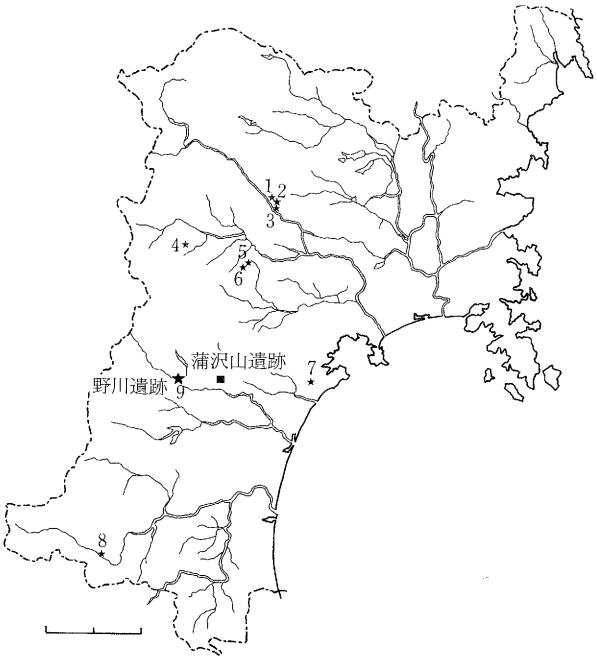
（注２）延宝年間（1673～1681）にだされた「仙台領古城書上」には、「平山　熊ケ根城　東西　三十間　南北五 十間　城主　六丁目某」とある。また、安永三年（1774）にだされた「安永風土記－熊ケ根村書上」には、「たではら古館　竪壱丁　横四十間　右ハ国分様家臣六丁目氏之御方御居館之由申伝候　右年　相知不申候当時御百姓地ニ成居申候事」とある。

（注３）「安永風土記－熊ケ根村書上」に、「一　開山之事　一　五輪塔　弐ツ　国分家御家臣六丁目氏之墓所に御座候事」とある。

Ⅲ　調査の方法と概要

１．調査の方法

調査対象区域が約130ｍ×３ｍと、南北に細長く延びていることから、トレンチによる調査法となった。設定したトレンチは、南から第１トレンチ～第８トレンチの８本である（第３図）。拡幅工事に伴う部分についてはすでに１m以上の盛土がされていたことから、重機によってこの盛土及び旧表土を除去したのちに、人力による遺構検出作業を行なった。



第１図　野川遺跡と宮城県内関連遺跡

２．調査概要

各調査区のうち第４トレンチ～第６トレンチにおいて、縄文時代後期前半の遺物包含層が検出された。これ以外のトレンチでは、後世の撹乱が６層上面まで及んでおり、若干の遺物が出土した程度である。

第１表　宮城県内関連遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地	層　序	出土土器	参　考　文　献
1	座散乱木遺跡	岩出山町	表採	隆線文、爪形文土器	鎌田・藤村 1975　岡村・鎌田 1980
			座５層上面	隆線文、爪形文土器	東北歴史資料館 1981・1985
2	馬場壇Ｂ遺跡	古川市	表採	微隆起線文土器	鎌田・藤村 1975　東北歴史資料館 1985
3	馬場壇Ｃ遺跡	古川市	座５層上面	押圧縄文、無文土器	岡村・鎌田 1980　東北歴史資料館 1981・1985
4	鹿原Ｄ遺跡	小野田町	３層上面	隆線文土器	小野田町教育委員会 1980
5	大原Ｂ遺跡	色麻町	４・５層上面	隆線文土器	東北歴史資料館 1981
6	除　遺跡	色麻町	Ｈ－Ｏ直下	無文土器	色麻町史　東北歴史資料館 1981
7	志引遺跡	多賀城市	３層上面	隆線文土器、爪形文土器	多賀城市教育委員会 1984
8	小梁川東遺跡	七ケ宿町	２号住居埋土	隆線文土器	宮城県教育委員会 1985
9	下窪遺跡	川崎町		隆起線文土器	後藤 1990

※「Ｈ－Ｏ」約１万年前に山形県大蔵村肘折カルデラから噴出した肘折－尾花沢軽石層。

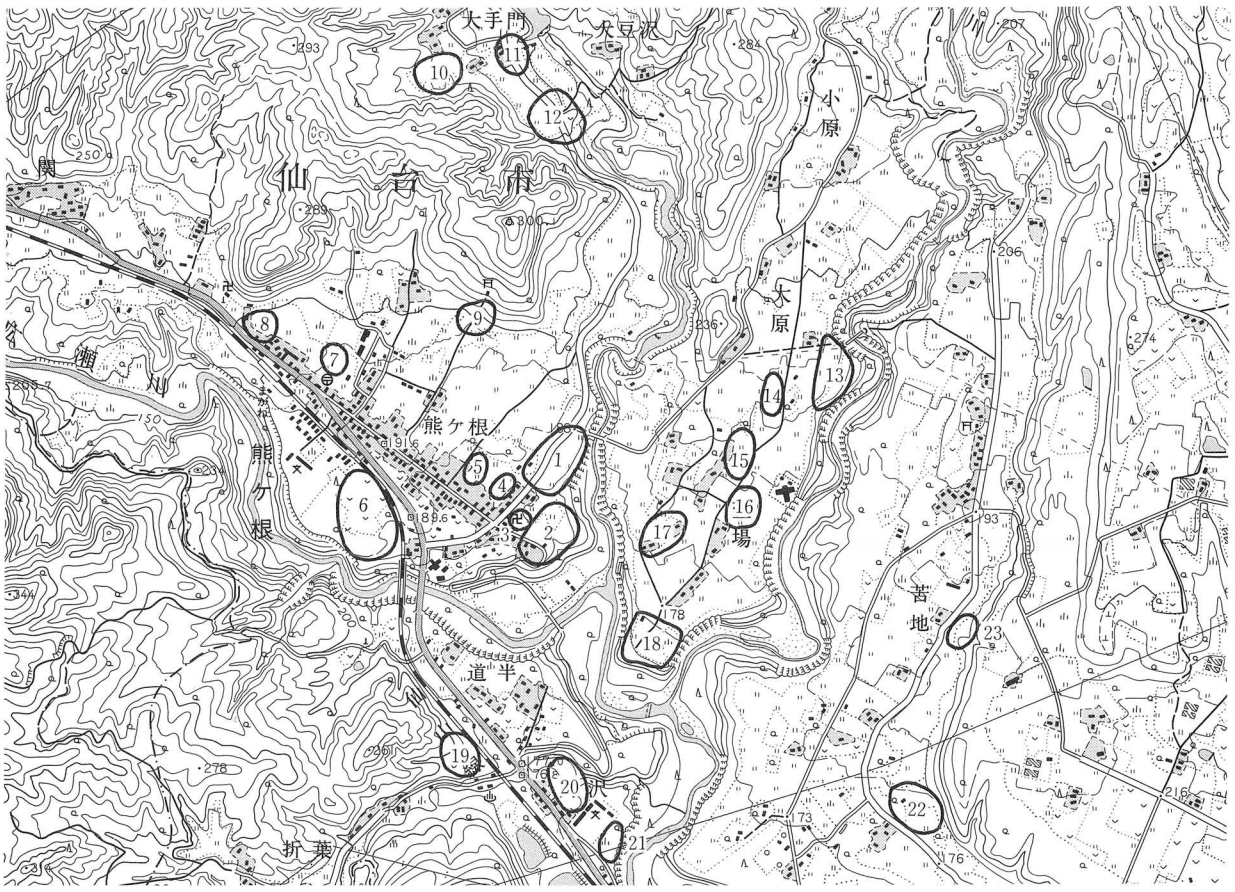
※「馬場壇Ｂ遺跡・大原Ｂ遺跡」東北歴史資料館資料集 29（1990）第Ⅴ章宮城県内「晩期旧石器時代」資料集成を改編した。

このうち第５・第６トレンチの遺物包含層下から、縄文時代草創期の土坑３基とピット数基が検出された。このうちの第１土坑Ｂおよび第２土坑の２基から、いわゆる「デポ（一括埋納）」あるいは「キャッシュ（貯蔵物）」と考えられる石器の一括出土があった。

第１土坑Ｂは、倒木の痕跡である第１土坑Ａを調査中に石器の一括出土により確認されたもので、第１土坑Ｂのほうが古い。第１土坑Ａからは石器が約 20 点出土しているが、そのなかには第１土坑Ｂ内から移動したと考えられるものがある。第１土坑Ｂは、径約 50 ㎝の不整円形の土坑で、約 450 点の石器が出土した。特に大型の両面加工の石器とへら状の石器は重ねられた状態で出土し、その周囲に多数の剝片が弧状に立った状態で発見された。

第２土坑は、径約 45 ㎝の不整円形の土坑で、約 50 点の石器が重なった状態で出土した。出土した石器の剝片類は第１土坑Ｂのものに比べ大型のものが多い。両土坑ともに出土した石器の石材はほとんどが珪質頁岩で、複数の母岩が認められる。

また遺構外の、第５・第６トレンチの３ｂ層下部～４層上面から多縄文土器片約 30 点・石器約 260 点が出土している。出土した土器片はいずれも小破片で、器形全体がわかるものはないが口縁部破片が３点ある。器厚は４～５㎜ときわめて薄く、胎土も緻密である。文様については、絡条体圧痕文・撚糸の側面圧痕と考えられるがあるいは回転押捺の可能性もある。



No	遺跡名	立地	種別	時代	備考	No	遺跡名	立地	種別	時代	備考
1	野川遺跡	段丘	包含地	縄文(早中後)		13	東沢目遺跡	段丘	包含地	縄文	
2	熊ケ根城跡	段丘	城館	中世		14	大貫遺跡	段丘	包含地	縄文	
3	興禅寺五輪塔	段丘	墓碑	中世		15	大原遺跡	段丘	包含地	縄文	1989・1991年
4	町Ｂ遺跡	段丘	包含地	縄文・古代		16	大貫新田遺跡	段丘	包含地	縄文	遺跡範囲確認調査
5	町Ａ遺跡	段丘	包含地	古代		17	萱場遺跡	段丘	包含地	縄文	
6	檀ノ原Ｃ遺跡	段丘	包含地	縄文・古代		18	大原館跡	段丘	城館	中世・近世	
7	檀ノ原Ｂ遺跡	段丘	包含地	古代		19	折葉遺跡	丘陵麓	包含地	縄文	
8	檀ノ原Ａ遺跡	段丘	包含地	縄文・古代		20	道半南遺跡	段丘	包含地	縄文・古代	
9	町Ｃ遺跡	段丘	包含地	縄文		21	白沢遺跡	段丘	包含地	古代	
10	大手門Ｃ遺跡	段丘	包含地	縄文		22	上清水遺跡	段丘	包含地	縄文(中)	
11	大手門Ｂ遺跡	段丘	包含地	縄文(中)		23	田尻遺跡	段丘	包含地	縄文(中～晩)	
12	大手門Ａ遺跡	段丘	包含地	縄文(前)							

第２図　野川遺跡と周辺の遺跡

Ⅳ　基本層序

遺跡の層序は、調査区の南側と北側とではかなりの違いがみられた。南側の第１・第２トレンチでは、旧表土の直下は礫層面となり、南西方向に傾斜している。第３トレンチ付近から北側では、反対に礫層面が北東方向に傾斜している。現地形は南西方向に傾斜しており、この部分に沢状の旧地形の存在がうかがわれる。

第５・第６トレンチにおける層序は、１ａ層（旧表土・畑耕作土－層厚約10㎝）、１ｂ層（層厚約15㎝）、２ａ・２ｂ層（縄文時代後期前半の遺物包含層－層厚約20㎝）、３ａ層（層厚約10㎝）、３ｂ層（ピット数基を検出－層厚約10㎝）を経て、縄文時代草創期の遺構確認面である４層（層厚約15㎝）となる。５ａ層（層厚約10㎝）・５ｂ層（層厚約20㎝）はともに無遺物層で、６層は礫層となる。３ａ・３ｂ層の下面は、木根等によると思われる層離面の乱れがみられる（第５図）。後期の遺物包含層である２ａ・２ｂ層は、第４トレンチ～第６トレンチにかけて検出されている。

Ⅴ　発見された遺構と出土遺物

野川遺跡からは、縄文土器片（草創期約30点・後期約450点）、石器（草創期約1000点・後期約50点）が出土している。このなかで、遺物包含層から出土した後期の土器および石器以外の遺物は、草創期に比定されるものがほとんどである。草創期の土器に共伴する石器の名称については、当該期の研究成果を踏まえながら時期的な位置付けを考え、技術的・形態的な分類と名称を用いた。

１．発見された遺構と遺物

第４トレンチ～第６トレンチの２ａ・２ｂ層において、縄文時代後期前半の遺物包含層が検出され、第５・第６トレンチの３ｂ層下部～４層上面において、縄文時代草創期の遺構・遺物が検出された。

(1)第５・第６トレンチ４層上面

①遺物出土状況（第６図）

３ｂ層下部～４層上面から出土した遺物は、多縄文土器片約30点・石器約260点であるが、そのほとんどは４層上面から出土している。

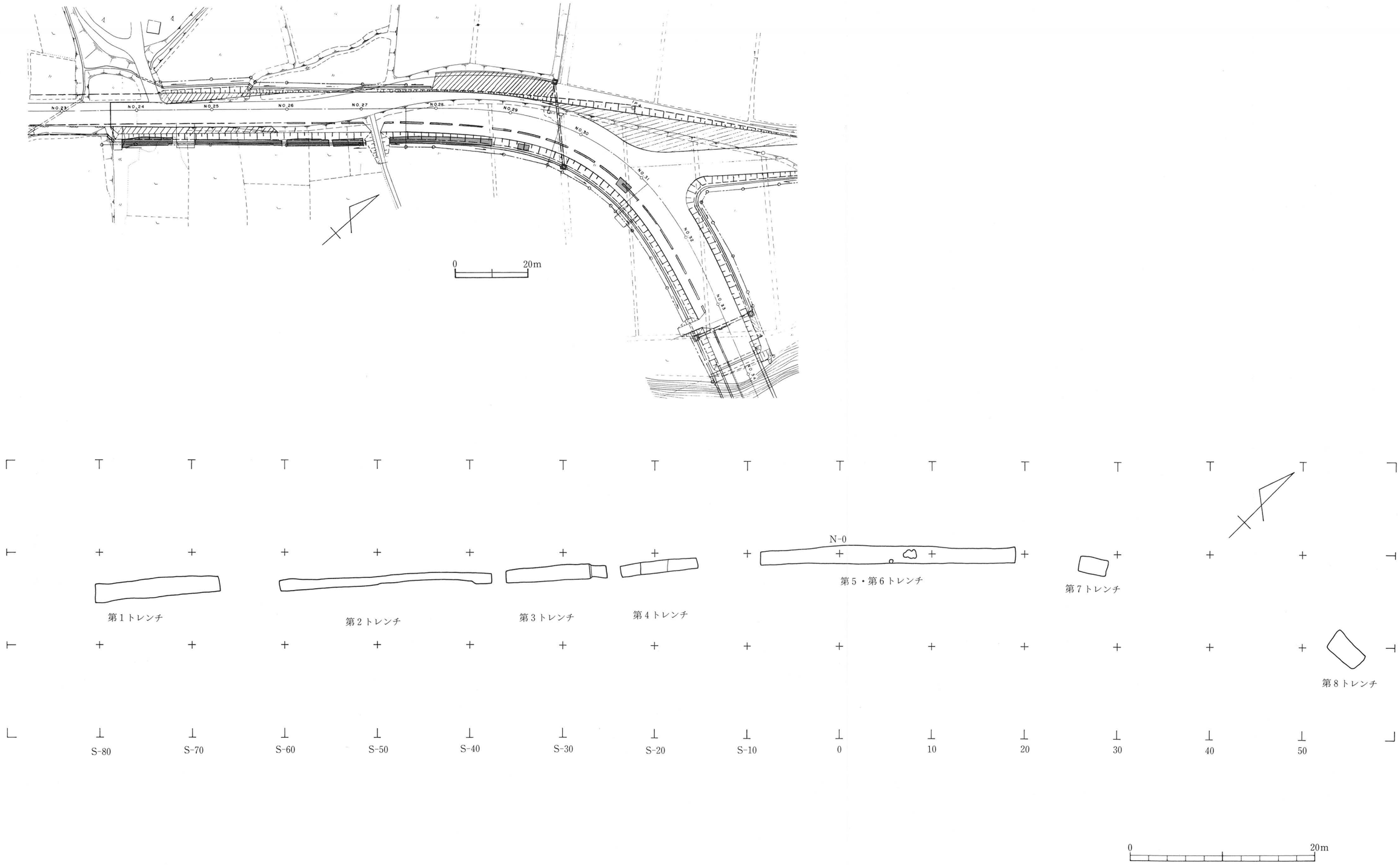
調査区にはいくつかの自然礫が散在しており、遺物出土の中心は２基の土坑を中心とはしているものの、土器の分布と石器の分布にはある程度のまとまりが考えられる。第１土坑が倒木の影響を受けている以外は耕作による撹乱もなく、ほとんどの遺物は原位置を保っているものと考えられる。しかし、旧表土面からは約50㎝程度の深さしかないことから、耕作以外の自然の営為による影響が及んでいる可能性も考えられる。

遺物の取り上げについては、可能なかぎり出土した遺物の水平位置及び垂直位置（原位置）の記録をとって取り上げている。その結果、遺物の垂直分布はほぼ水平であり、調査区全体のなかで集中密度の違いはあるものの、土器と石器とは同一層・同一地点にあって、共伴することを示している。

出土した土器片の出土状況を平面的にみると、石器が一括出土した第１土坑を中心とした４つのまとまりが認められるようである。まず、第１土坑の周辺に個体別資料Ｄ、個体別資料Ｈを中心とするまとまりがあり、第１土坑から東へ５ｍ程度離れた部分に個体別資料Ａ、個体別資料Ｂを中心とするまとまりが２箇所認められる。また第２土坑の西側に個体別資料Ｃ、個体別資料Ｇ、個体別資料Ｅを中心とするまとまりが認められる。

石器の出土状況は、Ｎ－３区からＮ－17区にかけての広がりが認められる。このうち、№47・№48・№183は、個体別資料Ｇ、Ｅの分布と重複し、№682は、個体別資料Ｄ、Ｈと重複する。また№４・№44は、個体別資料Ｃ、Ｇ、Ｅと重複している。

土器群及び石器群の出土状況をみると、Ｎ－３区～Ｎ－17区の範囲に分布している。またＮ－０区から西側の区



第3図　調査トレンチ配置図

域からの遺物の出土はなかった。

微細遺物の検出と、場の機能の復元あるいは性格づけを考えるために、第2土坑から東側の調査区N－5区～N－10区に50 cm×50 cmメッシュのグリッドを設定し、各グリッド毎に4層の土壌を採取し持ち帰った。調査終了後、石器の剝片・細片及び土器片などの微細遺物を検出するため、1 mmメッシュの篩を使って水洗選別を行なった。

［第1遺物集中地点］

N－15区を中心とする150 cmの範囲に遺物が集中しており、10～20 cm大の礫が3個伴っている。分布状況からみて南側に向かってのびていくようである。

絡条体側面圧痕によって施文された個体別資料Aとなる土器片11点、エンドスクレイパー・サイドスクレイパー・へら状の石器などと剝片7点が出土している。

［第2遺物集中地点］

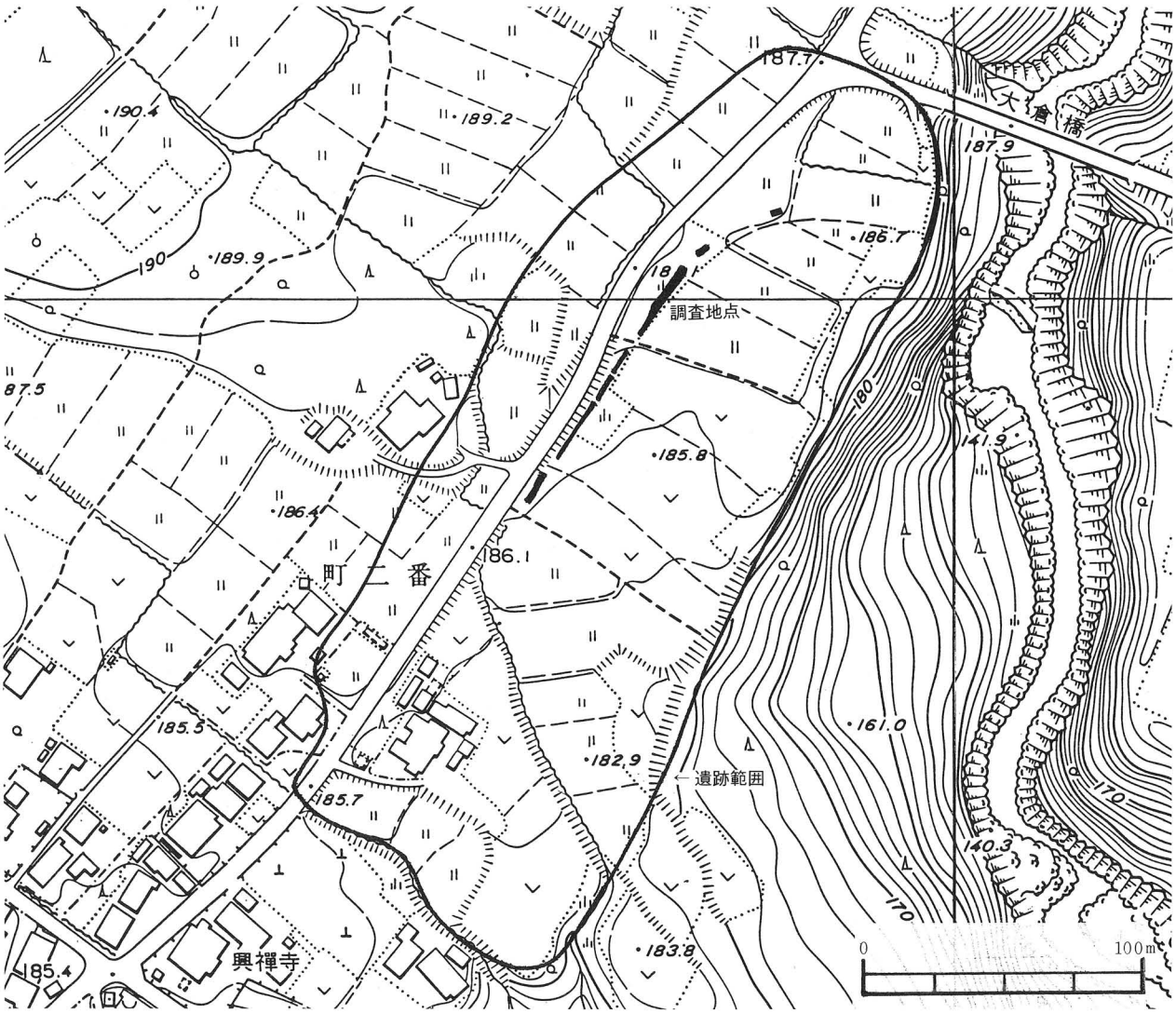
N－12区を中心とする100 cmの範囲に遺物が出土している。

コイル状に巻かれた絡条体の側面圧痕か、太めの3本撚りによる自縄自巻によって施文されたと考えられる個体別資料Bとなる土器片4点、剝片7点が出土している。

［第3遺物集中地点］

第1土坑周辺のN－7・8区を中心とする180 cmの範囲に遺物が集中しており、15 cm大の礫が伴っている。

短縄文の圧痕が羽状につけられた個体別資料Dの1点を含む土器片2点、剝片約40点が出土している。



第4図　野川遺跡周辺の地形と調査地点

［第４遺物集中地点］

Ｎ－３・４区を中心とする180㎝の範囲に遺物が集中しており、20㎝大の礫が伴っている。

短縄文の圧痕が羽状につけられた個体別資料Ｃ、同様の個体別資料Ｇ、縄文圧痕と「ハ」字形爪形文の組み合わされた個体別資料Ｅなど、土器片５点、スクレイパー２点、剝片約20点が出土している。

②第６トレンチ４層出土土器

縄文時代草創期の土器・多縄文系土器群（第７図～第10図）

３ｂ層下部～４層上面から出土した土器片の総数は約30点であるが、個体数としては10個体程度と考えられる。いずれも小破片で、器形全体がわかるものはなく、口縁部破片が３点あるのみで他はすべて体部である。器厚は４～５㎜ときわめて薄く、胎土も緻密である。

文様の施文方法については、絡条体圧痕文・撚糸の側面圧痕あるいは回転押捺などが考えられるが、自縄自巻や半置半転によって施文された可能性もある。縄文圧痕と「ハ」の字状の爪形文が組み合わされたものもみられる。個体別資料Ｈ（第８図－５）とした土器片が、第１土坑から出土している以外はすべて遺構外のものである。

個体別資料Ａ（第９図－１～５・９～13・15、第10図－３・４）

13点出土しているが、口縁部はなくすべて体部の破片である。器厚は、№53と№194が6.2㎜とやや厚めなほかは４～4.5㎜程である。胎土は、若干の砂粒含むものの緻密である。色調は褐色を呈しているが、№190は黒褐色を呈している。№186の上方はやや肥厚している。№51と№184のひとつが接合しているだけであるが同一個体と考えられる。

文様構成としては、２本の条を用い、一方を軸に右巻き、他方を左巻きにして軸上に条の交差がみられるようにして、右巻きと左巻きされる条が交差するたびに交互に上下するように巻かれた、絡条体の側面圧痕によって施文された土器である。山内清男による単軸絡条体５Ｂ類のような施文具が考えられる（山内：1979）。

個体別資料Ｂ（第10図－１・２）

口縁部がやや外反する器形をもっている。口縁部は肥厚されており、口唇部は調整によって平坦となっているが、その調整のためか口唇端が外側にせり出している。器厚は、口唇部で７～7.5㎜、体部で４～５㎜程である。胎土は若干の砂粒を含むものの緻密である。

文様構成としては、刻みを入れた軸による圧痕か、コイル状に巻かれた絡条体の側面圧痕によって施文されたと考えられ、羽状を呈している。口唇部にも、同様の施文具によってつけられた文様がみられる。

個体別資料Ｃ（第８図－１～３）

１は口縁部で、口唇部は調整によって平坦となっている。２・３は体部資料で、接合しないものの同一個体と考えられる。器厚は４～4.5㎜程で、胎土は若干砂粒を含むものの緻密で、色調は内外面ともに黒褐色を呈している。

№454の文様構成としては、長さ１㎝程度の１段Ｌの短縄文の圧痕が羽状を呈している。

№695は№454と同一個体と考えられるもので、長さ約１㎝のいわゆる短縄文によって施文されており、１段Ｌの圧痕が羽状を呈している。口唇部には、１段Ｒの原体の折り返した側の端部の圧痕がつけられている。

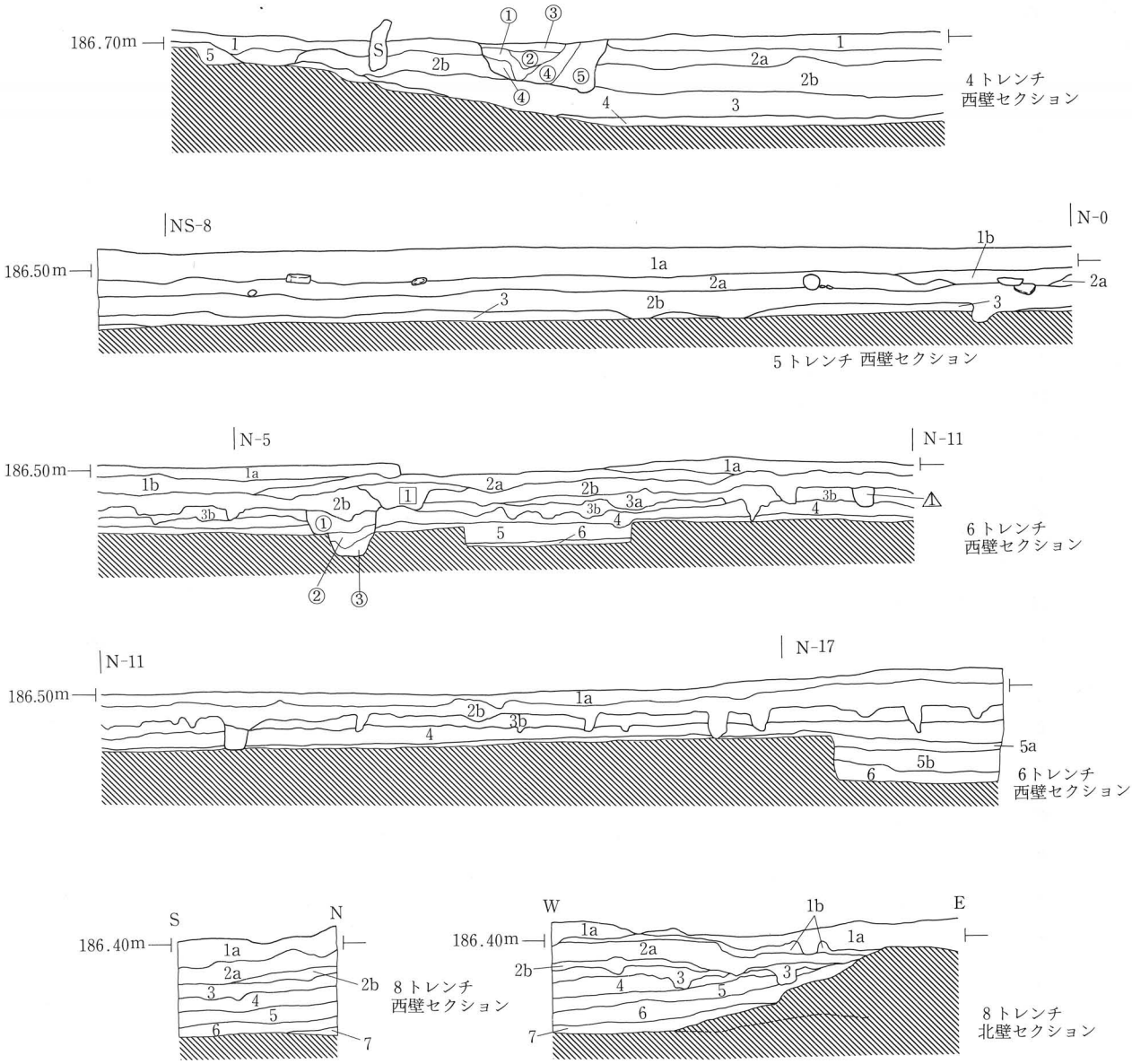
個体別資料Ｄ（第８図－４）

口縁部と考えられるが、粘土紐の接合面の可能性もある。口縁部がやや内反する器形をもち、口唇部は調整によって平坦となっている。器厚は４～4.5㎜程で、胎土は若干砂粒を含むものの緻密である。

文様構成としては、長さ１㎝程度の２段ＲＬの短縄文の圧痕が羽状を呈している。口唇部には、竹管状の工具による「Ｃ」字状の刺突がつけられている。右側上部に補修孔が開けられている。

個体別資料Ｅ（第８図－８）

口縁部で、若干肥厚している。口唇部の両端部に盛り上がりがあり、あいだの若干凹んだところに施文具は不明



	層位	土　色	土　性	備　考		層位	土　色	土　性	備　考
4トレンチ西壁	1	10YR3/2 黒褐色土	シルト	10YR2/1 黒色土がブロック状に混じる．小礫混じり．	5•6トレンチ西壁	5a	10YR6/4 鈍い黄褐色	シルト	部分的にマンガン斑のような粒が入る
	2a	10YR2/1 黒色土	シルト	縄文後期遺物包含層．10YR1.7/1 黒色土混じる．		5b	10YR5/6 黄褐色土	シルト	若干砂っぽい．
	2b	10YR1.7/1 黒色土	シルト			6	礫層面		
	3	10YR2/2 黒褐色土	粘土質シルト			①	10YR3/2 黒褐色土	シルト	上層に10YR1.7/1 が混じる．
	4	7.5YR3/1 黒褐色土	粘土質シルト			②	10YR3/3 暗褐色土	シルト	10YR4/4 褐色土が若干混じる．
	5	10YR4/4 褐色土	礫混層			③	10YR5/3 にぶい黄褐色土	シルト	10YR3/3 暗褐色土混じり．マンガン斑のような粒が入る．
	①	10YR2/2 黒褐色土	シルト	焼土粒混じり．		1	10YR3/1 黒褐色土	シルト	ブロック状に10YR1.7/1 が混じる．
	②	5YR4/6 赤褐色土	焼土層	カーボン粒混じり．		△	10YR2/2 黒褐色土	シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色土が混じる．
	③	10YR2/3 黒褐色土	シルト	焼土・カーボン混じり．	8トレンチ	1a	10YR3/1 黒褐色土	シルト	若干グライ化．2.5Y3/2 黒褐色土がブロック状に混じる．
	④	10YR2/2 黒褐色土	シルト	カーボン粒混じり．		1b	10YR3/1 と10YR1.7/1 ブロック層	シルト	
	⑤	10YR2/1 黒色土	シルト	カーボン粒混じり．		2a	10YR2/2 黒褐色土	シルト	若干グライ化．
5•6トレンチ西壁	1a	5Y3/1 オリーブ黒色土	シルト	若干グライ化・下層部に10YR2/1 黒色土が帯状に入る．礫混層		2b	10YR2/2 黒褐色土	シルト	2a 層に比べ若干暗い色調．
	1b	10YR2/3 黒褐色土	シルト	10YR2/1 黒色が若干入る．礫混層		3	10YR2/2 黒褐色土	砂質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色砂が下層面に混じる．
	2a	10YR2/2 黒褐色土	シルト	縄文後期遺物包含層		4	10YR5/8 黄褐色土	砂質シルト	1cm 大の小礫混じり．
	2b	10YR1.7/1 黒色土	シルト	黒ボクか？		5	10YR5/6 黄褐色土	砂	西壁側では砂礫混じりとなる．
	3a	10YR1.7/1 と10YR3/3 ブロック層	シルト			6	10YR4/6 褐色土	砂	
	3b	10YR3/3 暗褐色土	シルト			7	2.5Y5/6 黄褐色土	砂	10YR4/6 褐色土がブロック状に混じる．
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	縄文草創期遺構検出面．部分的にマンガン斑のような粒が入る．		8	礫層面		

第５図　調査区西壁セクション図

であるが、刺突のような痕跡がつけられている。器厚は4～4.5㎜程で、胎土は緻密ではあるが砂粒を比較的多く含んでいる。

文様構成としては、2段RLの縄文圧痕と「ハ」字状の爪形文がつけられている。爪形文は縦方向に平行してつけられており、右側のほうが大きく深くなっている。指によって摘みあげられたためか中央部が盛り上がっている。

個体別資料F（第7図－1・2）

体部資料で、節の大きい縄文によって施文されている。器厚は、№456が5～5.5㎜で、№43は7～7.5㎜と他の土器に比べて厚めである。胎土も他の土器片に比べて砂粒が多く、金雲母が微量含まれている。

個体別資料G（第8図－6・7）

体部資料で、接合しないが同一個体と考えられる。器厚は5㎜程で、胎土は緻密で金雲母が微量含まれている。

文様構成としては、2段RLの短縄文の圧痕により羽状を呈している。

個体別資料H（第8図－5）

第1土坑から出土している。体部資料で、器厚は3.5～4㎜で、胎土は砂粒の混入も少なく緻密である。

文様構成としては、1段Rの撚糸圧痕により羽状を呈している。右下隅に摘みあげられたような隆起があり、左側には爪形文がみられる。

個体別資料I（第9図－6～8）

体部資料で、器厚は5㎜程で胎土は砂粒の混入も少なく緻密である。

文様構成としては、山内による単軸絡条体5B類のような、絡条体の側面圧痕によって施文された土器で、個体別資料Aと同じ文様構成となるが、個体別資料Aよりも条の間隔が密で、絡条体の幅も約3㎜と狭く細かな文様構成となっている。

個体別資料J（第9図－14）

体部資料で、器厚は4㎜程で胎土は砂粒の混入も少なく緻密である。

文様構成としては、上部にコイル状の絡条体圧痕あるいは撚糸圧痕がつけられており、その下に刺突のようにもみえる爪形文がつけられている。

③第6トレンチ4層出土石器

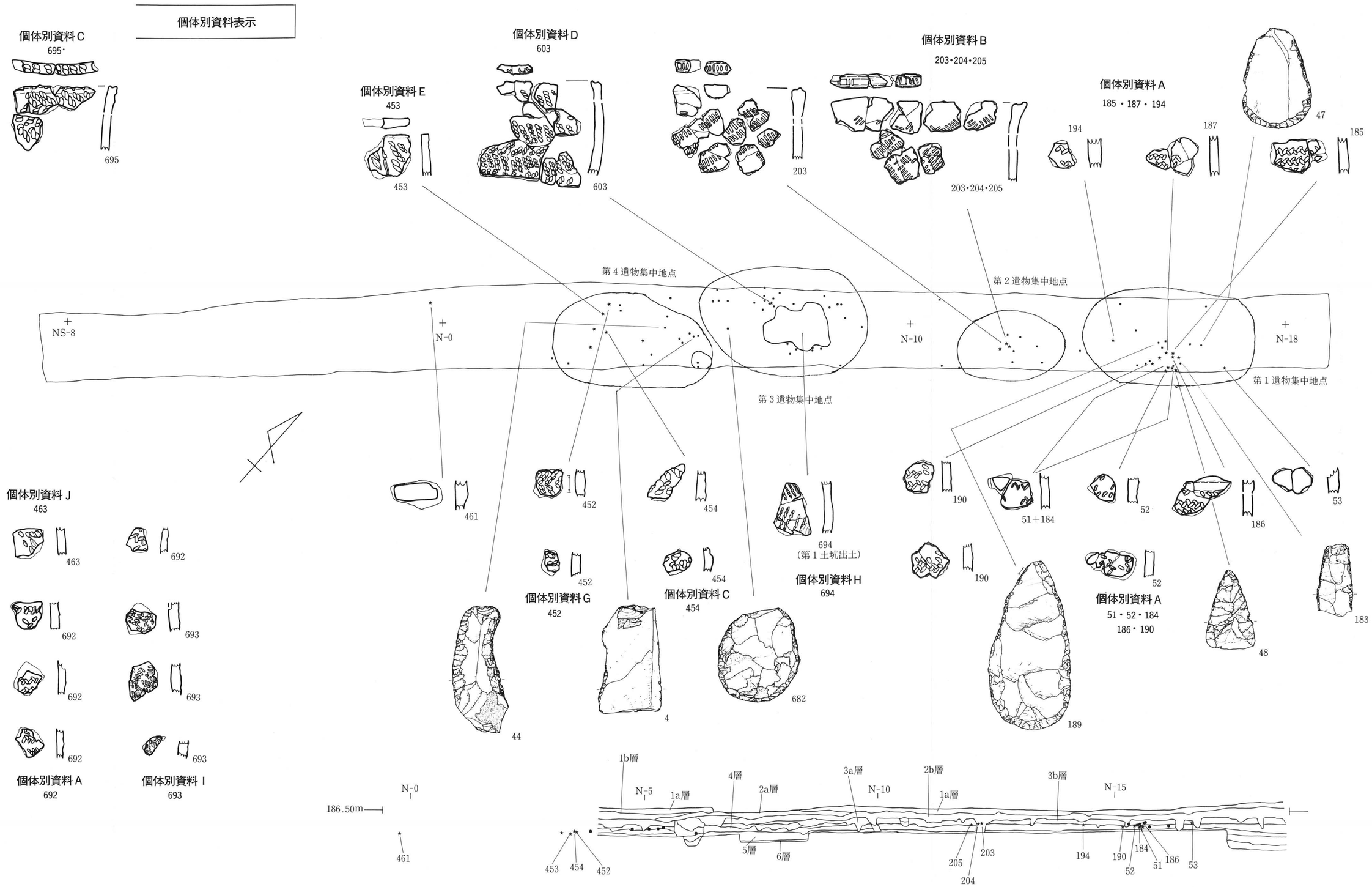
縄文時代草創期の石器（第10図～第12図・第19図）

3b層下部～4層上面から出土した石器は約260点であるが、そのほとんどはN-3区～N-16区の4層上面から出土している。これらの石器については、前述のとおり、層位的・分布的にみて多縄文土器群に共伴するものと考えられる。石材については、ほとんどすべて珪質頁岩を用いている。同一母岩として識別されるものはないが、複数の母岩が認められる。接合資料として折面接合ではあるが、S-41（1＋3・共に第6トレンチ出土）、S-61（第2土坑出土635b＋第5トレンチ出土451）、S-66（水洗選別ホ区出土850＋第2土坑出土993＋994）の3点がある（第52図・第53図）。ここでは、石器（Tool）12点、二次加工のある剥片7点を図示している。

第11図A-33は石核で、表面では右側辺から長軸にたいして加撃方向が約90°の剥離面と、左側辺下半から右上に長軸にたいして加撃方向が約50°の剥離面を残している。裏面では左側辺上半から右下に、左側辺下半から右上に、長軸にたいして加撃方向約40°の深い剥離面を残している。

A-35とA-36はスクレイパーである。A-35は、背面の右側辺に細かな剥離が施されているが、腹面には周辺にのみ二次加工が施されている。A-36は、背面の両側辺に連続する二次加工が施されているが、腹面は加工されていない。

A-34・A-37・A-24・A-39は二次加工のある剥片で、いずれも腹面には加工が施されていない。A-34とA-37は、ともに背面側の両側辺に連続する二次加工が施されている。A-24とA-39は、背面の側辺の一部に二次加工が施さ



第6図　第5・第6トレンチ4層面遺物出土状態

れている。A-40 も二次加工のある剝片で、両面の一側辺に連続する二次加工が施されている。A-27 は、尖端部をつくる側辺に微細剝離痕のある剝片である。

第 12 図№682 と№47 はエンドスクレイパーで、刃部は弧状を呈し、急角度に調整されている。ともに腹面は加工されておらず平坦に近い。

№189 は上端に折れ面があるが、形態的には第 1 土坑の№172 や第 2 土坑の№663 と同じものと考えられることから、へら状の石器とした。表面の弧状を呈する下端部の二次加工面に、光沢面がみられ若干摩滅していることから、ここが刃部として使われた可能性があるが、なお使用痕などの観察が必要である。

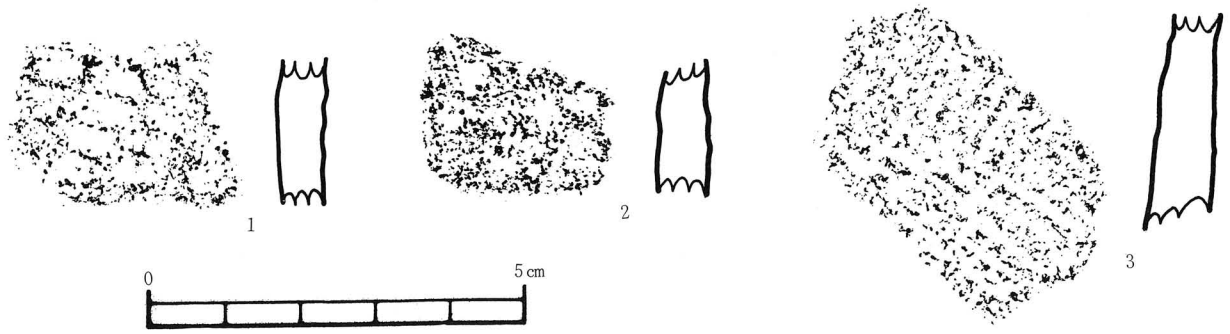
№48 は全体の形状が二等辺三角形を呈している。表面は全面に二次加工が施されているが、裏面は周辺に二次加工が施され素材面が残されている。

№183 と№44 はスクレイパーで、背面の両側辺に連続する二次加工が施されているが、腹面は加工されていない。A-25・A-38 と第 13 図№46・№ 4 は、側辺の一部に微細剝離痕または部分的な二次加工のみられる剝片である。

水洗選別により検出された石器（第 19 図）

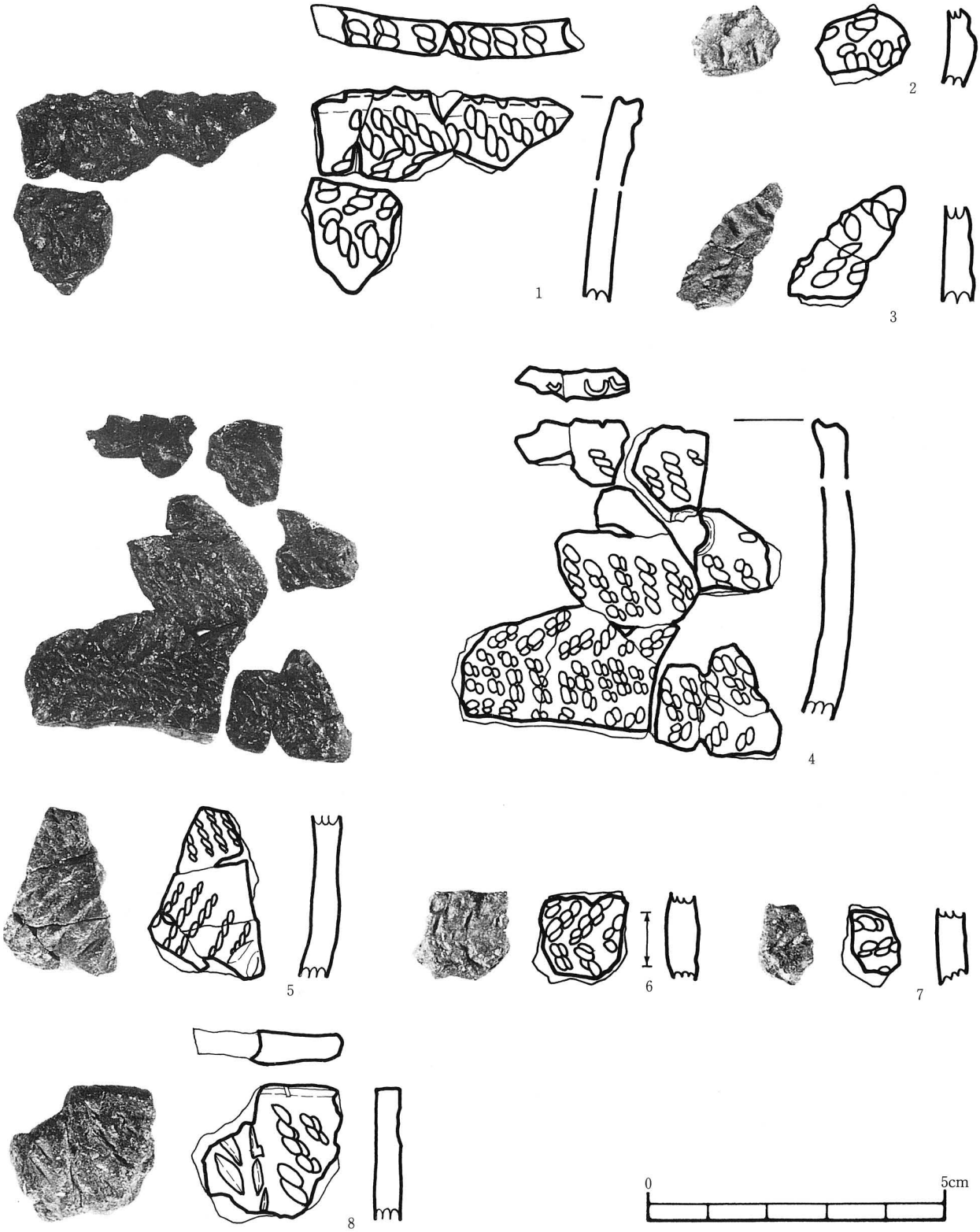
微細遺物検出のため持ち帰った 4 層の土壌の水洗選別により検出された石器で、石鏃 7 点・微細剝離のある剝片 1 点がある。この他に、石鏃の基部の一部と思われるものが 2 点あったが図示していない。水洗選別による各グリッド別の遺物の有無、検出された剝片及びチップの点数については第 55 図および第 4 表に示している。

石鏃はいずれも凹基無茎鏃で、基部にU字状の深い抉りが入っている。先端部または基部を欠いているものが 5 点ある。二次加工は表裏全面に丁寧に施されており、側縁の形態としては、A-58・64・63 のようにやや外湾するものと、A-59・65・62 のように直線的なものがある。A-60 は、外湾する側辺が先端部にむかって強く内湾し尖っている。A-68 は微細剝離痕のある剝片である。



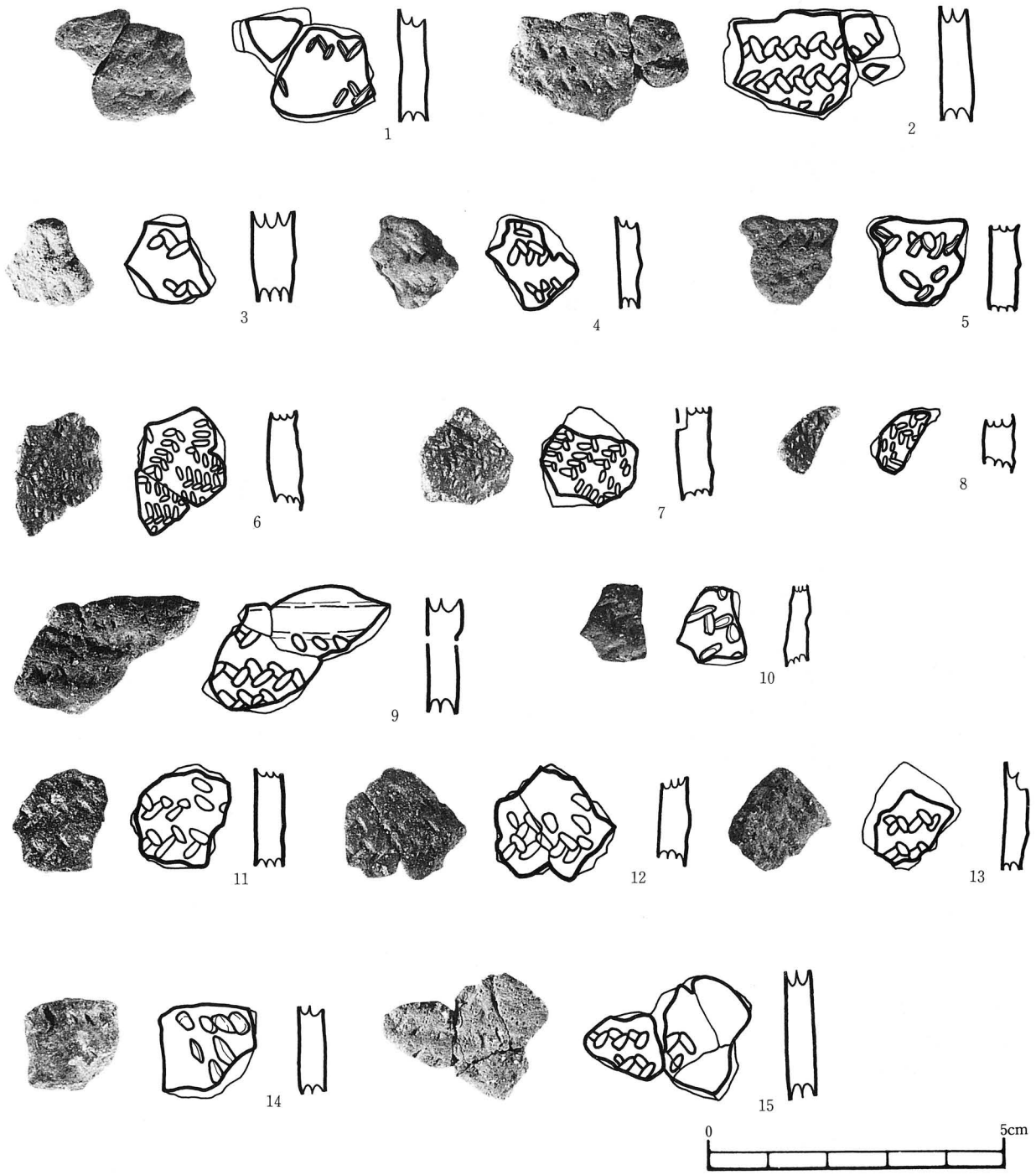
図版 NO	登録 NO	出土位置・層位	部位	器厚(mm)・胎土	色調（内面／外面）	外面の特徴	内面の特徴	備考
1	456	N-3 区・4層	体部	6.2 砂粒多い	暗褐色10YR3/4 にぶい黄褐色10YR4/3	節の太い縄文(RL)回転押捺	ナデ	胎土に金雲母を含む
2	43	N-4 区・4層	体部	7.5 砂粒多い	赤褐色5YR4/6 暗赤褐色5YR3/3	節の太い縄文(RL)回転押捺		
3	40	N-5 区・東壁内	体部	8.0 砂粒多い	暗褐色10YR3/3 褐色10YR4/6	捺糸文(ℓ)	ナデ	

第 7 図　第 6 トレンチ 4 層出土土器(1)



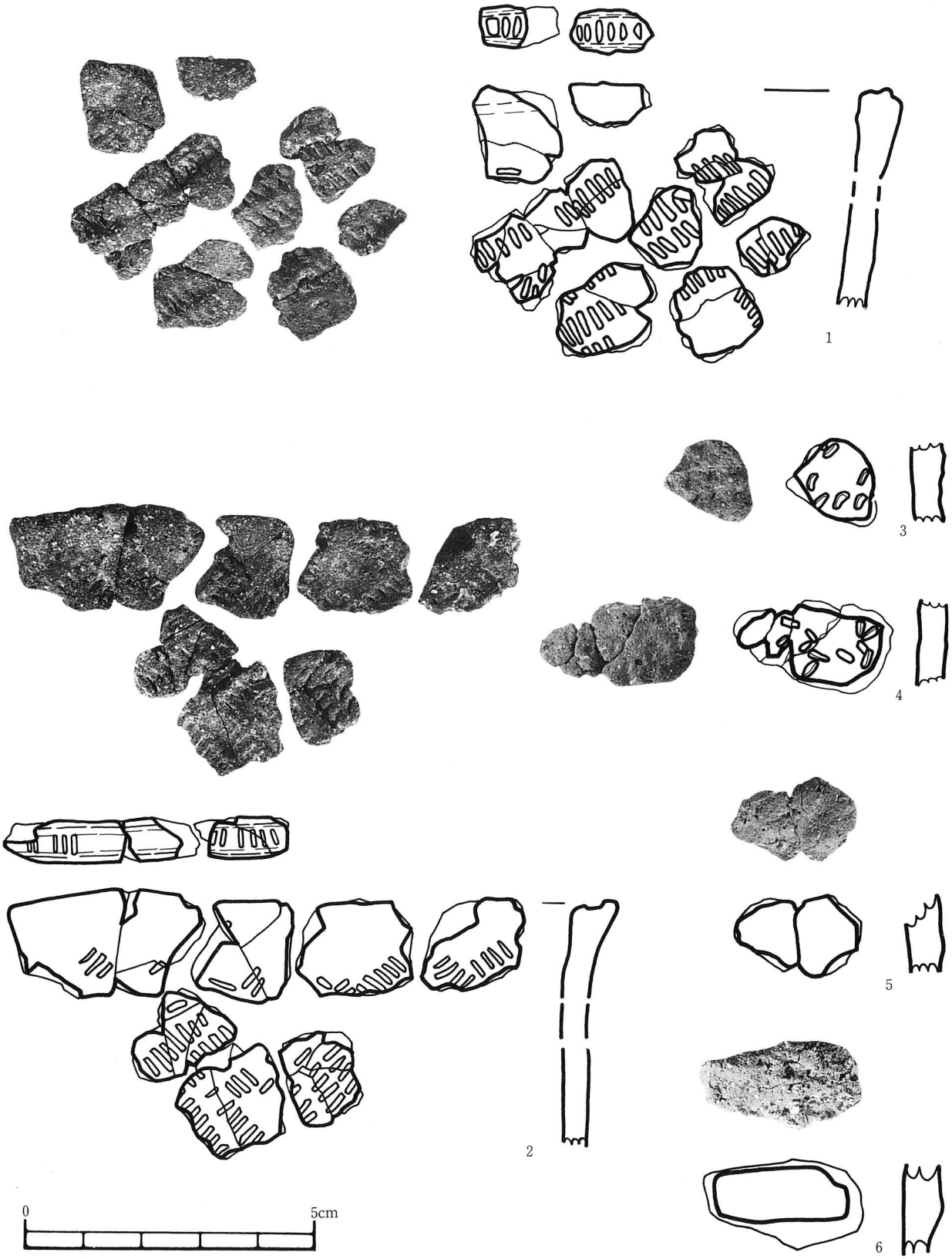
図版No	登録No	出土位置・層位	部位	器厚(mm)・胎土	色調(内面／外面)	外面の特徴	内面の特徴	備考
1	695		口縁部	4.0 緻密	黒褐色7.5YR3/1　黒　色7.5YR2/1	1段Lの圧縄文 羽状を呈す.長さ1cmの短縄文 口唇部.1段Rの圧痕　原体端部の圧痕(折り返した方の)	ナ　デ	454と同一固体か
2	454		体　部	3.7 緻密	黒褐色7.5YR3/1　黒褐色7.5YR3/1	1段Lの撚糸圧痕　羽状を呈す.	ナ　デ	695と同一固体？
3	454		体　部	4.4 緻密	黒褐色7.5YR3/1　黒褐色7.5YR3/1	1段Lの撚糸圧痕　羽状を呈す.	ナ　デ	695と同一固体？
4	603	N-7区 第一土坑西側	口縁部	4.5 緻密 金雲母混入	にぶい褐色7.5YR6/3＋黒褐色　7.5YR3/1　黒　色7.5YR2/1	2段RLの原体長さ1cm程の短縄文圧痕 羽状を呈す.	ナ　デ	口唇部又は接合面の刺突？ 竹管状の刺突痕　補修孔有.
5	694	第一土坑	体　部	4.0 緻密	黒褐色10YR3/1　黒褐色7.5YR2/2	1段R撚糸圧痕　羽状を呈す. 右下スミに隆起あり　爪形文	ナ　デ	
6	452	N-4区 453(爪形文)～455付近	体　部	4.6 緻密 金雲母含む	黒褐色10YR2/3　黒褐色7.5YR2/2	2段RL原体圧痕　羽状を呈す.	ナ　デ	
7	452	N-4区 453(爪形文)～455付近	体　部	4.1 緻密 金雲母含む	黒褐色10YR2/3　黒褐色7.5YR2/2	2段RL原体圧痕　羽状を呈す.	ナ　デ	
8	453		口縁部	4.5 緻密	灰褐色10YR4/2　灰褐色7.5YR4/2 (口唇部二次焼成？黒色を呈す)	2段RL原体圧痕タテ方向の「ハ」の字形の爪形文・口唇部に細い刺突？	ナ　デ	452,694と同一か.

第8図　第6トレンチ4層出土土器 (2)



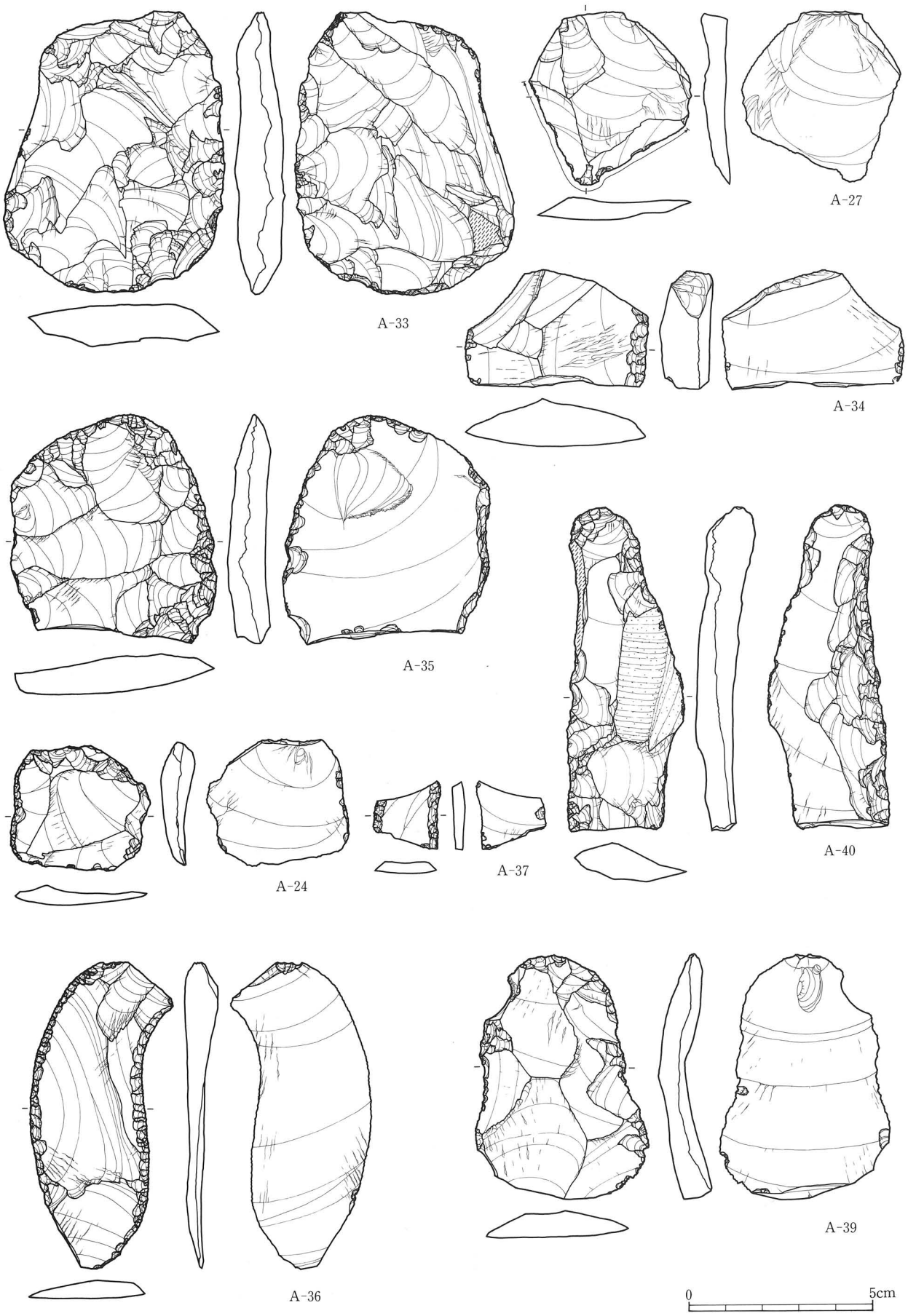
図版No	登録No	出土位置・層位	部位	器厚(mm)・胎土	色調（内面／外面）		外面の特徴	内面の特徴	備考
1	51＋184	N15区～N16区 185～190付近	体部	4.4 砂粒混入	極暗赤褐色5YR2/3	赤褐色5YR4/8	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
2	185	N15区～N16区 185～190集中点	体部	4.5 緻密	黒褐色5YR2/2	赤褐色5YR4/5	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
3	194	N14～N15区	体部	6.5 砂粒混入	赤褐色5YR4/6	赤褐色5YR4/8	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
4	692	185～190の付近	体部	3.5 砂粒混入	黒　色10YR2/1	暗赤褐色5YR3/4	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	内面酸化鉄付着
5	692	185～190の付近	体部	4.1 砂粒混入	黒褐色7.5YR3/3	赤褐色4/6	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
6	693		体部	4.8 砂粒を含むが緻密	褐　色7.5YR4/6	黒褐色7.5YR3/2	絡条体側面圧痕（羽状を示す）絡条体の幅が狭くて細い	ナデ	
7	693		体部	5.0 砂粒を含むが緻密	褐　色7.5YR4/6	黒褐色7.5YR3/2	絡条体側面圧痕（羽状を示す）絡条体の幅が狭くて細い	ナデ	
8	693		体部	4.2 砂粒を含むが緻密	褐　色7.5YR4/6	黒褐色7.5YR3/2	絡条体側面圧痕（羽状を示す）絡条体の幅が狭くて細い	ナデ	
9	186	N15区～N16区 185～190集中点	体部	5.0 緻密	暗赤褐色5YR3/3	暗赤褐色5YR3/4	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	上部が肥厚されている
10	692	185～190の付近	体部	2.8 砂粒混入	黒褐色10YR2/2	明赤褐色5/8	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
11	190	N15区～N16区 集中点付近	体部	3.8 砂粒を含むが緻密混入	黒褐色7.5YR3/1	黒褐色7.5YR3/1	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）と撚糸	ナデ	50.54 184～188と同一か
12	190	N15区～N16区 集中点付近	体部	4.3 砂粒を含むが緻密	黒褐色7.5YR3/1	黒褐色7.5YR3/1	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）と撚糸	ナデ	50.54 184～188と同一か
13	692	185～190の付近	体部	3.7 砂粒混入	暗褐色7.5YR3/4	にぶい赤褐色5YR4/4	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	
14	463		体部	4.5 緻密	褐灰色7.5YR5/1	暗褐色7.5YR3/5	上部－絡条体圧痕又は撚糸圧痕 下部－刺突風の爪形	ナデ	
15	187	N15～N16 185～190集中点	体部	3.8 緻密	暗赤褐色5YR3/4	明赤褐色5YR5/6	絡条体側面圧痕（山内－単軸絡条体 5B類）	ナデ	

第9図　第6トレンチ4層出土土器(3)

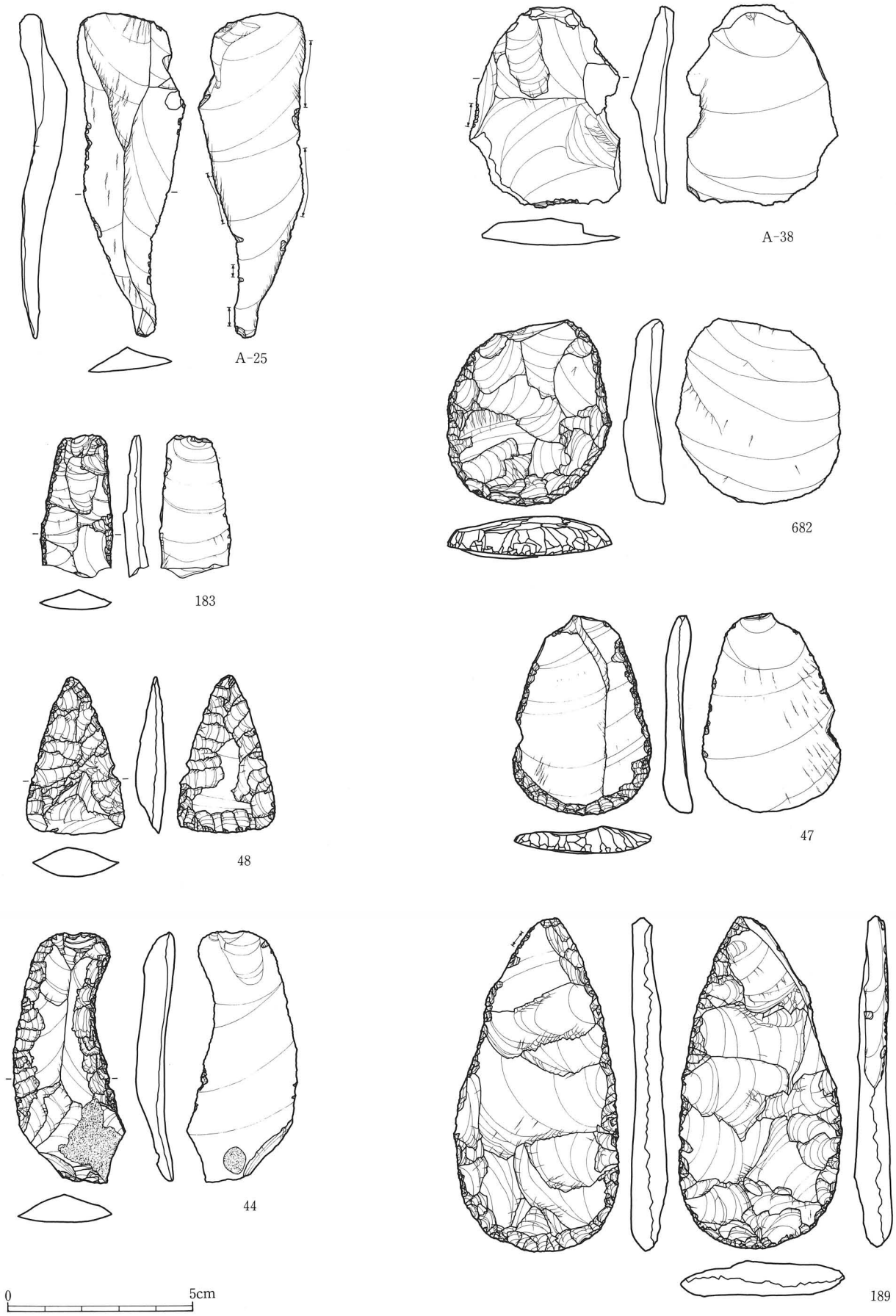


図版No	登録No	出土位置・層位	部位	器厚(mm)・胎土	色調(内面／外面)	外面の特徴	内面の特徴	備考
1	265	N-12区 203～205集中	口縁部	4.2 砂粒含む	黒褐色7.5YR3/1 黒 色7.5YR2/1	絡条体圧痕文？羽状を呈す(太めの自縄自巻？)	ナデ	203.204.205同一固体
2	48.204 205	N-12区	口縁部	4.2 砂粒混入	黒褐色5YR2/1 黒褐色5YR2/2	絡条体圧痕文？羽状を呈す(太めの自縄自巻？)	ナデ	口縁部肥厚、絡条体圧痕文は刷毛？ 203.204.205同一固体
3	52	N15～N16区 東壁側 185～190付近	体部	4.4 砂粒混入	暗赤褐色5YR3/3 赤褐色5YR4/8	絡条体側面圧痕	ナデ	
4	52	N15～N16区 東壁側 185～190付近	体部	4.4 砂粒混入	暗赤褐色5YR3/3 赤褐色5YR4/8	絡条体側面圧痕(山内－単軸絡条体 5B類)	ナデ	
5	53	N16～N17区 135～190集中点北側	体部	5.8 砂粒混入	黒褐色7.5YR2/2 赤褐色5YR4/3	無文	ナデ	
6	461	N-0Point 西側	体部	5.4 砂粒混入	赤褐色5YR4/8 にぶい赤褐色5YR5/3	無文	ナデ	

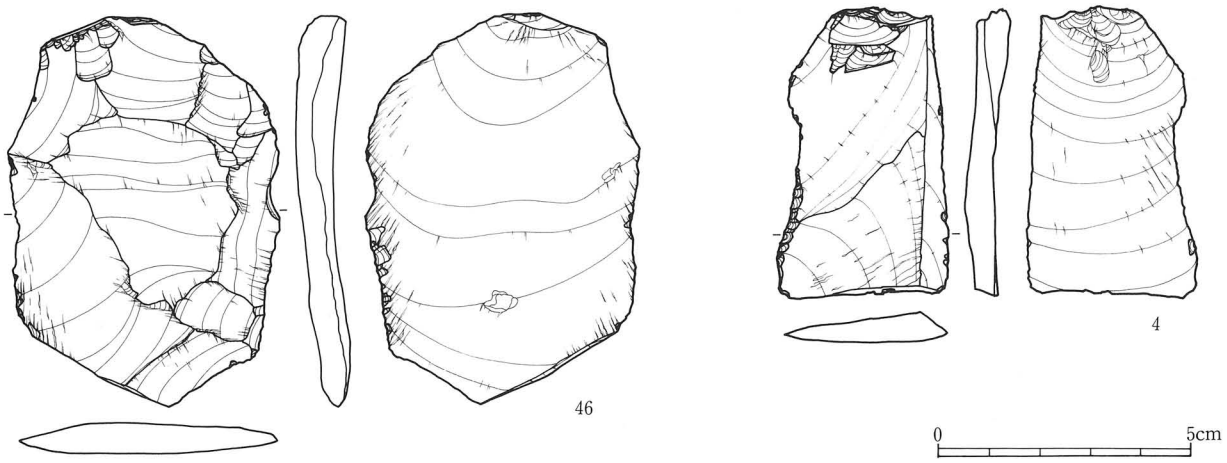
第10図　第6トレンチ4層出土土器(4)



第11図　第６トレンチ３層～４層出土石器 (1)



第12図　第６トレンチ３層～４層出土石器 (2)



図版NO	登録NO	出土地点	層　位	器　種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石　材	写真図版NO	備　考
第11図	A-33	6トレンチ	3層	石 核	77.0	57.4	11.1	59.1	頁岩	19-1	
第11図	A-27	6トレンチ	3層下	剝 片	45.0	39.8	6.0	10.9	頁岩	19-2	
第11図	A-34	6トレンチ	3層下	剝 片	31.4	48.8	12.8	22.6	頁岩	19-3	二次加工あり
第11図	A-35	6トレンチ	3層	スクレイパー	63.9	55.5	9.4	43.6	頁岩	19-4	
第11図	A-24	6トレンチ	3b 層	剝 片	34.0	37.0	6.1	8.0	頁岩	19-5	二次加工あり
第11図	A-37	6トレンチ	3層下～4層上	剝 片	(18.5)	17.9	3.1	1.4	頁岩	19-6	二次加工あり
第11図	A-40	6トレンチ	3層下～4層上	剝 片	88.6	31.1	9.7	30.6	頁岩	19-7	二次加工あり
第11図	A-36	6トレンチ	3層下～4層上	スクレイパー	84.3	31.2	3.6	14.2	頁岩	19-8	
第11図	A-39	6トレンチ	3層下～4層上	剝 片	66.7	46.4	8.1	26.3	頁岩	19-9	二次加工あり
第12図	A-25	6トレンチ	3b 層	剝 片	88.2	27.6	9.1	15.5	頁岩	19-10	
第12図	A-38	6トレンチ	3層下～4層上	剝 片	53.6	40.8	9.6	16.1	頁岩	20-1	

第13図　第６トレンチ３層～４層出土石器(3)

(2)石器一括出土土坑

第５・第６トレンチにおいて縄文時代後期の遺物包含層を調査後、下層の３b 層下部～４層上面において、草創期の土器や石器が出土したことから、４層上面において遺構検出のための精査を行なった。N-7 区において、大型の両面加工石器（№690）と大型の剝片（№689）が出土したことから、周辺を精査したところ第１土坑Ａを検出した。さらに土坑内を調査中に、第１土坑Ｂが検出された。この付近でさらに遺物の出土・遺構の検出が予想されたことから、精査したところ第２土坑が検出され、２基の土坑から石器の一括出土が発見された。

２基の土坑ともに、明確な掘り込みをもっており、出土した石器は「何らかの集積行為にともなうもの」か、「意識的に遺物を埋めたもの」と理解された。

①第１土坑（第１４図）

［位置・確認面］　N-7～8 区に位置し、４層上面で検出された。検出状況の検討から、第１土坑は倒木痕と土坑が重複していると判断された。第１土坑Ａは、倒木によって形成されたと考えられる不整形の土坑で、第１土坑Ｂは、第１土坑Ａを調査中に石器の一括出土により確認された。新旧関係については第１土坑Ｂのほうが古いものと考えられる。

【第１土坑Ａ】

［平面形・規模］　土坑Ａは平面形が不整形の土坑で、その規模は東西 1.4 m×南北 1.0 m、深さ 5～12 cmを計る。遺構確認時に、埋土上面に４層の黄褐色土が三日月状にみられたことや、土坑底面に凹凸があることなどから、倒木によって形成されたものと考えた。倒木の方向としては、幹を北東に、根が南西に動いたことが理解される（写真２）。

［埋　土］　東西方向にセクションベルトを設定し掘り込みを行ない、埋土は３層に分けることが出来た。埋１層は黒色土 10 YR2/1、埋２層は黒褐色土 10 YR2/2、埋３層は黒褐色 10 YR3/2 となっている。

［遺物出土状況］　土坑Ａからは、埋土上面で検出された№689 と№690 を含む石器約 20 点が出土しているが、そのなかには土坑Ｂ内から倒木の影響によって移動したと考えられるものがある。

【第１土坑Ｂ】

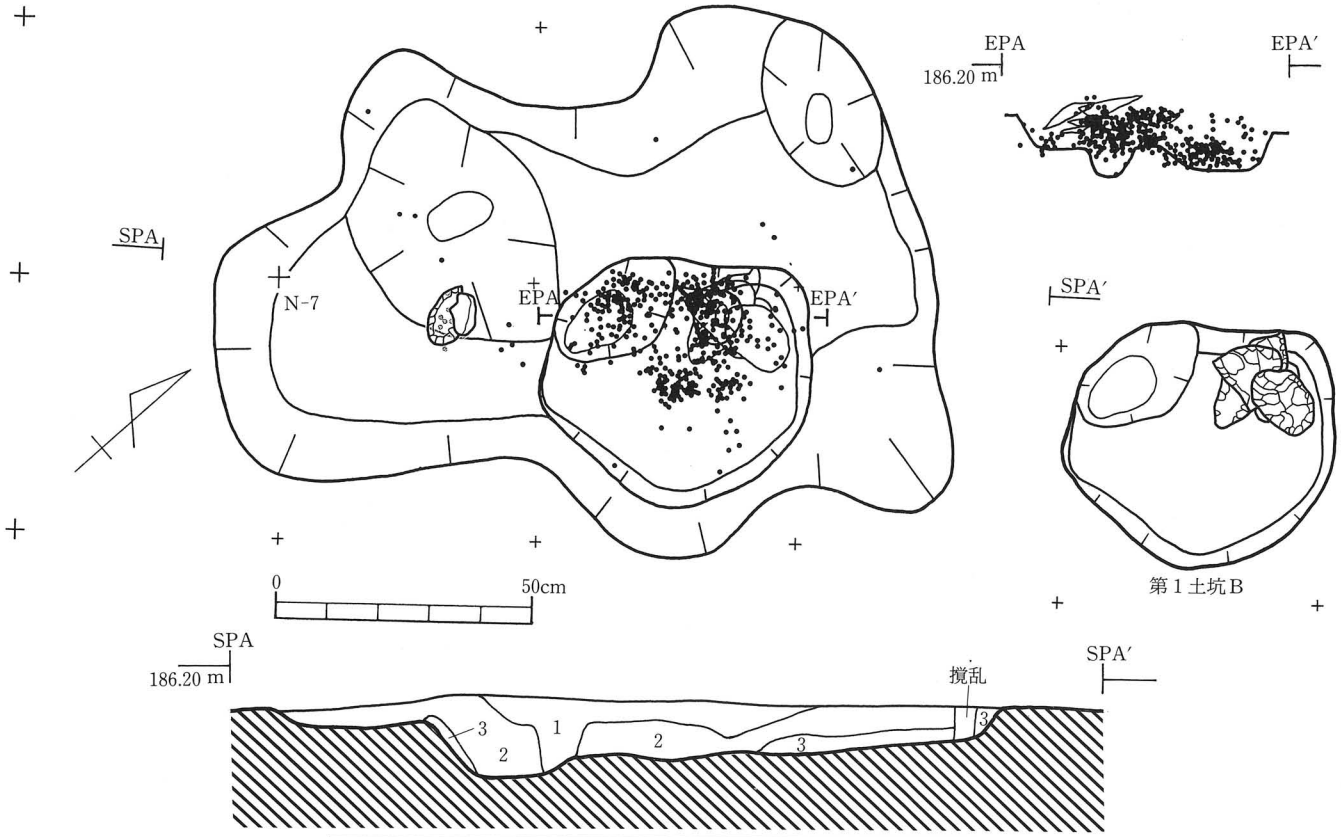
［平面形・規模］　土坑Ｂは土坑Ａの精査中に確認された土坑である。土坑Ａの中央部よりやや東側に位置している。平面形は不整円形を呈しており、その規模は径約 50 cm、深さ 7 ～12 cmを計る（写真３）。

［埋　土］　黒褐色 10 YR3/2 シルト質土の単層で、黒褐色 10 YR2/2 シルト質土と基本層である 4 層がブロック状に混じっている。

［遺物出土状況］　土坑の北半部 30×50 cmの範囲に、石器が一括出土した。特に大型の両面加工の石器 3 点とへら状の石器は重ねられた状態で出土し、その周囲に多数の剝片が弧状に立った状態で発見された。遺物集中部の長軸方向は、N-44°-E を示す。

石器の集中箇所から南西方向に 20 cm離れて、石器No.690 と剝片No.689 が出土している。これは本来土坑Ｂ内の石器集中部に存在していたものが、倒木の影響により移動したものと考えられる。しかし、その影響をうけたのはごく一部で、そのほとんどは原位置を留めていると考えられる。

大型の両面加工の石器とへら状の石器の出土状況は、No.70 が背面を上に、その下のNo.78 が腹面を上に、長軸方向を同じくして、東側を下に西側を上に向けたやや傾いた状態であった。その下から検出されたNo.171 は背面を上に、No.172 は背面を上にして、上にのっている 2 点の石器の長軸方向と直交するように、長軸方向を南北に向けてほぼ水平な状態であった。大型石器の下から検出された剝片類は、土坑中心部のものは水平な状態で密着しており、壁際に向かうにつれて斜めに近い状態になり、壁際に沿ったものはほとんど直立に近い状態であった（巻頭カラー図版参照）。



層　位	土　色		土　性	しまり	粘　性	備　考
埋1	10YR2/1	黒色	粘質シルト	良	つよい	10YR2/2 黒褐色が混る
埋2	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	良	やや有	10YR2/1 黒色が混る
埋3	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	良	ふつう	10YR2/2 黒褐色とロームブロックが混る

第14図 第１土坑遺物出土状態

土坑Bからは、土器1点(第8図－5)、石器450点が出土している。石器の内訳は、大型の両面加工の石器4点、へら状の石器1点、石鏃2点、ドリル1点、小形の尖頭器2点、剥片約440点である。石器の石材はほとんどが珪質頁岩で、複数の母岩が認められる。

出土した石器のうち、No.71・No.109（第21図）・No.130・No.210・No.334・No.398の6点について予備的な使用痕観察を行なっている。

〔出土遺物〕

第15図No.171は両面加工の石器で、最大長軸では左右非対称となり、一側辺が大きく湾曲し他側辺は緩やかに湾曲している。最大幅は中央部にあり、断面形は扁平で薄身に作られている。全体の形状は木葉形を呈し、周縁からの深い整形剥離と縁辺には細かな調整剥離が施され、尖端部を作り出しており、石器として使用されたものと考えられる。裏面側から加わった力によって折れている。

第17図No.70と第18図No.690は、最大長軸では左右非対称の楕円形を呈する両面加工の石器である。表裏両面ともに周縁からの深い剥離面を残しており、打点を移動しながら剥片を剥離する作業を行なった結果として楕円形状を呈している。No.690の側辺には、細かな調整剥離が施されており、これ自体石器として使用された可能性もある。

第16図No.78は、形状としては三角形を呈しているが、本来はNo.70やNo.690と同様の形状を呈していた可能性がある。表面では、左側辺から右上に、右側辺から左上に深い剥離面を残している。裏面では、右側辺から加撃方向が90°の深い剥離面と、下端から加撃方向が90°の深い剥離面を残している。

第19図No.671・No.500は、欠損しているが石鏃である。水洗選別により4層から出土している石鏃と同様の形態をもつ凹基無茎鏃で、基部にU字状の深い抉りが入れられている。No.500は、先端部に受けた衝撃により欠けている。裏面の素材面基部近くに光沢面がみられることから、着柄痕の可能性もある。

No.476は形状的には二等辺三角形を呈しており、平基の石鏃とも考えられるが、今回出土している他の石鏃はすべて凹基無茎鏃で形態的に異なることから、小形の尖頭器としておきたい。表裏ともに周辺にのみ加工が施されている。A-41は欠損のため全体の形状は不明であるが、腹面には尖端部付近にのみ加工が施されており、No.476と同じものと考えたい。

No.172はへら状の石器で、形状・製作方法においてNo.663・No.189と共通している。厚さは約1cmと薄手であり、表裏全面に深い整形剥離と周縁には細かな調整剥離が施されている。

No.132は石錐で、先端部と基部の境界が明確でなく、全体の形状はポイント状を呈している。背面の周辺に二次加工を加えて尖端部を作り出しており、尖端部の断面の形状は菱形を呈している。腹面への加工は尖端部を作り出すためのもので全周にはおよんでいない。

No.258はエンドスクレイパーで、背面の周辺に連続した二次加工を施しており、急角度で調整された厚い刃部をもっている。腹面は左側辺から深い剥離が入っているが、二次加工は側辺にのみ施されている。

No.436・第20図No.411はサイドスクレイパーで、ともに側辺を欠いている。背面の側辺に連続した二次加工を施しているが、腹面にはほとんど加工が施されず、側辺の一部に微細剥離がみとめられる。

No.520・No.135・No.486・No.86・No.624は、連続する二次加工と微細剥離痕のみられる剥片である。No.520は、厚みのある素材を使い下端部に細かな加工が施されている。No.486は、両面加工された石器の縁辺の剥片とおもわれる。No.135は、背面に細かな加工が施され、右側辺には微細剥離痕がみられる。No.624は、側辺に二次加工が施された剥片である。

第20図No.311・No.689、第21図・第22図は、部分的な二次加工または微細剥離痕のみられる剥片である。No.689は、No.690の両面加工の石器とともに土坑A埋土上面から出土した剥片で、背面の側辺に連続した微細剥離がみられる。No.89は、背面の尖部を作り出している右側辺に微細剥離がみられる。No.134は腹面の右側辺に、No.416は背面に

それぞれ部分的な二次加工が施されている。

大型両面加工石器について

大型の両面加工石器3点（№690・№70・№78）は、いずれも周縁からの深い剥離面を残し、周縁に沿って打点を移動しながら剥片剥離作業がなされており、№78の一部に自然面があるのみで素材面は残存していない。形態的にはこれまで、「円盤（板）状石核」、「円盤形調整石核」、などと称されてきたものに近い。これらの石核は、求心的に剥片を剥離する作業を表裏両面に行なった結果として円盤状を呈することを特徴としている。前述のように野川遺跡の両面加工石器についても、同様な特徴が認められることから、剥片生産のための円盤状石核のひとつと考えることが出来る。しかし、№690については石器（Tool）の可能性も考えられる。

「円盤状石核」は「半月形石器」とともに当該期に特徴的な石器で、特に北海道・東北地方に類例が多いとされている。「円盤状石核」の類例としては、青森県大平山元Ⅰ遺跡（三宅他：1979）、北海道置戸安住遺跡（稲田編：1982）などにあり、福島県の仙台内前遺跡でも「円盤状石器」として報告されている（武田他：1988）。

へら状の石器について

へら状の石器とした3点（№189・№172・№663）は、形状や製作方法に共通点が認められる。いずれも表裏全面に、深い整形剥離と周辺には調整剥離が施されている。№189の表面下端部に光沢面が肉眼で観察され、若干摩滅していることからここが刃部として使われた可能性があるが、なお使用痕の観察が必要である。類例についてみると、仙台内前遺跡・山形県高畠町日向洞窟などで近い形態のものが報告されている。仙台内前例は打製石斧として報告され、頁岩製で形状は木葉形を呈している。弧状となる刃部（両刃）から側辺は緩いカーブを描いて基部は尖っている（武田他：1988）。日向洞窟例も、形状は木葉形で石槍とされているが、報告者は側縁に著しい摩滅がみられたことから、刺突を目的としたよりも側辺を使ったスクレイパー的な使用の可能性を指摘している（加藤：1967）。

しかし、野川遺跡のへら状の石器とは、大きさや製作方法では似ているものの、尖端部をもつ形態と、厚さが倍の約2cmである点で異なっている。また、野川遺跡の場合は周縁を全周する細かな調整剥離が施されている点でも相異している。名称については、刃部などの製作方法や使用痕分析などから考えたいが、現時点では適当な名称がないため「へら状の石器」とした。今後の類例をまちたい。

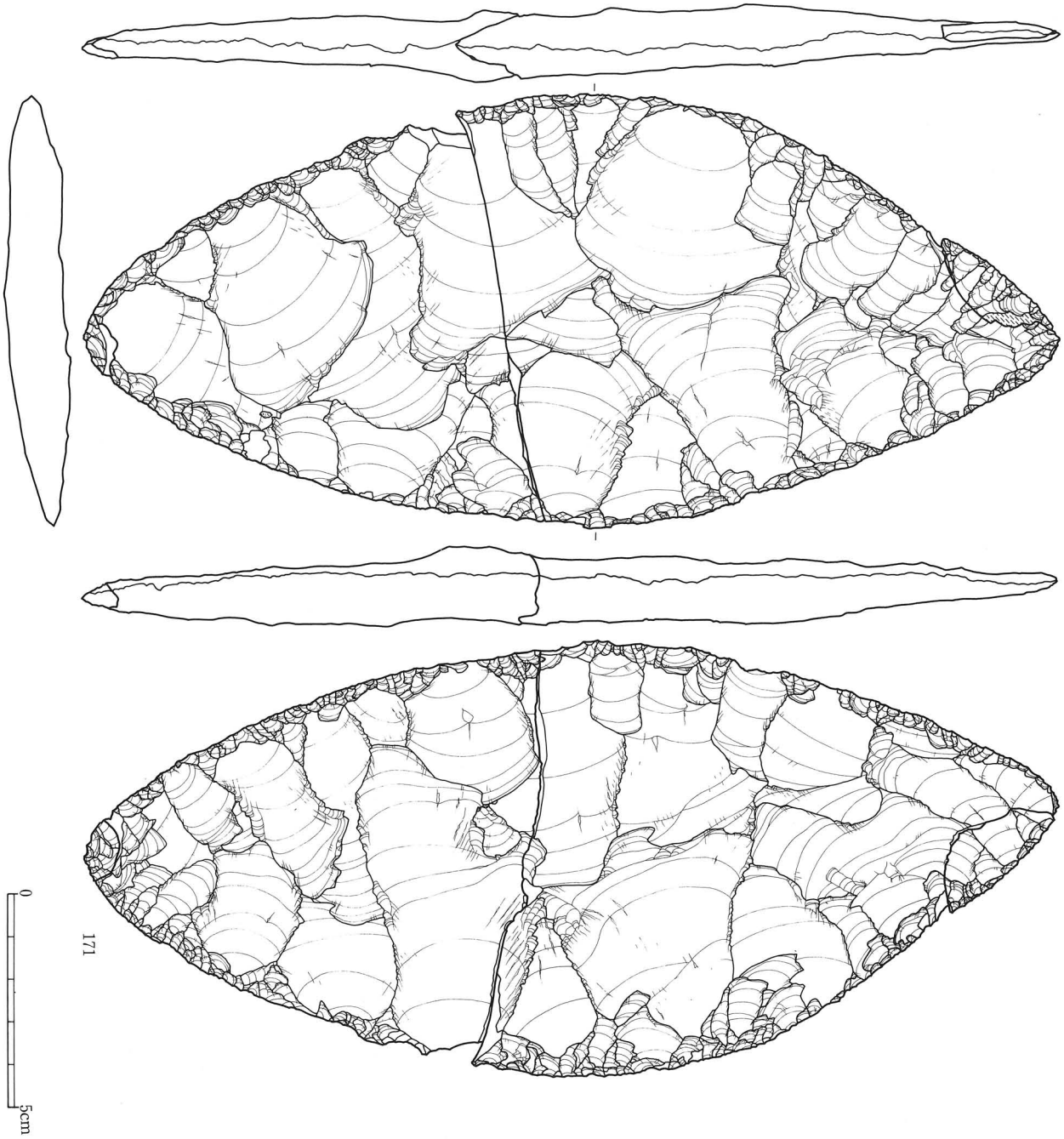
剥片の特徴について（剥片計測属性表・第56図）

剥片は総数で919点出土しているが、その約半数の440点は第1土坑から出土している。剥片の形状としてはほとんどが縦長剥片であるが、何点か横長剥片も出土している。大きさとしては、第1土坑のものは長さ3cm～4cm程度の小型剥片が多いのにたいして、第2土坑のものは長さ10cm～15cmの大型剥片がほとんどである。

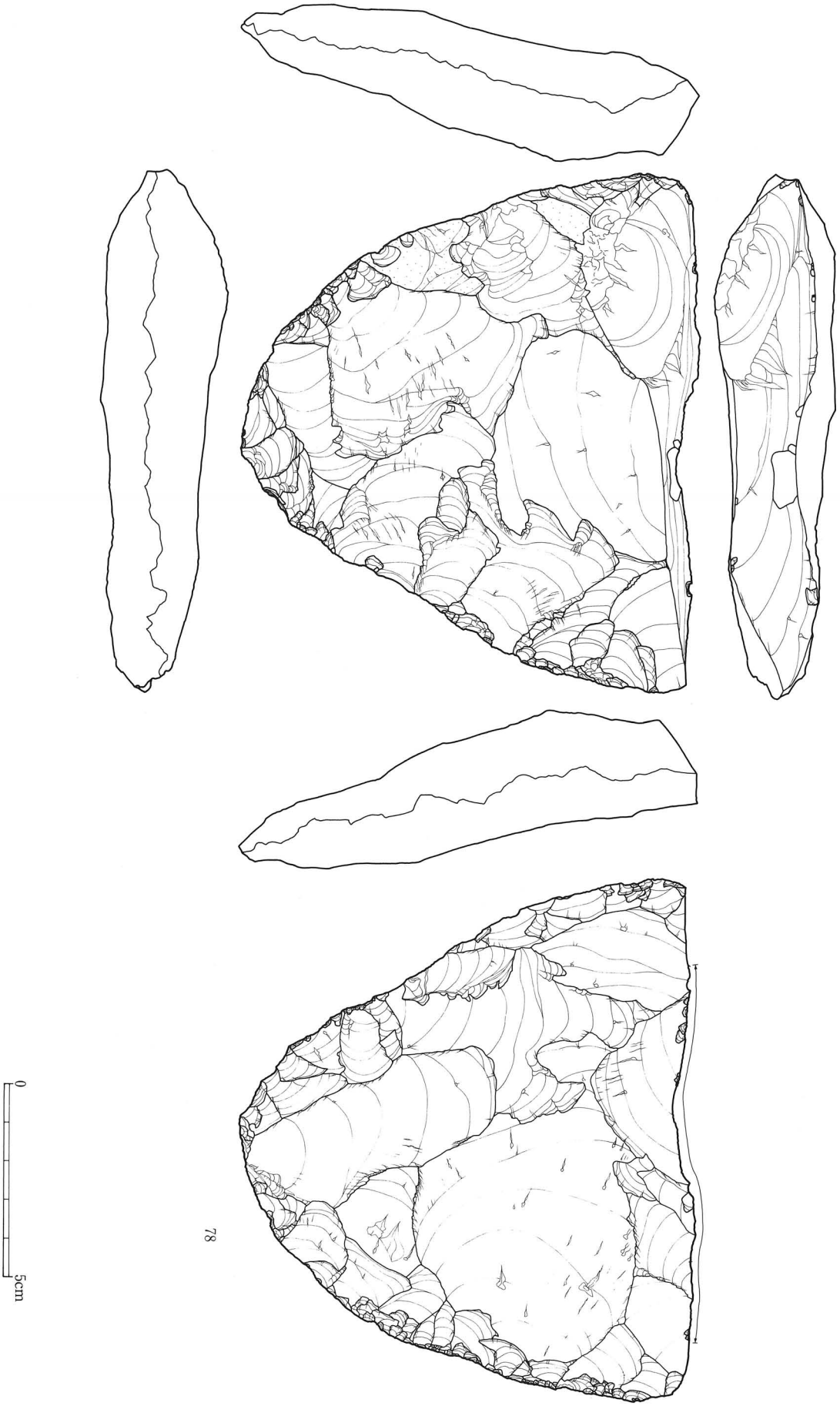
すべての剥片について打面の形態をみると、総数919点のうち、折れなどにより形態が不明なもの509点（55％）を除けば、小打面のものが248点（27％）、通常の打面のものが161点（18％）となっている。

剥離角についてみると、測定できた342点のうち、剥片角が100°～120°のあいだのものが211点（62％）ともっとも多く、剥離角が121°以上のものは85点（25％）、剥離角が99°以下のものは46点（13％）となっている。

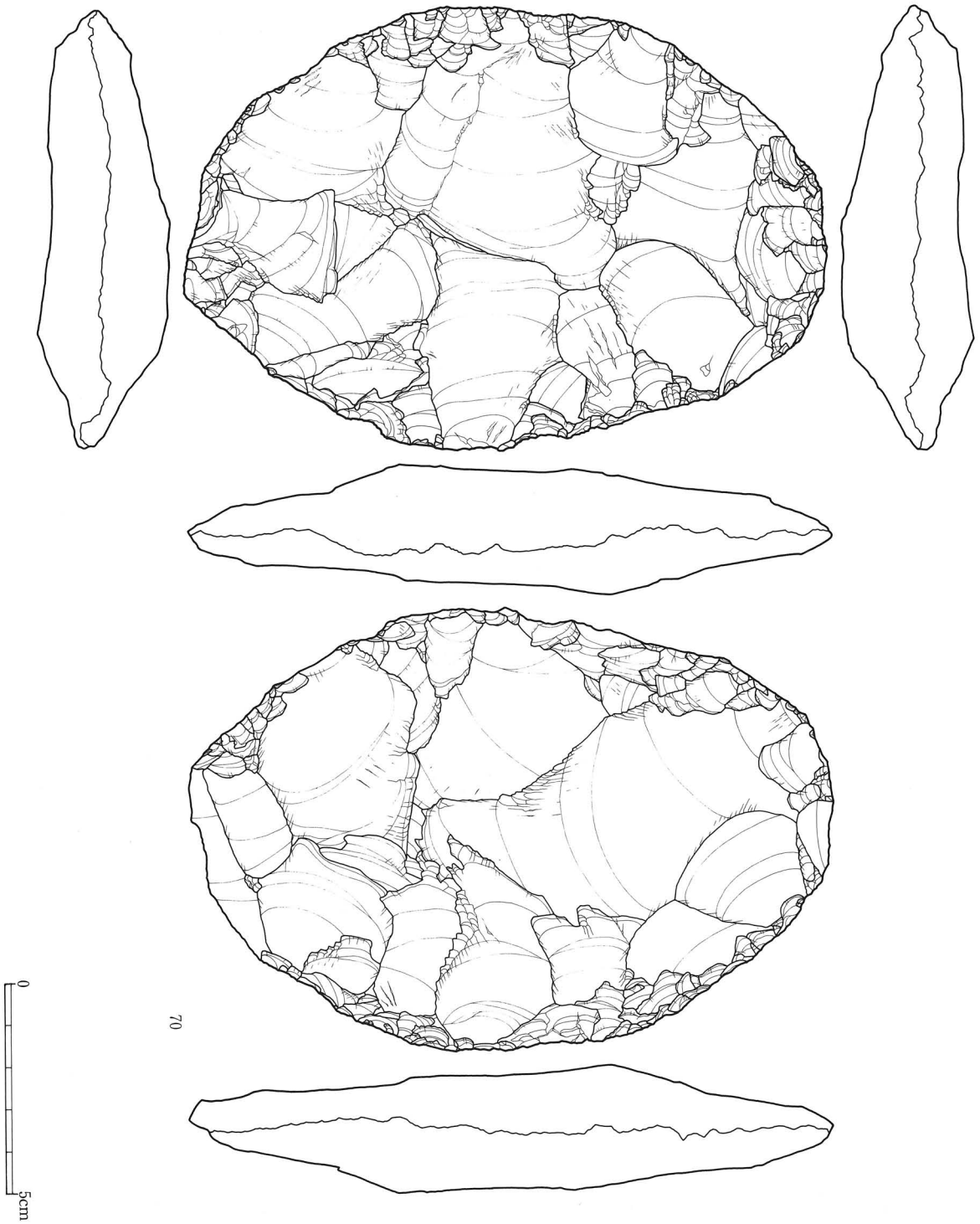
剥片のなかには、側辺の一部に二次加工を施されているものもあるが、微細剥離痕をもっているものが多い。



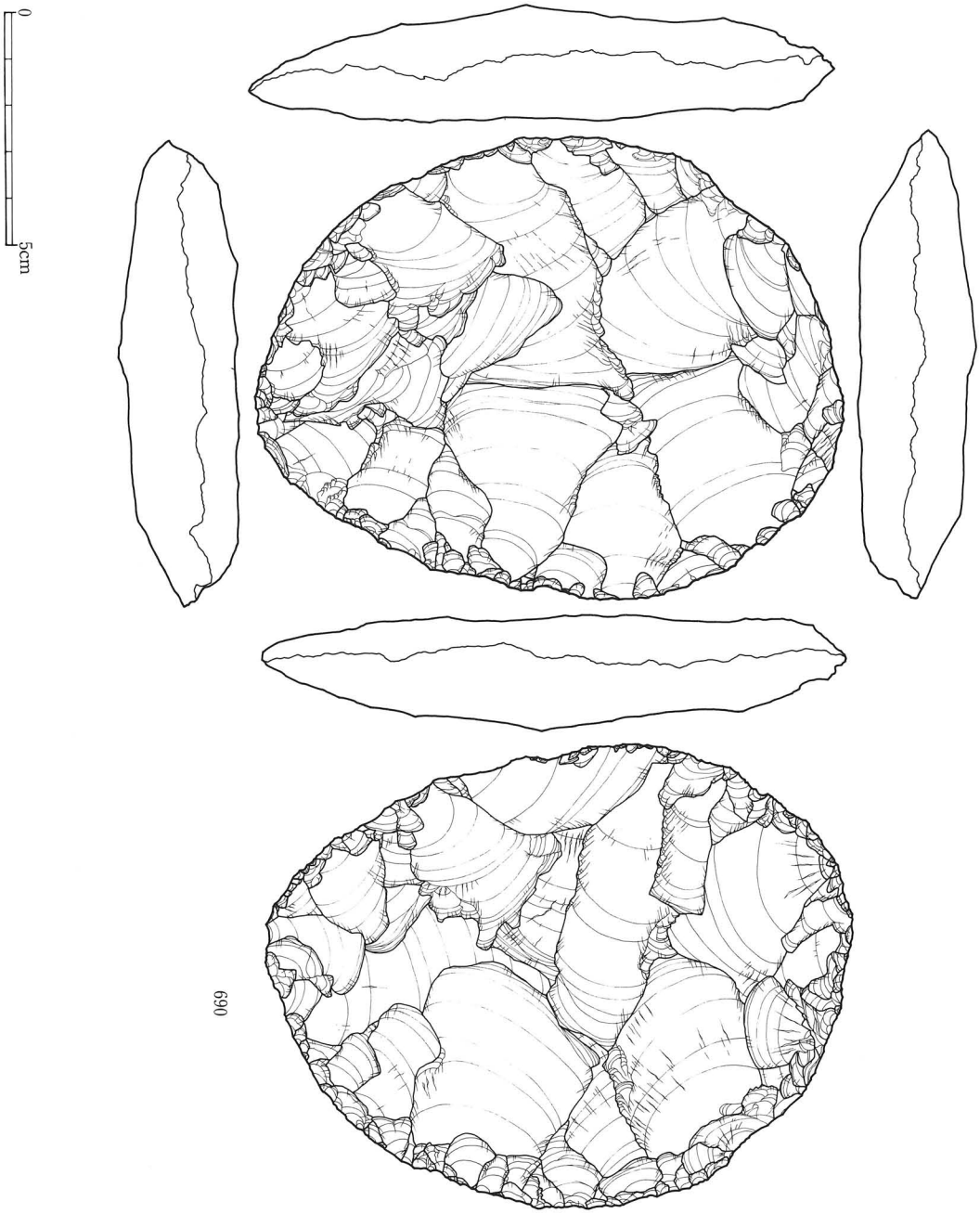
第15図　第１土坑出土石器 (1)



第16図　第１土坑出土石器 (2)

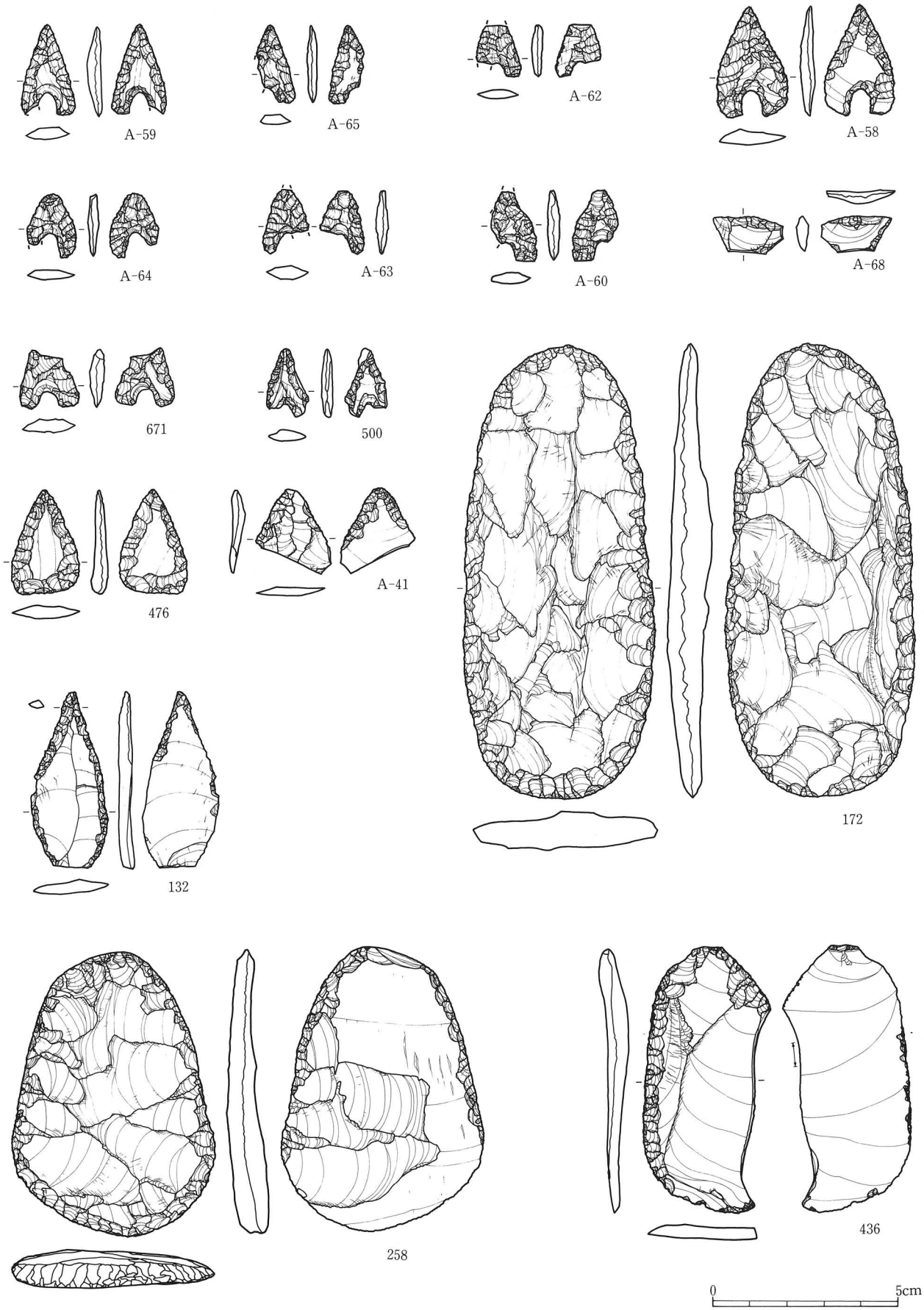


第17図　第１土坑出土石器 (3)



第18図　第１土坑出土石器 (4)

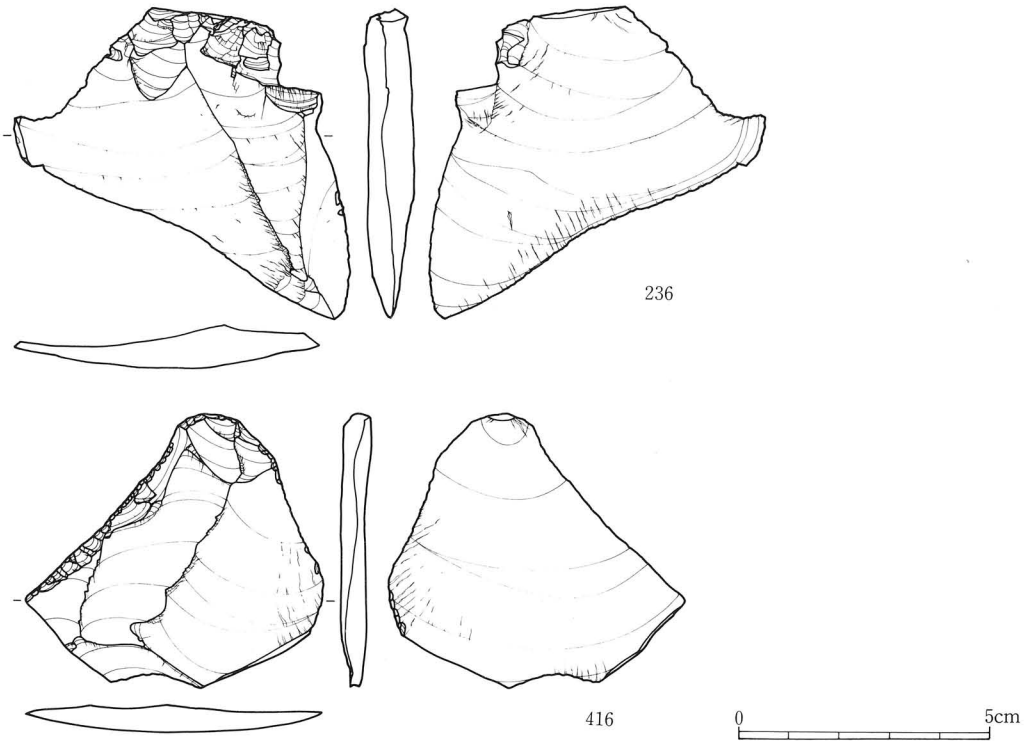
図版No.	登録No.	出土地点	層位	器　種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石材	写真図版No.	備　考
第19図	A-59	6トレンチ	4層	石鏃	24.3	14.3	3.7	1.0	頁岩	写真10	
第19図	A-65	6T・ヌ区	4層	石鏃	20.4	—	2.3	0.40	頁岩	写真10	左基部欠
第19図	A-62	6T・レ区	4層	石鏃	(14.0)	(11.0)	2.4	0.20		写真10	尖部・基部欠
第19図	A-58	6T・ナ区	4層上	石鏃	29.8	18.3	3.0	1.40	頁岩	写真10	
第19図	A-64	6T・ヘ区	4層	石鏃	(17.2)	(12.8)	3.0	0.45		写真10	尖部・左基部欠
第19図	A-63	6T・オ区	4層	石鏃	(16.5)	(10.6)	2.9	0.35	頁岩	写真10	尖部・右基部欠
第19図	A-60	6T・ヨ区	4層	石鏃	(18.8)	—	3.0	0.60	頁岩	写真10	尖部・左基部欠
第19図	A-68	6T・ロ区	4層	剝片	(9.1)	19.2	2.9	0.60	頁岩	写真10	微細剝離有
第19図	A-41	第１土坑		尖頭器	(22.5)	(17.5)	3.1	0.90		写真10	基部欠
第24図	A-42	第２土坑		尖頭器	(17.6)	(13.4)	2.1	0.45	頁岩	写真13	基部欠



第19図　第６トレンチ４層出土石器・第１土坑出土石器　(5)

第20図　第１土坑出土石器 (6)

第21図　第１土坑出土石器 (7)



第22図　第１土坑出土石器 (8)

②第２土坑（第23図）

［位置・確認面］　N-5区にあり、４層上面で確認している。第１土坑Ｂの南約2.5ｍに位置しており、調査区南壁に接している（写真４）。

［平面形・規模］　平面形は不整円形を呈しており、規模は東西45㎝×南北37㎝を計る。深さは北壁で5.5㎝、南壁で8㎝、東壁で6.5㎝、西壁で4.5㎝を計り、北・西壁側がやや緩やかに立ち上がっている。主軸方位はN-72°-Eを示す。

［埋　土］　黒褐色10YR3/2シルト質土の単層で、黒色10YR2/1が小ブロック状に混じり、１～２㎝大の小石が混入している。

［遺物出土状況］　土坑の中央より西半部の、20×30㎝の範囲に約50点の石器が重なった状態で出土した。このなかで、へら状の石器としたNo.663だけは、集中部から離れた東壁側で単独出土している。遺物集中部の長軸方向はN-47°-Wを示す（写真４・５）。

集中部の石器は密着して出土しているが、図示した28点について出土状態をみると次のようになっている。

背面を上にして出土した石器　663・612・615・651・613・643・637・614-b
（12点）　632・652・645

腹面を上にして出土した石器　630・649・631・611・646・641・640・633・653
（12点）　642・650・647

腹面を上にして、斜めまたは立った状態で出土した石器
（２点）　605（側面をみせて直立）・606-b（斜め）

側面を上にして立った状態で出土した石器　（１点）　634

不　明　（１点）　606-a

この他図示しなかった剝片についてみると、背面を上にして出土したもの11点、腹面を上にして出土したもの3点、直立した状態で出土したもの5点、その他3点となっている。

次に、それぞれの石器の出土状態について、上下関係でみると第23図のようになっている。

A：第2土坑石器出土状態

B：No.605・No.606・No.611～No.615取り上げ状態

C：No.630～No.634・No.637取り上げ状態

D：No.640～No.643取り上げ状態

E：No.645～No.650取り上げ状態

F：No.651～No.653及び東半部小剝片取り上げ状態

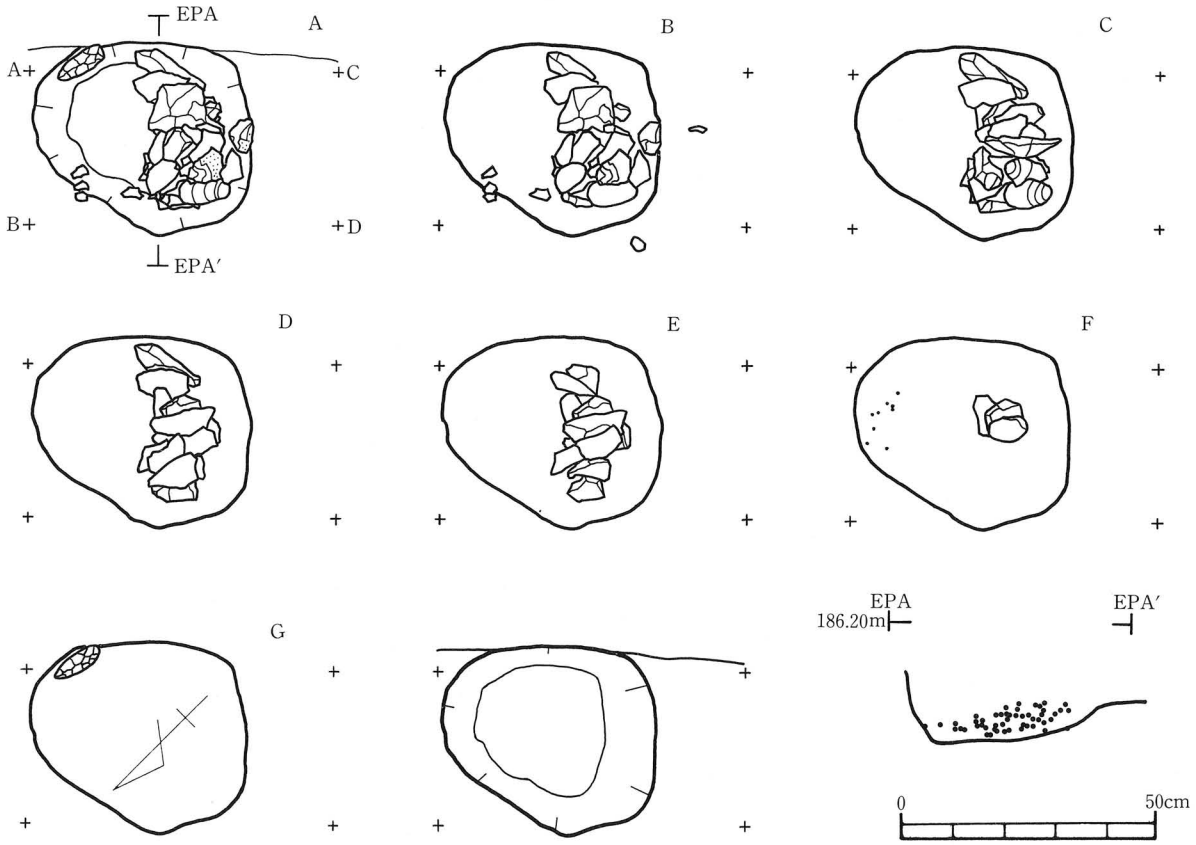
G：No.663取り上げ状態

出土した石器や剝片類は第1土坑Bのものに比べ大型のものが多く、小さな剝片は東半部側に集中している。出土した石器の内訳は、スクレイパー類7点、へら状の石器1点、大型の剝片約40点である。この他に、埋土の水洗選別により小型の尖頭器1点が検出されている。石器の石材はほとんどが珪質頁岩で、第1土坑B出土石器と同様に複数の母岩が認められる。石器はいずれも縦長の剝片を素材としている。

出土した石器のうち、No.606-b・No.612・No.614・No.631・No.649・No.663・No.682の7点について予備的な使用痕観察を行なっている。

〔出土遺物〕

第24図A-42は基部を欠いており全体の形状は不明であるが、第1土坑のNo.476・A-41（第19図）と同じ小型の尖頭器とおもわれる。表裏両面とも周縁にのみ二次加工が施されている。側辺の形態は直線状を呈している。



第23図　第2土坑遺物出土状態

№605・№630・№615はエンドスクレイパーで、いずれも刃部は背面側の連続する二次加工により作出されており、急角度に調整されている。また背面の両側辺にも二次加工が施されている。№615の腹面の側辺の一部に二次加工があるほかは、腹面側には二次加工が施されず、微細剥離痕がみとめられる。№615の背面側の側辺に自然面が残存している。

№606-bはサイドスクレイパーで、最大長軸では左右非対称で一側辺が大きく湾曲し、他側辺は直線的となり、全体の形状としては半月形を呈している。背面の打面以外の周縁に二次加工が施されているが、腹面には二次加工が施されず、微細剥離痕がみとめられる。

№663はへら状の石器で、上端部がやや尖り気味に調整されている。第1土坑の№172(第19図)と同様に厚さ0.9cmと薄く、表裏全面に深い整形剥離と周縁には細かな調整が施されている。

№612はスクレイパーで、背面側の側辺に連続する二次加工が施されている。

第25図～第29図は、部分的な二次加工や微細剥離痕のある剥片である。

第25図№649は、第1土坑№70・№78のような両面加工された石器の周縁部の剥片と考えられる。

№631・№613はスクレイパーで、背面の左側辺に連続する二次加工が施されているが、腹面には加工が施されていない。ともに背面の右側辺の一部に自然面を残している。

№651の背面には自然面を大きく残しており、側辺の上半から入れられた整形剥離と細かな調整剥離がある。

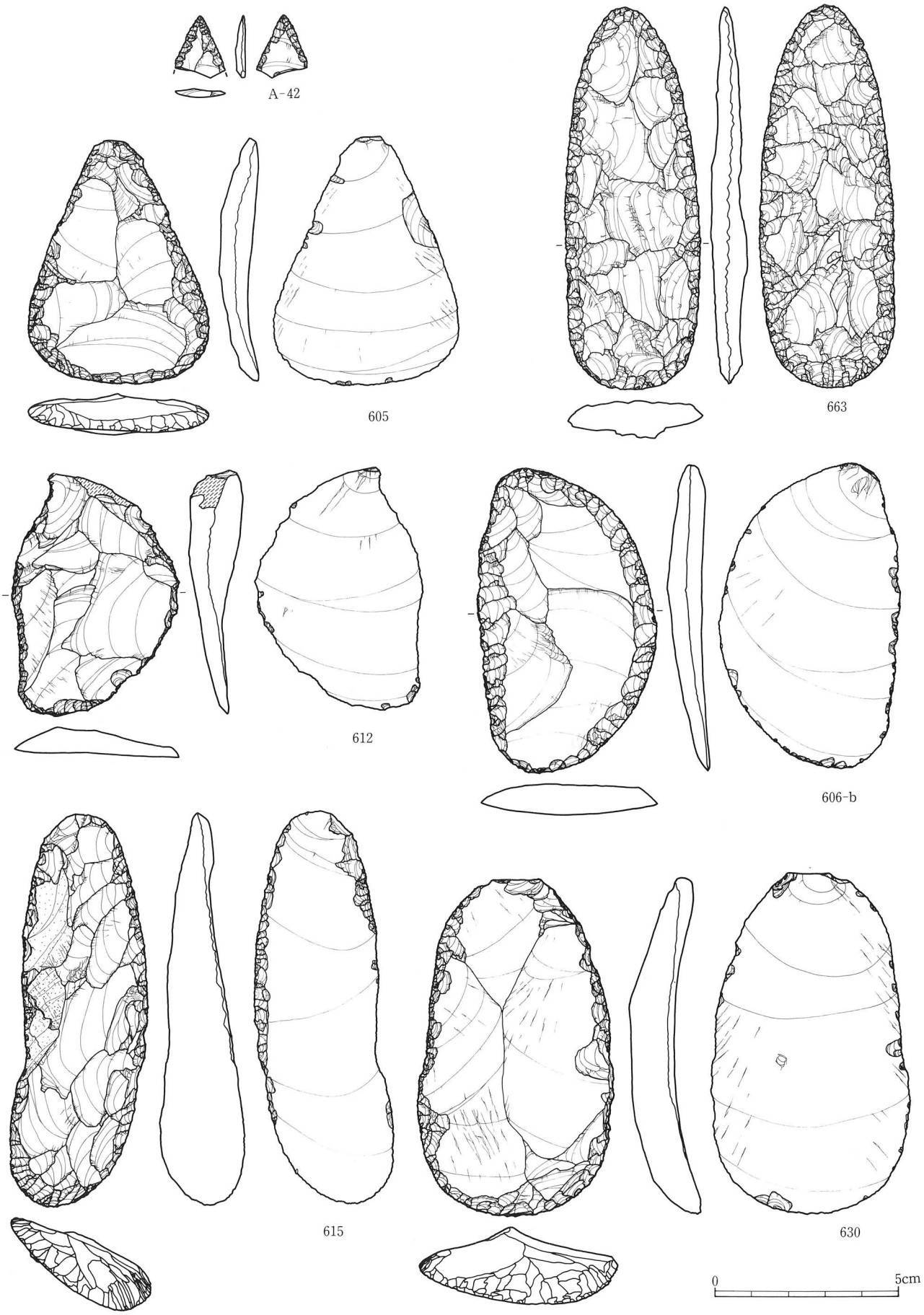
№634は背面の中央部に自然面を残し、側辺部の一部に二次加工が施されている。尖端部の側辺に微細剥離痕がみられる。

第26図№606-aは、背面右側辺に自然面を残し、右側辺下部と腹面の右側辺に微細剥離痕がみられる。№646・№637は、背面の両側辺に微細剥離痕がみられる。

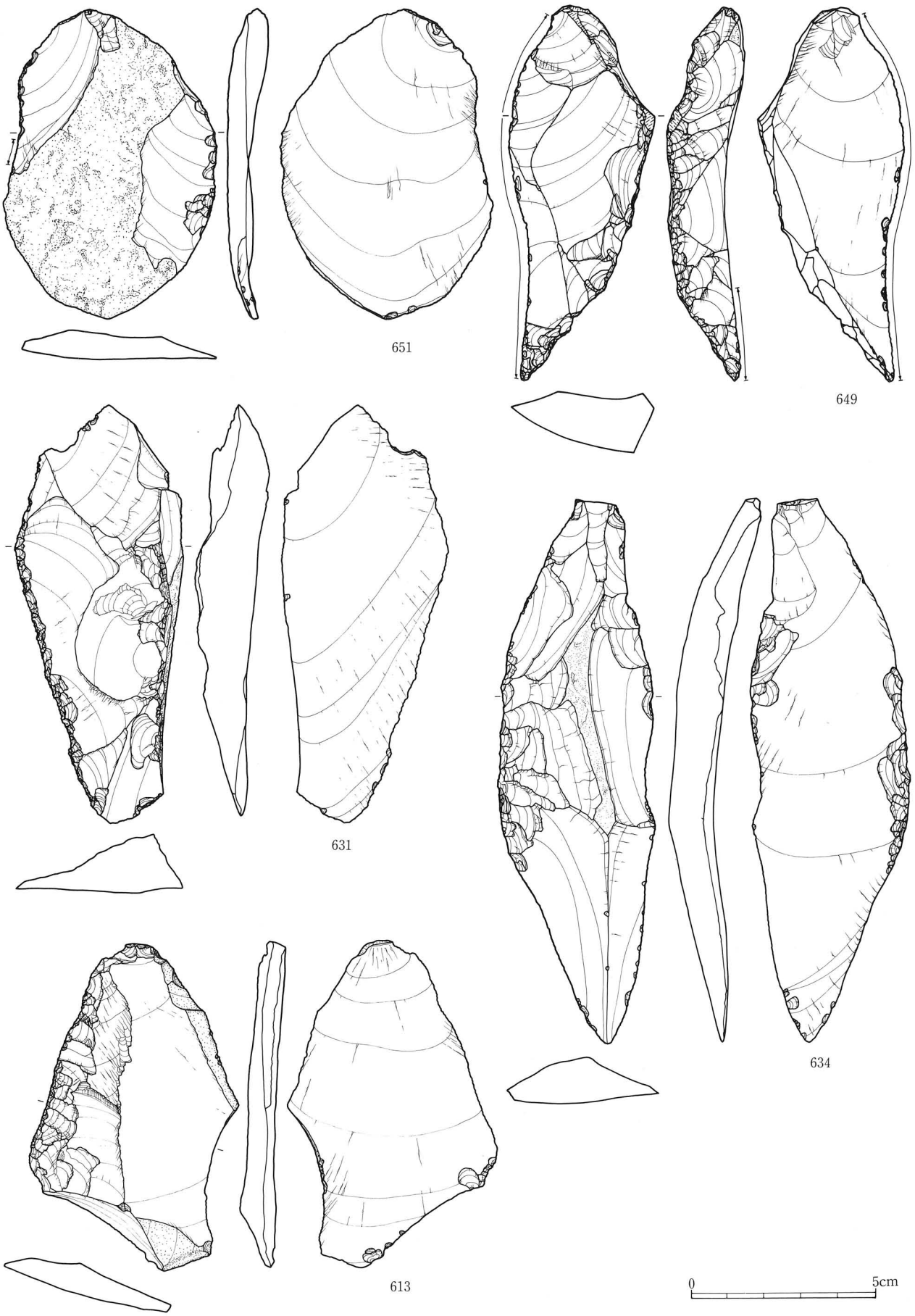
第27図№640・№641は、両側辺に微細剥離痕がみられる。№614-bは、背面の両側辺に微細剥離痕がみられ、右側辺は尖部状になっている。№632-bは、左側辺に微細剥離痕がみられる。

第28図№652は、背面に大きく自然面を残し、周縁に微細剥離痕がみられる。№633は、側辺の一部に微細剥離痕がみられる。№653は、背面の周縁に微細剥離痕がみられる。№642は、両側辺に微細剥離痕がみられる。

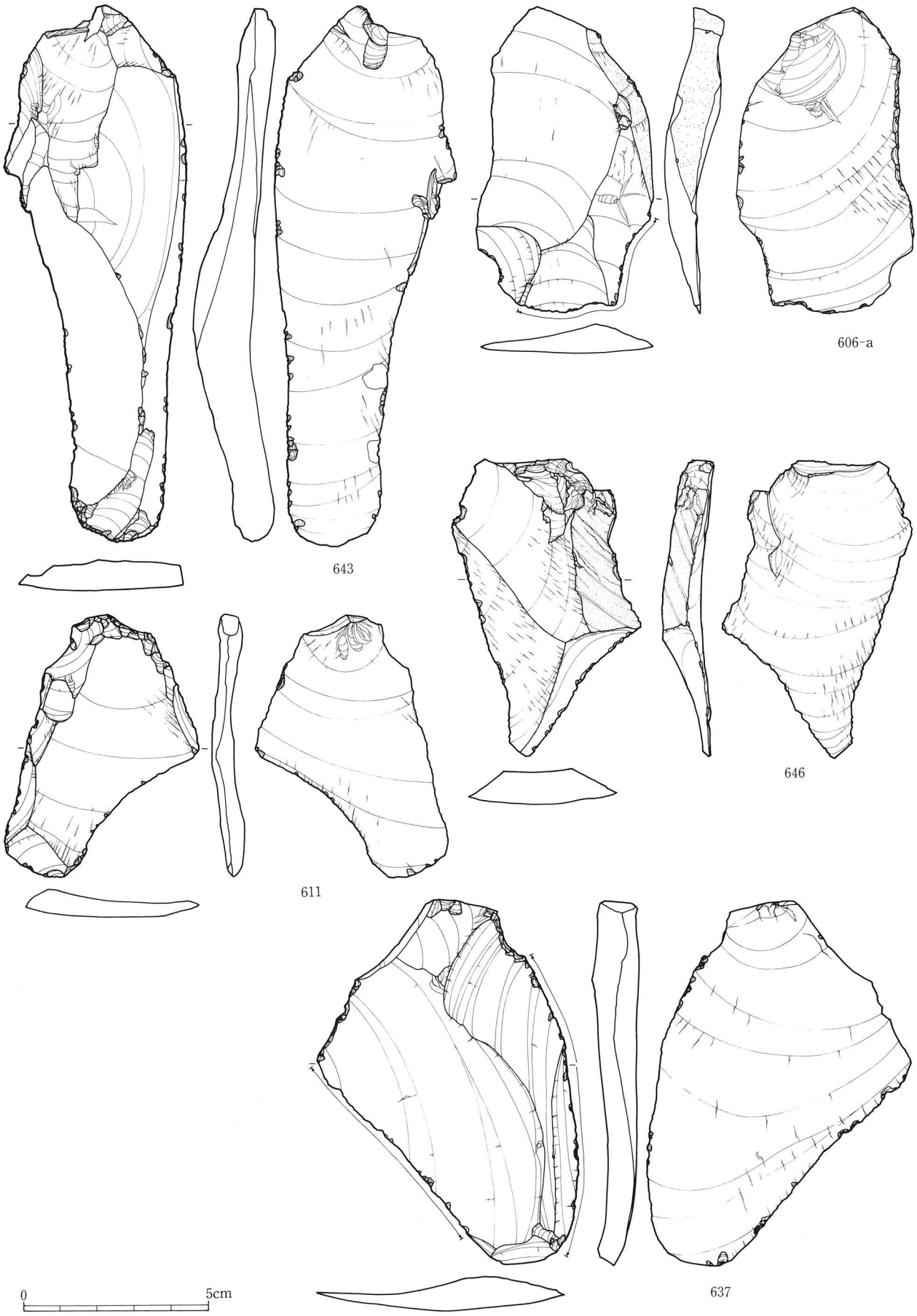
第29図№648は、背面の上部に自然面を残し、両側辺に微細剥離痕がみられる。№647と№650は、背面の側辺の一部に部分的な微細剥離痕がみられる。№645は、背面の右側辺の上半部とノッチ状になった下端部に、微細剥離痕がみられる。



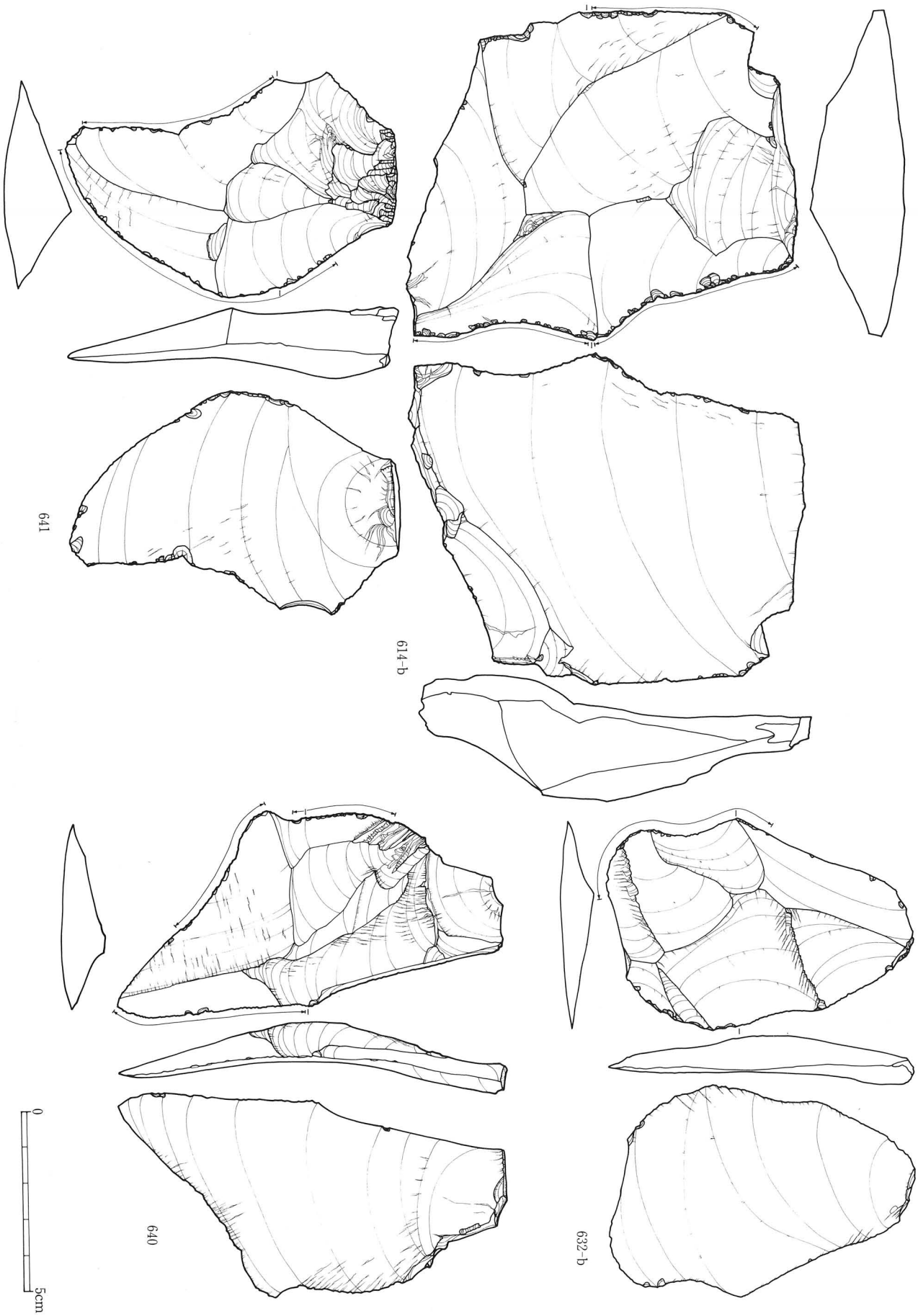
第24図　第２土坑出土石器 (1)



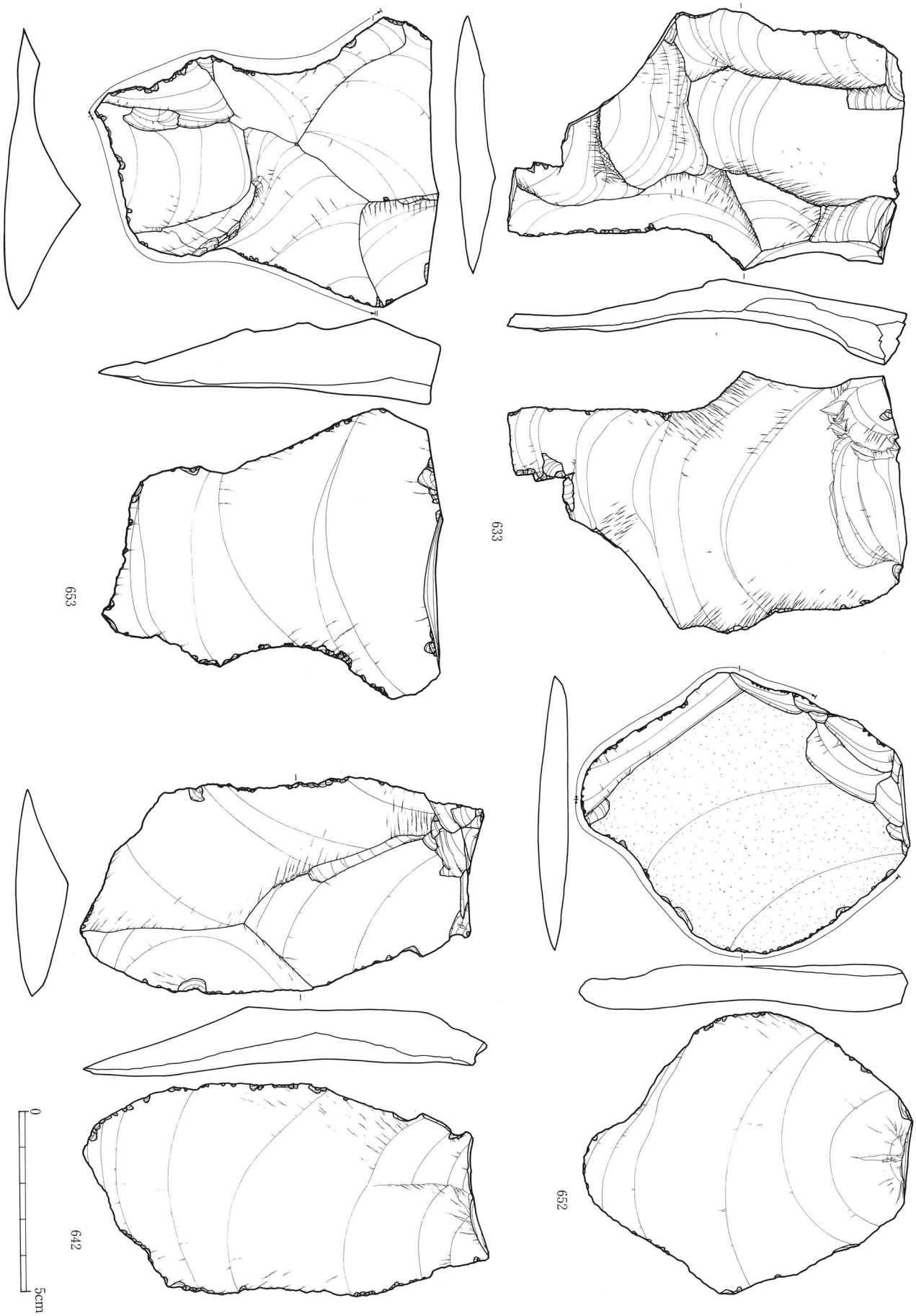
第25図　第２土坑出土石器 (2)



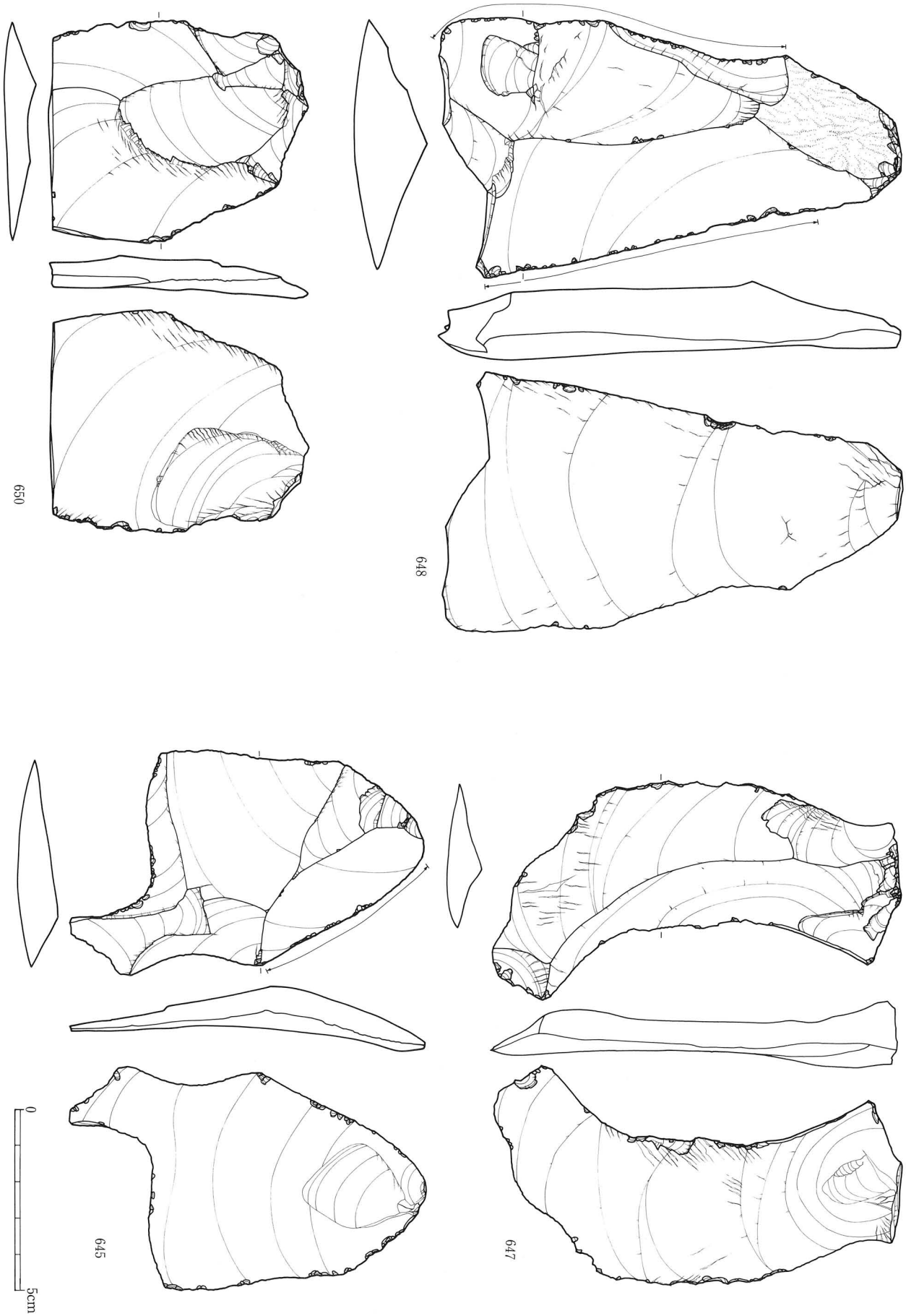
第26図　第２土坑出土石器 (3)



第27図　第２土坑出土石器 (4)



第28図　第２土坑出土石器 (5)



第29図　第２土坑出土石器 (6)

⑶土坑出土石器接合資料

第1土坑出土の剥片を中心として剥片接合資料は31点あり、この他に折面での接合資料が35点ある（第38図～第54図）。剥片の出土位置や遺構と接合の関係（平面分布）でみると、第1土坑出土以外の剥片と接合したものは次のとおりである（第30図～第37図）。

①第1土坑＋第2土坑の接合……1点（S-20）

②第1土坑＋第6トレンチの接合……5点（S-1・S-2・S-7・S-59・S-60）

③第2土坑＋トレンチの接合……2点（S-61・S-66）←折面接合

④トレンチ＋トレンチの接合……2点（S-41・S-62）←折面接合

剥片を剥離するための打点の動きについてみると、次のように分類することができる。

(a)打点を左右に移動していくもの……2点（S-1・S-19）

(b)打面を90°から180°と転位させていくもの …5点（S-3・S-5・S-11・S-23・S-60）

(c)打面を転位しないもの……24点

剥片接合資料

接合資料S-1（第30図・第38図・写真21）　剥片7点が接合する。打点を左右に移動させながら剥片を剥離している。№717は打点を欠いている。№15だけが第6トレンチからの出土である。

接合資料S-2（第30図・第38図・写真21）　剥片4点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№723と№26は折面での接合である。剥片№26・№22が第6トレンチからの出土である。

接合資料S-3（第30図・第39図・写真21）　剥片5点が接合する。打面を上下に180°転位させながら剥片を剥離している。№367の剥離後打面を180°転位して№235を剥離し、再び180°転位して№261を剥離し、さらに180°転位して№256・№638を剥離している。№367は折れにより打面を欠いている。

接合資料S-4（第30図・第40図・写真21）　剥片3点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№355は折れにより打面を欠いている。

接合資料S-5（第30図・第40図・写真21）　剥片3点が接合する。打面を転位しながら剥片を剥離している。№323の剥離後打面を90°転位して№220を剥離し、つぎに180°転位させて№345を剥離している。№220は折れにより、№345は節理面での割れにより打面を欠いている。

接合資料S-6（第31図・第41図・写真21）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№352は折れにより末端を欠いている。

接合資料S-7（第31図・第41図・写真22）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

接合資料S-8（第31図・第41図・写真22）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

接合資料S-9（第31図・第43図・写真22）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

接合資料S-10（第31図・第42図・写真22）剥片3点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№234＋№225と№207の間に剥離された剥片は検出されていない。№234・№225は折面での接合である。

接合資料S-11（第32図・第43図・写真22）　剥片2点が接合する。打面を転位させて剥片を剥離している。№525の剥離後打面を180°転位して№277を剥離している。№277は折れにより打面を欠いている。

接合資料S-12（第32図・第43図・写真22）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

接合資料S-13（第32図・第44図・写真23）　剥片3点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№226と№704は折面での接合で、№226は打面を欠いている。

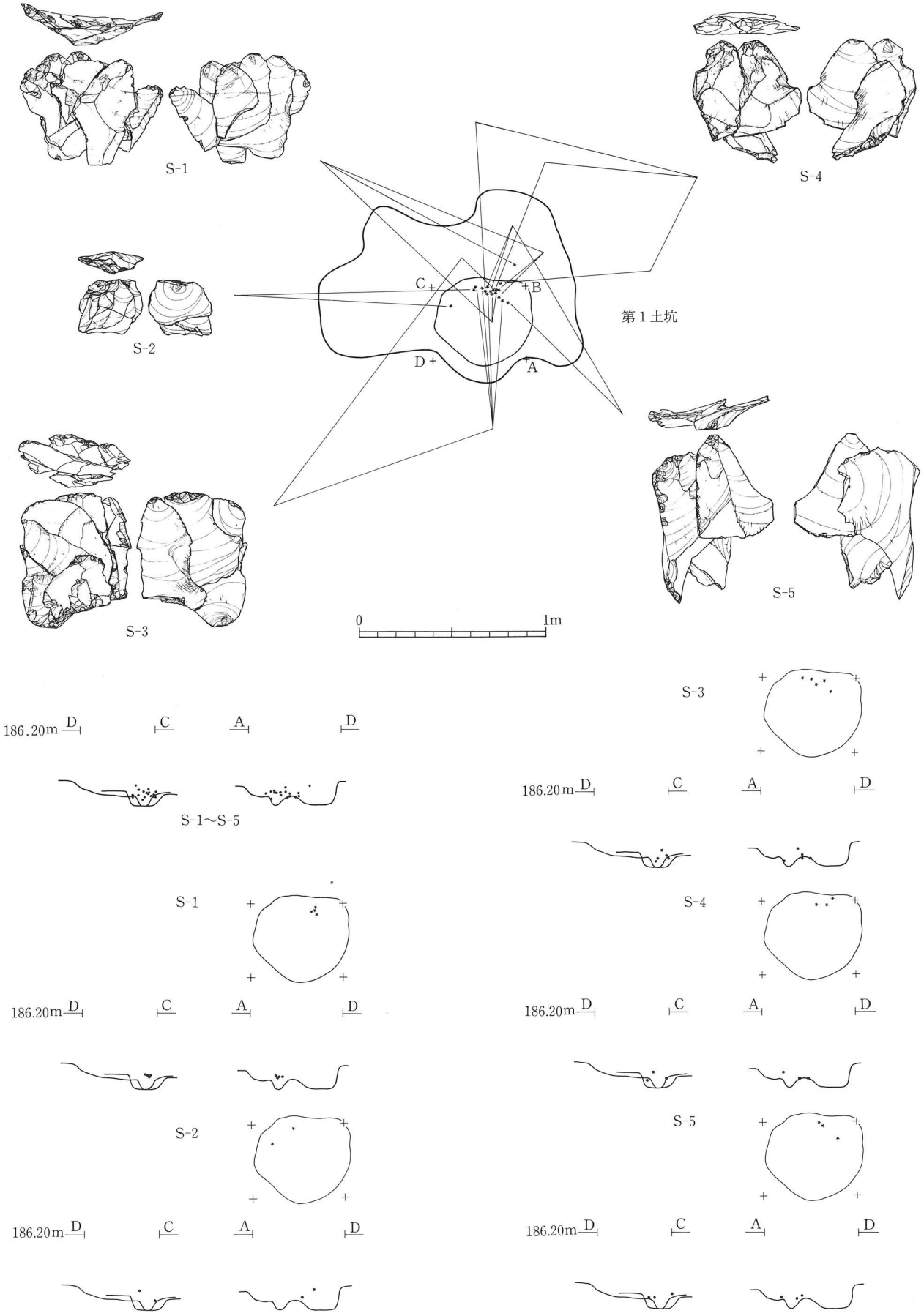
接合資料S-14（第32図・第44図・写真23）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

接合資料S-16（第33図・第45図・写真23）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。

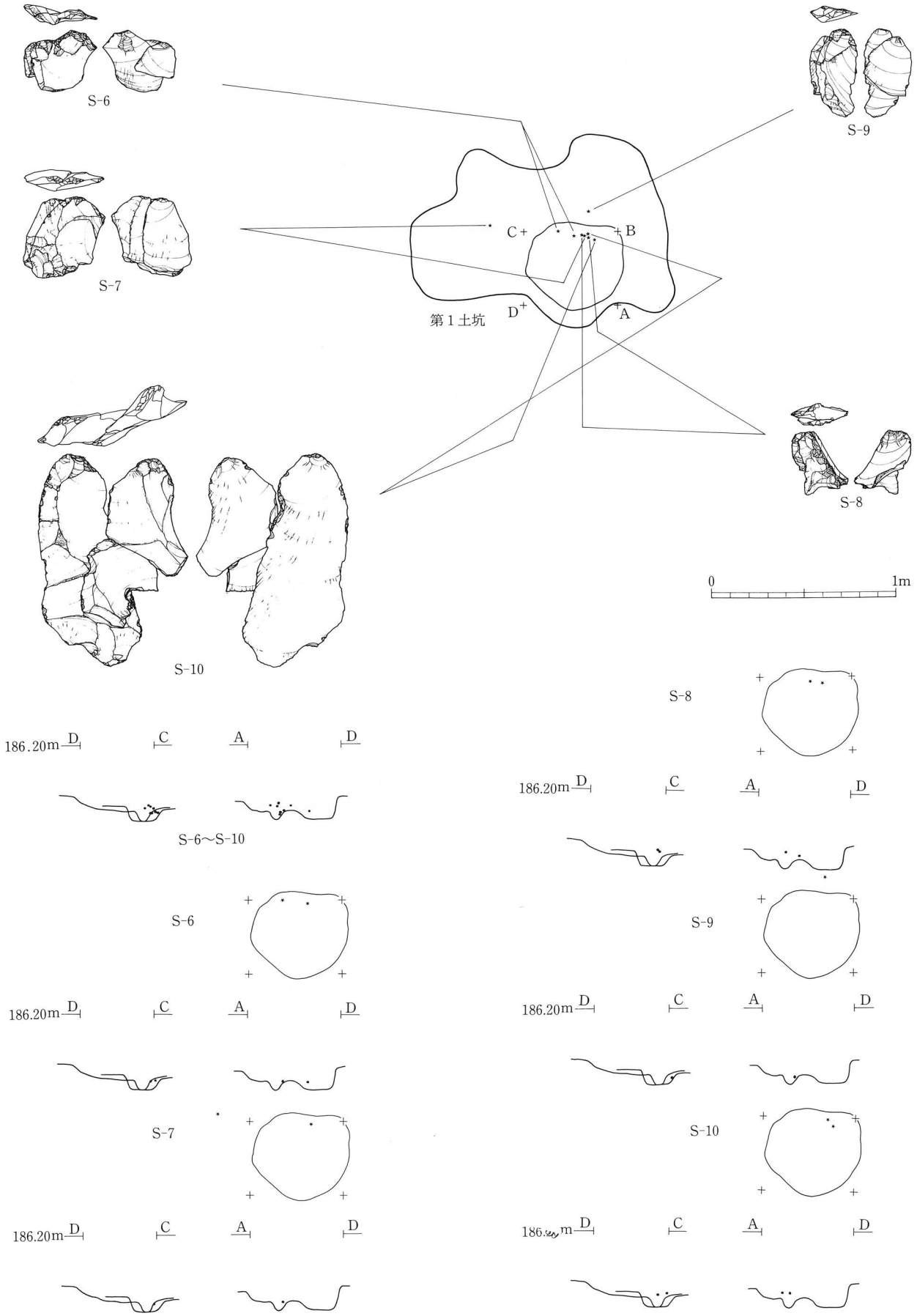
接合資料S-17（第33図・第45図・写真23）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。
接合資料S-18（第33図・第46図・写真23）　剥片4点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№400と№395、№785は折面での接合である。
接合資料S-19（第33図・第46図・写真23）　剥片4点が接合する。打面を左右に移動させながら剥片を剥離している。№306と№473の間の剥片は検出されていない。
接合資料S-20（第33図・第47図・写真24）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№610の背面には自然面を大きく残している。№610は第2土坑、№212は第1土坑から出土している。
接合資料S-21（第34図・第47図・写真24）　剥片5点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№404と№303と№799は折面での接合である。№325と№404は縦割れにより打面を欠いている。
接合資料S-22（第34図・第49図・写真24）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。
接合資料S-23（第34図・第48図・写真24）　剥片7点が接合する。打面を転位させて剥片を剥離している。№366・№521剥離後打面を90°転位して№242を剥離している。№366と№254は同時割れによる接合、№521と№280 a・b、№242と№246は折面での接合である。
接合資料S-24（第34図・第49図・写真25）　剥片3点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№449は折れにより打面を欠いている。
接合資料S-25（第34図・第49図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。
接合資料S-26（第35図・第50図・写真25）　剥片3点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。
接合資料S-27（第35図・第50図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№386は折面で接合しているが、打面を欠いている。
接合資料S-28（第35図・第50図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№61は折れにより打面を欠いている。
接合資料S-29（第35図・第51図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№119は折れにより打面を欠いている。
接合資料S-30（第35図・第51図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。№247は折面で接合しているが、折れにより打面を欠いている。
接合資料S-59（第36図・第52図・写真25）　剥片2点が接合する。打面の転位をせずに剥片を剥離している。
接合資料S-60（第36図・第52図・写真25）　剥片2点が接合する。打面を転位させて剥片を剥離している。№759剥離後打面を90°転位して№918を剥離している。

剥片接合資料（折面）

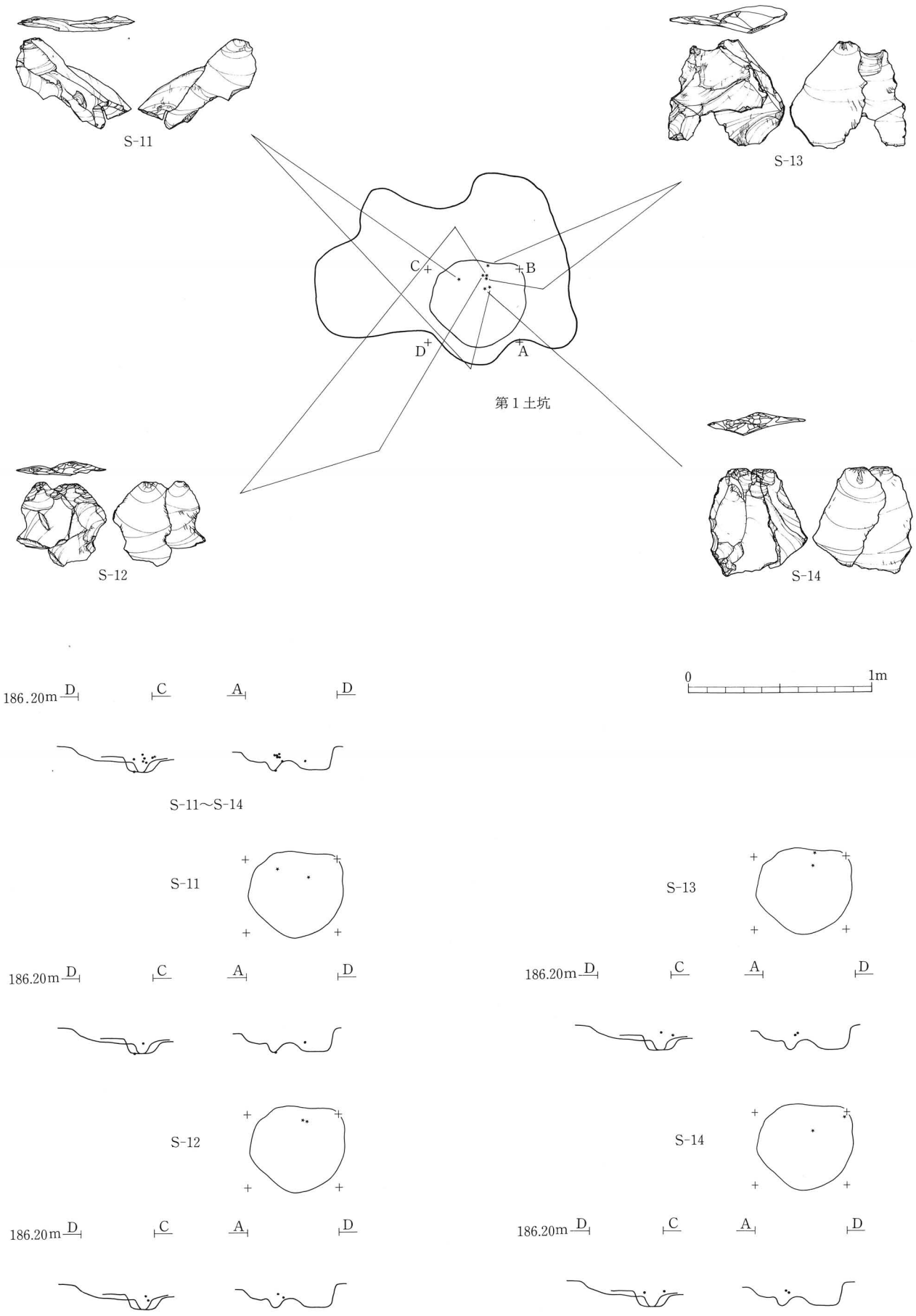
折面接合資料35点を出土位置や遺構と接合の関係でみると、ほとんどは第1土坑から出土している。第2土坑＋トレンチで接合したのは、S-61・S-66の2点である。トレンチから出土したものでの接合は、S-31・S-41・S-62の3点である。
接合資料S-61（第36図・第52図・第54図）　折面による接合であるが、№635-bは第2土坑、№451は第5トレンチから出土している。
接合資料S-66（第36図・第52図・第54図）　折面による接合である。背面には自然面を大きく残している。受熱による焼けはじけがみられ、№994には焼けはじけ部分の接合がある。№993と№994は第2土坑、№850は第6トレンチから出土している。



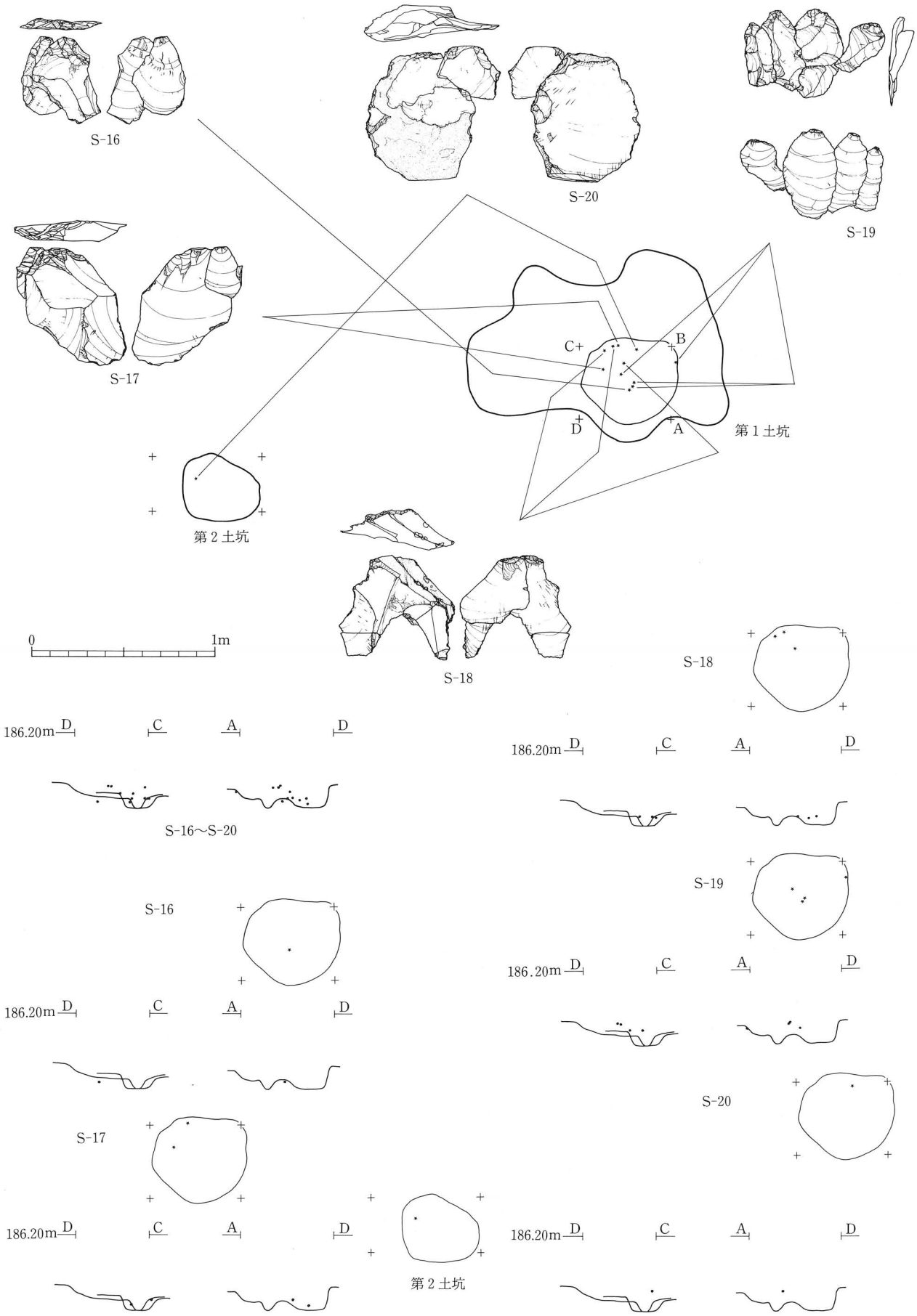
第30図　第１土坑出土石器接合資料（S-1～S-5）平面・垂直分布図（1）



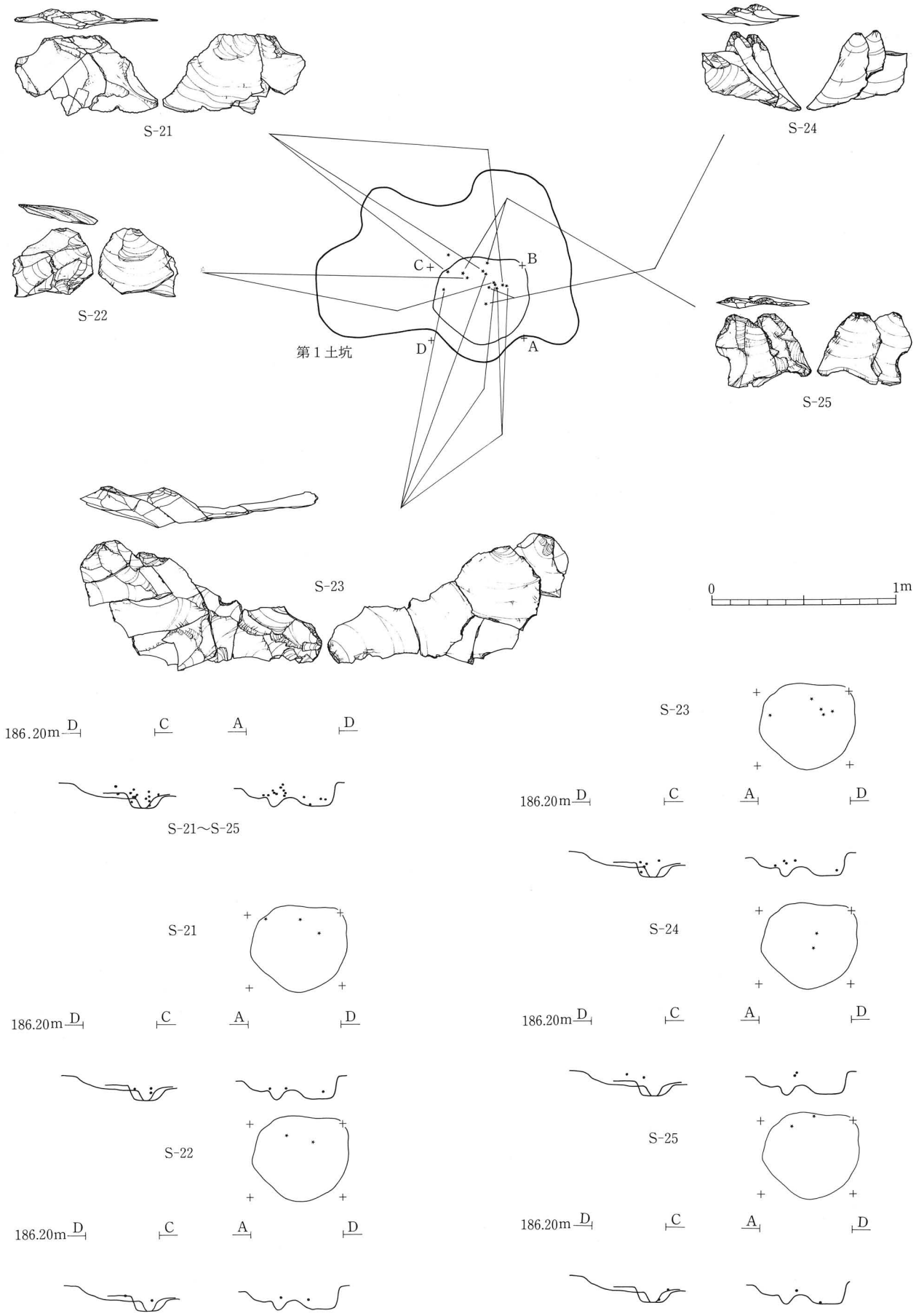
第31図　第１土坑出土石器接合資料（S-6～S-10）平面・垂直分布図 (2)



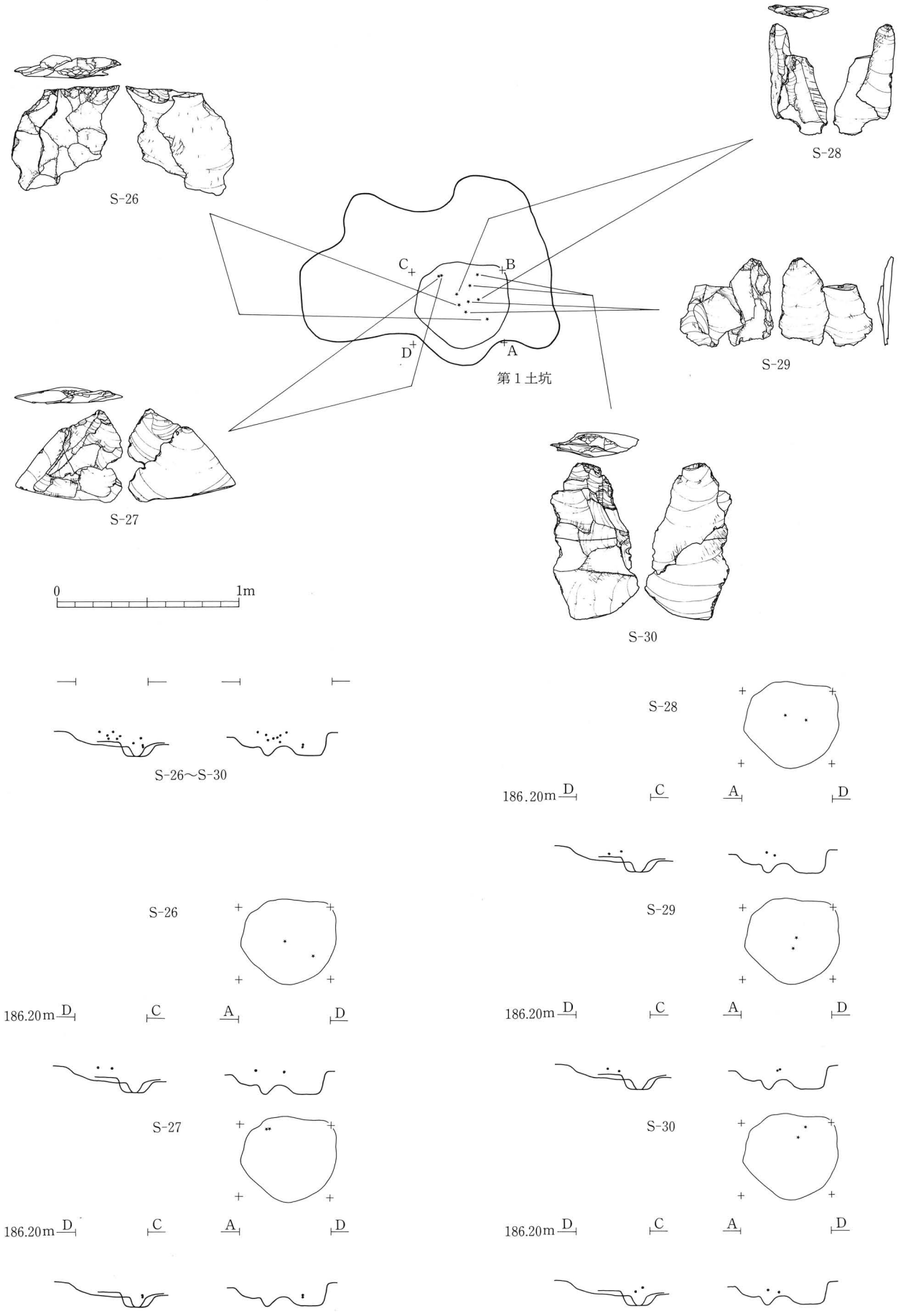
第32図　第１土坑出土石器接合資料（S-11～S-14）平面・垂直分布図 (3)



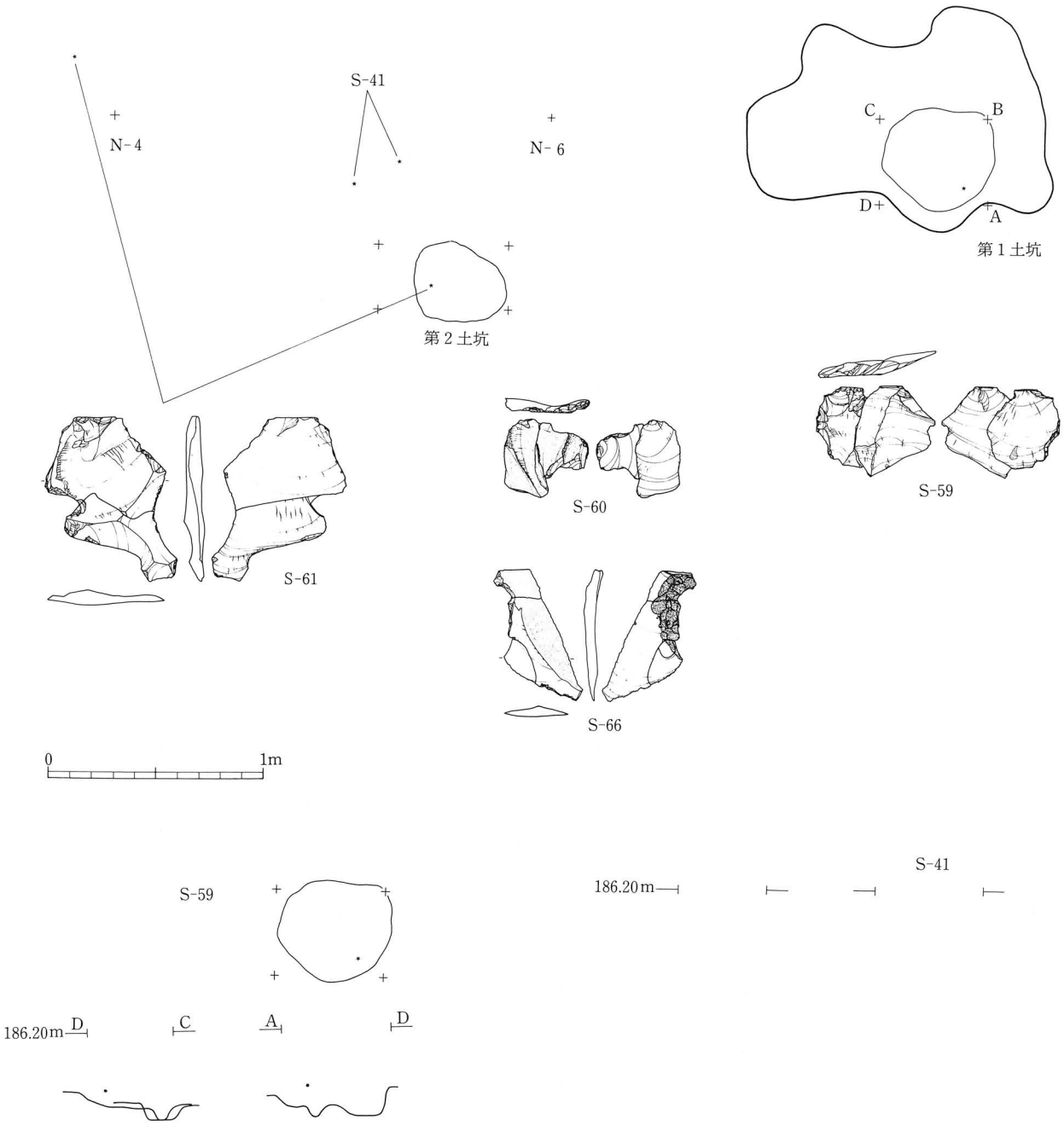
第33図　第1土坑出土石器接合資料（S-16～S-20）平面・垂直分布図 (4)



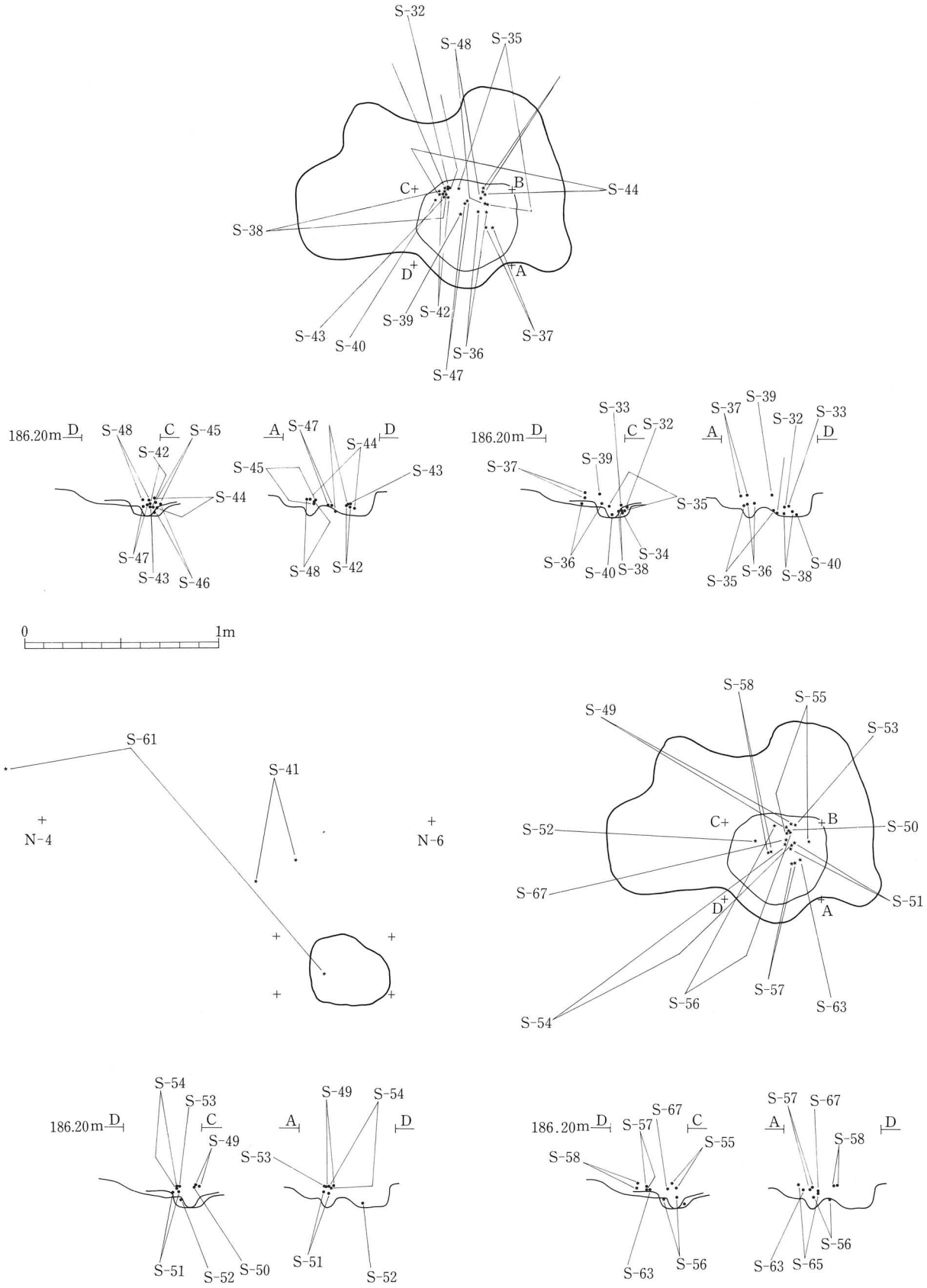
第34図　第１土坑出土石器接合資料（S-21～S-25）平面・垂直分布図 (5)



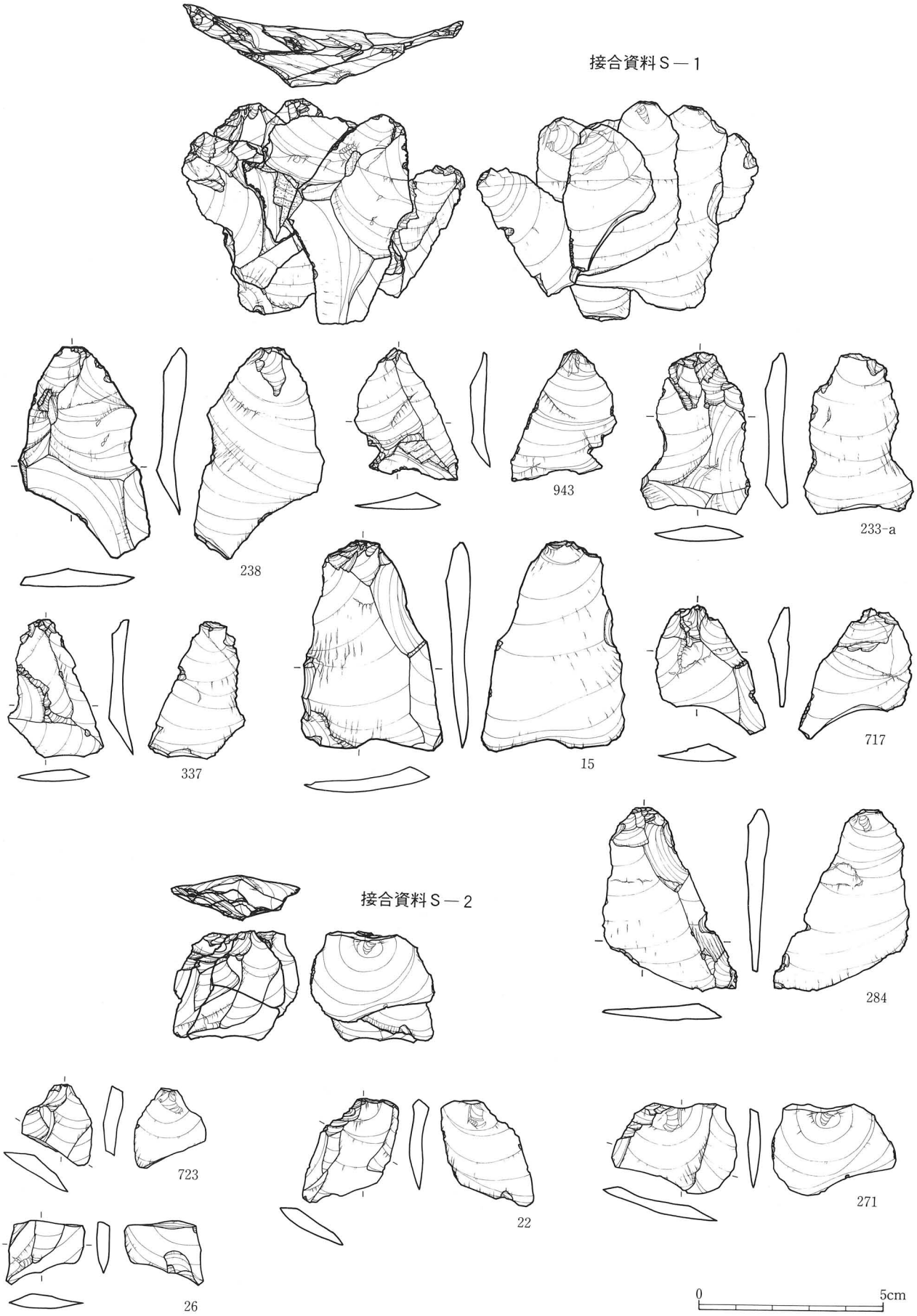
第35図　第１土坑出土石器接合資料（S-26～S-30）平面・垂直分布図 (6)



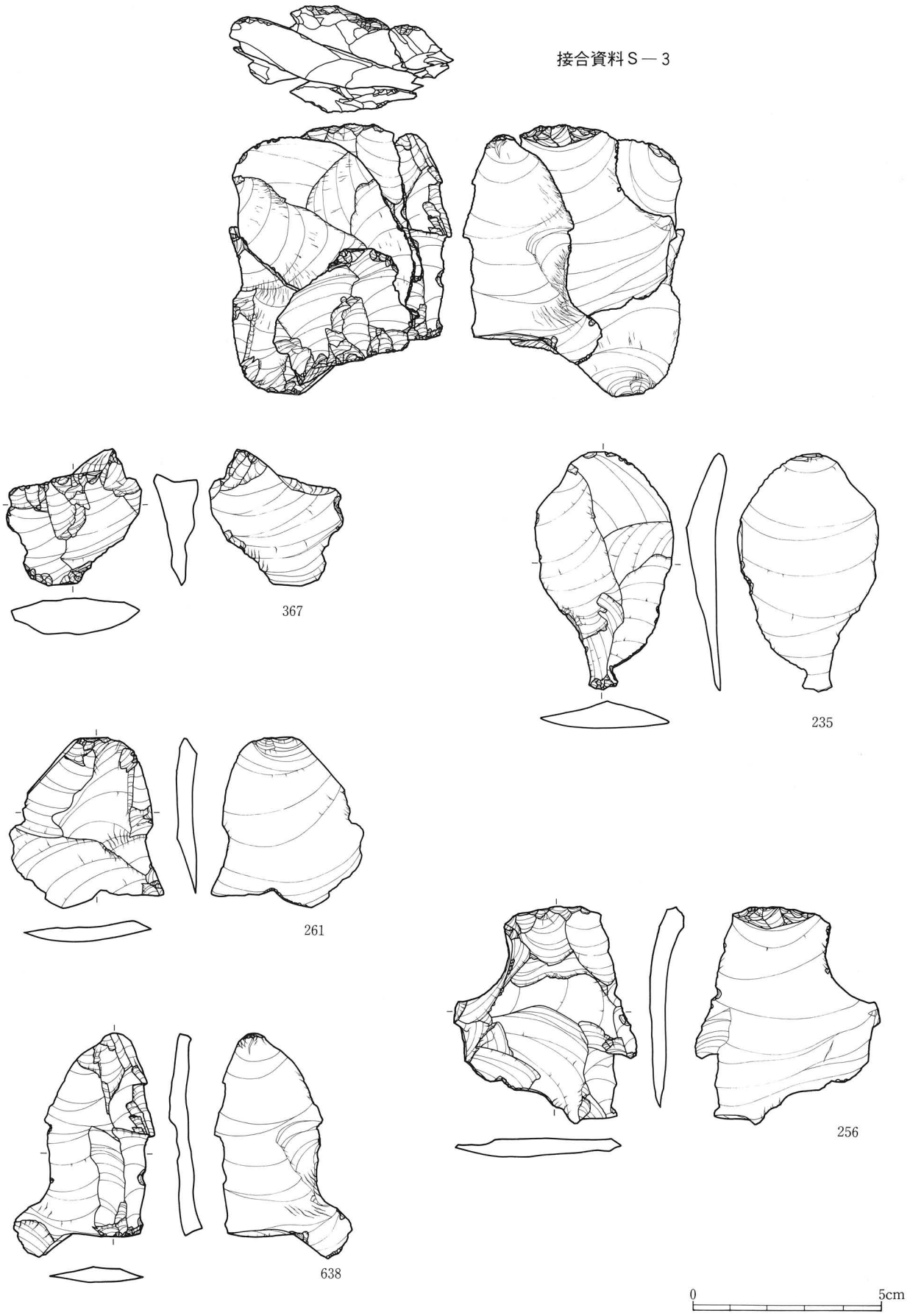
第36図　第1土坑出土石器接合資料（S-41・S-59～S-61・S-66）平面・垂直分布図（7）



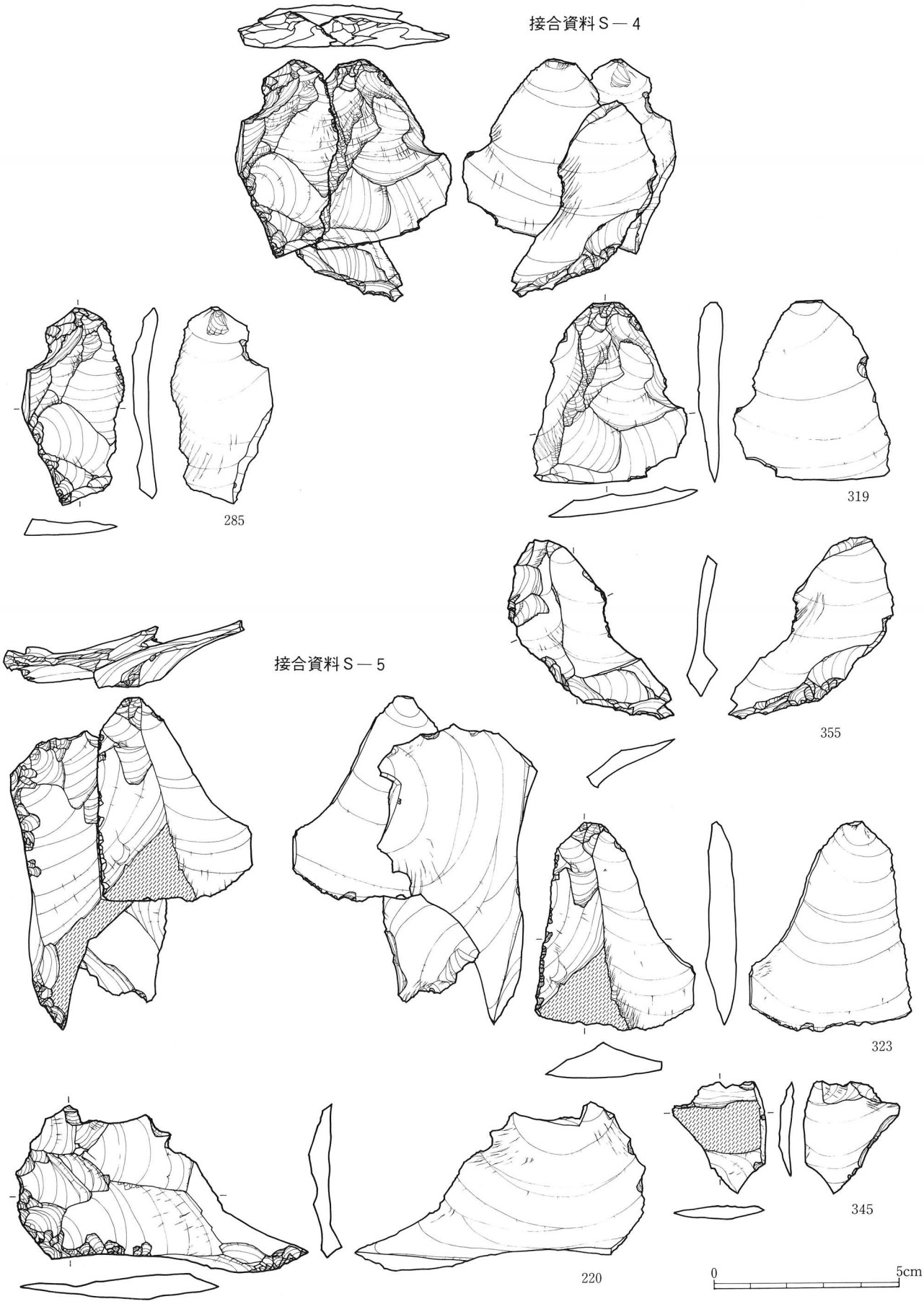
第37図　第１・第２土坑出土石器接合資料（折面 S-31～S-67）平面・垂直分布図 (8)



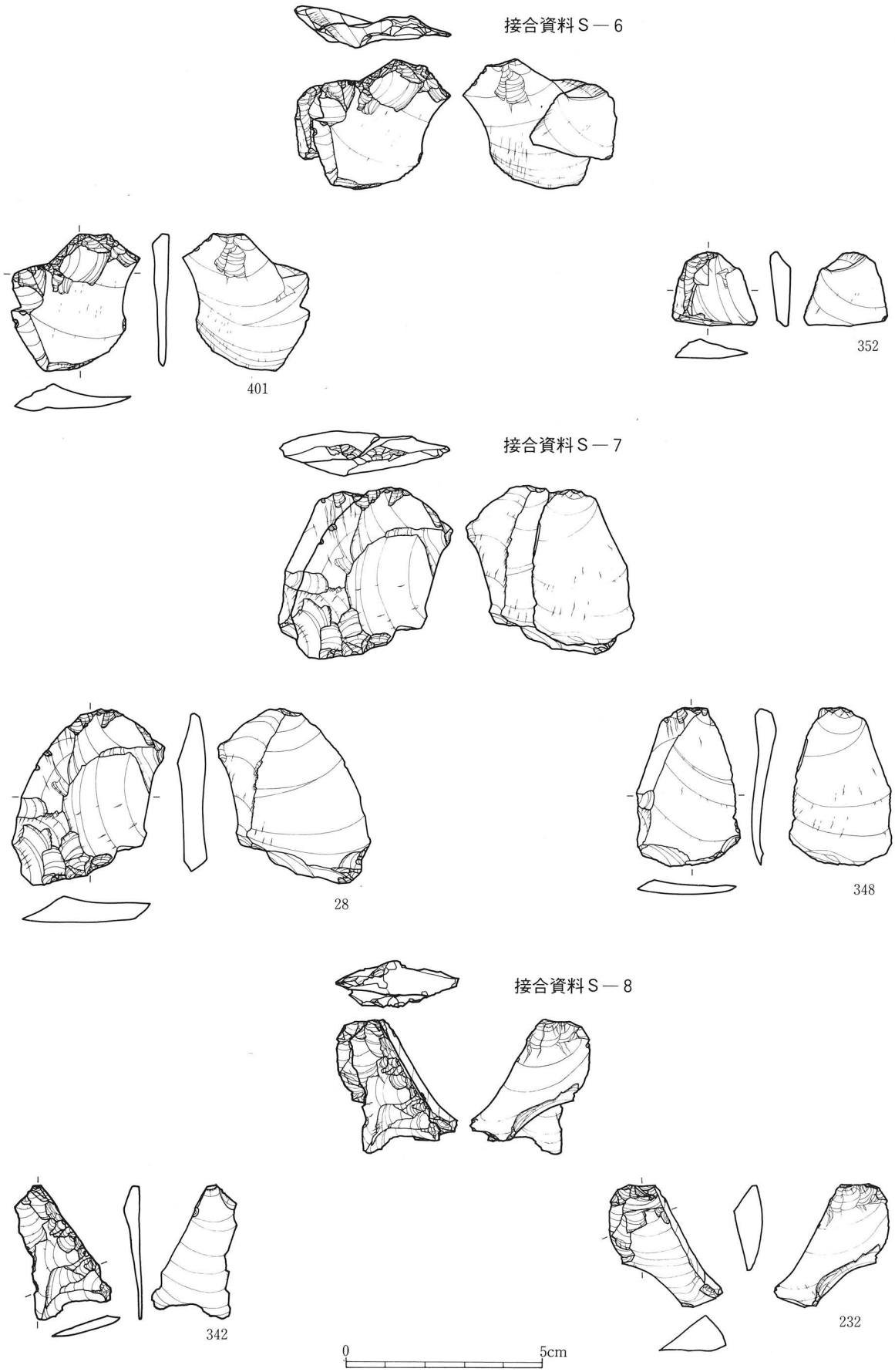
第38図　第１土坑出土石器接合資料（1）　S-1・S-2



第39図　第１土坑出土石器接合資料 (2)　S-3

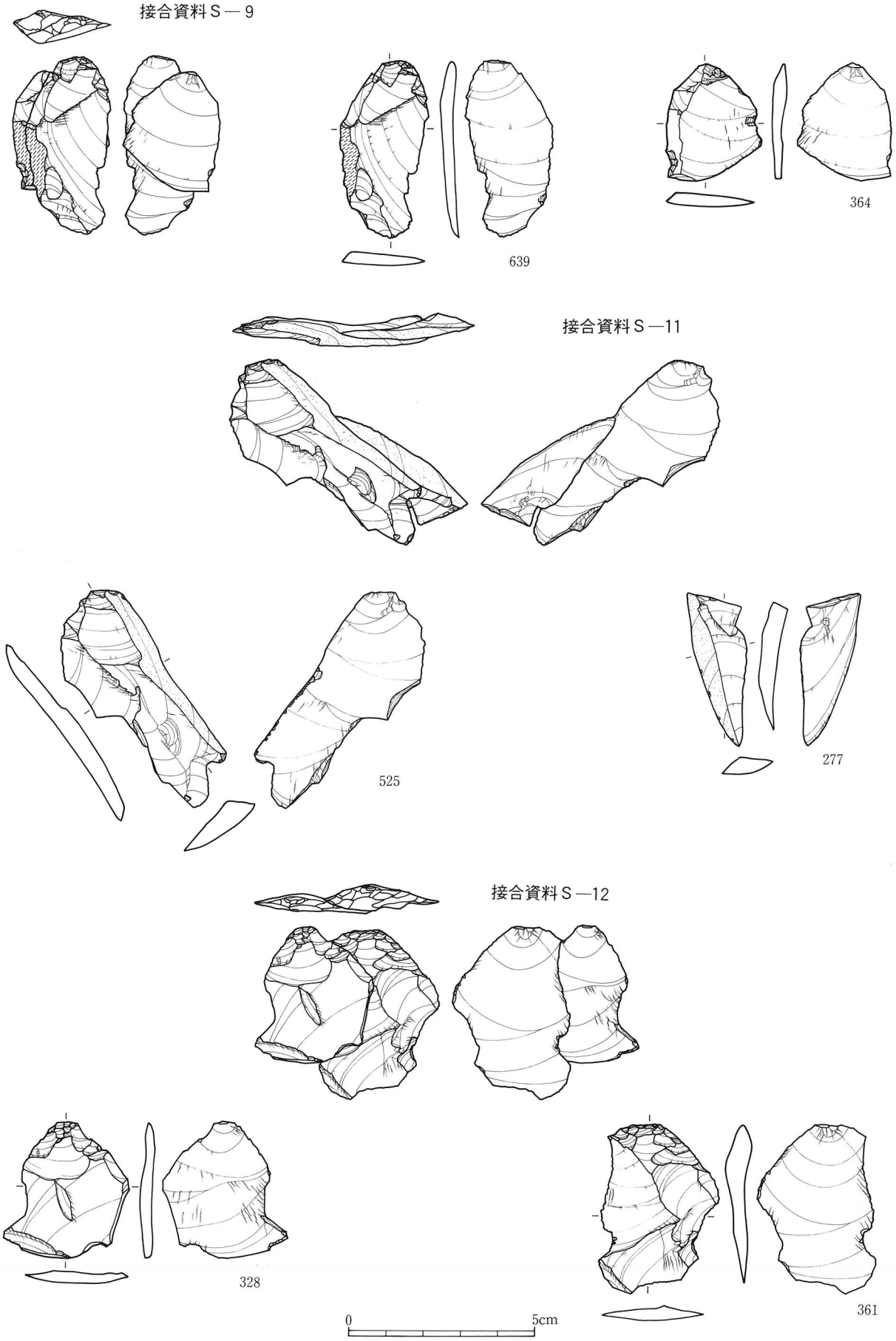


第40図　第１土坑出土石器接合資料 (3)　S-4・S-5

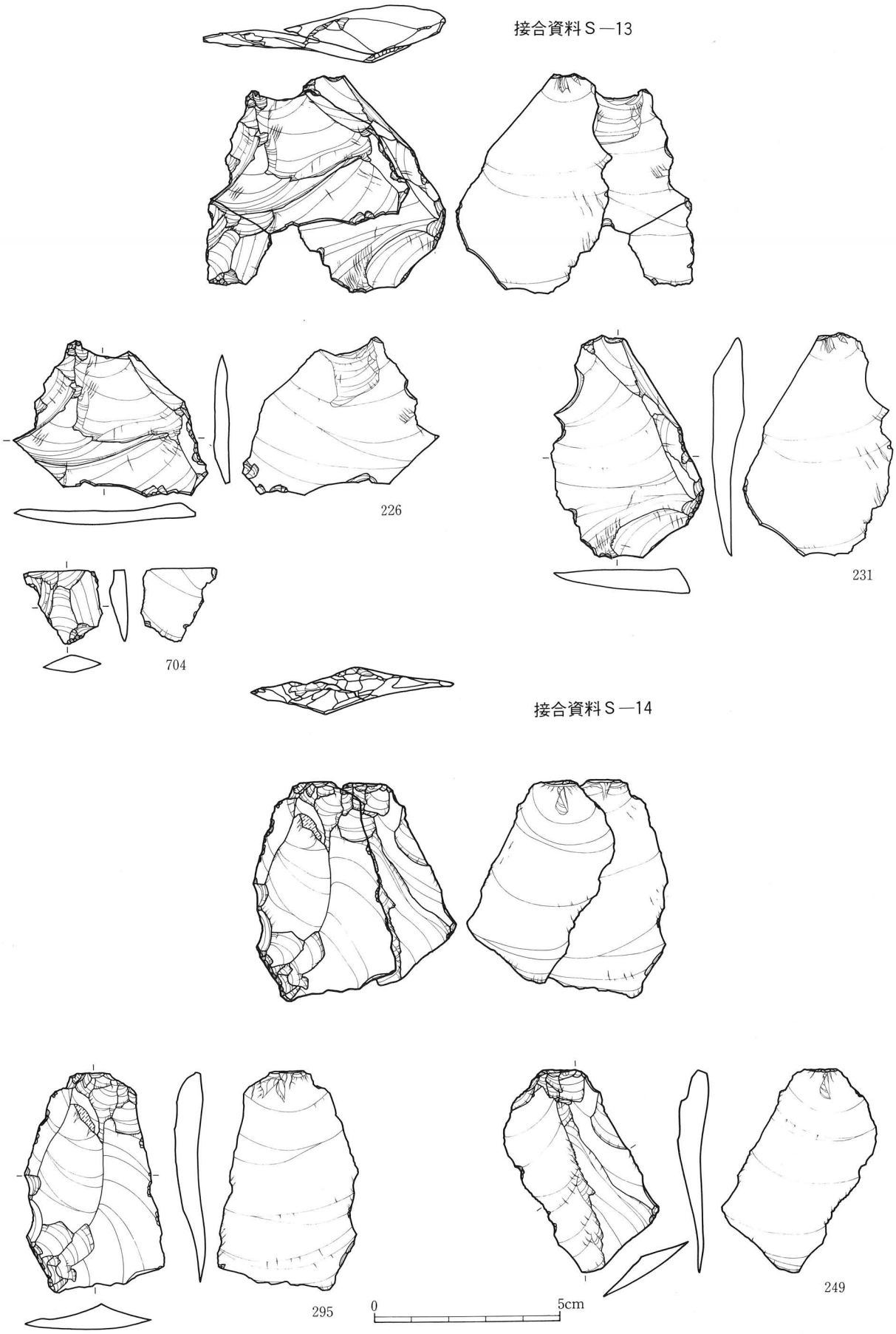


第41図　第１土坑出土石器接合資料 (4)　S-6～S-8

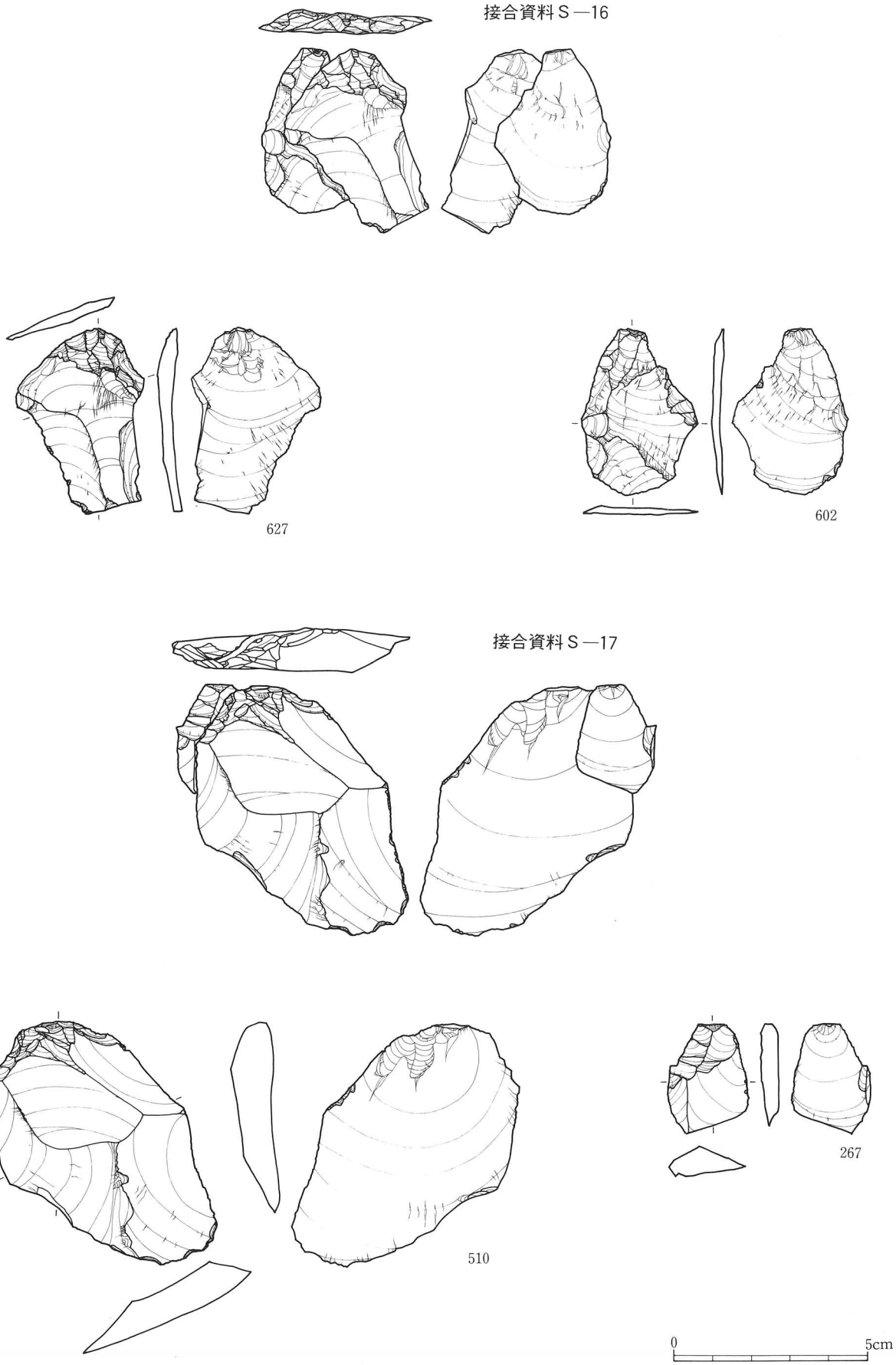
第42図　第１土坑出土石器接合資料 (5)　S-10



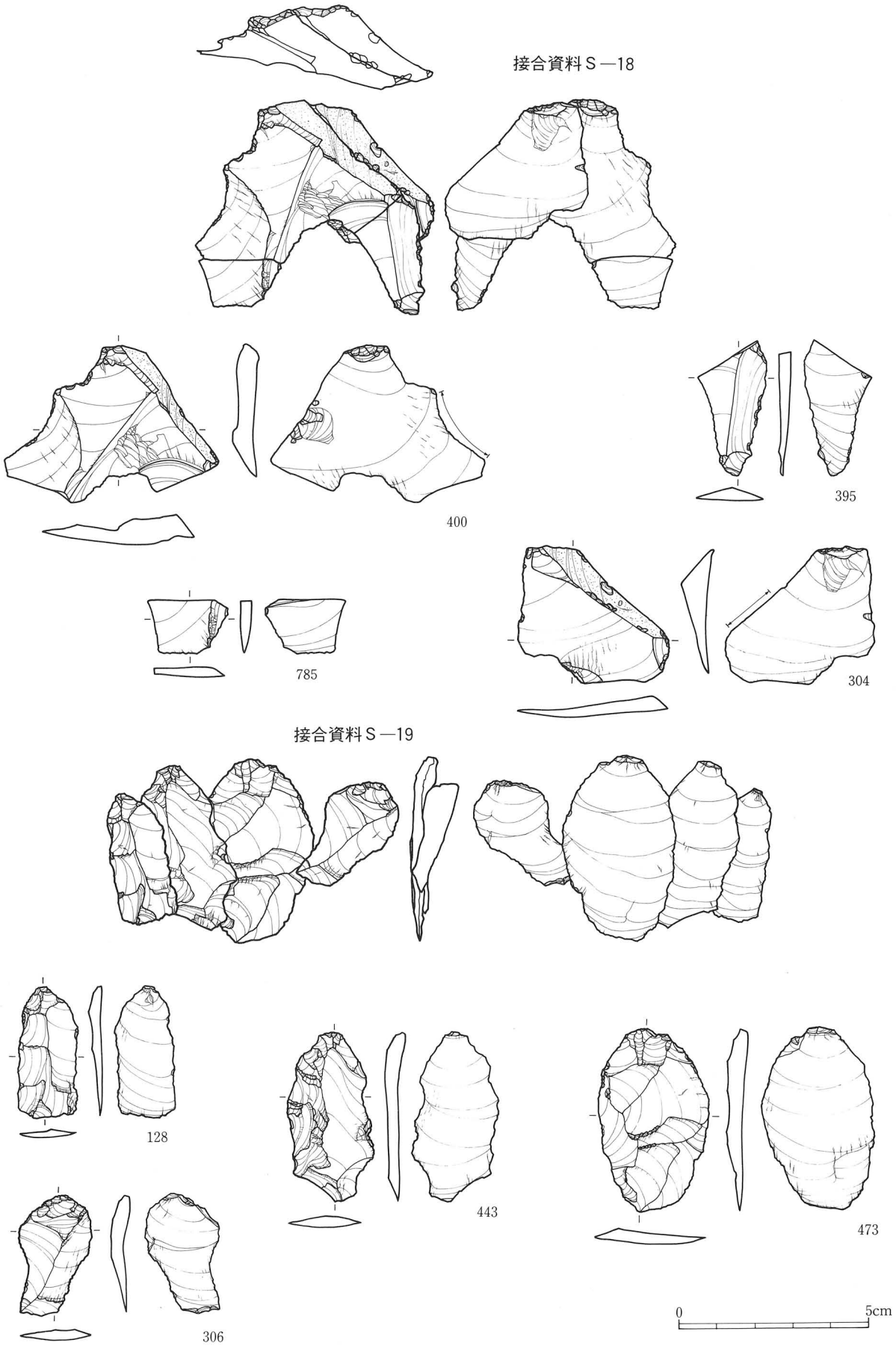
第43図　第１土坑出土石器接合資料 (6)　S-9・S-11・S-12



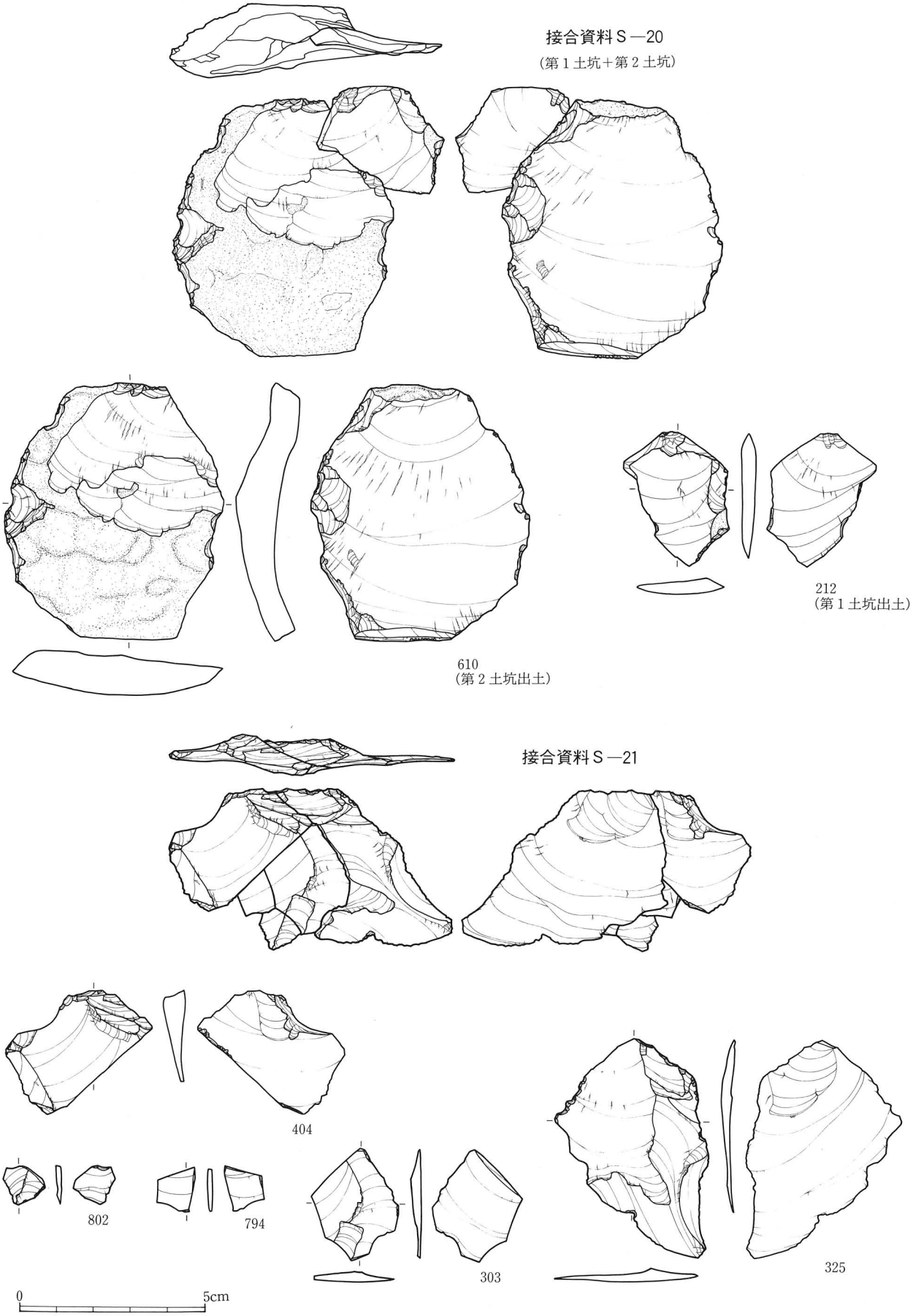
第44図　第1土坑出土石器接合資料 (7)　S-13・S-14



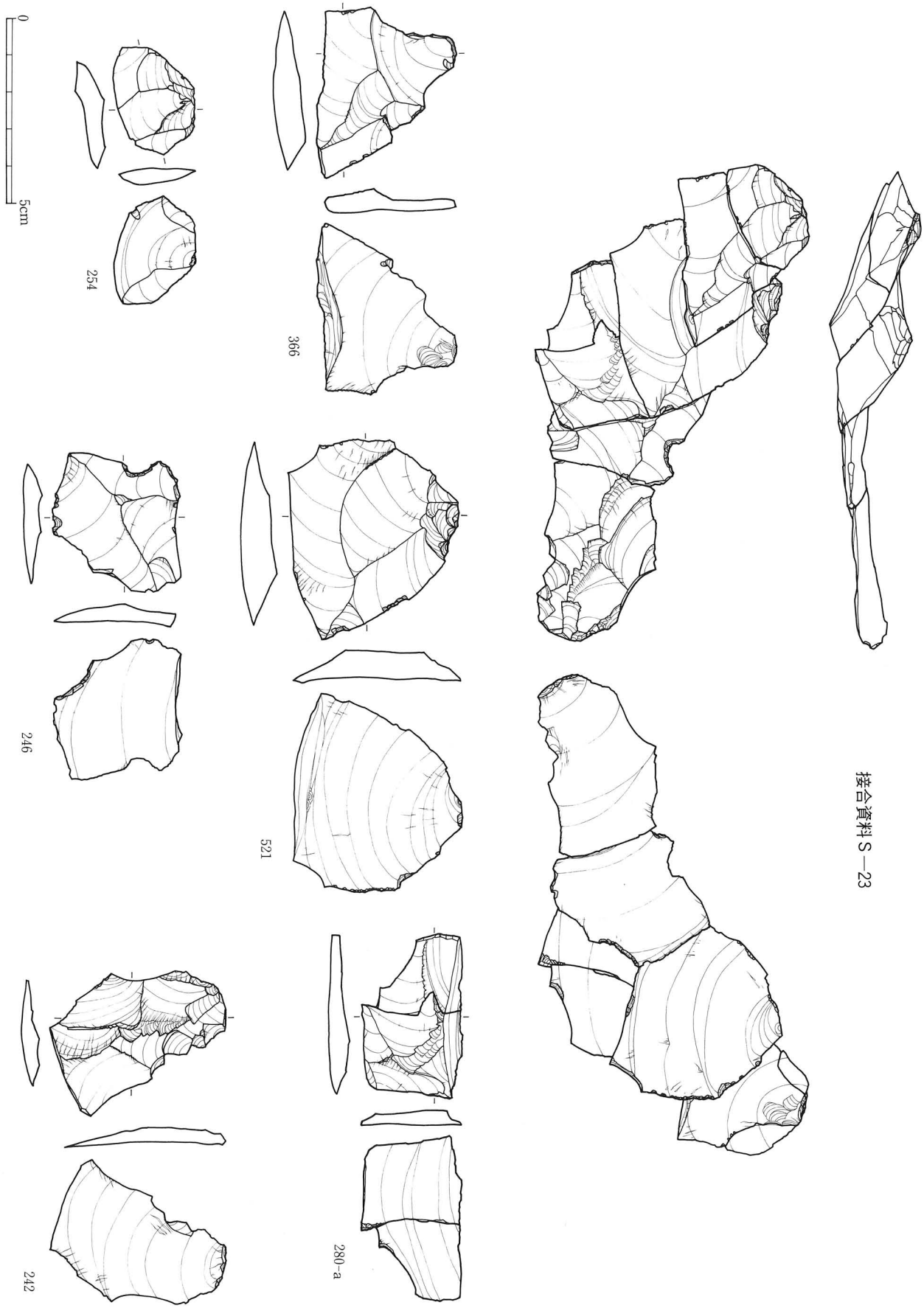
第45図　第１土坑出土石器接合資料 (8)　S-16・S-17



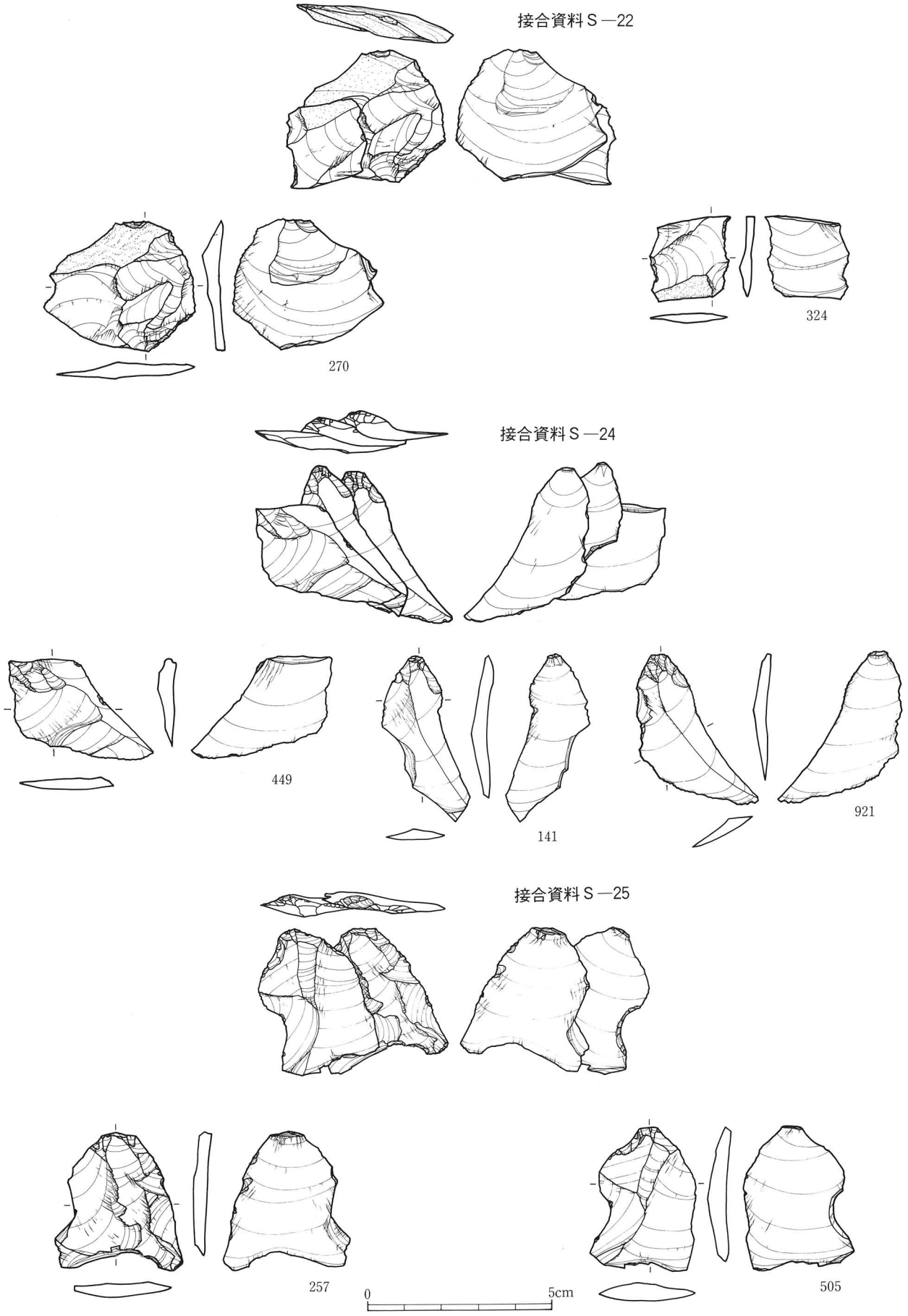
第46図　第1土坑出土石器接合資料 (9)　S-18・S-19



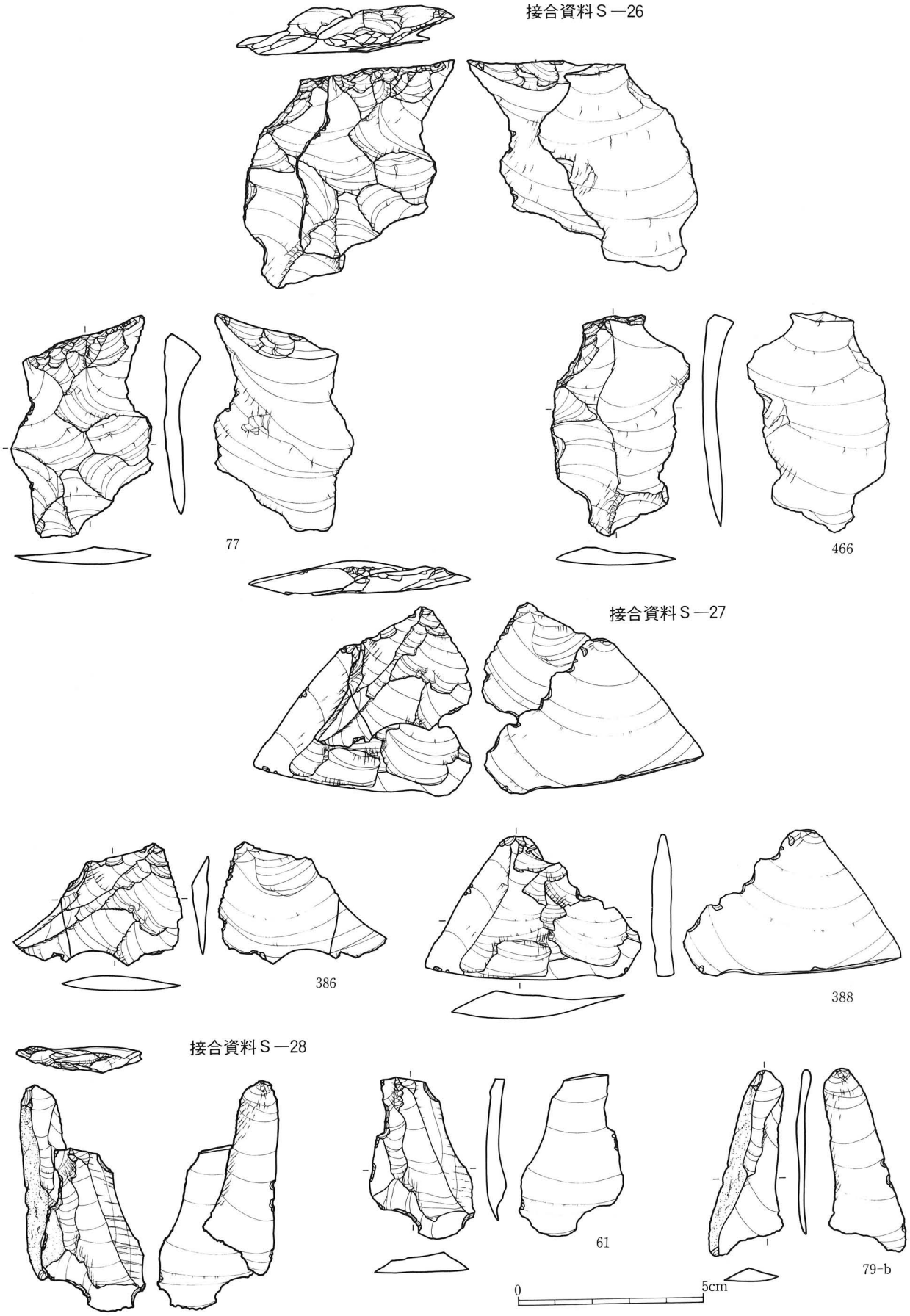
第47図　第1土坑出土石器接合資料 ⑽　S-20・S-21



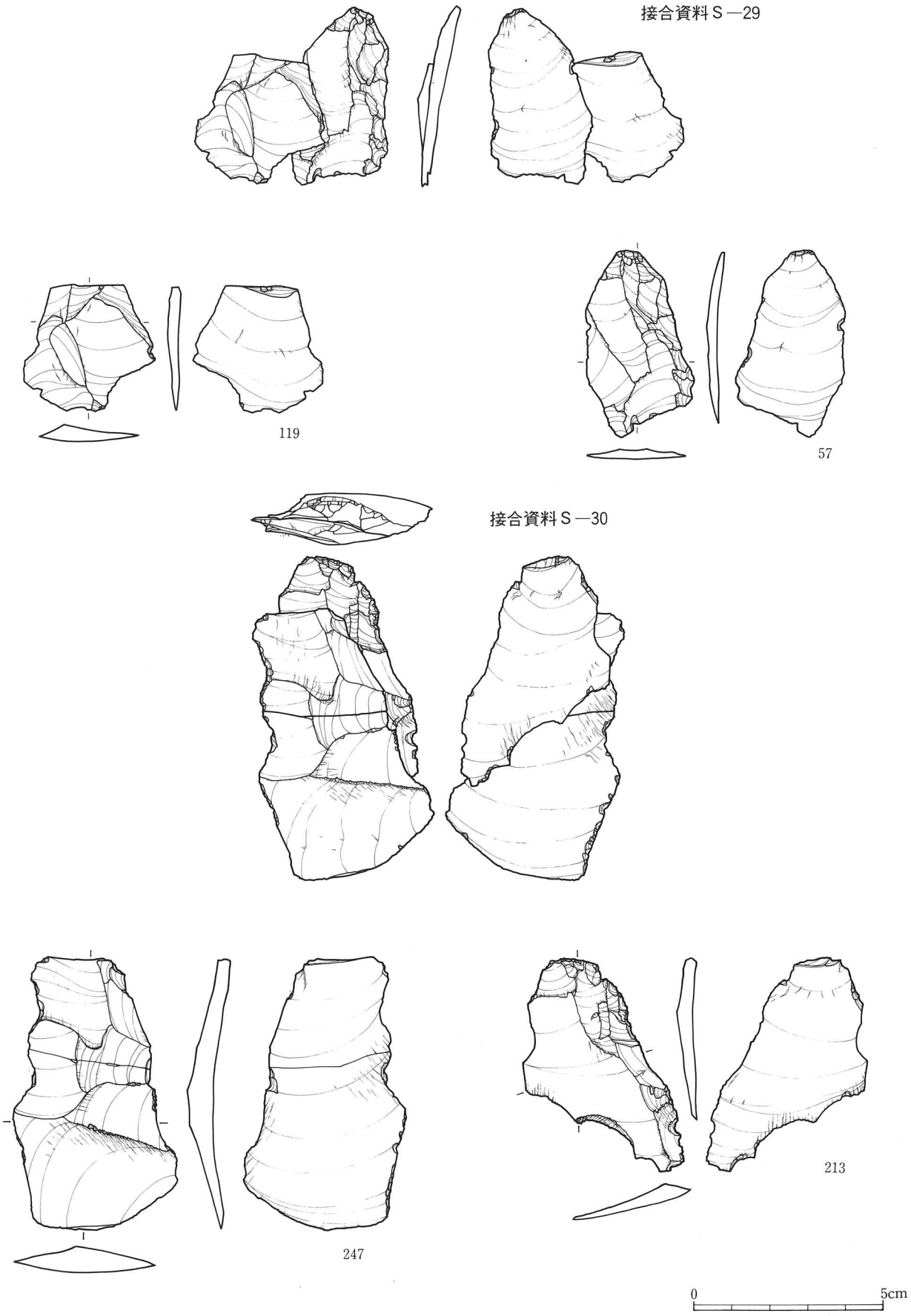
第48図　第１土坑出土石器接合資料 ⑾　S-23



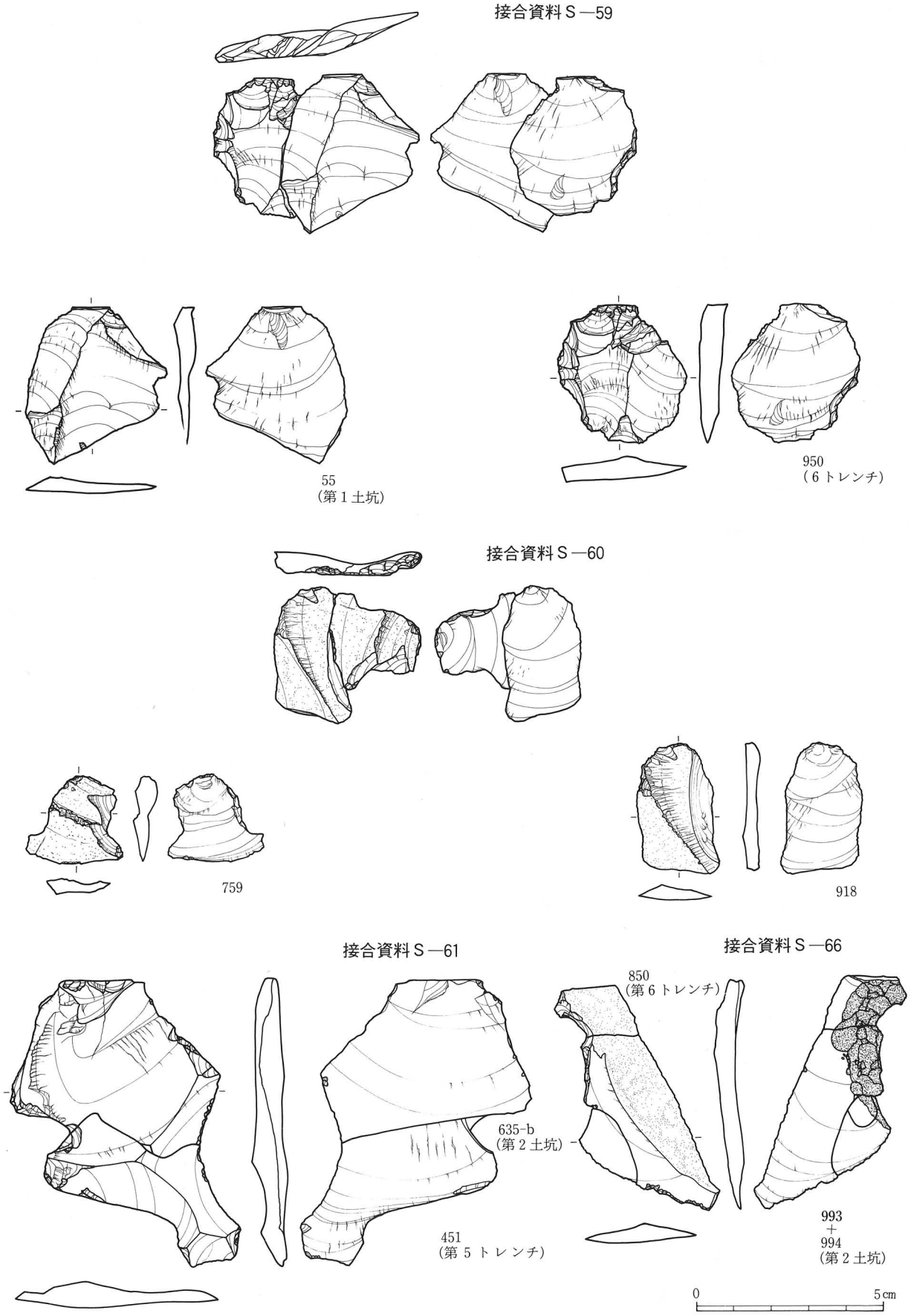
第49図　第1土坑出土石器接合資料 (12)　S-22・S-24・S-25



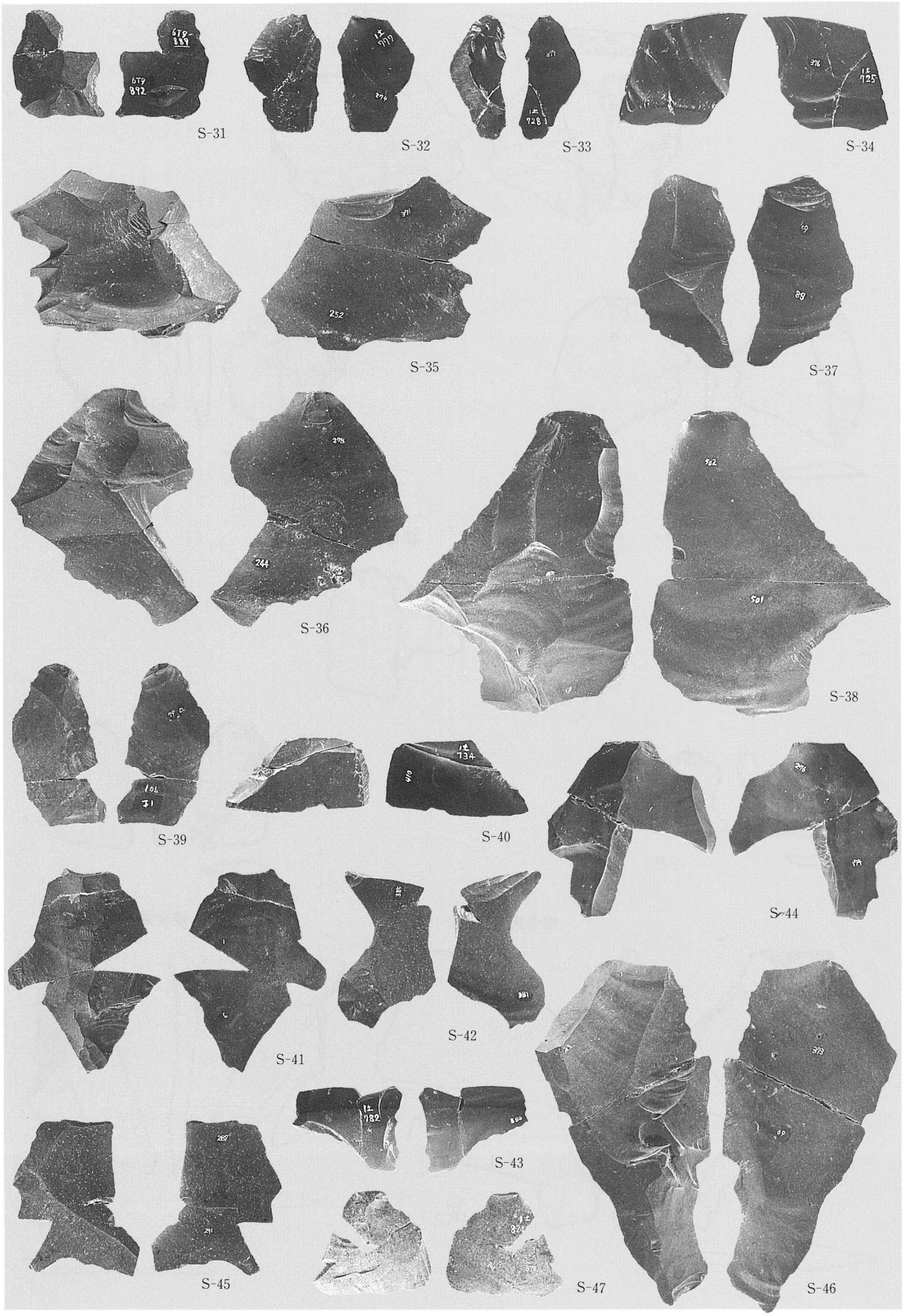
第50図　第１土坑出土石器接合資料 ⒀　S-26～S-28



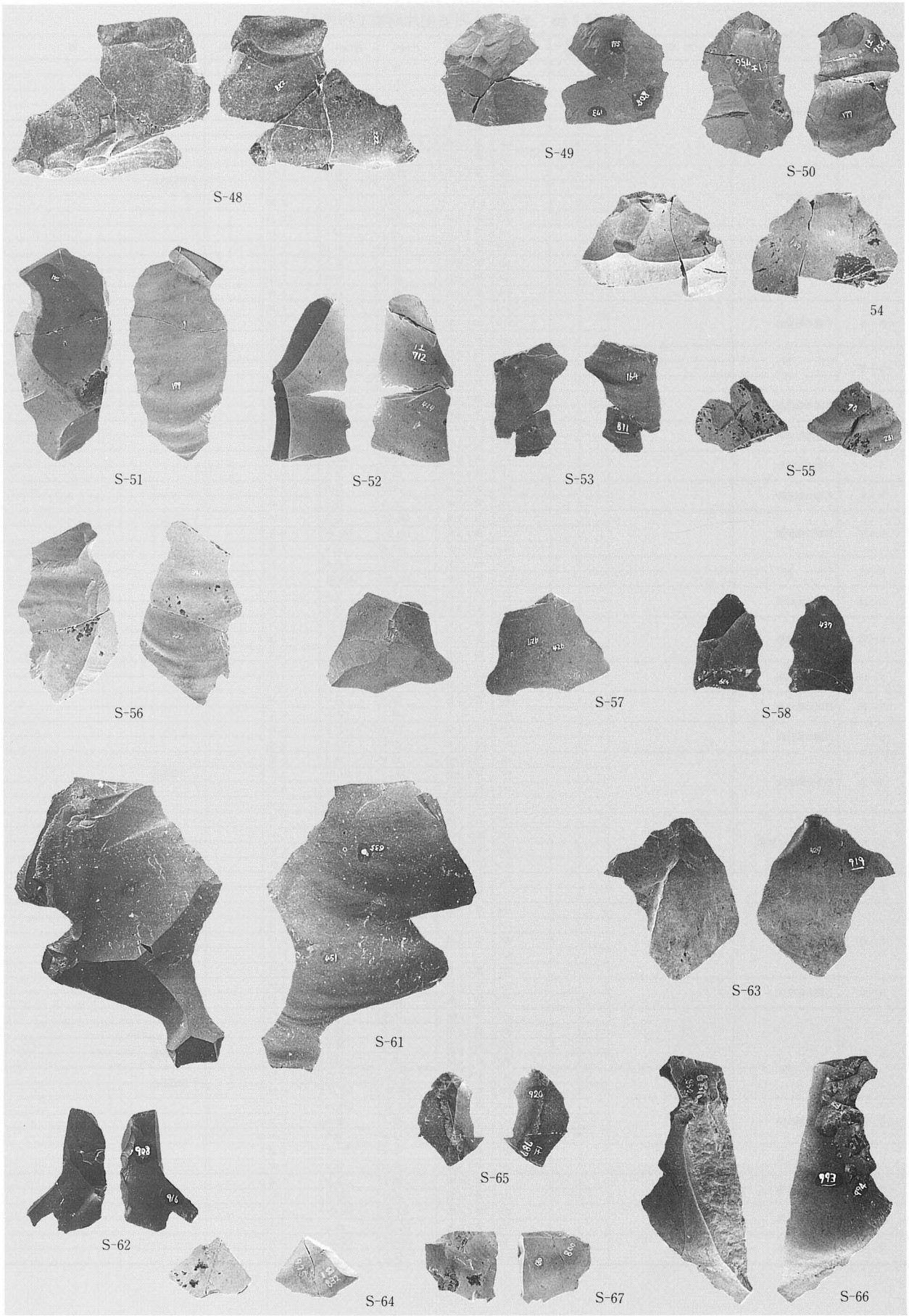
第51図　第１土坑出土石器接合資料 ⑭　S-29・S-30



第52図　土坑・トレンチ出土石器接合資料 (15)　S-59・S-61・S-66



第53図　第１土坑出土石器接合資料（折面）(1)　S＝2/3



第54図　第１土坑出土石器接合資料（折面）(2)　S＝2/3

第２表　土坑出土石器剥片剥離工程表(1)

接合資料登録No.	打　面	作　業　面	剥片番号と剥離順番	石器No.(登録No.)	出土位置(Grid・層)	長(mm)	幅(mm)	長幅指数	剥離角	備　考
S－1	打面を左右に移動		1	238	第１土坑	49.0	33.5	1.46		
			2	943	第１土坑	(39.5)	(25.0)	1.58		
			3	233-a	第１土坑	(46.0)	31.0	1.48		
			4	15	６トレンチ	57.0	40.5	1.41		
			5	284	第１土坑	50.0	35.5	1.41		
			6	337	第１土坑	40.0	24.0	1.67		
			7	717	第１土坑	(39.0)	(25.0)	1.56		
S－2	打面の転位無		1	723	第１土坑	(22.0)	19.0	1.16		折面接合
			2	26	６トレンチ	(18.5)	(26.0)	0.71		
			3	22	６トレンチ	27.5	28.5	0.96		
			4	271	第１土坑	25.0	34.0	0.74		
S－3	90°		1	367	第１土坑	40.0	33.5	1.19		
	180°		2	235	第１土坑	63.5	36.0	1.76		
	180°		3	261	第１土坑	46.5	41.5	1.12		
			4	256	第１土坑	59.0	49.5	1.19		
			5	638	第１土坑	63.0	33.5	1.88		
S－4	打面の転位無		1	285	第１土坑	55.0	28.0	1.96		
			2	319	第１土坑	51.0	41.0	1.24		
			3	355	第１土坑	(42.0)	(49.5)	0.85		
S－5	90°		1	323	第１土坑	58.0	43.0	1.35		
	90°		2	220	第１土坑	(52.0)	(78.0)	0.67		
			3	345	第１土坑	32.0	28.5	1.12		
S－6	打面の転位無		1	401	第１土坑	35.0	32.5	1.08		
			2	352	第１土坑	20.0	21.0	0.95		
S－7	打面の転位無		1	28	６トレンチ	45.5	35.5	1.28		
			2	348	第１土坑	41.0	26.5	1.55		
S－8	打面の転位無		1	342	第１土坑	35.0	20.5	1.71		
			2	232	第１土坑	25.5	35.0	0.73		
S－9	打面の転位無		1	639	第１土坑	47.5	24.0	2.00		
			2	364	第１土坑	22.0	25.5	0.86		
S－10	打面の転位無		1	234	第１土坑	(55.0)	55.5	0.99		折面接合
			2	225	第１土坑	(43.5)	(44.5)	0.98		
			3	209	第１土坑	117.0	53.0	2.20		
S－11	180°		1	525	第１土坑	59.0	43.0	1.37		
			2	277	第１土坑	(42.5)	(15.0)	2.83		
S－12	打面の転位無		1	328	第１土坑	37.0	34.0	1.09		
			2	361	第１土坑	45.0	33.5	1.34		
S－13	打面の転位無		1	226	第１土坑	(40.0)	(52.2)	0.77		折面接合
			2	704	第１土坑	(23.0)	(18.0)	1.28		
			3	231-b	第１土坑	59.0	40.0	1.48		
S－14	打面の転位無		1	295-a	第１土坑	58.0	35.5	1.63		
			2	249	第１土坑	54.0	41.0	1.32		
S－16	打面の転位無		1	627	第１土坑	49.0	33.0	1.48		
			2	602	——	43.0	30.0	1.43		
S－17	打面の転位無		1	510	第１土坑	64.0	57.5	1.11		
			2	267	第１土坑	28.5	21.0	1.36		
S－18	打面の転位無		1	400	第１土坑	43.0	56.5	0.76		折面接合
			2	395	第１土坑	(30.5)	(24.0)	1.27		
			3	785	第１土坑	(14.5)	(21.0)	0.69		
			4	304	第１土坑	38.4	39.0	0.98		
S－19	打面を左右に移動		1	128	第１土坑	35.0	20.0	1.75		
			2	443	第１土坑	45.0	24.5	1.84		
			3	306	第１土坑	33.0	19.5	1.69		
			4	473	第１土坑	49.5	29.5	1.68		
S－20	打面の転位無		1	212	第１土坑	(37.0)	(28.0)	1.32		
			2	610	第２土坑	(71.5)	(58.0)	1.23		
S－21	打面の転位無		1	404	第１土坑	(32.0)	(40.0)	0.80		折面接合
			2	799	——	(12.0)	(10.5)	1.14		
			3	303	第１土坑	(24.5)	(23.0)	1.07		
			4	802	——	(10.5)	(9.5)	1.11		
			5	325	第１土坑	(45.0)	(55.0)	0.82		
S－22	打面の転位無		1	324	第１土坑	(22.5)	(23.0)	0.98		
			2	270	第１土坑	36.0	41.5	0.87		
S－23	90°		1	254	第１土坑	22.0	31.0	0.71		
			2	366	第１土坑	49.5	38.5	1.29		
			3	521	第１土坑	46.0	54.0	0.85		折面接合
			4	280	第１土坑	28.0	44.0	0.64		
			5	242	第１土坑	(47.5)	37.5	1.27		折面接合
			6	246	第１土坑	(36.0)	(43.0)	0.84		
S－24	打面の転位無		1	449	第１土坑	(28.0)	(39.5)	0.71		
			2	141	第１土坑	43.0	28.0	1.54		
			3	921	第１土坑	44.0	31.0	1.42		
S－25	打面の転位無		1	505	第１土坑	40.0	(29.0)	1.38		
			2	257	第１土坑	37.5	35.0	1.07		
S－26	打面の転位無		1	77	第１土坑	59.5	38.5	1.55		
			2	466	第１土坑	60.5	37.0	1.64		
S－27	打面の転位無		1	386	第１土坑	(33.5)	(46.0)	0.73		
			2	388	第１土坑	(42.5)	48.5	0.88		
S－28	打面の転位無		1	61	第１土坑	(44.5)	(28.0)	1.59		
			2	79-b	第１土坑	52.0	19.0	2.74		

第３表　土坑出土石器剥片剥離工程表(2)

接合資料登録No.	打　面	作業面	剥片番号と剥離順番	石器No.(登録No.)	出土位置(Grid・層)	長(mm)	幅(mm)	長幅指数	剥離角	備　考
S－29	打面の転位無		1	119	第１土坑	(34.5)	(35.5)	0.97		
			2	57	第１土坑	50.5	28.5	1.77		
S－30	打面の転位無		1	247	第１土坑	(73.0)	(45.5)	1.60		折れ有
			2	213	第１土坑	57.5	44.5	1.29		
S－31			1	889	４層タ区	(12.0)	(14.0)	0.86	115°	折面接合
			2	892	４層タ区	(20.0)	(24.0)	0.83		
S－32			1	77.7	第１土坑	(25.0)	18.5	1.35	114°	折面接合
			2	274	第１土坑	(29.0)	(16.0)	1.81		
S－33			1	379	第１土坑	(31.0)	(15.5)	2.00	114°	折面接合
			2	728	第１土坑	(16.0)	(9.0)	1.78		
S－34			1	376	第１土坑	(32.0)	(30.0)	1.07		折面接合
			2	725	第１土坑	(23.5)	(16.0)	1.47		
S－35			1	371	第１土坑	(27.0)	(46.0)	0.59		折面接合
			2	252	第１土坑	(32.0)	(56.0)	0.57		
S－36			1	278	第１土坑	(43.0)	(49.0)	0.88	107°	折面接合
			2	244	第１土坑	(30.0)	(40.0)	0.75		
S－37			1	59	第１土坑	(54.0)	(30.0)	1.80		折面接合
			2	88-a	第１土坑	(28.5)	(26.0)	1.10		
S－38			1	502	第１土坑	(82.0)	(64.0)	1.28	118°	折面接合
			2	501	第１土坑	(37.0)	(64.0)	0.58		
S－39			1	790	第１土坑	(34.0)	(27.5)	1.24		折面接合
			2	701	第１土坑	(17.0)	(25.0)	0.68	115°	
S－40			1	410	第１土坑	(39.5)	(18.0)	2.19		折面接合
			2	734	第１土坑	(8.5)	(26.0)	0.33		
S－41			1	3	６トレンチ	(33.5)	(27.0)	1.24		折面接合
			2	1	６トレンチ	(41.0)	(31.5)	1.30		
S－42			1	385	第１土坑	(23.0)	(21.5)	1.07		折面接合
			2	381	第１土坑	(35.5)	(27.0)	1.31		
S－43			1	380	第１土坑	(19.0)	(19.5)	0.97		折面接合
			2	782	第１土坑	(24.5)	(12.0)	2.04		
S－44			1	276	第１土坑	(31.5)	(41.0)	0.77	101°	折面接合
			2	174	第１土坑	(28.0)	(26.0)	1.08		
S－45			1	289	第１土坑	(43.5)	(36.5)	1.19	119°	折面接合
			2	291	第１土坑	(20.5)	(32.0)	0.64		
S－46			1	373	第１土坑	(41.0)	(42.5)	0.96	94°	折面接合
			2	69	第１土坑	(59.0)	(42.0)	1.41		
S－47			1	824	——	(15.5)	(19.5)	0.79		折面接合
			2	301	第１土坑	(21.0)	(19.0)	1.11		
			3	370	第１土坑	(22.0)	(17.0)	1.29		
S－48			1	222	第１土坑	(44.0)	(34.0)	1.29		折面接合
			2	228	第１土坑	(27.5)	(37.0)	0.74		
S－49			1	175	第１土坑	(22.0)	(27.0)	0.81	114°	折面接合
			2	173-a	第１土坑	(14.5)	(20.5)	0.71		
			3	808	——	(9.0)	(11.0)	0.82		
S－50			1	754	第１土坑	(15.5)	(19.0)	0.82		折面接合
			2	756	第１土坑	(21.5)	(9.0)	2.39		
			3	177	第１土坑	(24.0)	(23.0)	1.04		
S－51			1	241	第１土坑	(26.0)	(28.0)	0.93		折面接合
			2	179	第１土坑	(40.0)	(28.0)	1.43		
S－52			1	712	第１土坑	(29.0)	(21.0)	1.38		折面接合
			2	414	第１土坑	(22.5)	(24.5)	0.92		
S－53			1	164	第１土坑	(24.0)	(24.5)	0.98		折面接合
			2	811	——	(13.0)	(12.5)	1.04		
S－54			1	158	第１土坑	(28.0)	(28.0)	1.00	94°	折面接合
			2	139	第１土坑	(29.2)	(15.0)	1.95		
S－55			1	70-b	第１土坑	(20.0)	(11.5)	1.74		折面接合
			2	23-a	第１土坑	(20.0)	(20.0)	1.00		
S－56			1	341	第１土坑	(27.0)	(27.5)	0.98		折面接合
			2	335	第１土坑	(23.5)	(27.0)	0.87		
S－57			1	427	第１土坑	(28.5)	(35.5)	0.80		折面接合
			2	426	第１土坑	(15.0)	(35.0)	0.43		
S－58			1	437	第１土坑	28.0	9.5	1.42	109°	折面接合
			2	439.6	第１土坑	(6.0)	(17.0)	0.35		
S－59	打面の転位無		1	55	第１土坑	44.0	37.0	1.19		
			2	950	５トレンチ 3層下4層以上	37.0	34.5	1.07		
S－60	—— 90° ——		1	759	第１土坑	24.0	27.0	0.89		
			2	918	第１土坑付近	36.0	23.0	1.57		
S－61			1	635-b	第２土坑	(48.5)	55.5	0.87		折面接合
			2	451	５トレンチ	(47.5)	(54.5)	0.87		
S－62			1	908	第１土坑付近	34.5	14.0	2.46	124°	折面接合
			2	916	第１土坑付近	(14.0)	9.0	1.56		
S－63			1	429	第１土坑	45.0	27.5	1.64	98°	折面接合
			2	919	第１土坑堆埋土	(21.0)	(14.0)	1.50		
S－64			1	832	第１土坑	(18.5)	(12.0)	1.54		第１土坑
			2	975	第１土坑	(13.0)	(15.0)	0.87		
S－65			1	920	第１土坑堆埋土	(19.0)	(17.0)	1.12	118°	折面接合
			2	787	第１土坑堆埋土	(9.0)	(18.0)	0.50		
S－66			1	850	４層ホ区	(21.0)	(15.5)	1.35		折面接合
			2	993	第２土坑	(50.5)	36.0	1.40		
			3	994	第２土坑	(8.0)	(8.0)	1.00		焼けはじけ部分
S－67			1	180	第１土坑	(23.0)	(19.5)	1.18		折面接合
			2	800	——	(16.5)	(11.0)	1.50		

⑷水洗選別による微細遺物の検出（第55図・第4表）

場の機能の復元あるいは性格づけのために、第1土坑・第2土坑の埋土及び4層の土壌の水洗選別による微細遺物の検出を行っている。調査区の土壌採取については時間的な制約もあり全域では行えず、第2土坑から東側の調査区（N－5区～N－10区）に50㎝×50㎝メッシュで36グリッド（イ区～ア区）を設定し、各グリッド毎に4層の土壌を採取し持ち帰った。調査終了後、石器の剝片・細片及び土器片などの微細遺物を検出するため、土嚢約80袋の土壌について1㎜メッシュの篩を使って水洗選別を行なった。

水洗選別による結果、土器片4点・石鏃6点・石器剝片21点が検出された。検出された微細遺物のほとんどは珪質頁岩の資料で、4層の各グリッドから17,529点、第1土坑埋土から1,988点、第2土坑埋土から414点、第1土坑周辺から242点、検出された総数は20,324点であった。

検出された資料については、打面の有無で分類したうえで、打面のあるものの色調について、黒色系・グレイ系・白色系に大別した。さらにすべての資料について火熱を受けているか数量化を行った。ここでは4層各グリッドから検出された資料のそれぞれの傾向について述べることにする。

『資料の分布』

資料の検出総数17,529点の分布についてみると、第1土坑と第2土坑の間を中心としている。特に、第1土坑西側のカ区（1,817点）・ヨ区（1090点）、第2土坑北側のヘ区（1,325点）から、計4,232点（25％）検出されている。反対に第1土坑東側からは、各グリッドとも検出数はほとんど200点以下で、総数でも1,171点（7％）にすぎない。

『打面の有無』

資料の検出総数17,529点のうち、打面をもつものは4,429点(25.3％)である。その分布をみると、やはり第1土坑と第2土坑の間を中心としている。グリッド別の分布としては、第1土坑西側のカ区からは640点と、検出された資料数の35.2％が打面をもっている。資料数にしめる打面有資料の比率の高いのは、第2土坑北側のハ区(297点－38.3％)、ト区（303点－36.1％)、第1土坑東側のケ区（99点－40.2％）などである。

『剝片の色調』

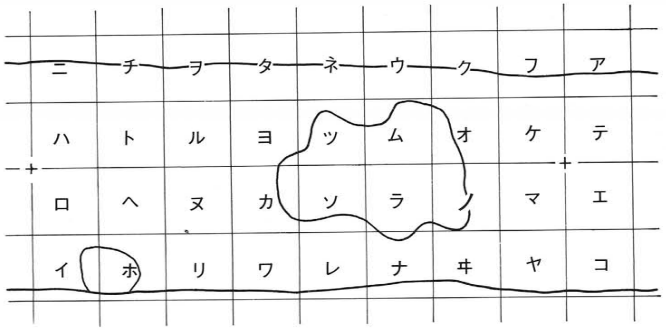
打面をもつ資料4,429点のほとんどはグレイ系で、4,224点(95.4％）となっている。黒色系は144点(3.3％)、白色系は61点（1.4％）にすぎない。

『受熱数』

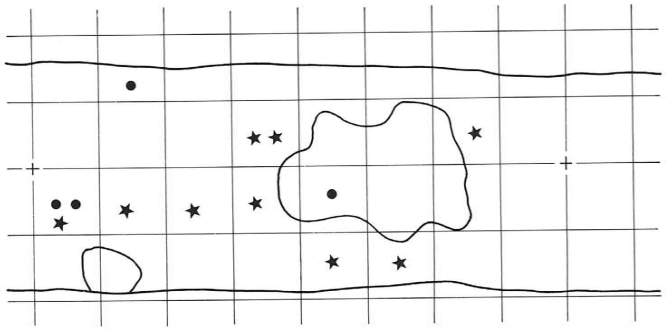
資料の検出総数17,529点のうち、火を受けて焼けはじけのある資料は800点（4.6％）である。グリッド別の分布としては第2土坑の北側のホ区・ヘ区に集中している。

『資料の検出数と分布について』

水洗選別による微細遺物の分布状況をみると、2基の土坑の周辺、特に北西部に集中しており、東に離れるにしたがって減少している。今回の調査範囲は非常に狭いものであり、遺跡の性格とか場の機能については、石器製作過程で生じる資料別の数量分布や母岩別の数量分布、石器(Tool)や剝片類などとの出土分布などを検討しなければならないが、今回のデータの示している微細遺物の出土数量と石器(Tool)・剝片の出土数の分布がほぼ重なっていることと、微細遺物剝片が土坑から出土している石器(Tool)・大型の剝片と同じ母岩と考えられる珪質頁岩であることからみて、この付近で石器の製作が行なわれた可能性は非常に高いと考えられる。



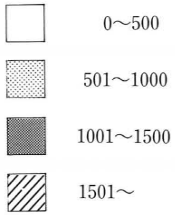
土壌サンプル取上げ Grid 名称

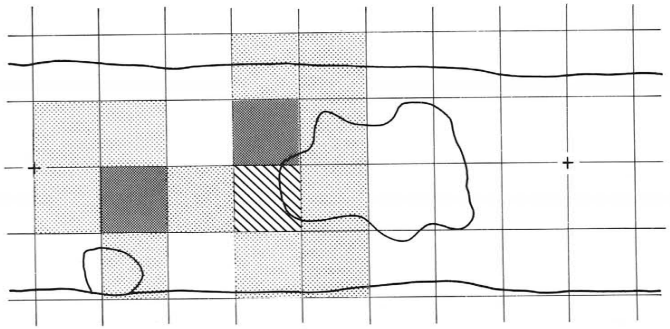


土器・石鏃出土 Grid

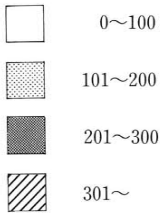
★ 石 鏃

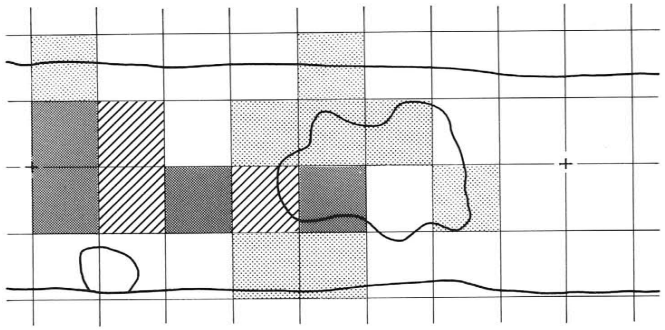
● 土 器



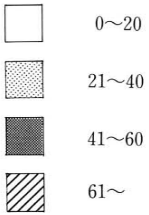


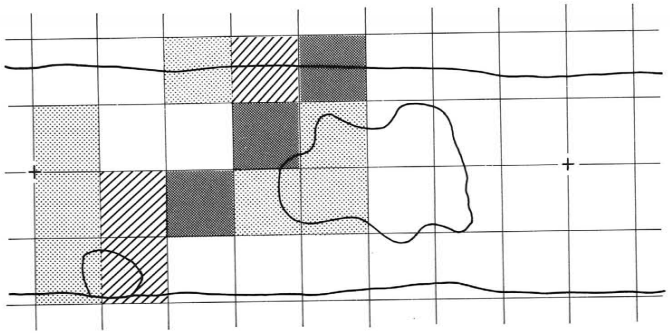
水洗選別資料集計





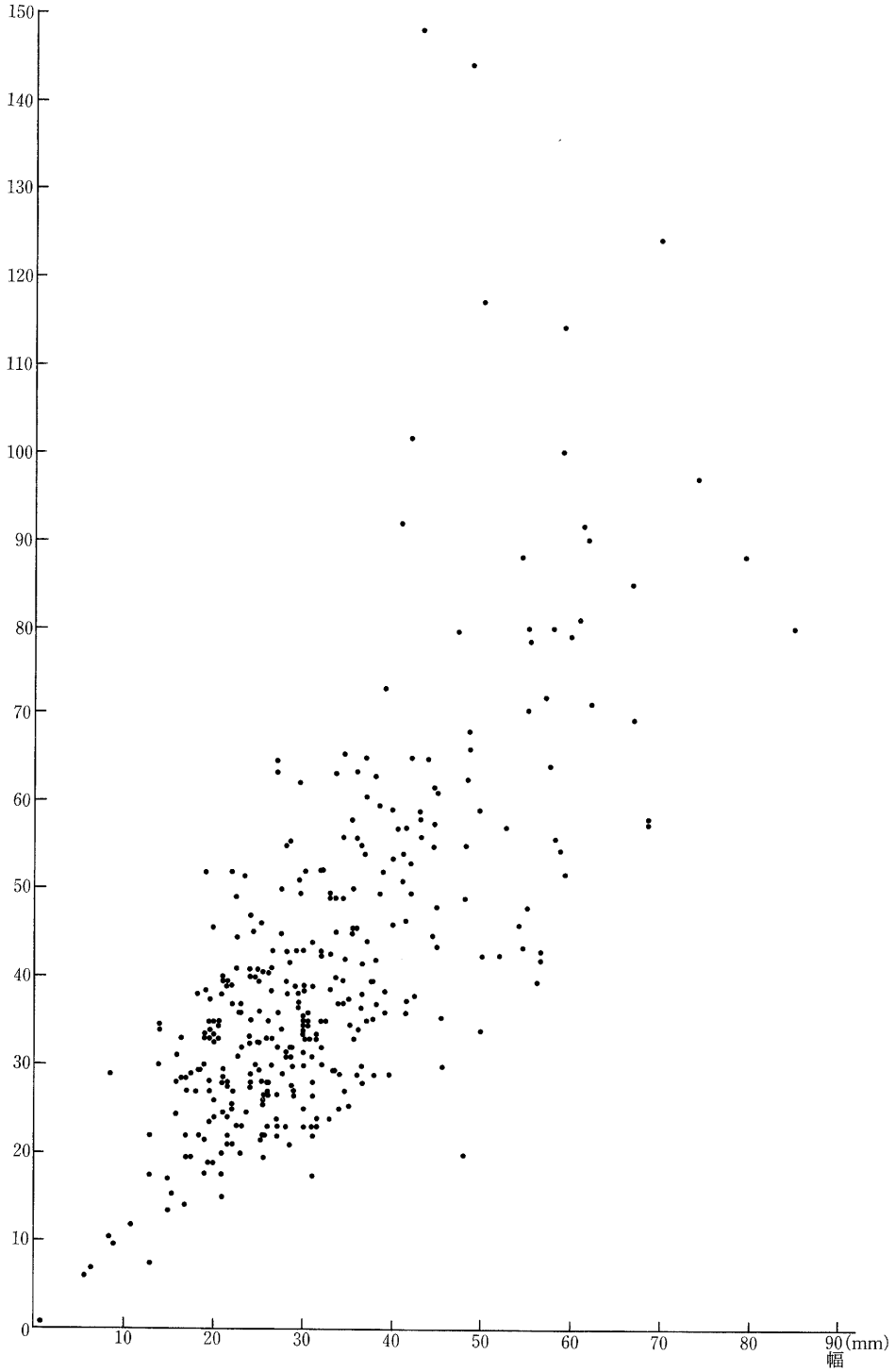
打面有資料集計





受熱資料集計

第55図　水洗選別遺物グリッド別出土分布図



第56図　剥片長/幅分布図

⑸剥片の形状についての属性

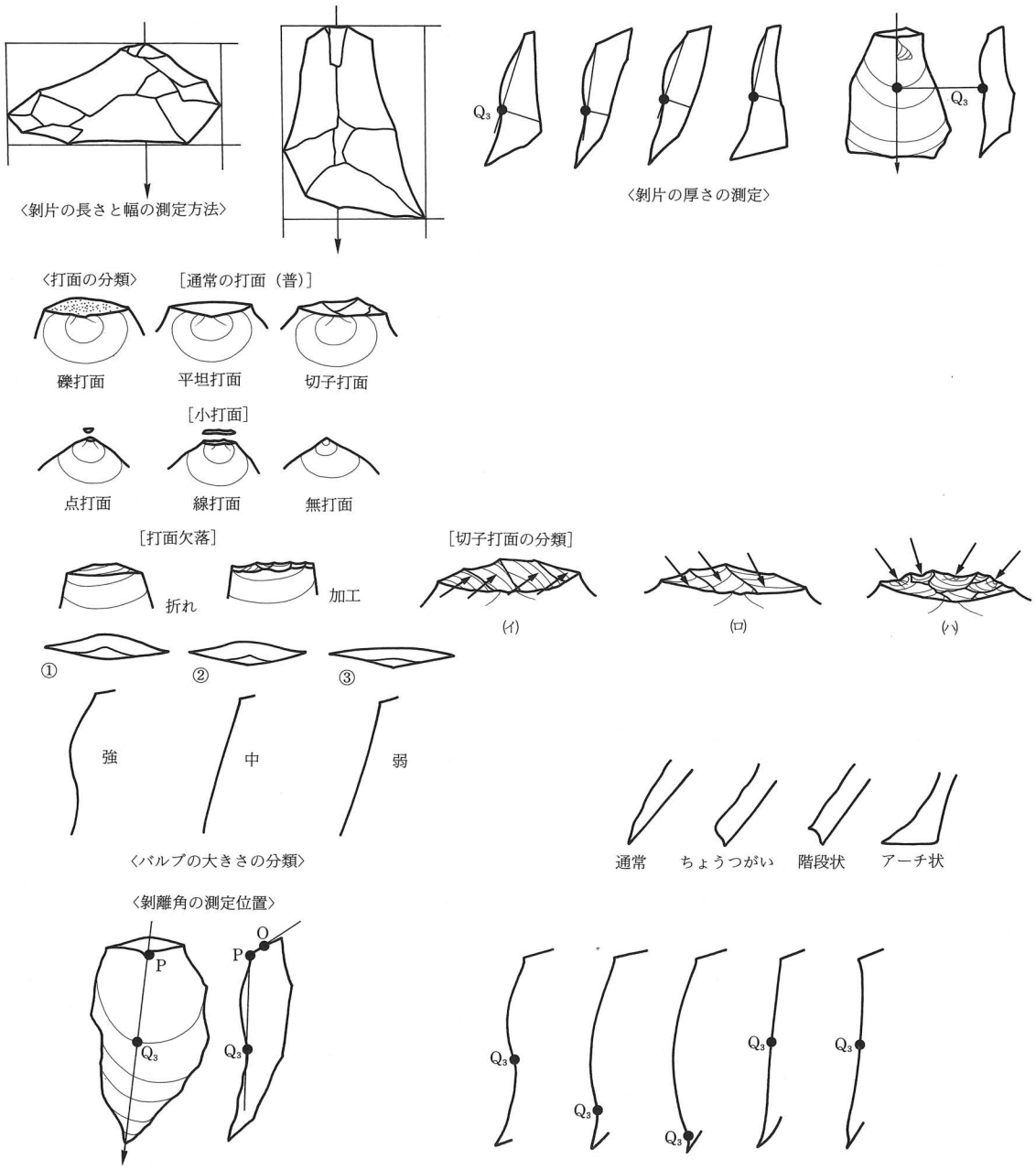
第１土坑、第２土坑、および第５・第６トレンチ３ｂ層～４層から出土した石器・剥片類は、1,000点をこえている。これらの資料は、共伴する土器からみて草創期のものと考えられる。野川遺跡で行われた行為（作業）を明らかにし、その行為を復元するためには、これらの石器・剥片類のすべてについて実測図を作成することが理想であるが、物理的・時間的制約から石器・剥片類のすべてについて属性の集計を行い資料化を図った。

属性の観察にあたっては、できる限り明確な基準をもうけ、それにしたがって客観的な測定・分類が行えるように、竹岡（1989）を参考とした。

①剝片の長さ・幅……剝片を方眼紙の上に置き、剝片剝離軸を基準として長方形を想定し測定する。
②剝片の厚さ……剝片剝離軸上のバルブの末端部（剝離角の測定と同じ箇所）で厚さを測定する。
③打面の形態分類

通常の打面（普）	礫　打面	打面全体が礫もしくは節理面によって被われている場合。
	平坦打面	原則として１枚の剝離面によってなる場合。
	切子打面	２枚以上の剝離面がみられる場合。
小打面（小）	点打面・線打面・無打面	
打面欠落	折れまたは加工によって打面のないもの。	
切子打面の分類	切子打面を構成する剝離面を対象として、剝離の方向と打点の有無によって、次の３者に分けられる。（イ）背面側からでない方向の剝離面。（ロ）背面側からなされた剝離面であるが、打点を残さない。（ハ）背面側からの剝離面で、かつ打点を残す。	

④バルブの発達度（大きさ）　①（発達強）側面・打面側からみて丸みをもつ。②（発達中）側面からは明確ではないが、打面側からみると丸みが認められる。③（発達弱）側面・打面側からみて丸みが明確ではない。
⑤剝離角……バルブの末端に測点をおき、針マコによって形どりしたのちに分度器によって測定した。
⑥剝片末端部の形状……通常・ちょうつがい・階段状・アーチ状



第57図　剝片の計測について

第5表　剝片計測属性表 (1)

登録No.	図版番号	Grid層	器種	剝片測定					打面形態			切子打面			バルブの大きさ			剝離角	末端部の形状				背面構成	石材					受熱	備考
				長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	普	小	欠落(折れ)	イ	ロ	ハ	強	中	弱		通常	ちょうがいり	階段状	アーチ状		黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒十グレイ(しましま)	その他		
1	第53図	6トレンチ	剝片	(41.0)	(31.5)	1.30	(3.30)	3.1			○								○						○						S-41
2		6トレンチ	剝片	(43.5)	(46.0)	0.95	(4.70)	10.2			○									○					○						
3	第53図	6トレンチ	剝片	(33.5)	(27.0)	1.24	(3.60)	2.8			○														○						S-41　末端折れ
4	第13図	6トレンチ	石器	(58.0)	34.0	1.71	2.70	13.0			○					○									○						末端折れ
5		6トレンチ	礫																												
6		6トレンチ	剝片	(34.0)	(30.0)	1.13	(5.10)	5.5			○					○				○						○					
7		6トレンチ	剝片	53.5	40.0	1.34	2.80	4.4		線						○		101°	○						○						
8																															欠番
9		6トレンチ	剝片	24.5	23.5	1.04	3.20	2.1		線						○		106°			○				○						
10		6トレンチ	剝片	(28.5)	(2.9)	0.98	(2.60)	1.4			○												○							○	末端折れ
11		6トレンチ	剝片	(35.0)	(24.0)	1.46	(5.00)	2.7			○								○						○						珪化木
12		6トレンチ	剝片	(19.5)	(41.5)	0.47	(5.80)	4.8			○												○								末端折れ
13		6トレンチ	剝片	(32.5)	(27.5)	1.18	(2.40)	1.6			○								○						○						
14		6トレンチ	剝片	33.0	35.5	0.93	3.60	5.6		○						○					○				○						
15	第38図	6トレンチ	剝片	57.0	40.5	1.41	4.75	11.4		線			○			○		110°		○				○							S-1
16		6トレンチ	剝片	(34.0)	(21.0)	1.62	(2.60)	1.6			○									○					○						
17		6トレンチ	剝片	(20.0)	(28.0)	0.71	(4.40)	2.2			○														○						末端折れ
18																															欠番
19		6トレンチ	剝片	(21.5)	19.5	1.10	2.60	1.0		線				○		○		115°							○						末端折れ
20		6トレンチ	剝片	(29.0)	(19.5)	1.49	(2.95)	1.8			○								○						○						
21		6トレンチ	剝片	(8.0)	(17.3)	0.46	(2.80)	0.3			○								○						○						
22	第38図	6トレンチ	剝片	27.5	28.5	0.96	2.30	2.3		平						○		118°	○					○							S-2
23		6トレンチ	剝片	(14.0)	(25.5)	0.55	(2.00)	0.8			○								○						○						
24		6トレンチ	剝片	(13.0)	(9.0)	1.44	(1.60)	0.1			○								○					○							
25		6トレンチ	剝片	55.0	48.0	1.15	5.40	16.7		線						○		112°		○				○							
26	第38図	6トレンチ	剝片	(18.5)	(26.0)	0.71	(4.20)	1.4			○								○					○							S-2
27																															欠番
28	第41図	6トレンチ	剝片	45.5	35.5	1.28	5.90	12.2		線				○		○		116°							○						S-7　末端部加工
29-a		6トレンチ	剝片	(34.0)	(40.0)	0.85	(6.10)	5.2			○											△		○							
29-b		6トレンチ	剝片	28.0	19.5	1.44	4.20	2.1	平							○		106°		○				○							
30		6トレンチ	チップ	(25.0)	(19.0)	1.36	(3.40)	1.2			○										○					○					
31		6トレンチ	チップ	(15.8)	(10.0)	1.58	(2.25)	0.3			○								○						○						
32		6トレンチ	チップ	(13.0)	(19.0)	0.68	(2.60)	0.5			○								○						○						
33		6トレンチ	チップ	(13.0)	(11.8)	1.10	(1.50)	0.2			○								○					○							
34		6トレンチ	チップ	(12.0)	(10.5)	1.14	(2.90)	0.4			○									○				○							
35																															欠番
36		6トレンチ	剝片	35.2	37.8	0.93	4.00	6.4			○										○			○							
37		6トレンチ	剝片	(38.3)	(22.0)	1.74	(2.70)	2.5			○								○					○							
38		6トレンチ	剝片	(34.0)	(27.5)	1.24	(4.10)	3.7			○								○						○						
39		6トレンチ	剝片	(21.0)	(31.5)	0.67	(2.30)	2.1			○										○				○						
40		6トレンチ	土器																												
41		6トレンチ	剝片	(31.5)	(30.0)	1.05	(5.50)	3.8			○								○					○						○	
42		6トレンチ	剝片	65.0	42.0	1.55	2.75	11.6		線				○		○		116°	○						○						
43		6トレンチ	土器																												
44-a	第12図	6トレンチ	石器	65.5	34.5	1.90	6.80	14.1			○														○					○	末端折れ・焼面有
44-b																															欠番
45		6トレンチ	剝片	39.5	56.0	0.71	(6.60)	8.6	切					○		○		112°	○						○						
46	第13図	6トレンチ	石器	80.0	55.0	1.46	7.20	33.2	切				○			○		101°	○						○						
47-a	第12図	6トレンチ	石器	54.0	37.0	1.46	5.40			線				○		○		103°							○						スクレイパー
47-b																															欠番
48	第12図	6トレンチ	石器	43.0	26.5	1.62	7.75	6.3																				○			
49		6トレンチ	剝片	(18.0)	(25.0)	0.72	(2.20)	1.0			○								○						○						
50		6トレンチ	土器																												
51		6トレンチ	土器																												
52		6トレンチ	土器																												
53		6トレンチ	土器																												
54		第1土坑	剝片	(29.0)	(22.0)	1.32	(2.00)	1.6			○														○						末端折れ
55	第52図	第1土坑	剝片	44.0	37.0	1.19	5.10	6.5	平						○			95°	○						○						S-59
56		第1土坑	剝片	31.0	28.5	1.09	2.40	1.6		線				○		○		94°	○						○						
57	第51図	第1土坑	剝片	50.5	28.5	1.77	3.00	4.6		線			○			○		111°	○								○				S-29　119と接合
58		第1土坑	剝片	(25.5)	(22.5)	1.13	(1.45)	0.9			○								○						○						
59	第53図	第1土坑	剝片	(54.0)	(30.0)	1.80	(3.30)	2.9			○								○						○						S-37 88計測と接合して
60		第1土坑	剝片	39.5	34.5	1.14	3.90	3.3		線				○		○		118°	○						○						
61	第50図	第1土坑	剝片	(44.5)	(28.0)	1.59	(5.60)	5.2			○									○							○				S-28　79bと接合
62		第1土坑	剝片	(45.0)	(44.1)	1.02	(3.40)	6.7			○									○					○						
63		第1土坑	剝片	28.0	36.5	0.77	8.10	6.6	礫							○		121°	○									○			
64		第1土坑	剝片	52.0	38.9	1.34	5.30	8.1	切				○			○		90°	○					○							
65		第1土坑	剝片	55.0	44.5	1.24	3.90	8.1	切					○		○		135°	○						○						
66		第1土坑	剝片	29.0	34.0	0.85	4.60	4.6		線						○		129°		○				○							
67		第1土坑	剝片	26.5	27.0	0.98	3.30	2.0		線				○		○		127°			○				○						
68		第1土坑	剝片	(37.0)	(37.0)	1.00	(3.35)	3.6			○								○												
69	第53図	第1土坑	剝片	(59.0)	(42.0)	1.41	(4.30)	8.5			○									○					○						S-46
70-a	第17図	第1土坑	石器	148.6	104.6	1.42	27.90	422.3																	○						大型両面加工
70-b	第54図	第1土坑	剝片	(20.0)	(11.5)	1.74	(18.50)	0.6			○														○						S-55
71		第1土坑	剝片	(42.5)	42.5	1.00	6.50	7.6			○								○						○						
72		第1土坑	剝片	35.0	30.5	1.15	(8.80)	6.7	切					○		○		125°								○					末端部加工ありバルブ末端不明
73		第1土坑	剝片	52.0	32.0	1.63	3.10	4.3		線				○		○		121°							○						
74		第1土坑	剝片	(22.0)	34.0	0.65	3.10	2.3		線				○		○		120°						○							末端折れ
75		第1土坑	剝片	(54.0)	(38.5)	1.40	(3.40)	6.0			○								○						○						
76		第1土坑	剝片	(26.0)	(32.0)	0.81	(3.80)	3.2			○													○							末端折れ
77	第50図	第1土坑	剝片	59.5	38.5	1.55	5.85	9.9	切				○			○		101°	○						○						S-26
78-a		第1土坑	剝片	(24.0)	23.5	1.02	2.00	1.5		点						○		85.5°						○							末端折れ
78-b	第16図	第1土坑	石器	(111.3)	133.6	0.83	28.10	447.6																	○						大型両面加工

第6表　剝片計測属性表 (2)

登録№	図版番号	Grid 層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面擦成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
79-a	第53図	第1土坑	剝片	(34.0)	(27.5)	1.24	3.25	2.4	切					○			○	129°			○				○						S-39
79-b	第50図	第1土坑	剝片	52.0	19.0	2.74	1.92	2.3		点						○		110°	○								○				S-28　61と接合
80		第1土坑	剝片	(27.0)	(28.5)	0.95	(3.60)	2.1			○								○						○						
81		第1土坑	剝片	30.0	26.5	1.13	5.80	3.4	○							○		110°		○						○					
82																															
83		第1土坑	剝片	33.3	19.0	1.75	3.15	2.3		○						○		106°	○					○							
84		第1土坑	剝片	(21.5)	(22.5)	0.96	(2.90)	1.2			○										○			○							
85		第1土坑	剝片	29.0	27.5	1.06	(4.00)	2.9		○						○		112°			○				○						
86	第20図	第1土坑	石器	33.5	30.0	1.12	4.10	4.7	切					○		○		107°							○						末端折れ
87		第1土坑	剝片	(30.5)	(38.0)	0.80	(2.80)	4.0			○									○				○							
88-a	第53図	第1土坑	剝片	(28.5)	(26.0)	1.10	(1.90)	1.4			○								○												S-37 59と接合88のみで計測
88-b		第1土坑	剝片	(12.0)	(12.5)	0.16	(2.45)	0.3			○													○						○	末端折れ
89	第21図	第1土坑	石器	71.0	62.0	1.15	12.40	36.1	切					○	○			104°	○							○					末端部に微細剝離あり
90-a		第1土坑	剝片	39.0	21.5	1.81	2.00	1.6		線				○		○		106°	○									○			
90-b		第1土坑	剝片	(16.6)	(3.0)		(0.80)	0.2			○																	○			
91		第1土坑	剝片	(23.0)	(32.0)	0.72	(2.50)	1.7			○								○						○						
92		第1土坑	剝片	(43.0)	19.5	2.21	1.90	1.8		点						○		114°							○						末端折れ
93		第1土坑	剝片	21.0	22.0	0.95	2.20	0.9		線				○		○		118°	○									○			
94-a		第1土坑	剝片	(15.5)	(23.0)	0.67	(2.20)	0.7			○								○					○							
94-b		第1土坑	剝片	(11.0)	(10.5)	1.05	(0.60)	0.1			○								○						○						
95		第1土坑	剝片	(50.0)	(39.5)	1.27	(3.70)	5.7			○								○						○						
96		第1土坑	剝片	38.5	26.5	1.45	3.60	3.1	切					○		○		108°	○					○							
97																															欠番
98		第1土坑	剝片	33.0	26.0	1.27	2.10	1.9		線				○		○		123°	○						○						
99		第1土坑	剝片	(46.0)	(24.0)	1.92	(3.00)	2.9			○								○					○							
100		第1土坑	剝片	42.5	32.0	1.33	3.70	5.6	切					○	○			93°	○						○						
101		第1土坑	剝片	51.0	29.5	1.73	3.50	4.6		線				○		○		110°	○						○						
102		第1土坑	剝片	39.5	21.5	1.84	2.50	2.9		線				○		○		102°			○			○							
103		第1土坑	剝片	39.0	29.0	1.34	2.30	2.6		点				○		○		119°		○				○							
104		第1土坑	剝片	(28.0)	(38.5)	0.73	(4.40)	3.9			○													○							末端折れ
105		第1土坑	剝片	39.5	21.2	1.86	1.80	1.8		線				○		○		101°	○									○			
106		第1土坑	剝片	(36.0)	(27.0)	1.33	(2.20)	1.7			○								○						○						
107		第1土坑	剝片	26.5	29.0	0.91	3.60	4.4	切					○		○		128°	○									○			
108		第1土坑	剝片	(27.5)	(23.0)	1.20	(1.70)	1.2			○								○					○							
109	第21図	第1土坑	石器	43.5	54.5	0.80	5.60	13.1		線						○		104°									○				末端折れ
110		第1土坑	剝片	(21.5)	(15.5)	1.39	(2.00)	0.6			○																○				末端折れ
111		第1土坑	剝片	(41.0)	20.5	2.00	4.00	3.2	切					○		○		109°							○						末端折れ
112		第1土坑	剝片	(24.0)	(31.0)	0.77	(6.90)	2.5	礫									90°							○						
113		第1土坑	剝片	28.0	21.5	1.33	4.10	2.7		線				○		○		130°			○				○						
114		第1土坑	剝片	(24.0)	(26.0)	0.92	(4.19)	2.4			○																○				末端折れ
115		第1土坑	剝片	(23.0)	(17.0)	1.35	(2.50)	1.0			○														○						末端折れ
116		第1土坑	剝片	31.0	31.0	1.00	(2.00)	1.3			○										○			○							
117		第1土坑	剝片	(26.0)	(16.5)	1.60	(0.80)	0.4			○								○						○						
118		第1土坑	剝片	44.5	22.5	1.98	1.80	2.0		点				○		○		109°	○					○							
119	第51図	第1土坑	剝片	(34.5)	(35.5)	0.97	(4.50)	3.3			○								○								○				S-29　57と接合
120		第1土坑	剝片	(28.0)	(29.0)	0.97	(2.10)	1.1			○								○						○						
121		第1土坑	剝片	46.2	25.2	1.83	2.80	3.4		線				○		○		103°	○						○						
122		第1土坑	剝片	33.0	30.8	1.07	1.95	1.5		点							○	102°		○					○						
123		第1土坑	剝片	(48.1)	(31.0)	1.55	(4.30)	5.2			○										○				○						
124		第1土坑	剝片	51.8	59.1	0.88	8.30	12.7	平						○			99°	○						○						
125		第1土坑	剝片	(47.5)	37.0	1.28	4.50	8.5		線				○		○		106°							○						末端折れ
126		第1土坑	剝片	(53.5)	(41.5)	1.29	(6.30)	15.4			○													○							末端折れ
127		第1土坑	剝片	(60.5)	(53.5)	1.13	(6.40)	20.0			○								○						○						
128	第46図	第1土坑	剝片	35.0	20.0	1.75	2.20	1.0		点						○		132°	○									○			S-19
129		第1土坑	剝片	33.2	19.0	1.75	2.30	1.4			○								○						○						
130		第1土坑	剝片	35.0	32.0	1.09	3.70	4.2			○								○						○						
131		第1土坑	剝片	48.0	55.0	0.87	12.50	24.3	切					○		○		112°			○					○					
132	第19図	第1土坑	ドリル	47.1	19.5	2.42	3.20	3.0																			○				
133		第1土坑	剝片	(39.5)	40.4	0.98	8.30	8.3	切			○			○			99°								○					末端加工有り
134	第21図	第1土坑	石器	72.0	57.0	1.26	8.50	34.3	切					○	○			137°			○				○						末端加工有り
135	第20図	第1土坑	石器	(56.0)	(32.5)	1.72	(8.40)	12.0			○								○						○						
136		第1土坑	剝片	(25.5)	(35.5)	0.72	(4.50)	4.6			○									○					○						
137																															
138		第1土坑	剝片	(25.0)	24.5	1.02	2.90	2.7		線				○		○		103°						○							末端折れ
139	第54図	第1土坑	剝片	(29.2)	(15.0)	1.95	(4.00)	1.5			○																○				S-54　末端折れ
140		第1土坑	剝片	(21.0)	29.0	0.72	3.60	3.5		線		○				○		96°							○						末端折れ
141	第49図	第1土坑	剝片	43.0	28.0	1.54	2.25	2.4		点						○		122°			○				○						S-24
142		第1土坑	剝片	25.5	25.5	1.00	2.70	2.4		線				○	○			115°		○											
143		第1土坑	剝片	28.0	31.0	0.90	4.95	3.2	切					○		○		103°		○					○						
144		第1土坑	剝片	(37.0)	(30.0)	1.23	(3.50)	3.6			○									○					○						
145		第1土坑	剝片	(39.0)	(27.5)	1.42	(4.40)	5.0			○									○				○							
146		第1土坑	剝片	(18.5)	(31.0)	0.60	(3.10)	1.5			○								○						○						
147		第1土坑	剝片	42.5	38.0	1.12	7.20	9.2	切					○		○		106°			○				○						
148		第1土坑	剝片	(40.5)	(27.5)	1.47	(3.65)	3.1			○									○					○						
149		第1土坑	剝片	39.0	30.0	1.30	3.62	3.9	切					○	○			123°	○								○				
150		第1土坑	剝片	(26.5)	(26.5)	1.00	(2.00)	1.6			○									○				○							
151		第1土坑	剝片	23.0	30.0	0.77	3.00	4.2	切				○		○			99°	○						○						
152		第1土坑	剝片	52.0	32.0	1.63	3.05	4.7		線			○			○		100°		○					○						
153		第1土坑	剝片	28.5	21.0	1.36	2.25	1.4		点						○		108°	○						○						
154		第1土坑	剝片	42.5	50.0	0.85	5.20	7.0	切				○			○		98°		○				○							
155		第1土坑	剝片	(18.5)	26.0	0.71	2.65	1.4		線				○		○		104°							○						末端折れ
156		第1土坑	剝片	(34.5)	(24.5)	1.41	(2.15)	1.3			○										○				○						
157		第1土坑	剝片	(23.5)	(22.0)	1.07	(2.00)	1.0			○									○					○						

第７表　剝片計測属性表 (3)

登録No	図版番号	Grid 層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
158	第54図	第１土坑	剝片	(28.0)	(28.0)	1.00	4.90	4.9	切				○		○			105°			○				○						S-54
159		第１土坑	剝片	(32.0)	(28.0)	1.14	(6.10)	3.1			○								○						○						
160		第１土坑	剝片	52.0	22.0	2.36	3.10	3.7		線			○			○		92°			○				○						
161		第１土坑	剝片	(17.0)	(24.0)	0.71	(2.80)	1.1			○														○						末端折れ
162		第１土坑	剝片	(39.0)	29.0	1.34	5.00	3.6			○					○									○						末端折れ
163		第１土坑	剝片	35.0	19.5	1.79	2.30	1.3		線			○			○		123°	○						○						
164	第54図	第１土坑	剝片	(24.0)	(24.5)	0.98	(1.90)	1.3			○														○						S-53　末端折れ
165		第１土坑	剝片	39.5	25.0	1.58	2.50	2.1		無						○		125°	○					○							
166		第１土坑	剝片	(67.5)	(50.0)	1.35	(7.00)	11.6			○								○												
167		第１土坑	剝片	29.5	18.5	1.59	2.35	0.9		点						○		104°	○									○			
168		第１土坑	剝片	37.0	23.0	1.61	2.70	2.5	平							○		95°	○									○			
169		第１土坑	剝片	(69.0)	(52.0)	1.33	(9.75)	26.6			○																○				末端折れ
170		第１土坑	剝片	(30.5)	(19.0)	1.61	(2.50)	1.0			○														○						末端折れ
171	第15図	第１土坑	石器	225.0	101.0	2.23	10.58	302.1																	○						大型両面加工
172	第19図	第１土坑	石器	122.9	50.6	2.43	10.60	63.7																	○						ヘラ状の石器
173-a	第54図	第１土坑	剝片	(14.5)	(20.5)	0.71	(4.60)	1.4			○														○						S-49　末端折れ
173-b		第１土坑	剝片	62.0	29.5	2.10	4.10	6.6	切					○			○	100°	○											○	
174	第53図	第１土坑	剝片	(28.0)	(26.0)	1.08	(4.70)	3.3			○								○									○			S-44　末端折れ
175	第54図	第１土坑	剝片	(22.0)	(27.0)	0.81	(4.20)	3.3	切			○						116°							○						S-49　末端折れ
176		第１土坑	剝片	(30.5)	25.5	1.20	3.35	2.2		線			○			○		100°							○						末端折れ
177	第54図	第１土坑	剝片	(24.0)	(23.0)	1.04	(3.65)	1.8			○								○						○						S-50
178		第１土坑	剝片	(35.5)	(37.0)	0.96	(5.00)	6.5			○														○						末端加工有り
179	第54図	第１土坑	剝片	(40.0)	(28.0)	1.43	(4.10)	4.2			○								○						○						S-51
180		第１土坑	剝片	(23.0)	(19.5)	1.18	(3.60)	1.2			○										○				○						S-67
181		6トレンチ	剝片	(30.0)	37.0	0.81	6.00	7.5		線						○		126°							○						末端折れ
182		6トレンチ	剝片	(24.5)	(34.0)	0.72	(6.00)	5.8			○													○							末端折れ
183	第12図	6トレンチ	石器	38.5	19.0	2.03	2.60	3.6			加工										○				○						スクレイパー
184		6トレンチ	土器															−													
185		6トレンチ	土器															−													
186		6トレンチ	土器															−													
187		6トレンチ	土器															−													
188		6トレンチ	土器															−													
189	第12図	6トレンチ	石器	89.4	42.5	2.10	7.00	36.0										−							○						ヘラ状の石器
190		6トレンチ	土器															−													
191		6トレンチ	剝片	(19.5)	(14.5)	1.34	(2.40)	0.7			○								○						○						末端加工有り
192		6トレンチ	剝片	57.0	41.5	1.37	3.50	5.9		線						○		112°		○						○					
193		6トレンチ	剝片	(30.0)	(38.5)	0.78	(5.00)	7.2			○														○						末端折れ
194		6トレンチ	土器															−													
195		6トレンチ	剝片	45.5	36.0	1.26	2.70	7.5		線						○		127°							○						末端折れ
196		6トレンチ	剝片	69.0	67.0	1.03	(9.60)	27.1	切					○		○		119°													バルブの末端不明
197		6トレンチ	剝片	(30.0)	(18.0)	1.67	(4.70)	3.3			○										○				○						
198		6トレンチ	剝片	34.0	19.5	1.74	(2.65)	1.5		線				○		○		101°	○									○			
199		6トレンチ	剝片	(25.0)	31.2	0.80	3.00	2.9		線		○				○		102°						○							末端折れ
200		6トレンチ	剝片	(38.0)	(31.0)	1.23	(2.60)	5.5			○													○							末端折れ
201		6トレンチ	剝片	(29.0)	(25.0)	1.16	(5.80)	2.3			○								○						○						
202		6トレンチ	剝片	(29.5)	(19.5)	1.51	(4.10)	2.2			○								○						○						
203		6トレンチ	土器															−													
204		6トレンチ	土器															−													
205		6トレンチ	土器															−													石鏃1点有り
206		6トレンチ	剝片	(30.5)	(48.5)	0.63	(5.50)	8.6			○										○				○						
207		6トレンチ	剝片	(21.0)	(36.0)	0.58	(2.80)	1.9			○									○					○						
208-a	第21図	第１土坑	石器	(135.0)	(74.0)	1.82	(9.40)	73.3			○								○					○							
208-b		第１土坑	剝片	(13.0)	(14.0)	0.93	(1.00)	0.3			○													○							末端折れ
209	第42図	第１土坑	剝片	117.0	53.0	2.20	6.70	54.0	切				○		○			124°		○					○						S-10
210		第１土坑	剝片	79.5	47.5	1.67	6.40	23.9	切				○				○	133°	○					○							
211		第１土坑	剝片	24.0	31.5	0.76	4.50	3.5			○					○			○						○						
212	第47図	第１土坑	剝片	(37.0)	(28.0)	1.32	3.45	4.0			○					○			○						○						S-20
213	第51図	第１土坑	剝片	57.5	44.5	1.29	3.60	6.2	切				○			○		137°	○							○					S-30　247と接合
214		6トレンチ	礫															−													
215		6トレンチ	礫															−													
216		6トレンチ	礫															−													
217		6トレンチ	礫															−													
218		第１土坑	剝片	(30.0)	(33.0)	0.91	(2.90)	3.0			○								○						○						
219		第１土坑	剝片	42.5	33.0	1.29	5.25	5.8	切				○			○		111°	○						○						
220	第40図	第１土坑	剝片	(52.0)	(78.0)	0.67	(8.30)	19.4			○											○		○							S-5
221		第１土坑	剝片	(22.5)	(24.0)	0.94	3.75	1.8			○									○							○				
222	第54図	第１土坑	剝片	(44.0)	(34.0)	1.29	4.95	5.8		線					○			113°									○				S-48 228と接合 末端折れ
222+228	第54図	第１土坑	剝片	61.5	44.5	1.38	4.95	10.3		線					○			113°		○							○				
223		第１土坑	剝片	28.0	24.0	1.17	5.00	2.2	切				○			○		102°		○					○						
224		第１土坑	剝片	92.0	41.0	2.24	4.80	17.6	切				○			○		127°				○		○							
225	第42図	第１土坑	剝片	(43.5)	(44.5)	0.98	(6.40)	9.3			○														○						S-10　末端折れ
226	第44図	第１土坑	剝片	(40.0)	(52.2)	0.77	(4.30)	8.4			○								○					○							S-13
227		第１土坑	剝片	(28.0)	(26.0)	1.08	(5.50)	2.8			○									○				○							
228	第54図	第１土坑	剝片	(27.5)	(37.0)	0.74	(4.35)	4.5			○									○							○				S-48　222と接合
229		第１土坑	剝片	30.0	19.0	1.58	4.10	1.6	平							○		110°	○					○							
230		第１土坑	剝片	(31.0)	(21.0)	1.48	(1.40)	1.4			○													○							末端折れ
231-a	第54図	第１土坑	剝片	(20.0)	(20.0)	1.00	(3.10)	1.2			○								○					○							S-55
231-b	第44図	第１土坑	剝片	59.0	40.0	1.48	6.40	0.6		線					○			112°	○						○						S-13
232	第41図	第１土坑	剝片	25.5	35.0	0.73	4.60	4.4	平							○		85°		○				○							S-8
233-a	第38図	第１土坑	剝片	(46.0)	31.0	1.48	4.50	6.5	平							○		125°						○							S-1　末端折れ
233-b		第１土坑	剝片	(5.0)	(13.0)	0.38	(2.10)	0.1			○									○				○							
234	第42図	第１土坑	剝片	(55.0)	55.5	0.99	5.00	19.1		平					○			118°						○							S-10　末端折れ
235	第39図	第１土坑	剝片	63.5	36.0	1.76	4.90	13.2	線			○		○				110°	○					○							S-3

第8表　剥片計測属性表（4）

登録No.	図版番号	Grid 層	器種	剥片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剥離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
236	第22図	第1土坑	石器	58.0	68.5	0.85	7.30	23.2	平							○		106°		○					○						
237		第1土坑	剥片	46.0	40.0	1.15	3.40	4.5	切				○			○		107°	○					○							
238	第38図	第1土坑	剥片	49.0	33.5	1.46	(6.30)	8.7		点				○		○		—	○					○							S-1 バルブ末端不明
239		第1土坑	剥片	48.0	45.0	1.07	5.00	9.6	切					○	○			112°	○					○							
240		第1土坑	剥片	27.0	29.0	0.93	3.40	2.2		線				○		○		110°		○				○							
241	第54図	第1土坑	剥片	(26.0)	(28.0)	0.93	(2.50)	2.0			○								○						○						S-51
242	第48図	第1土坑	剥片	(47.5)	37.5	1.27	2.80	5.9	切				○				○	123°							○						S-23 末端折れ
243		第1土坑	剥片	36.0	39.0	0.92	2.70	7.6	切					○			○	116°	○							○					打面二度敲
244	第53図	第1土坑	剥片	(30.0)	(40.0)	0.75	(2.70)	2.4			○								○					○							S-36
245		第1土坑	剥片	(41.0)	(25.0)	1.64	(4.00)	4.3			○													○							末端折れ
246	第48図	第1土坑	剥片	(36.0)	(43.0)	0.84	(4.90)	5.8			○									○					○						S-23
247	第51図	第1土坑	剥片	(73.0)	(45.5)	1.60	(6.40)	15.9			○									○						○					S-30 213と接合
248		第1土坑	剥片	35.5	30.0	1.18	2.50	3.4	切					○	○			124°		○				○							
249	第44図	第1土坑	剥片	54.0	41.0	1.32	4.50	8.3	切				○		○			101°	○					○							S-14
250		第1土坑	剥片	(32.0)	32.5	0.98	2.90	1.8			○								○						○						
251		第1土坑	剥片	(29.0)	(28.0)	1.04	(1.80)	1.5			○													○							末端折れ
252	第53図	第1土坑	剥片	(32.0)	(56.0)	0.57	(9.50)	12.5			○									○				○							S-35
253		第1土坑	剥片	34.5	35.0	0.99	2.60	4.6	切					○		○		106°		○				○							
254	第48図	第1土坑	剥片	22.0	31.0	0.71	2.10	3.2	切					○			○	—		○					○						S-23
255-a		第1土坑	剥片	(32.0)	37.0	0.86	4.30	4.9	切				○			○		115°						○							末端折れ
255-b		第1土坑	剥片	27.5	21.5	1.28	6.50	2.7	切					○		○		101°			○			○							
256	第39図	第1土坑	剥片	59.0	49.5	1.19	5.10	13.8	切					○		○		140°	○					○							S-3
257	第49図	第1土坑	剥片	37.5	35.0	1.07	2.30	4.3	切					○		○		115°		○					○						S-25
258-a	第19図	第1土坑	石器	(21.0)	(28.0)	0.75	(3.00)	1.8			加工								○								○				スクレイパー
258-b		第1土坑	剥片	77.0	54.1	1.42	8.30	38.4																							
259		第1土坑	剥片	42.0	34.5	1.22	3.70	5.8		線				○		○		134°		○				○							
260		第1土坑	剥片	(46.5)	(37.0)	1.26	(4.35)	6.4			○								○						○						
261	第39図	第1土坑	剥片	46.5	41.5	1.12	4.30	8.6		平						○		105°	○					○							S-3
262		第1土坑	剥片	68.0	48.5	1.40	4.70	22.0		線				○		○		112°	○									○			
263		第1土坑	剥片	37.5	41.5	0.90	5.20	7.3	平							○		107°		○					○						
264		第1土坑	剥片	23.0	31.5	0.73	3.20	2.1		線				○	○			120°		○					○						
265		第1土坑	剥片	50.0	27.5	1.82	3.80	3.6		点						○		—	○					○							
266		第1土坑	剥片	(29.0)	38.5	0.75	3.10	5.2	切					○		○		116°								○					
267	第45図	第1土坑	剥片	28.5	21.0	1.36	4.60	2.5	平							○		102°		○				○							S-17
268		第1土坑	剥片	45.0	35.5	1.27	2.60	4.4		線			○			○		118°	○					○							
269		第1土坑	剥片	57.0	52.5	1.09	7.60	16.0		線						○		110°	○					○							
270	第49図	第1土坑	剥片	36.0	41.5	0.87	3.70	5.8			○										○				○						S-22 324と接合
271	第38図	第1土坑	剥片	25.0	34.0	0.74	4.20	3.6	平							○		114°	○					○							S-2
272		第1土坑	剥片	(39.0)	(31.0)	1.26	(2.00)	2.4			○					○			○						○						
273		第1土坑	剥片	42.5	52.0	0.82	7.30	12.3	切					○	○			106°		○				○							
274	第53図	第1土坑	剥片	(29.0)	(16.0)	(1.81)	(1.90)	0.7			○													○							S-32 末端折れ
275		第1土坑	剥片	(20.0)	(26.0)	0.77	(8.00)	3.3			○								○					○							
276	第53図	第1土坑	剥片	(31.5)	(41.0)	0.77	5.50	5.8	平						○			102°										○			S-44 末端折れ
277	第43図	第1土坑	剥片	(42.5)	(15.0)	2.83	(4.50)	2.1			○								○						○						S-11
278	第53図	第1土坑	剥片	(43.0)	(49.0)	0.88	4.50	12.2	切					○		○		107°						○							S-36 末端折れ
279		第1土坑	剥片	56.0	58.0	0.97	7.90	18.7	切					○		○		114°	○					○							
280	第48図	第1土坑	剥片	(28.0)	(44.0)	0.64	(4.50)	5.5			○														○						S-23 末端折れ
281		第1土坑	剥片	(26.5)	30.0	0.88	3.30	4.0		線				○		○		127°													末端折れ
282		第1土坑	剥片	(25.5)	(21.0)	1.21	(4.00)	2.4			○									○				○							
283		第1土坑	剥片	23.5	19.5	1.21	2.50	1.6	切				○			○		109°		○				○							
284	第38図	第1土坑	剥片	50.0	35.5	1.41	3.50	6.7		線			○			○		107°			○			○							S-1
285	第40図	第1土坑	剥片	55.0	28.0	1.96	3.40	7.7		平					○			107°		○				○							S-4
286		第1土坑	剥片	(29.0)	(45.0)	0.64	(4.00)	3.6			○								○						○						
287		第1土坑	剥片	26.0	25.5	1.02	3.10	1.5	切					○	○			87°		○				○							珪化木
288		第1土坑	剥片	38.0	29.5	1.29	6.60	4.7		線						○		103.°	○								○				
289	第53図	第1土坑	剥片	(43.5)	(36.5)	1.19	(4.10)	3.8			○																				S-45 291と接合 289+291で計測 末端折れ
290		第1土坑	剥片	(28.0)	(24.0)	1.17	(6.40)	2.9			○								○					○							
291	第53図	第1土坑	剥片	(20.5)	(32.0)	0.64	(3.00)	2.2			○																				S-45 289と接合 291のみで計測 末端折れ
292		第1土坑	剥片	(25.0)	(24.0)	1.04	(3.70)	1.6			○								○					○							
293		第1土坑	剥片	(22.0)	26.0	0.85	2.10	1.6		線				○				112°						○							末端折れ
294		第1土坑	剥片	24.5	21.0	1.17	3.30	2.2	礫						○			100°		○				○							
295-a	第44図	第1土坑	剥片	58.0	35.5	1.63	5.00	11.1	切				○				○	108°		○				○							S-14
295-b		第1土坑	剥片	19.5	25.5	0.76	2.90	1.3	礫							○		106°		○				○							
296		第1土坑	剥片	(27.0)	(42.0)	(0.64)	(7.40)	6.7			○									○				○							
297		第1土坑	剥片	(34.0)	(52.0)	0.65	(5.00)	7.7			○									○				○							
298		第1土坑	剥片	35.5	45.5	0.78	6.90	11.8			○										○			○							
299		第1土坑	剥片	36.0	27.0	1.33	3.25	3.3		線				○		○		117°							○						末端部加工
300		第1土坑	剥片	26.5	26.0	1.02	2.70	2.4		線				○		○		119°			○				○						
301	第53図	第1土坑	剥片	(21.0)	(19.0)	1.11	(2.80)	1.0			○								○								○				S-47 370+824と接合
			剥片	29.5	33.5	0.88	3.40	2.4		平						○		118°	○								○				824+370+301
302		第1土坑	剥片	(24.0)	(42.0)	0.57	(2.10)	3.0			○									○					○						
303	第47図	第1土坑	剥片	(24.5)	(23.0)	1.07	(3.15)	1.8			○								○						○						S-21
304	第46図	第1土坑	剥片	38.4	39.0	0.98	3.90	6.0	切					○			○	132°	○									○			S-18
305		第1土坑	剥片	(35.0)	(20.0)	1.75	(2.50)	1.0			○								○					○							
306	第46図	第1土坑	剥片	33.0	19.5	1.69	2.75	1.5		点					○			120°	○									○			S-19
307		第1土坑	剥片	(38.5)	(27.5)	1.40	6.20	3.6			○										○				○						
308		第1土坑	剥片	(20.0)	(19.0)	1.05	(2.10)	0.8			○								○					○							
309		第1土坑	剥片	(36.0)	28.0	1.29	2.75	3.5	切					○		○		117°									○				末端折れ
310		第1土坑	剥片	30.0	24.5	1.22	3.70	2.0	礫							○		110°	○			○									
311	第20図	第1土坑	石器	90.0	62.0	1.45	3.70	28.6		線						○		110°				○			○						
312		第1土坑	剥片	36.0	23.0	1.57	2.30	1.5		点						○		118°	○					○							
313		第1土坑	剥片	(53.0)	(28.0)	1.89	(2.75)	4.0			○								○						○						
314		第1土坑	剥片	30.0	24.0	1.25	5.20	6.1	切					○		○		127°		○				○							

第９表　剝片計測属性表 (5)

登録No	図版番号	Grid層	器種	剝片測定					打面形態			切子打面			バルブの大きさ			剝離角	末端部の形状				背面構成	石材						受熱	備考
				長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	普	小	欠落(折れ)	イ	ロ	ハ	強	中	弱		通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状		黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒＋グレイ(しましま)	その他		
315		第１土坑	剝片	(26.0)	(28.0)	0.93	(3.90)	2.3			○													○							末端加工有り
316		第１土坑	剝片	22.0	21.5	1.02	4.10	2.2		線			○			○		112°			○			○							
317		第１土坑	剝片	36.0	30.5	1.18	4.45	4.4			○					○			○					○							
318		第１土坑	剝片	34.0	50.0	0.68	5.90	10.8	切					○	○			114°			○			○							
319	第40図	第１土坑	剝片	51.0	41.0	1.24	5.10	11.3		平						○		113°		○				○							S-4
320		第１土坑	剝片	35.0	37.0	0.95	3.80	5.2		線						○		125°			○			○							
321		第１土坑	剝片	57.5	68.5	0.84	7.70	23.0	切					○		○		93°	○					○							
322		第１土坑	剝片	61.0	45.0	1.36	6.40	14.2	切					○		○		124°	○					○							
323	第40図	第１土坑	剝片	58.0	43.0	1.35	7.75	16.8		平						○		114°						○							S-5
324	第49図	第１土坑	剝片	(22.5)	(23.0)	0.98	(3.60)	1.8			○								○						○						S-22
325	第47図	第１土坑	剝片	(45.0)	(55.0)	0.82	(3.70)	6.2			○					○			○						○						S-21
326		第１土坑	剝片	38.5	33.0	1.17	8.35	8.4	礫							○		123°		○					○						
327		第１土坑	剝片	39.5	37.5	1.05	2.10	4.3		点						○		112°		○					○						
328	第43図	第１土坑	剝片	37.0	34.0	1.09	2.50	3.6		線						○		110°		○					○						S-12
329		第１土坑	剝片	40.5	26.0	1.56	(4.50)	2.8			○								○						○						
330		第１土坑	剝片	41.0	34.0	1.21	5.20	5.2		線			○			○		134°													末端折れ
331		第１土坑	剝片	26.5	25.5	1.04	3.00	1.3		無					○			96°	○						○						
332		第１土坑	剝片	28.0	21.0	1.33	2.50	1.2		点						○		112°	○						○						
333		第１土坑	剝片	43.0	29.0	1.48	2.50	4.1		点						○		92°	○					○							
334		第１土坑	剝片	49.5	42.5	1.16	6.10	11.9	切					○		○		91°						○							末端折れ
335	第54図	第１土坑	剝片	(23.5)	(27.0)	0.87	(3.30)	2.0			○														○						S-56　341と接合
336		第１土坑	剝片	34.0	14.0	2.43	3.45	2.1	切					○			○	107°			○			○							
337	第38図	第１土坑	剝片	40.0	24.0	1.67	2.80	2.7		線				○		○		116°		○				○							S-1
338		第１土坑	剝片	(25.5)	(21.0)	1.21	(4.20)	1.9			○								○						○						
339		第１土坑	剝片	(23.0)	(34.0)	0.68	(4.40)	3.6			○					○					○			○							
340		第１土坑	剝片	(16.0)	(23.5)	0.68	(1.75)	0.5			○								○						○						
341	第54図	第１土坑	剝片	(27.0)	(27.5)	0.98	(3.20)	2.5			○														○						S-56　335と接合
342	第41図	第１土坑	剝片	35.0	20.5	1.71	3.20	1.7		点						○		96°	○					○							S-8
343-a		第１土坑	剝片	38.0	18.0	2.11	2.80	5.3		線		○					○	85°		○				○							
343-b			剝片	39.0	22.0	1.77	3.70	1.7	礫							○		119°	○					○							
344		第１土坑	剝片	31.0	22.5	1.38	2.05	1.7		線		○				○		82°		○					○						
345	第40図	第１土坑	剝片	32.0	28.5	1.12	3.00	2.0			○								○					○							S-5
346		第１土坑	剝片	(29.0)	(36.0)	0.81	(5.30)	3.4			○								○					○							
347																															
348	第41図	第１土坑	剝片	41.0	26.5	1.55	4.65	4.1		線				○	○			107°	○					○							S-7
349-a		第１土坑	剝片	30.0	32.0	0.94	3.30	3.3	切				○		○			112°	○					○							
349-b		第１土坑	剝片	33.0	24.0	1.38	4.20	3.6		線			○			○		112°		○				○							
350		第１土坑	剝片	(28.0)	(36.0)	0.78	(7.00)	7.2			○													○							末端加工有り
351		第１土坑	剝片	29.0	39.5	0.73	5.20	7.1	切					○		○		117°			○			○							
352	第41図	第１土坑	剝片	20.0	21.0	0.95	4.70	2.0	礫				○			○		135°			○			○							S-6
353		第１土坑	剝片	34.0	27.5	1.24	5.90	3.0	切				○			○		101°	○						○						
354		第１土坑	剝片	31.5	28.0	1.13	4.50	4.9	切				○			○		121°		○				○							
355	第40図	第１土坑	剝片	(42.0)	(49.5)	0.85	(9.50)	10.2			○											○			○						S-4
356		第１土坑	剝片	(35.0)	(34.0)	1.03	(2.90)	3.1			○										○			○							
357		第１土坑	剝片	37.5	19.5	1.92	2.80	2.7		線						○		−	○									○			
358		第１土坑	剝片	65.0	44.0	1.48	4.15	8.7		線				○		○		132°	○						○						
359		第１土坑	剝片	(32.5)	(33.0)	0.98	(1.85)	3.2			○																	○			末端折れ
360		第１土坑	剝片	29.0	18.5	1.57	38.00	1.6		線						○		91°		○				○							
361	第43図	第１土坑	剝片	45.0	33.5	1.34	4.20	4.7		線						○		106°	○					○							S-12
362		第１土坑	剝片	23.0	28.0	0.82	5.30	3.4	平						○			110°		○				○							
363		第１土坑	剝片	(23.0)	(28.0)	0.82	(1.85)	0.8			○									○					○						
364	第43図	第１土坑	剝片	22.0	25.5	0.86	3.30	3.0		点				○		○		127°			○			○							S-9
365		第１土坑	剝片	31.5	30.0	1.05	2.60	2.4		線				○		○		135°	○									○			
366	第48図	第１土坑	剝片	49.5	38.5	1.29	(2.70)	9.3	切					○		○		124°							○						S-23　末端加工有り
367	第39図	第１土坑	剝片	40.0	33.5	1.19	1.07	8.6	礫		○						○	92°		○				○							S-3
368		第１土坑	剝片	(21.0)	(33.0)	0.64	(5.20)	3.9			○									○					○						
369		第１土坑	剝片	(31.0)	(19.5)	1.59	(7.05)	4.1			○														○						末端折れ
370	第53図	第１土坑	剝片	(22.0)	(17.0)	1.29	(2.50)	0.6			○								○								○				S-47 301＋824と接合
371	第53図	第１土坑	剝片	(27.0)	(46.0)	0.59	(4.50)	5.4			○								○					○							S-35
372		第１土坑	剝片	(37.0)	24.5	1.51	2.40	1.8		線				○		○		107°						○							末端折れ
373	第53図	第１土坑	剝片	(41.0)	(42.5)	0.96	4.20	7.6		線						○		101°							○						S-46　末端折れ
374		第１土坑	剝片	(27.0)	(20.5)	1.32	(2.50)	1.8			○								○					○							
375		第１土坑	剝片	49.0	48.0	1.02	5.50	8.7		線			○			○		117°		○				○							
376	第53図	第１土坑	剝片	(32.0)	(30.0)	(1.07)	(4.20)	3.8			○								○					○							S-34
377		第１土坑	剝片	(23.0)	(32.0)	0.72	(5.10)	3.0			○									○				○							
378		第１土坑	剝片	(43.0)	(41.5)	1.04	(6.10)	9.4			○														○						末端折れ
379	第53図	第１土坑	剝片	(31.0)	(15.5)	2.00	2.10	1.2		線						○		108°			○			○							S-33
380	第53図	第１土坑	剝片	(19.0)	(19.5)	0.97	(2.10)	1.1			○								○									○			S-43
381	第53図	第１土坑	剝片	(35.5)	(27.0)	1.31	(2.20)	2.8			○								○					○							S-42
382		第１土坑	剝片	63.0	27.0	2.33	6.40	9.5		線			○			○		125°		○				○							
383		第１土坑	剝片	(31.0)	(63.0)	0.49	(5.50)	9.1			○									○					○						
384		第１土坑	剝片	32.0	23.0	1.39	5.10	3.4		線		○				○		115°	○					○							
385	第53図	第１土坑	剝片	(23.0)	(21.5)	1.07	4.20	1.7			○					○					○			○							S-42
386	第50図	第１土坑	剝片	(33.5)	(46.0)	0.73	(4.50)	4.8			○								○								○				S-27　388と接合
387		第１土坑	剝片	49.0	34.5	1.42	6.35	9.8	切					○		○		125°		○				○							
388	第50図	第１土坑	剝片	(42.5)	48.5	0.88	6.50	12.3		線				○		○		105°									○				S-27　386と接合 末端折れ
389	第21図	第１土坑	石器	73.0	39.0	1.87	5.55	19.6	切					○			○	111°	○					○							
390		第１土坑	剝片	(19.0)	(41.5)	0.46	(3.50)	2.0			○																				末端折れ
391		第１土坑	剝片	(18.0)	21.2	0.85	2.70	1.2		線			○			○		101°						○							末端折れ
392		第１土坑	剝片	(50.5)	(42.0)	1.20	(7.90)	13.6			○									○					○						
393		第１土坑	剝片	(64.0)	(37.5)	1.71	(9.50)	13.5			○											△		○							
394		第１土坑	剝片	(21.0)	29.0	0.72	4.70	2.1	線				○			○		103°						○							末端折れ
395	第46図	第１土坑	剝片	(30.5)	(24.0)	1.27	(3.20)	1.4			○								○						○						S-18

第10表　剝片計測属性表 (6)

登録No	図版番号	Grid層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもぶり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
396		第1土坑	剝片	27.0	19.5	1.38	1.80	0.9		点						○		92°	○					○							
397		第1土坑	剝片	42.0	38.0	1.11	4.20	8.6	切				○			○		124°		○								○			
398		第1土坑	剝片	56.0	43.0	1.30	4.75	11.2	切					○		○		132°		○							○				
399		第1土坑	剝片	35.0	30.0	1.17	6.20	5.6		線						○		109°		○				○							
400	第46図	第1土坑	剝片	43.0	56.5	0.76	5.10	10.6	切					○		○		132°				△						○			S-18
401	第41図	第1土坑	剝片	35.0	32.5	1.08	(6.10)	4.5		礫						○		104°		○				○							S-6 バルブの末端不明
402		第1土坑	剝片	(45.5)	35.0	1.30	4.10	6.6		線				○		○		114°			○				○						末端折れ
403		第1土坑	剝片	(30.5)	(33.5)	0.91	(4.70)	6.0			○														○						末端折れ
404	第47図	第1土坑	剝片	(32.0)	(40.0)	0.80	(5.25)	1.0			○										○				○						S-21
405		第1土坑	剝片	(48.0)	49.5	0.97	5.10	11.8	切					○		○		110°													末端折れ
406		第1土坑	剝片	(24.0)	23.0	1.04	1.50	1.7		無						○								○							末端折れ
407		第1土坑	剝片	(25.5)	(26.0)	0.98	(2.50)	1.0			○					○			○						○						
408		第1土坑	剝片	(25.0)	19.0	1.32	4.10	1.8	切					○		○		108°			○				○						
409		第1土坑	剝片	36.5	36.5	1.00	4.15	7.1		線				○		○		121°	○					○							
410	第53図	第1土坑	剝片	(39.5)	(18.0)	2.19	(5.25)	3.8			○													○							S-40　末端加工有り
411	第20図	第1土坑	石器	(68.0)	(40.5)	1.68	(6.00)	23.5			○										○				○						スクレイパー
412		第1土坑	剝片	(35.0)	(48.5)	0.72	(4.45)	8.4			○								○					○							
413		第1土坑	剝片	(42.5)	(32.5)	1.31	(5.55)	4.3			○																	○			末端折れ
414	第54図	第1土坑	剝片	(22.5)	(24.5)	0.92	(2.50)	1.4			○									○						○					S-52
415		第1土坑	剝片	(26.0)	(23.5)	1.11	(1.70)	1.7			○										○			○							
416	第22図	第1土坑	石器	54.5	58.5	0.93	4.90	14.5		平						○		125°		○					○						
417		第1土坑	剝片	(27.5)	(29.0)	0.95	(3.00)	2.3			○								○						○						
418		第1土坑	剝片	38.0	36.5	1.04	3.70	5.3	切					○		○		114°		○				○							
419-a		第1土坑	剝片	37.0	38.0	0.97	4.20			○						○		−			○			○							
419-b			剝片	56.0	36.0	1.56	3.90	6.7		点						○		100°	○							○					背面に付着物有り
420		第1土坑	剝片	(26.0)	34.0	0.76	3.50	2.5		平						○		109°						○							末端折れ
421		第1土坑	剝片	23.0	22.5	1.02	6.10	2.1		平					○			112°	○							○					
422		第1土坑	剝片	42.0	56.5	0.74	8.90	13.9	礫						○			85°		○						○					
423		第1土坑	剝片	28.5	25.0	1.14	2.25	1.3		線				○		○		103°	○					○							
424		第1土坑	剝片	(25.5)	29.0	0.88	3.05	2.7		線				○		○		121°							○						末端折れ
425		第1土坑	剝片	(37.5)	(26.0)	1.44	(2.00)	2.6		線						○		93°			○							○			
426	第54図	第1土坑	剝片	(15.0)	(35.0)	0.43	(1.70)	1.0			○								○						○						S-57 接合
427	第54図	第1土坑	剝片	(28.5)	(35.5)	0.80	(2.40)	0.9			○														○						S-57 426+427の長幅
428		第1土坑	剝片	38.5	28.0	1.38	3.10	2.3		線			○			○		119°	○						○						
429	第54図	第1土坑	剝片	45.0	27.5	1.64	3.70	4.0		線				○	○			113°	○						○						S-63
430		第1土坑	剝片	(43.5)	41.0	1.06	6.50	8.9	切					○		○		121°			○				○						末端折れ
431		第1土坑	剝片	53.0	42.0	1.26	4.50	7.9		線				○		○		107°		○				○							
432		第1土坑	剝片	(31.5)	(32.5)	0.97	(2.30)	2.5			○										○				○						
433		第1土坑	剝片	43.5	45.0	0.97	7.70	13.8	平						○			104°		○					○						
434		第1土坑	剝片	33.5	20.0	1.68	3.10	1.9			○					○					○			○							
435		第1土坑	剝片	(32.0)	(36.5)	0.88	(3.40)	3.3			○					○			○						○						
436	第19図	第1土坑	石器	70.8	30.7	2.31	5.80	13.9	切					○	○			114°							○						スクレイパー
437	第54図	第1土坑	剝片	(28.0)	19.5	1.44	2.10	1.2		点						○		−							○						439のbと接合 S58 末端折れ
438		第1土坑	剝片	26.0	20.0	1.30	3.30	2.0		線				○		○		118°		○					○						
439-a		第1土坑	剝片	36.0	25.0	1.44	2.50	2.5		点						○		117°		○					○						
439-b	第54図	第1土坑	剝片	(7.0)	18.0		9.50																								
440		第1土坑	剝片	30.0	36.5	0.82	4.30	4.4		点						○		131°			○			○							
441		第1土坑	剝片	65.0	37.0	1.76	3.60	9.8	切					○		○		144°	○					○							
442		第1土坑	剝片	49.0	22.5	2.18	3.50	2.5		点						○		115°						○							末端加工
443	第46図	第1土坑	剝片	45.0	24.5	1.84	3.40	2.5		線				○		○		128°	○											○	S-19
444		第1土坑	剝片	(37.0)	(30.0)	1.23	(2.50)	2.0			○								○						○						
445		第1土坑	剝片	(41.0)	40.0	1.03	3.80	7.5		線				○		○		108°							○						末端折れ
446		第1土坑	剝片	37.0	29.5	1.25	2.20	1.3		点						○		125°	○											○	
447		第1土坑	剝片	41.5	36.5	1.14	3.50	3.5			○								○											○	
448		第1土坑	剝片	28.0	26.0	1.08	2.90	1.9		点						○		115°	○						○						
449	第49図	第1土坑	剝片	(28.0)	(39.5)	0.71	(3.75)	2.9			○								○						○						S-24
450		第1土坑	剝片	(46.5)	(26.5)	1.75	(6.10)	4.9			○								○					○							
451	第52図	5トレンチ	剝片	(47.5)	(54.5)	0.87	(8.20)	11.3			○									○				○							S-61　末端折れ
452		5トレンチ	土器																												
453		5トレンチ	土器																												
454		5トレンチ	土器																												
455		5トレンチ	土器																												
456		5トレンチ	土器																												
457		5トレンチ	剝片	(70.0)	(24.5)	2.86	(3.35)	3.6			○										○			○							
458																															
459		5トレンチ	土器																												
460		5トレンチ	土器																												
461		5トレンチ	土器																												
462		5トレンチ	剝片	25.0	30.0	0.83	3.20	2.7		線			○			○		121°		○					○						
463		第1土坑	剝片	(29.0)	(21.0)	1.38	(2.30)	1.7			○										○				○						
464-a		第1土坑	剝片	(14.5)	(25.0)	0.58	(2.10)	0.8			○									○					○						
464-b		第1土坑	剝片	(24.5)	(45.5)	0.54	(2.60)	2.2			○														○						末端折れ
465		第1土坑	剝片	(55.0)	(31.2)	1.76	(4.40)	5.7			○													○							
466	第50図	第1土坑	剝片	60.5	37.0	1.64	4.80	9.4	平								○	100°	○						○						S-26
467		第1土坑	剝片	(23.5)	(21.0)	1.12	(3.40)	1.8			○										○				○						
468		第1土坑	剝片	(39.5)	(24.5)	1.61	(3.35)	2.6			○								○						○						
469		第1土坑	剝片	(22.0)	(30.0)	0.73	(2.25)	1.5			○									○					○						
470		第1土坑	剝片	37.0	22.0	1.68	3.60	1.6		線				○		○		123°	○						○						
472		第1土坑	剝片	(44.0)	(30.0)	1.47	(3.85)	3.5			○													○						末端折れ
473	第46図	第1土坑	剝片	49.5	29.5	1.68	4.60	5.1	切					○		○		140°	○											○	S-19
474		第1土坑	剝片	(24.0)	(19.0)	1.26	(3.50)	1.5			○										○			○							
475		第1土坑	剝片	34.5	30.0	1.15	3.40	2.8		線				○		○		115°		○					○						
476	第19図	第1土坑	尖頭器	27.7	17.9	1.55	4.10	1.8																	○						

第11表　剝片計測属性表 (7)

登録No.	図版番号	Grid層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
477		第1土坑	剝片	(34.0)	(32.0)	1.06	(2.70)	2.1			○								○						○						
478		第1土坑	剝片	(30.0)	(21.0)	1.43	(1.30)	1.1			○								○					○							
479		第1土坑	剝片	(24.5)	(29.0)	0.84	(3.70)	2.8			○																○				末端部両面加工
480		第1土坑	剝片	23.0	26.0	0.87	(3.00)	2.5		線						○		100°			○			○							
481		第1土坑	剝片	33.0	31.3	1.05	5.30	5.0		線						○		101°		○				○							
482		第1土坑	剝片	34.5	20.5	1.68	3.10	1.6		点						○		115°	○					○							
483		第1土坑	剝片	51.5	23.8	2.16	2.10	3.2		点						○		106°	○					○							
484		第1土坑	剝片	(36.5)	(28.5)	1.28	(2.00)	1.2			○								○						○						
485		第1土坑	剝片	(35.5)	(19.0)	1.87	(1.90)	1.1			○														○						末端折れ
486	第20図	第1土坑	石器	(34.5)	(32.5)	1.06	(3.10)	1.5			○														○						末端部加工
487		第1土坑	剝片	(28.0)	(18.0)	1.56	(2.80)	1,4			○								○						○						
488		第1土坑	剝片	41.5	28.5	1.46	3.10	2.4		点						○		126°	○					○							
489		第1土坑	剝片	(30.8)	(33.5)	0.92	(2.80)	1.5			○								○					○							
490		第1土坑	剝片	28.0	26.0	1.08	2.20	1.4		点						○		134°	○									○			
491		第1土坑	剝片	17.5	31.0	0.56	5.10	2.2		無						○		—	○					○							
492		第1土坑	剝片	(36.5)	(35.5)	1.03	(4.80)	7.4			○								○						○						
493		第1土坑	剝片	(34.5)	43.5	0.79	4.40	6.9		線				○		○		122°							○						末端折れ
494		第1土坑	剝片	(48.0)	(33.0)	1.45	(4.20)	4.6			○								○					○							
495		第1土坑	剝片	33.0	30.2	1.09	2.90	4.7	切					○		○		107°						○							末端折れ
496		第1土坑	剝片	(32.0)	32.5	0.98	3.80	4.5	切					○				133°						○							末端折れ
497		第1土坑	剝片	(24.0)	(38.5)	0.62	(1.80)	1.9			○					○			○					○							
498		第1土坑	剝片	(25.5)	(21.0)	1.21	(3.60)	1.4			○										○			○							
499		第1土坑	剝片	39.5	37.5	1.05	5.30	4.6		○						○		98°			○				○						
500	第19図	第1土坑	石鏃	(18.2)	(11.0)	—	2.90	0.5																	○						欠損品
501	第53図	第1土坑	剝片	(37.0)	(64.0)	0.58	(5.30)	11.8			○								○						○						S-38 接合
502	第53図	第1土坑	剝片	(82.0)	(64.0)	1.28	5.40	11.7	切					○		○		126°	○						○						S-38 ~~501+502の~~ 測定
503		第1土坑	剝片	29.5	33.5	0.88	(5.00)	4.4	切					○		○		111°			○				○						
504		第1土坑	剝片	(54.0)	(37.0)	1.46	(4.60)	7.8			○								○						○						
505	第49図	第1土坑	剝片	40.0	(29.0)	1.38	3.70	5.0		線			○			○		117°		○					○						S-25
506		第1土坑	剝片	28.0	(37.0)	0.76	5.00	4.5		線				○		○		116°			○				○						
507		第1土坑	剝片	46.0	(30.0)	1.53	3.70	5.7		線						○		88°	○						○						
508		第1土坑	剝片	(31.0)	(33.0)	0.94	5.80	4.9			○									○									○		
509		第1土坑	剝片	(35.0)	(33.0)	1.06	(4.60)	4.1			○														○						末端折れ
510	第45図	第1土坑	剝片	64.0	57.5	1.11	9.50	29.0		平						○		101°		○					○						S-17
511		第1土坑	剝片	24.0	33.0	0.73	5.60	4.8	切					○		○		125°			○				○						
512		第1土坑	剝片	(30.5)	(40.0)	0.76	(4.80)	5.5			○													○							末端折れ
513		第1土坑	剝片	29.0	28.0	1.04	2.60	2.4	切					○		○		105°	○					○							
514		第1土坑	剝片	56.0	34.5	1.62	3.40	5.6	切					○		○		109°	○									○			
515		第1土坑	剝片	(39.0)	(26.0)	1.50	(4.10)	4.0			○								○						○						
516		第1土坑	剝片	49.5	33.0	1.50	5.35	5.5		線				○		○		122°		○					○						
517		第1土坑	剝片	43.0	32.0	1.34	2.10	3.9		線						○		102°			○							○			
518		第1土坑	剝片	39.0	31.0	1.26	2.45	2.5		線						○		104°	○					○							
519		第1土坑	剝片	(42.0)	31.0	1.35	4.60	5.0	平							○		119°						○							末端折れ
520-a	第20図	第1土坑	石器	(39.0)	(53.5)	0.73	9.50				○														○						末端部加工
520-b																															
521	第48図	第1土坑	剝片	46.0	54.0	0.85	3.90	19.0		点						○		145°		○					○						S-23
522		第1土坑	剝片	(26.5)	(20.0)	1.33	(2.80)	1.7			○										○				○						
523		第1土坑	剝片	(37.0)	(30.0)	1.23	(5.00)	3.2			○													○							末端折れ
524		第1土坑	剝片	(50.5)	(19.5)	2.59	(2.40)	2.2			○								○						○						
525	第43図	第1土坑	剝片	59.0	43.0	1.37	3.40	7.4		線						○		100°			○			○							S-11
526		第1土坑	剝片	41.0	25.0	1.64	2.90	2.1		点						○		128°	○					○							
527		第1土坑	剝片	(33.5)	(42.0)	0.80	(2.30)	3.0			○														○						末端折れ
601			剝片	62.5	48.5	1.29	4.00	11.1		線				○		○		112°	○						○						
602	第45図		剝片	43.0	30.0	1.43	2.30	2.7		線						○		—	○					○							S-16
603-a			剝片	(14.0)	(18.0)	0.78	(1.90)	0.3			○								○					○							
603-b			剝片	33.5	31.5	1.06	5.90	3.9		線						○		82°	○						○						
604																															
605	第24図	第2土坑	石器	67.0	48.9	1.37	8.50	23.0		礫						○		117°							○						スクレイパー
606-a	第26図	第2土坑	石器	78.5	55.5	1.41	8.80	37.2	礫							○		83°	○						○						
606-b	第24図		石器	80.0	58.0	1.38	6.85	40.1	切					○		○		112°	○						○						スクレイパー
607		(第1土坑)	剝片	(35.0)	(42.0)	0.83	(5.80)	7.8			○									○								○			
608		第2土坑	剝片	(88.0)	(48.0)	1.83	(9.20)	35.6			○								○						○						
609		第2土坑	剝片	(68.0)	(49.5)	1.37	(11.20)	22.7			○								○						○						
610	第47図	第2土坑	剝片	(71.5)	(58.0)	1.23	(9.40)	51.8	礫		○				○			119°							○						S-20 末端折れ
611	第26図	第2土坑	剝片	70.5	55.0	1.28	4.45	15.4	切				○			○		98°	○						○						
612	第24図	第2土坑	石器	66.0	48.5	1.36	6.80	26.8	平							○		120°	○						○						スクレイパー
613	第25図	第2土坑	石器	88.0	54.5	1.61	5.20	33.8		礫						○		104°	○						○						スクレイパー
614	第27図	第2土坑	石器	(107.0)	(90.0)	1.19	25.50	219.9			○									○				○							
615	第24図	第2土坑	石器	108.7	38.6	2.82	9.40	44.9			加工														○						スクレイパー
616		第2土坑	剝片	(36.5)	(26.0)	1.40	(3.45)	2.8			○								○						○						
617		第1土坑	剝片	(33.0)	(28.5)	1.16	(7.20)	4.9	礫							○		111°								○					末端折れ
618		第1土坑	剝片	(24.0)	(39.0)	0.62	(6.50)	5.7			○													○							末端折れ
619		第1土坑	剝片	(29.0)	(22.5)	1.29	(2.10)	1.7			○								○						○						
620		第1土坑	剝片	27.0	34.5	0.78	2.85	2.4		平						○		92°	○					○							
621		第1土坑	剝片	52.0	30.0	1.73	4.10	5.4	切				○			○		119°	○						○						
622		第1土坑	剝片	(33.5)	27.2	1.23	3.00	2.4	切					○	○			116°						○							末端折れ
623		第1土坑	剝片	55.0	36.5	1.51	3.50	5.4		線			○			○		113°	○						○						
624	第20図	第1土坑	石器	45.0	44.5	1.01	6.00	11.4			○									○					○						
625		第1土坑	剝片	(54.0)	36.5	1.48	5.10	8.4	切					○		○		130°						○							末端折れ
626		第1土坑	剝片	(29.0)	25.0	1.16	2.30	2.5		線						○		122°							○						末端折れ
627	第45図	第1土坑	剝片	49.0	33.0	1.48	3.05	4.5		線				○		○		—	○					○							S-16
628		第1土坑	剝片	36.5	29.5	1.24	4.00	4.7		線			○		○			123°		○				○							
629		第2土坑	剝片	85.0	67.0	1.27	4.55	28.8	切					○		○		126°	○						○						

第12表　剝片計測属性表 (8)

登録No	図版番号	Grid 層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
630	第24図	第2土坑	石器	92.6	52.5	1.76	12.00	63.3	切					○	○			100°							○						スクレイパー
631	第25図	第2土坑	石器	(80.5)	89.5		16.50	51.9			○									○				○							
632-a		第2土坑	剝片	32.0	28.5	1.12	6.30			○						○								○							末端部加工
632-b	第27図		石器	79.0	60.0	1.32	9.00	37.5	切					○		○		115°	○						○						
633	第28図	第2土坑	石器	(106.0)	(71.5)	1.48	10.70	70.5			○														○						末端折れ
634	第25図	第2土坑	石器	148.0	43.5	3.40	5.50	68.2	切					○		○		104°	○						○						末端に微細有
635-a		第2土坑	剝片	63.0	38.0	1.66	5.00	18.3		○						○			○					○							
635-b	第52図		剝片	(48.5)	(55.5)	0.87	(8.20)	18.3			○														○						S-61　末端折れ
636																															欠番
637	第26図	第2土坑	石器	97.0	74.0	1.31	9.30	59.7	平							○		93°	○						○						末端部一部加工有
638	第39図	第1土坑	剝片	63.0	33.5	1.88	4.30	9.1		線				○		○		120°			○			○							S-3
639	第43図	第1土坑	剝片	47.5	24.0	2.00	2.30	3.6		線				○		○		117°						○							S-9
640	第27図	第2土坑	石器	(106.0)	(59.0)	1.80	(11.10)	47.1	礫									89°	○						○						
641	第27図	第2土坑	石器	91.5	61.5	1.49	13.80	64.4	平						○			127°	○						○						末端部微細有
642	第28図	第2土坑	石器	(111.5)	(58.5)	1.91	(5.90)	84.2			○								○						○						末端部微細有
643	第26図	第2土坑	石器	144.0	49.0	2.94	6.10	72.6			○								○						○						
644		第2土坑	剝片	(95.0)	(49.0)	1.94	(8.80)	26.5			○									○					○						
645	第29図	第2土坑	石器	100.0	59.0	1.69	(11.90)	44.4		点						○		132°	○						○						バルブの末端不明
646	第26図	第2土坑	石器	(81.0)	(50.0)	1.62	(9.30)	32.8			○								○						○						末端部微細有
647	第29図	第2土坑	石器	114.5	55.0	2.08	(16.50)	50.5	切				○		○			107°		○					○						バルブの末端不明
648	第29図	第2土坑	石器	124.5	70.0	1.78	7.60	132.6	平							○		101°		○					○						
649	第25図	第2土坑	石器	101.5	42.0	2.42	7.60	52.2	礫							○		110°	○						○						末端に微細有
650	第29図	第2土坑	石器	(81.0)	(70.0)	1.16	(7.80)	37.3			○														○						末端折れ
651	第25図	第2土坑	石器	81.0	61.0	1.33	6.10	32.7	切					○		○		93°	○						○						
652	第28図	第2土坑	石器	88.0	79.5	1.11	8.60	64.1	平						○			103°	○						○						末端部微細有
653	第28図	第2土坑	石器	(93.5)	(80.0)	1.17	(21.80)	96.5			○								○						○						末端部微細有
654		第2土坑	剝片	34.0	36.0	0.94	7.15	6.0	平							○		100°	○					○						○	バルブの末端不明
655		第2土坑	剝片	26.5	31.0	0.85	2.10	1.3		点							○	115°	○						○						
656		第2土坑	剝片	30.0	28.8	1.04	2.90	1.5		線				○			○	124°	○						○						
657		第2土坑	剝片	40.5	25.5	1.59	3.75	4.1			○								○						○						
658		第2土坑	剝片	(51.5)	28.0	1.84	6.05	7.0	切					○			○	132°							○						末端折れ
659		第2土坑	剝片	(19.0)	(25.0)	0.76	(3.00)	1.0			○								○						○						
660		第2土坑	剝片	(14.5)	(23.0)	0.63	(1.80)	0.5			○													○						○	
661		第2土坑	剝片	27.0	22.0	1.23	2.70	1.2		線							○	97°						○						○	末端折れ
662		第2土坑	剝片	(36.5)	(20.5)	1.78	(4.10)	2.1			○								○						○						
663	第24図	第2土坑	石器	(105.5)	(36.0)	2.93	9.00	37.1																	○						へら状の石器
664		6トレンチ	剝片	(26.5)	(23.0)	1.15	(5.70)	2.3			○													○							末端折れ
665		6トレンチ	剝片	40.0	21.0	1.90	3.20	2.1		点						○		99°	○					○							
666		6トレンチ	剝片	(18.0)	15.5	1.16	2.70	0.7		点						○		126°			○				○						
667		6トレンチ	剝片	(16.5)	(24.5)	0.67	3.50	1.5			○								○							○					
668		6トレンチ	剝片	38.5	30.0	1.28	6.50	5.5	平						○			95°	○									○			
669		6トレンチ	剝片	(31.0)	19.5	1.59	3.00	1.9		線						○		122°						○							末端折れ
670		6トレンチ	剝片	64.5	27.0	2.39	5.10	8.9	平							○		120°	○					○							
671	第19図	6トレンチ(3層)	石鏃	(16.0)	15.2	−	3.70	0.8																							尖部欠損
672		6トレンチ	剝片	(28.0)	34.5	0.81	6.60	6.2		点				○		○		109°							○						末端折れ
673		6トレンチ	剝片	(26.5)	(19.5)	1.36	3.80	2.1			○											△		○							
674		第2土坑	剝片	(25.5)	(42.0)	0.61	(5.00)	3.6			○									○					○						
675		6トレンチ	剝片	29.0	36.0	0.81	5.80	6.4	切					○		○		119°						○							末端部加工有
676		第2土坑	剝片	33.0	26.5	1.25	6.90	3.7		点						○		106°							○						末端折れ
677		第2土坑	剝片	(32.0)	(32.5)	0.98	(7.80)	5.9			○								○						○						
678		第2土坑	剝片	(22.0)	(17.5)	1.26	(5.50)	2.0			○														○						
679		第2土坑	剝片	41.0	22.5	1.82	4.10	2.1		線				○			○	112°	○						○						
680		6トレンチ	剝片	(32.5)	(28.5)	1.14	(1.65)	3.9			○								○										○		
681		6トレンチ	礫																												
682	第12図	6トレンチ Pit19	エンドスクレイパー	(48.5)	(44.0)	1.10	9.15	24.9			○																	○			
683		6トレンチ	剝片	(35.0)	28.0	1.25	3.10	2.3		線			○			○		132°						○							末端折れ
684		6トレンチ	剝片	(41.0)	(24.0)	1.71	2.80	2.0			○								○						○						
685		6トレンチ	剝片	(23.0)	19.0	1.21	2.40	1.1		○						○		128°						○							末端折れ
686																															
687																															
688		6トレンチ	剝片																												
689	第20図	第1土坑	石器	80.0	85.0	0.94	11.90	64.8	切					○	○			106°		○						○					微細剝離有
690	第18図	第1土坑	石器	122.5	97.2	1.26	23.00	299.2																	○						大型両面加工
691		6トレンチ	土器																												
692		6トレンチ	土器																												NO.180〜190 周辺の土器
693		6トレンチ北端4層西壁	土器																												
694		第1土坑	土器																												
695		5トレンチ 3層中	土器																												
696																															
697																															
698																															
699																															
700																															
701	第53図	第1土坑	剝片	(17.0)	(25.0)	0.68	1.80	0.8			○														○						S-39　末端折れ
702		第1土坑	剝片	25.5	22.0	1.16	2.20	1.3		線					○			83°	○						○						
703		第1土坑	剝片	27.0	26.0	1.04	3.00	2.3			○					○					○				○						
704	第44図	第1土坑	剝片	(23.0)	(18.0)	1.28	(3.50)	1.3			○								○						○						S-13
705		第1土坑	剝片	(25.0)	(11.0)	2.27	(4.90)	0.9			○								○						○						
706		第1土坑	剝片	(26.5)	23.0	1.15	2.70	1.6			○														○						末端折れ
707		第1土坑	剝片	32.5	25.0	1.30	2.70	1.8		線				○		○		113°	○						○						
708		第1土坑	剝片	30.0	45.5	0.66	6.70	9.9	切					○	○			98°			○				○						
709		第1土坑	剝片	31.5	28.0	1.13	1.80	1.7		線			○			○		123°	○						○						
710		第1土坑	剝片	34.5	30.5	1.13	2.20	2.0		線			○			○		116°	○						○						

第13表　剥片計測属性表 (9)

登録No.	図版番号	Grid 層	器種	剥片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剥離角	末端部の形状 通常	ちょうちがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
711		第1土坑	剥片	(17.0)	(15.5)	1.10	(1.10)	0.5			○								○						○						
712	第54図	第1土坑	剥片	(29.0)	(21.0)	1.38	(3.50)	2.1			○														○						S-52　末端折れ
713		第1土坑	剥片	(11.0)	(16.0)	0.69	(1.30)	0.2			○								○						○						末端折れ
714		第1土坑	剥片	(36.0)	25.0	1.44	3.20	4.0		線			○			○		105°							○						
715		第1土坑	剥片	(29.0)	(35.0)	0.83	(5.50)	4.5			○								○					○							
716		第1土坑	剥片	(15.5)	(31.0)	0.50	(2.50)	1.0			○								○					○							
717	第38図	第1土坑	剥片	(39.0)	(25.0)	1.56	(4.00)	2.8			○													○							S-1　末端折れ
718		第1土坑	剥片	(16.0)	(19.5)	0.82	(2.10)	0.7			○									○				○							
719		第1土坑	剥片	(19.0)	26.0	0.73	1.90	1.0		点						○		110°						○							末端折れ
720		第1土坑	剥片	(19.0)	(27.0)	0.70	(2.60)	1.0			○													○							末端折れ
721		第1土坑	剥片	(24.0)	24.0	1.00	3.30	2.2		線				○		○		110°						○							末端折れ
722		第1土坑	剥片	(18.5)	(19.0)	0.97	(2.10)	1.2			○									○				○							
723		第1土坑	剥片	(22.0)	(19.0)	1.16	4.40	1.6		平						○		112°	○					○							S-2
724		第1土坑	剥片	(15.0)	18.0	0.83	2.10	0.8		平						○		96°						○							末端折れ
725	第53図	第1土坑	剥片	(23.5)	(16.0)	1.47	(2.30)	0.9			○								○					○							S-34
726		第1土坑	剥片	(29.0)	(9.0)	3.20	(2.00)	0.6			○									○				○							
727		第1土坑	剥片	(27.0)	(17.0)	1.59	(2.90)	1.3			○								○					○							
728	第53図	第1土坑	剥片	(16.0)	(9.0)	1.78	(1.60)	0.1			○								○					○							S-33
729		第1土坑	剥片	(13.0)	(18.0)	0.72	(0.50)	0.1			○								○												
730		第1土坑	剥片	(15.0)	(13.0)	1.15	(1.30)	0.1			○								○					○							末端折れ
731		第1土坑	剥片	(10.0)	(15.0)	0.67	(0.90)	(0.1)			○								○					○							
732		第1土坑	剥片	(9.0)	(6.0)	1.50	(1.10)	(0.1)			○								○					○							
733		第1土坑	剥片	(8.5)	(9.0)	0.94	(1.00)	(0.1)			○										○			○							
734	第53図	第1土坑	剥片	(8.5)	(26.0)	0.33	(3.40)	0.8			○									○				○							S-40
735		第1土坑	剥片	(18.0)	(14.0)	1.29	(1.00)	0.4			○													○							末端折れ
736		第1土坑	剥片	(21.5)	(10.00)	2.15	0.50	0.1			○								○					○							
737		第1土坑	剥片	(11.0)	(24.0)	0.46	(0.90)	0.3			○													○							末端折れ
738		第1土坑	剥片	(11.0)	(16.0)	0.69	(2.00)	0.3			○								○					○							
739		第1土坑	剥片	(19.0)	(14.0)	1.36	(1.70)	0.5			○								○					○							
740		第1土坑	剥片	(17.0)	(18.0)	0.94	(9.00)	0.1			○								○					○							
741		第1土坑	剥片	(14.0)	(11.0)	1.27	(2.20)	0.3			○													○							末端折れ
742		第1土坑	剥片	(16.0)	(9.0)	1.78	(1.90)	0.3			○													○							末端折れ
743		第1土坑	剥片	(12.0)	(20.0)	0.60	(1.50)	0.3			○													○							末端折れ
744		第1土坑	剥片	(13.0)	(11.0)	1.18	(1.90)	0.1			○								○					○							
745		第1土坑	剥片	(9.0)	(15.0)	0.60	(0.80)	0.1			○													○							末端折れ
746		第1土坑	剥片	(9.0)	(9.0)	1.00	(1.10)	0.1			○													○							末端折れ
747		第1土坑	剥片	(5.5)	(15.0)	0.37	(0.50)	(0.1)			○									○				○							
748		第1土坑	剥片	(9.0)	(16.0)	0.56	(1.50)	(0.1)			○													○							末端折れ
749		第1土坑	剥片	(10.0)	(11.0)	0.91	(1.60)	0.2			○													○							末端折れ
750		第1土坑	剥片	(7.0)	(9.5)	0.74	(1.40)	0.1			○								○					○							
751		第1土坑	剥片	(9.0)	(21.0)	0.43	(0.50)	0.1			○								○					○							
752		第1土坑	剥片	(18.5)	(25.0)	0.74	(3.40)	1.5			○								○						○						
753		第1土坑	剥片	(18.0)	(21.5)	0.84	(2.40)	1.2			○														○						末端折れ
754	第54図	第1土坑	剥片	(15.5)	(19.0)	0.82	3.10	1.3	切					○		○		131°							○						S-50　末端折れ
755		第1土坑	剥片	21.5	25.0	0.86	2.50	1.4		点							○	119°		○					○						
756	第54図	第1土坑	剥片	(21.5)	(9.0)	2.39	(4.10)	0.9			○								○						○						S-50
757		第1土坑	剥片	(13.0)	(12.5)	1.04	(1.40)	0.2			○								○						○						
758		第1土坑	剥片	(14.0)	(19.0)	0.74	(3.10)	1.1			○														○						末端折れ
759	第52図	第1土坑	剥片	24.0	27.0	0.89	1.70	1.9		平					○			120°	○					○							S-60
760		第1土坑	剥片	(20.5)	(9.0)	2.30	(2.60)	0.4			○								○						○						
761		第1土坑	剥片	(9.0)	(14.0)	0.64	(1.60)	0.3			○														○						末端折れ
762		第1土坑	剥片	(10.5)	(8.0)	1.31	(2.50)	0.2			○								○						○						
763		第1土坑	剥片	(7.0)	(13.0)	0.54	(2.30)	0.1			○								○						○						
764		第1土坑	剥片	(9.0)	13.5	0.67	2.30	0.3		点						○		97°							○						末端折れ
765		第1土坑	剥片	(16.0)	(13.0)	1.23	(0.80)	0.1			○								○						○						
766		第1土坑	剥片	(4.5)	(9.0)	0.50	(2.20)	0.1			○														○						末端折れ
767		第1土坑	剥片	(6.0)	(15.0)	0.40	(0.7)	(0.1)			○								○						○						
768		第1土坑	剥片	(5.0)	(12.5)	0.40	(0.80)	(0.1)			○									○					○						
769		第1土坑	剥片	(7.5)	(10.5)	0.71	(2.80)	(0.1)			○								○						○						
770		第1土坑	剥片	(6.0)	(4.0)	1.50	(0.40)	——			○														○						末端折れ
771		第1土坑	剥片	(3.5)	(9.0)	0.39	(0.80)	——			○														○						末端折れ
772		第1土坑	剥片	(5.5)	(7.0)	0.79	(1.50)	(0.1)			○														○						末端折れ
773		第1土坑	剥片	(4.5)	(7.0)	0.64	(0.80)	——			○														○						末端折れ
774		第1土坑	剥片	(11.5)	(4.0)	2.88	(0.50)	——			○														○						末端折れ
775		第1土坑	剥片	(5.0)	(6.0)	0.83	(1.00)	(0.1)			○														○						末端折れ
776		第1土坑	剥片	(5.5)	(5.0)	1.10	(0.60)	——			○								○						○						末端折れ
777	第53図	第1土坑	剥片	(25.0)	(18.5)	1.35	2.70	1.4	切				○			○		129°	○						○						S-32
778		第1土坑	剥片	(11.0)	(5.0)	2.20	(2.00)				○														○						末端折れ
779		第1土坑	剥片	(6.0)	(12.0)	0.50	(1.00)	0.1			○								○						○						
780		第1土坑	剥片	(8.0)	(7.0)	1.14	(0.60)	——			○														○						末端折れ
781-a		第1土坑	剥片	(9.0)	(7.0)	1.29	(0.40)	0.1			○														○						末端折れ
781-b		第1土坑	剥片	(10.5)	(13.5)	0.78	(1.85)	——			○								○						○						
782	第53図	第1土坑	剥片	(24.5)	(12.0)	2.04	(2.70)	1.2			○																	○			S-43　末端折れ
783		第1土坑	剥片	28.0	25.5	1.10	2.10	2.3		線						○		97°	○									○			
784		第1土坑	剥片	(20.0)	(15.5)	1.29	(0.80)	0.6			○								○									○			
785	第46図	第1土坑	剥片	(14.5)	(21.0)	0.69	(3.40)	1.1			○								○									○			S-18
786		第1土坑	剥片	32.5	20.0	1.63	3.40	2.2		無						○		135°			○							○			
787	第54図	第1土坑	剥片	(9.0)	(18.0)	0.50	(1.00)	0.2			○								○									○			S-65
788		第1土坑	剥片	(15.5)	(15.0)	1.03	(2.60)	0.5			○								○									○			
789		第1土坑	剥片	35.0	24.0	1.46	4.75	4.3	切					○	○			102°	○					○							
790		第1土坑	剥片	(23.0)	(21.0)	1.10	(2.75)	1.2			○									○					○						
791		6トレンチ	剥片	32.0	32.0	1.00	3.10	2.2		線				○		○		121°	○						○						
792		6トレンチ	剥片	(13.0)	(21.0)	0.62	(3.40)	1.2			○														○						末端折れ

第14表　剝片計測属性表 (10)

登録No.	図版番号	Grid層	器種	剝片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剝離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもぶり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
793		6トレンチ	剝片	(10.0)	(24.0)	0.42	(1.50)	0.3			○								○						○						
794		6トレンチ	剝片	(3.0)	(4.0)	0.75	(0.50)	−			○														○						末端折れ
795		6トレンチ	剝片	(7.0)	(3.0)	2.33	(1.20)	−			○														○						末端折れ
796		6トレンチ	剝片	(4.0)	(12.0)	0.33	(1.40)	−			○														○						末端折れ
797		6トレンチ	剝片	(9.0)	(7.0)	1.29	(1.50)	−			○														○						末端折れ
798		6トレンチ	剝片	(13.5)	(23.0)	0.59	(2.90)	0.6			○														○						末端折れ
799	第47図	6トレンチ	剝片	(12.0)	(10.5)	1.14	(1.50)	0.1			○														○						S-21　末端折れ
800		6トレンチ	剝片	(16.5)	(11.0)	1.50	(2.80)	0.3			○								○						○						
801		6トレンチ	剝片	(8.0)	(7.5)	1.07	(0.90)	−			○								○						○						
802	第47図	6トレンチ	剝片	(10.5)	(9.5)	1.11	(1.45)	0.1			○								○						○						S-21
803		6トレンチ	剝片	(17.0)	14.0	1.21	(1.80)	0.5		線						○		112°							○						末端折れ
804		6トレンチ	剝片	(16.0)	(18.0)	0.89	(2.65)	0.7			○														○						末端折れ
805		6トレンチ	剝片	(5.0)	(23.0)	0.22	(1.70)	0.1			○														○						末端折れ
806		6トレンチ	剝片	(17.0)	(14.5)	1.17	(2.20)	0.3			○														○						末端折れ
807		6トレンチ	剝片	9.5	9.0	1.06	1.60	0.1		線				○		○		107°	○						○						
808	第54図	6トレンチ	剝片	(9.0)	(11.0)	0.82	(3.45)	0.3			○														○						S-49　末端折れ
809		6トレンチ	剝片	(16.5)	(18.0)	0.92	(1.75)	0.4			○														○						末端折れ
810		6トレンチ	剝片	(17.0)	(14.0)	1.21	(2.30)	0.4			○														○						末端折れ
811	第54図	6トレンチ	剝片	(13.0)	(12.5)	1.04	(2.50)	0.4			○														○						S-53　末端折れ
812		6トレンチ	剝片	7.5	13.0	0.58	1.10	0.1		平							○	91°	○						○						
813		6トレンチ	剝片	(16.0)	(16.0)	1.00	(1.50)	0.3			○														○						末端折れ
814		6トレンチ	剝片	(10.5)	(9.0)	1.17	(1.80)	0.1			○								○						○						
815		6トレンチ	剝片	(10.0)	(6.5)	1.54	(2.55)	0.1			○								○						○						
816		6トレンチ	剝片	(8.5)	(10.0)	0.85	(1.55)	0.1			○														○						末端折れ
817		6トレンチ	剝片	(10.0)	(8.5)	1.18	(1.30)	0.1			○														○						末端折れ
818		6トレンチ	剝片	(12.0)	(9.0)	1.33	(1.10)	0.1			○								○						○						
819		6トレンチ	剝片	(6.0)	(6.0)	1.00	(1.40)	0.1			○														○						末端折れ
820		6トレンチ	剝片	(5.5)	(7.5)	0.73	(1.40)	0.1			○														○						末端折れ
821		6トレンチ	剝片	(3.0)	(7.0)	0.43	(0.80)	−			○														○						末端折れ
822		6トレンチ	剝片	(7.5)	(5.0)	1.50	(1.40)	−			○								○						○						
823		6トレンチ	剝片	(5.0)	(3.0)	1.67	(1.80)	−			○														○						末端折れ
824		6トレンチ	剝片	(15.5)	(19.5)	0.79	3.40	0.9		平						○		116°									○				S-47　301＋370と接合
825		6トレンチ	剝片	19.5	17.5	1.11	2.70	0.7		点				○			○	123°			○						○				
826		6トレンチ	剝片	14.0	17.0	0.82	2.65	0.6			○																○				末端折れ
827		6トレンチ	剝片	(8.5)	(21.0)	0.40	(2.20)	0.3			○																○				末端折れ
828		6トレンチ	剝片	(11.0)	(14.0)	0.79	(1.95)	0.3			○									○							○				
829		6トレンチ	剝片	(10.5)	(13.5)	0.78	(1.70)	0.2			○								○								○				
830		6トレンチ	剝片	(11.5)	(11.5)	1.00	(1.80)	0.2			○								○								○				
831		6トレンチ	剝片	(32.5)	(22.0)	1.48	(4.85)	1.8			○															○					末端不明
832	第54図	6トレンチ	剝片	(18.5)	(12.0)	1.54	(4.35)	0.6			○															○					S-64　末端部加工有
833		6トレンチ	剝片	(13.0)	(12.0)	1.08	(3.25)	0.1			○								○							○					
834		6トレンチ	剝片	(8.5)	(14.5)	0.59	(3.05)	0.1			○															○					末端不明
835		6トレンチ	剝片	(6.0)	(15.5)	0.39	(3.30)	0.1			○															○					末端不明
836		6トレンチ	剝片	(8.0)	(5.0)	1.60	(2.40)	−			○															○					末端不明
837		6トレンチ	剝片	(3.5)	(7.0)	0.50	(2.45)	−			○								○							○					
838		6トレンチ	剝片	(6.0)	(9.0)	0.67	(3.05)	0.1			○															○					末端不明
839		6トレンチ	剝片	(11.5)	(10.0)	1.15	(1.30)	−			○															○					末端不明
840		6トレンチ	剝片	(7.0)	(4.5)	1.56	(1.90)	−			○															○					末端不明
841		6トレンチ	剝片	(5.5)	(13.0)	0.42	(2.05)	0.1			○															○					末端不明
842		4層－イ	剝片	(9.0)	(16.5)	0.55	(3.00)	0.3			○														○					○	末端不明
843		4層－イ	剝片	(22.5)	(12.0)	1.88	(3.55)	0.5			○													○							末端折れ
844		4層－ロ	剝片	17.5	19.0	0.92	3.70	1.1		線				○		○		122°	○						○						
845		4層－ロ	剝片	21.0	28.5	0.74	2.40	1.1		線						○		111°	○						○						
846		4層－ホ	剝片	(16.0)	(28.0)	0.57	(3.00)	0.9			○								○					○							
847		4層－ホ	剝片	15.5	15.5	1.00	2.70	0.8		礫						○		122°	○						○						
848		4層－ホ	剝片	29.5	18.5	1.59	2.10	0.9		点						○		110°	○					○							
849		4層－ホ	剝片	(23.0)	(14.0)	1.64	(3.00)	0.7			○								○						○						
850	第52図	4層－ホ	剝片	(21.0)	(15.5)	1.35	(4.90)	1.4			○														○					○	S-66　末端不明
851		4層－ホ	剝片	(18.5)	(12.5)	1.48	(4.40)	0.8			○								○						○						
852		4層－ホ	剝片	(13.5)	(17.5)	0.77	(4.50)	1.2			○														○						末端折れ
853		4層－ホ	剝片	(11.5)	(25.5)	0.45	(3.70)	0.9			○														○						末端折れ
854		4層－ホ	剝片	(4.5)	(11.0)	0.41	(0.90)	−			○														○						末端折れ
855		4層－ホ	剝片	28.5	16.5	1.73	1.70	0.8		線							○	92°	○						○						
856		4層－ホ	剝片	(21.0)	(31.0)	0.68	(2.25)	0.9			○								○						○						
857		4層－ホ	剝片	(31.5)	(31.0)	1.02	(3.80)	2.7			○									○					○						
858		4層－ホ	剝片	(25.0)	(38.0)	0.66	(4.90)	3.5			○														○						末端折れ
859		4層－ホ	剝片	(33.0)	(21.0)	1.57	(5.70)	2.5			○								○						○						
860		4層－ホ	剝片	(8.5)	(14.5)	0.59	(1.60)	0.1			○								○						○						
861		4層－ホ	剝片	(20.0)	(10.5)	1.90	(2.80)	0.6			○														○						末端折れ
862		4層－ホ	剝片	(23.0)	15.0	1.53	1.65	0.5		点							○	102°							○						末端折れ
863		4層－ホ	剝片	(20.5)	(26.5)	0.77	(3.80)	1.7			○									○					○						
864		4層－ホ	剝片	41.0	24.0	1.71	4.90	3.8		点						○		100°						○							末端折れ
865		4層－ホ	剝片	22.0	13.0	1.69	1.75	0.1		線				○		○		112°													末端折れ
866		4層－ヘ	剝片	(21.0)	(10.0)	2.10	(5.50)	0.9			○														○						末端不明
867		4層－ヘ	剝片	(12.0)	(14.5)	0.83	(1.60)	(0.1)			○								○						○						末端折れ
868		4層－ヘ	剝片	(14.5)	(7.0)	2.07	(1.50)	0.1			○														○						末端折れ
869		4層－ヘ	剝片	(26.5)	(31.5)	0.84	(5.60)	3.9			○														○						末端折れ
870		4層－カ	剝片	17.5	13.0	1.35	(2.45)	0.6		線							○	122°		○					○						バルブ末端不明
871		4層－カ	剝片	(16.0)	(17.5)	0.91	(3.20)	0.9			○														○						末端折れ
872		4層－カ	剝片	17.5	21.0	0.83	3.15	1.1		線						○		111°							○						末端折れ
873		4層－ソ	剝片	24.0	20.0	1.20	3.10	1.3		線						○		114°						○							末端部加工有
874		4層－ソ	剝片	(20.0)	(16.5)	1.20	(3.00)	0.6			○														○						末端折れ
875		4層－ト	剝片	(26.0)	(15.0)	1.73	(2.80)	0.7																	○					○	

第15表　剥片計測属性表 (11)

登録No.	図版番号	Grid層	器種	剥片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剥離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面礫皮	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒＋グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
876		4層－ト	剥片	23.0	23.0	1.00	3.10	1.8		点						○		127°						○							末端折れ
877		4層－チ	剥片	(26.0)	(14.0)	1.86	(2.90)	1.2			○									○					○						
878		4層－ヌ	剥片	27.0	18.0	1.50	(6.50)	3.0	平							○		99°							○						末端折れ
879		4層－ヌ	剥片	22.0	25.5	0.86	3.40	1.9		線						○		106°		○					○						
880		4層－ヌ	剥片	6.0	5.5	1.09	0.90	0.1		点						○		110°			○				○						
881		4層－ヌ	剥片	(17.0)	(17.0)	1.00	(2.20)	0.7			○									○					○						
882		4層－ヌ	剥片	(21.0)	(15.0)	1.40	(2.00)	0.4			○														○						末端折れ
883		4層－ヌ	剥片	(13.0)	(16.0)	0.81	(1.10)	0.2			○										○				○						
884		4層－ル	剥片	(8.0)	(9.0)	0.89	(2.80)	0.1			○													○							末端折れ
885		4層－ル	剥片	10.5	8.5	1.24	2.30	0.2		線						○		92°	○						○						
886		4層－ワ	剥片	21.0	21.5	0.98	4.50	2.5	平							○		127°	○						○						
887		4層－タ	剥片	20.0	23.0	0.87	1.80	1.1			○					○			○						○						
888		4層－タ	剥片	(21.0)	(13.0)	1.62	(3.00)	0.9			○								○						○						
889	第53図	4層－タ	剥片	(12.0)	(14.0)	0.86	3.00	0.7		線				○		○		124°						○							S-31
890		4層－タ	剥片	(5.0)	(22.0)	0.23	(2.60)	0.3			○														○						
891		4層－タ	剥片	(8.0)	(9.0)	0.89	(4.00)	0.2			○								○						○						
892	第53図	4層－タ	剥片	(20.0)	(24.0)	0.83	(6.00)	3.2			○													○						○	S-31　末端折れ
893		4層－タ	剥片	(17.0)	(9.0)	1.89	(5.10)	0.6			○														○					○	
894		4層－タ	剥片	(33.0)	(27.0)	1.22	(2.80)	2.2			○								○						○						
895		4層－レ	剥片	19.0	20.0	0.95	2.50	1.1		点						○		106°	○						○						
896		4層－レ	剥片	(12.0)	(16.0)	0.75	(2.00)	0.3			○																				末端折れ
897		4層－レ	剥片	(20.0)	(22.0)	0.91	(4.50)	1.3			○								○						○						
898		4層－レ	剥片	32.0	27.0	1.19	4.80	2.7	平							○		89°	○						○						
899		4層－レ	剥片	27.0	17.0	1.59	2.50	0.9		点						○		115°	○						○						
900		4層－ナ	剥片	(8.0)	(9.0)	0.89	(0.80)	0.1			○								○						○						
901		4層－ナ	剥片	(9.0)	(20.0)	0.45	(2.10)	0.3			○									○					○						
902		4層－ナ	剥片	(31.0)	(15.0)	2.07	(3.90)	1.5			○														○						末端折れ
903		4層－ナ	剥片	(16.0)	(13.0)	1.23	(1.70)	0.4			○								○						○						
904		4層－ヰ	剥片	(11.5)	(17.0)	0.68	(3.60)	0.6			○														○						末端折れ
905		4層－ヤ	剥片	(17.0)	(17.5)	0.97	(2.20)	0.7			○														○						末端折れ
906		4層－ク	剥片	19.0	8.5	2.24	2.00	0.2	線							○		142°	○						○						
907		4層－ク	剥片	(20.0)	(18.0)	1.11	(2.45)	0.7			○															○					末端折れ
908	第54図	第1土坑付近	剥片	34.5	14.0	2.46	3.95	2.2		切			○			○		—	○					○							S-62　右端折れ
909		第1土坑付近	剥片	(30.0)	23.5	1.28	3.75	2.6			加工														○						末端折れ
910		第1土坑付近	剥片	(23.5)	(29.5)	0.80	2.30	1.7			○																	○			打・末端折れ
911		第1土坑付近	剥片	(31.5)	(17.0)	1.85	2.65	1.3			○					○				○				○							バルブ点で折れ
912		第1土坑付近	剥片	27.5	24.0	1.15	3.65	1.8			加工								○						○						バルブ剥離
913		第1土坑付近	剥片	45.5	20.0	2.28	4.70	4.5	平							○		114°			○				○						
914		第1土坑付近	剥片	(17.0)	(8.0)	2.13	3.00	0.3			○								○						○						打面折れ
915		第1土坑付近	剥片	13.5	15.0	0.90	2.20	0.3		点						○		108°			○					○					
916	第54図	第1土坑付近	剥片	(14.0)	9.0	1.56	2.20	0.2			○													○							S-62
917		第1土坑付近	剥片	12.0	11.0	1.09	2.00	0.3	平							○		115°	○					○						○	
918	第52図		剥片	36.0	23.0	1.57	2.50	2.9		線				○	○			90°		○				○							S-60
919	第54図	第1土坑推積土	剥片	(21.0)	(14.0)	1.50	2.40	0.5			○					○									○						S-63　429と接合
920	第54図	第1土坑推積土	剥片	(19.0)	(17.0)	1.12	1.40	0.7		点							○	114°							○						S-65　末端折れ
921	第49図	第1土坑推積土	剥片	44.0	31.0	1.42	1.95	2.3		線						○		132°	○							○					S-24　S-24と接合
922		第1土坑推積土	剥片	(29.5)	22.0	1.34	3.60	1.6			○								○						○						打面折れ
923		第1土坑推積土	剥片	(24.0)	26.0	0.92	2.40	1.4			○								○						○						打面折れ
924		第1土坑推積土	剥片	(23.0)	25.0	0.92	11.30	7.0	平						○			111°						○							末端折れ
925		第1土坑推積土	剥片	(37.0)	27.0	1.37	2.10	2.4			○								○					○							
926		第1土坑推積土	剥片	25.0	22.0	1.14	4.35	2.3	平						○			119°	○					○							
927		第1土坑推積土	剥片	(34.0)	32.0	1.06	2.30	2.4			○								○					○							
928		第1土坑推積土	剥片	19.0	19.5	0.97	2.50	0.8		点					○			120°			○				○						
929		第1土坑推積土	剥片	29.0	24.0	1.21	3.45	1.8		線				○		○		139°	○								○				
930		第1土坑推積土	剥片	(31.0)	21.5	1.44	2.30	1.6			○								○							○					
931		第1土坑推積土	剥片	22.0	18.5	1.19	2.20	0.8		線						○		106°	○							○					
932		第1土坑推積土	剥片	24.5	16.0	1.53	2.15	0.9			○									○						○					
933		第1土坑推積土	剥片	(22.0)	20.0	1.10	4.20	1.3	切					○			○	137°								○					
934		第1土坑推積土	剥片	(9.0)	13.5	0.67	0.70	0.1			○								○							○					
935		第1土坑推積土	剥片	(15.0)	(17.0)	0.88	1.70	0.4			○								○					○							
936		第1土坑推積土	剥片	(13.0)	14.0	0.93	2.55	0.6			○																○				上下欠落
937		第1土坑推積土	剥片	(16.5)	15.0	1.10	2.40	0.5			○														○						末端折れ
938		第1土坑推積土	剥片	(14.0)	18.5	0.76	1.75	0.3			○								○						○						
939		第1土坑推積土	剥片	(14.0)	(14.0)	1.00	2.15	0.3			○									○					○						
940		第1土坑推積土	剥片	21.5	19.0	1.13	4.40	2.8	平							○		67°	○							○					
941		第1土坑推積土	剥片	(18.0)	39.0	0.46	6.40	4.8			○								○							○					末端加工
942		第1土坑推積土	剥片	(14.0)	18.5	0.76	1.85	0.7	切				○			○		121°											○		
943	第38図	第1土坑	剥片	(39.5)	(25.0)	1.58	5.10	3.7			○								○					○							S-1
944		第1土坑	剥片	(22.0)	(27.5)	0.80	5.20	2.4			○								○						○						
945		第1土坑上面	剥片	32.5	25.0	1.30	8.95	5.8			○													○							
946		第1土坑上面	剥片	23.0	31.0	0.74	5.50	3.1	平						○			112°		○							○				
947		第1土坑上面	剥片	(13.5)	29.0	0.47	4.30	1.6			○										○						○				
948		第1土坑上面	剥片	(19.0)	27.0	0.70	4.70	1.6			○								○						○						
949		第1土坑上面	剥片	(17.5)	16.0	1.09	2.20	0.8			○								○						○						
950	第52図	第1土坑上面	剥片	37.0	34.5	1.07	4.80	7.2	平								○	97°		○					○						S-59
951		第1土坑上面	剥片	(18.0)	17.5	1.03	1.90	0.5			○										○				○						
952		第1土坑上面	剥片	(20.5)	(20.5)	1.00	1.60	0.6			○										○					○					
953		第1土坑上面	剥片	(7.5)	13.0	0.58	0.50	0.1			○								○						○						
954		第1土坑上面	剥片	(15.0)	(12.5)	1.20	6.65	1.6			○																		○		末端折れ
955		第1土坑上面	剥片	40.0	24.5	1.63	2.70	2.0		点						○		110°		○					○						
956		第1土坑上面	剥片	17.0	15.0	1.13	3.50	0.8		線				○		○		137°							○						末端折れ
957		6トレ3層地山ブロック	剥片	22.0	27.0	0.81	2.20	1.5		平						○		104°			○				○						
958		6トレ3層地山ブロック	剥片	33.0	20.5	1.61	4.00	3.0	切			○				○		118°	○								○				

第16表　剥片計測属性表 (12)

登録No.	図版番号	Grid層	器種	剥片測定 長(mm)	幅(mm)	長/幅指数	厚(mm)	重(g)	打面形態 普	小	欠落(折れ)	切子打面 イ	ロ	ハ	バルブの大きさ 強	中	弱	剥離角	末端部の形状 通常	ちょうつがい	階段状	アーチ状	背面構成	石材 黒	グレイ	白	グレイ(しもふり)	黒+グレイ(しましま)	その他	受熱	備考
959		6トレ3層地山ブロック	剥片	20.0	48.0	0.42	3.30	3.4	切			○				○		98°	○					○							
960		6トレ3層地山ブロック	剥片	35.0	26.0	1.35	3.70	2.6		線				○		○		138° 131°	○							○					
961		6トレ3層地山ブロック	剥片	19.5	17.0	1.15	3.35	1.1	切					○			○	107°	○										○		赤茶
962		6トレ3b層第1土坑内	剥片	(25.0)	11.5	2.17	2.20	0.7			○										○				○						
963		第1土坑上面東	剥片	(15.0)	20.0	0.75	2.00	0.8			○								○							○					
964		第1土坑上面東	剥片	(11.0)	15.5	0.71	1.30	0.1			○								○					○							
965		第1土坑上面東	剥片	(10.0)	10.0	1.00	1.45	0.1			○								○						○						
967		第1土坑	剥片	22.0	17.0	1.29	3.00	1.1		線				○		○		112°			○							○			
968		第1土坑	剥片	(26.0)	27.0	0.96	2.45	1.7			○										○			○							
969		第1土坑	剥片	(18.0)	17.5	1.02	2.05	1.0			○								○					○							
970		第1土坑	剥片	(21.0)	27.0	0.78	3.60	1.9			○								○					○							
971		第1土坑	剥片	(22.0)	(19.0)	1.16	1.10	0.8			○								○						○						
972		第1土坑	剥片	(13.0)	(15.0)	0.87	1.90	0.4		点						○		80°							○						末端折れ
973		第1土坑	剥片	28.0	16.0	1.75	1.65	1.0		点						○		93°	○						○						
974		第1土坑	剥片	(25.0)	(14.5)	1.72	2.90	1.0		点						○		100°							○						末端折れ
975	第54図	第1土坑	剥片	(13.0)	(15.0)	0.87	2.90	0.5			○														○						S-64　末端折れ
976		第1土坑	剥片	(12.5)	(12.5)	1.00	0.65	0.4			○									○				○							
977		第1土坑	剥片	(10.5)	(22.0)	0.48	1.70	0.5			○								○						○						
978		第1土坑	剥片	(20.0)	(11.0)	1.82	0.80	0.3			○														○						末端折れ
979		第1土坑	剥片	(7.0)	(17.0)	0.41	2.60	0.4			○													○							末端折れ
980		第1土坑	剥片	(7.5)	(16.5)	0.45	1.00	0.1			○								○					○							
981		第1土坑	剥片	(5.5)	(20.0)	0.28	2.70	0.3			○									○				○							
982		第1土坑	剥片	(10.0)	(12.5)	0.80	1.40	0.1			○								○					○							
983		第1土坑	剥片	(4.0)	(15.0)	0.27	3.30	0.2			○													○							末端折れ
984		第1土坑	剥片	(13.5)	(9.5)	1.42	1.20	0.1			○													○							末端折れ
985		第1土坑	剥片	(7.5)	(13.0)	0.58	0.70	0.1			○									○						○					
986		第1土坑	剥片	(10.0)	(10.5)	0.95	1.50	0.1			○														○						末端折れ
987		第1土坑	剥片	7.0	6.5	1.08	0.85	−		点						○		101°	○						○						
988		第1土坑	剥片	(8.0)	(4.0)	2.00	0.90	−			○														○						末端折れ
989		第1土坑	剥片	(5.0)	(13.0)	0.38	1.05	−			○								○					○							
993	第52図	第2土坑	剥片	(50.5)	36.0	1.40	4.10	6.2			○								○									○		○	S-66
994	第52図	第2土坑	剥片	(8.0)	(8.0)	1.00	0.65	0.1			○													○						○	S-66　火はねの穴に接合
995		第2土坑	剥片	31.0	16.0	1.94	2.35	1.2		線						○		117°	○					○							
996		第2土坑	剥片	28.5	17.0	1.67	1.35	0.9		点							○	108°	○					○							
997		第2土坑	剥片	38.0	21.0	1.81	2.10	3.1		線							○	95°	○						○						
998		第2土坑	剥片	15.0	21.0	0.71	(2.35)	0.9	切					○		○		109°		○					○						バルブの末端不明
999		第2土坑	剥片	(22.5)	16.0	1.41	1.10	0.8		点						○		116°						○							末端折れ
1000		第2土坑	剥片	(18.0)	(10.0)	1.80	1.90	0.3			○								○						○						
1001		第2土坑	剥片	(13.0)	(18.0)	0.72	2.70	0.7			○																	○		○	末端折れ
1002		第2土坑	剥片	(9.5)	(7.0)	1.36	0.85	0.1			○								○						○						
1003		第2土坑	剥片	(10.0)	(11.0)	0.91	0.80	0.1			○														○						末端折れ
1004		第2土坑	剥片	(17.0)	(6.5)	2.62	1.00	0.1			○								○					○							
1005		第2土坑	剥片	(9.0)	(12.0)	0.75	0.20	0.1			○													○						○	末端折れ
1006		第2土坑	剥片	(18.0)	(12.0)	1.50	1.70	0.2			○													○						○	末端折れ
1007		第2土坑	剥片	(11.0)	(7.0)	1.57	1.10	0.1			○								○					○						○	
1008		6トレ3層南半	剥片	28.0	38.0	0.74	1.50	4.1			○								○						○						
1009		6トレ3層南半	剥片	(28.5)	(33.0)	0.86	4.50	3.8			○								○									○			
1010		6トレ3層南半	剥片	(28.5)	(28.0)	1.02	0.80	1.7			○														○						末端加工有
1011		6トレ3層南半	剥片	23.0	27.0	0.85	3.80	2.8	平							○		108°			○			○							
1012		6トレ3層南半	剥片	(29.0)	(9.0)	3.22	2.65	0.9			○														○						末端折れ
1013		6トレ4層	剥片	30.0	30.0	1.00	0.50	1.5		無						○		110°	○					○							
1014		6トレ3B層Pit4	剥片	(22.0)	(26.0)	0.85	3.35	3.3	切					○			○	105°										○			末端折れ
1015		6トレ3B層Pit5	剥片	(10.0)	(19.0)	0.53	1.75	0.7			○														○						末端加工有
1016		6トレ3B層Pit7	剥片	(19.0)	(21.5)	0.88	1.60	1.0			○													○							末端折れ
1017		6トレ3B層Pit7埋2	剥片	(13.0)	(18.5)	0.70	3.10	0.7			○									○				○							
1018		6トレ3B層Pit7埋2	剥片	(6.0)	(18.0)	0.33	1.60	0.3			○														○						末端折れ
1019		6トレ3B層Pit7埋2	剥片	(13.0)	(8.0)	1.63	0.50	0.2			○								○						○						
1020		6トレ3b層Pit8	剥片	(26.0)	(16.0)	1.63	2.70	1.7			○														○						末端折れ
1021		6トレ3b層Pit17	剥片	(14.0)	(12.0)	1.17	1.90	0.4			○								○								○				
1022		6トレ3b層Pit19	剥片	(28.0)	(20.0)	1.40	4.10	2.3			○								○									○			
1023		5~6ベルト3層	剥片	(24.0)	(20.5)	1.17	3.15	2.4		点						○		130°								○					末端折れ
1024		5トレ3層	剥片	(26.0)	(12.5)	2.08	6.00	2.8			○																		○		
1025		5トレ3層中451~456	剥片	(19.0)	32.0	0.59	2.75	2.2		線				○		○		94°							○						末端折れ
1026		5トレ3層中451~456	剥片	32.5	24.0	1.35	1.60	1.7		線			○			○		126°							○						末端折れ
1027		5トレ3層中451~456	剥片	33.0	16.5	2.00	1.10	0.9		点							○	102°		○					○						
1028		5トレ3層中451~456	剥片	(21.0)	(19.5)	1.08	2.40	1.2			○								○						○						
1029		5トレ3層中451~456	剥片	(16.0)	13.0	1.23	2.20	0.9		線				○		○		100°							○						末端折れ
1030		5トレ3層中451~456	剥片	(17.0)	(13.0)	1.31	1.90	0.7			○														○						末端折れ
1031		5トレ3層中451~456	剥片	24.0	21.5	1.12	3.50	2.0	切					○		○		114°	○						○						
1032		5トレ3層中451~456	剥片	(13.0)	(12.0)	1.08	1.80	0.5			○													○							末端折れ
1033		5トレ3層中451~456	剥片	(14.0)	(10.5)	1.33	0.95	0.2		点						○		111°							○						末端折れ
1034		5トレ3層中451~456	剥片	(10.0)	(9.5)	1.05	1.20	0.2			○								○							○					
1035		表採	剥片	4.35	3.35	1.30	2.40	2.6		点				○		○		128°	○						○						
A-45		4層ーレ	剥片	(29.5)	(28.0)	1.05	(6.45)	5.7			○														○						末端折れ
A-69		4層ーヨ	剥片	(10.5)	(13.0)	0.81	(2.60)	0.1			○														○						末端部加工
A-70		4層ート	剥片	(18.5)	(20.5)	0.90	(3.20)	1.3																	○						

2．縄文時代後期の遺構と遺物

⑴遺物包含層

調査区のほぼ中央部となる第４トレンチ～第６トレンチから、縄文時代後期前半の遺物包含層が検出された。これ以外のトレンチでは、後世の撹乱が６層上面まで及んでいるか耕作土直下が礫層面となっているなどしており、若干の遺物が出土した程度である。

この包含層は北から南に向かって形成されているようであり、今回の調査トレンチはちょうどこれに直交する形で入っている。包含層は２層に分かれるが、遺物は層位的に分離して出土する状況はなかった。遺物の取り上げは、各トレンチ単位に層毎におこなっている。

①包含層出土土器・土製品（第58図～第66図）

遺物包含層から出土した土器は、文様に磨消縄文を多用するものと多条沈線文によるものに大別される。磨消縄文については、帯状に展開する文様帯が曲線と直線の組合せによる幾何学文様となる一群と、直線ないし鋭角的な文様で構成される一群にさらに分類される。ほとんどが破片資料であり全体の器形がわかるものは少ない。これらの土器片についてそれぞれの文様の特徴から分類を行っている。

Ⅰ　類：口縁部から体部上半に横位に展開する区画沈線により磨消縄文となる土器群。

ⅠＡ類　帯状に展開する文様帯が曲線と直線の組合せによって幾何学文様になるもの。

ⅠＢ類　帯状に展開する文様帯が直線ないし鋭角的な文様で構成されるもの。

Ⅱ　類：横位に数段の平行沈線（端部弧状）が巡り帯縄文になる土器群。

Ⅲ　類：沈線文によって構成される土器群。

ⅢＡ類　多条沈線による弧状文・渦文によるもの。

ⅢＢ類　櫛歯状沈線による弧状文・渦文によるもの。

ⅢＣ類　蕨手状沈線によるもの。

Ⅳ　類：地文として、縄文や撚糸文などを施文するだけの土器群で、地文の種類及び内面の格子状沈線の有無によって大別され、（ａ）口縁部に無文帯をもつものと、（ｂ）口縁部に無文帯をもたないものに細分される。いわゆる粗製土器として捉えられるものである。

ⅣＡ類　地文として縄文が施されるもの。

ⅣＢ類　地文として撚糸文が施されるもの。

ⅣＣ類　外面に縄文が施され、内面には格子状沈線が施されるもの。

第58図はⅠ類とした土器群で、口縁部が「く」字状に外反し、体部上半に膨らみをもつ器形を有すると思われる。口縁部はほとんどが波状口縁を呈している。１～４は、波状口縁に沿って平行沈線文を巡らして帯状の文様帯を形成しているもので、２～４は波頂部に円形文又は刺突文をもっている。５・８～18は体部資料で、文様帯は入組状を呈し、三角形や楕円形の区画内部を磨消するものである。

第59図２～４は、区画文が直線形または三角形状の文様をもつもので、７はやや内反する口縁部で、横位に巡る平行沈線によって無文帯となり、体部は多条沈線文となっている。８・９は区画沈線によって、５・11・12は平行沈線文によって施文されている。６・13は、やや外反する口縁部に沈線を巡らして巾の狭い無文帯をつくりだし、その下には縄文が施文されている。14～27は、沈線文又は平行沈線文と撚糸文がつけられるもので、17～19は沈線の端部が弧状になっている。

第60図１・５～10・18・21・23・24・26・27は、多条沈線文によって施文されたものである。４は波状口縁部の内外面に沈線が巡り、口縁に沿った櫛歯状沈線が施文されている。11・12～22は、区画沈線文によって施文されたもので、20は蕨手状沈線となっている。

第61図は、口縁部から体部にかけて櫛歯状沈線文又は多条沈線文による弧状文・渦文がつけられた一群である。1・3・11・12・15・23は櫛歯状沈線文によるもので、1は「く」字状に強く外反する器形をもっている。13は波状口縁で、内面に稜をもち無文となっている口縁部には弧状の隆線がつけられている。16は口縁部に2条の沈線が巡り、その下に多条沈線による弧状文がつけられている。

第62図1～5は口縁突起部で、小さな窓が開けられるか又は盲孔となっている。8・9は、連鎖状隆線が垂下している。18～22・24～29は、口縁に沿った横位の平行沈線文による帯状縄文の一群である。17は「く」字状に外反する口縁部から間隔の狭い沈線が縦位に蛇行しながら垂下している。27は横位平行沈線の端部が折れるものである。

第63図2～5・7・9・11～13・21・22は、多条沈線文によるもの、15は櫛歯状沈線文によって、20は格子状沈線によって施文されている。1・6・17は区画沈線文がつけられている。23～27は体部資料で、前面に撚糸文が施文されている。

第64図は、縄文又は撚糸文が全面に施文される粗製土器の一群である。口縁部の形態としては、4～6・10のようにやや外反する平坦な口縁部を呈するものと、7～9・11～26のようにやや直立気味かやや内反する平坦な口縁部となる。4～6・10は、無文帯となっている口縁部が短く外反するもので、4～6の頚部には横位の撚糸圧痕文が巡らされている。13～26は全面に縄文が施文されているが、13は口縁部が無文帯となっている。7・8・14・18・22は、撚糸文が縦位に施されている。1・2は口縁又は口縁端部に沈線がつけられ、3は肥厚させた口縁部に短沈線がつけられている。

第65図1～7は、外面には縄文が施文され、内面には格子状沈線の施される一群である。内外面の調整は粗く、器厚は他の土器に比べ厚めである。

底　部（第65図－8～15）

8はミニチュア土器の脚部と思われる。10が木葉底のほかは、すべて網代底である。

円盤状土製品（第66図）

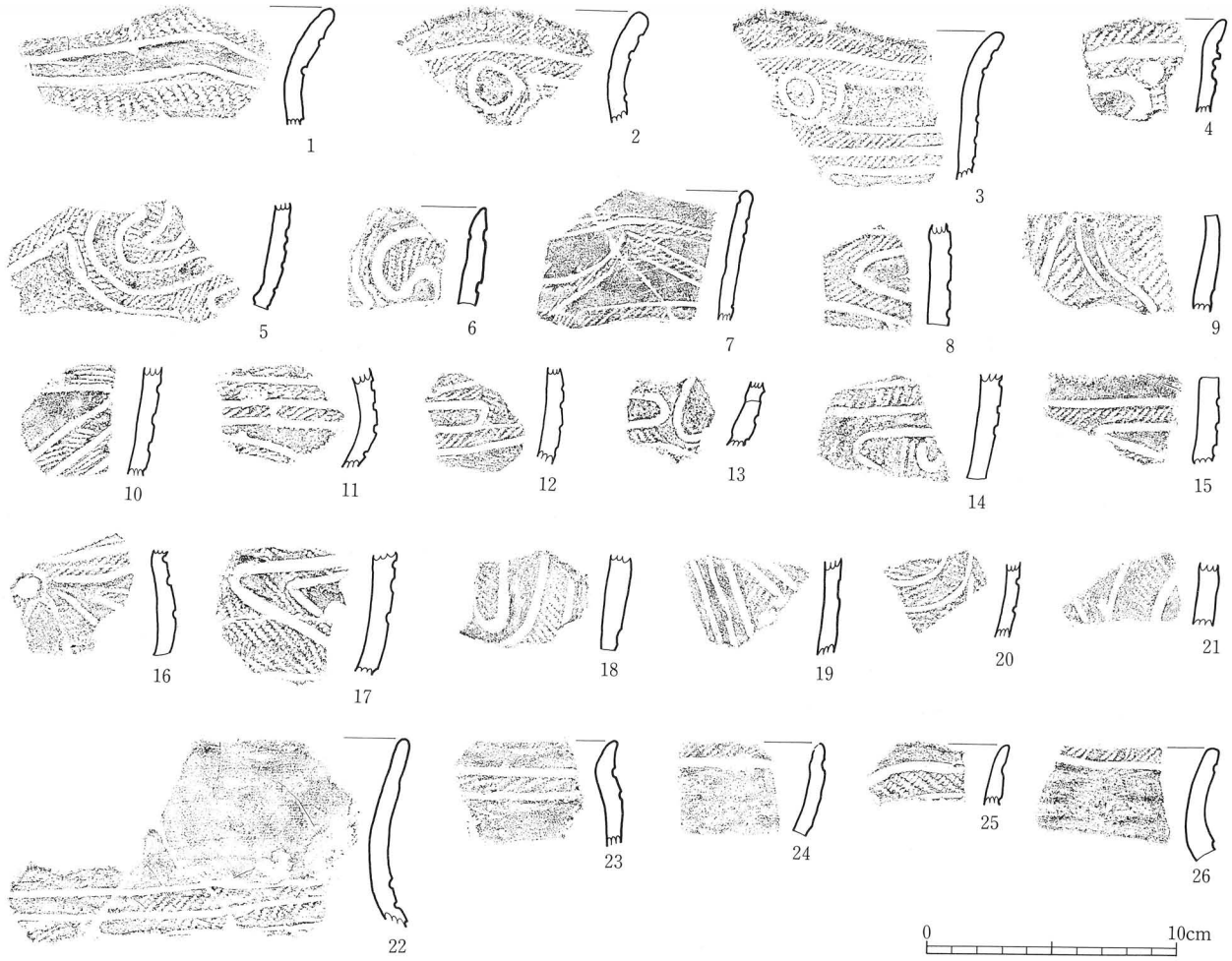
円盤状土製品は、34点出土している。素材となる土器片の周囲を打欠いて整形したもので、円形・楕円形・隅丸方形・不整円形を呈している。整形の方法として、(a)周辺を打欠いたのみのもの、(b)周辺を打欠いたのちに一部を研磨しているもの、(c)周辺を打欠いたのちに周辺の50％以上を研磨しているものがある。

大きさでみると、第66図1～21のような、30～40㎜幅で重さ5～10ｇのグループと、22～34のような、40～70㎜幅で重さ20～40ｇのグループに分けられるが、製作にあたってはある程度の規格性があったことがうかがえる。

包含層出土土器の編年的位置付けについて

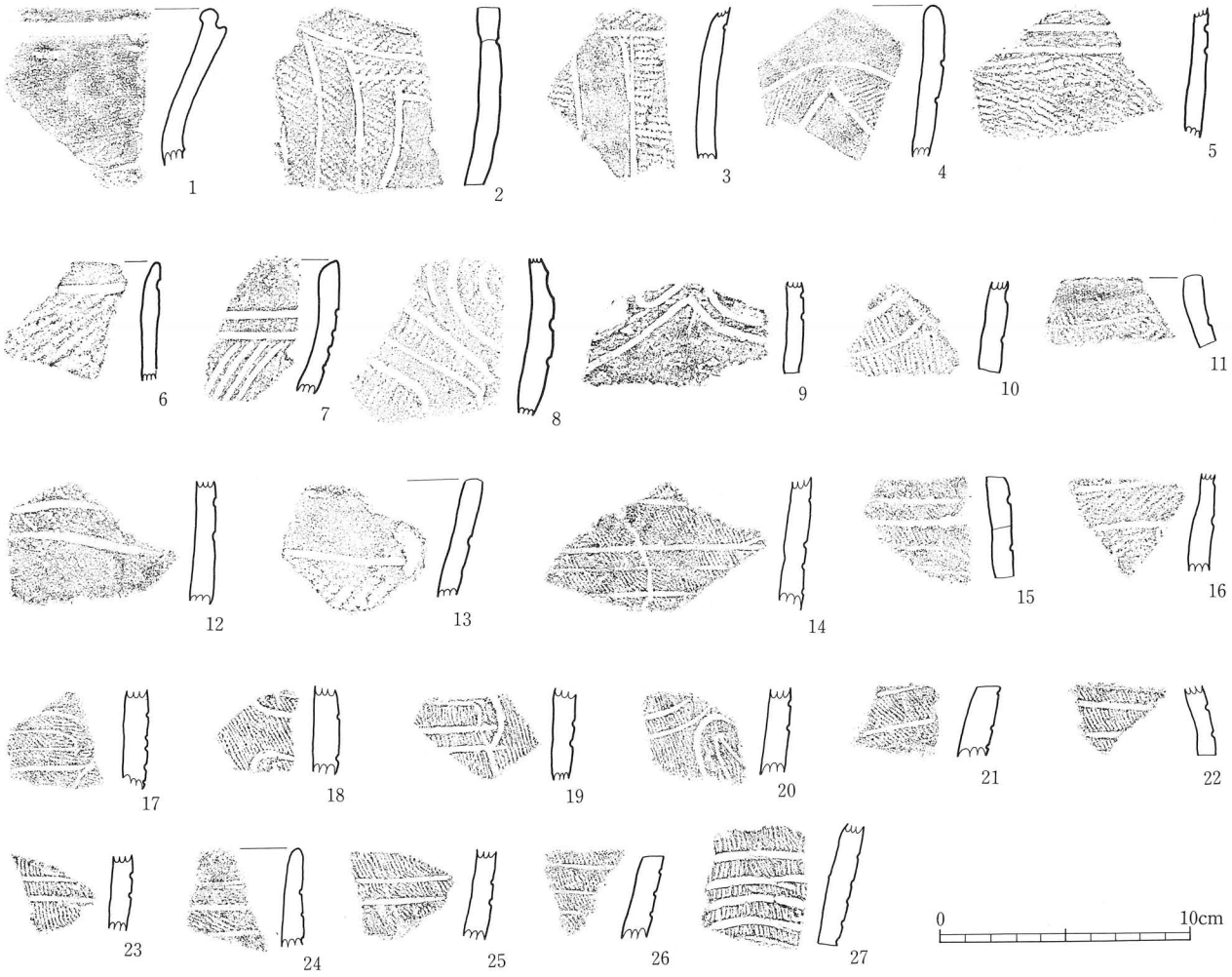
包含層中から出土した土器は、後期前葉～中葉初頭段階に位置付けられるもとの考えられる。宮城県では当該期の型式としては南境式が一般的で、白石市二屋敷遺跡資料によって3段階の変遷が示されている。(加藤他：1984)。県北部の貝塚資料によって宮戸Ⅰｂ式が提唱されているが、南境式の細分化された型式と考えられている。また県内における当該期の地域的特性として、県南部と県北部とでは異なった特徴をもった土器が分布することが指摘されている。今回の出土遺物をみると、Ⅰ類とした磨消縄文による幾何学文的なモチーフをもつ土器群のうち、第58図2～5のような土器については、頚部に撚糸圧痕をもつ土器などとともに、東北中部～北半に分布し後期前葉に比定される十腰内Ⅰ式に近い文様構成をもっている。またⅢ類とした沈線文によって構成される土器群のうち多条沈線による土器は、関東地方の堀之内式の特徴ともなっているモチーフである。またⅣ類とした内面に格子状沈線をもつ粗製土器群については、堀之内Ⅱ式や十腰内Ⅰ式に伴行するものとされている。

このように野川遺跡の包含層出土土器は数は少ないものの、東北地方北半と関東地方の系譜をもっていることが考えられる。



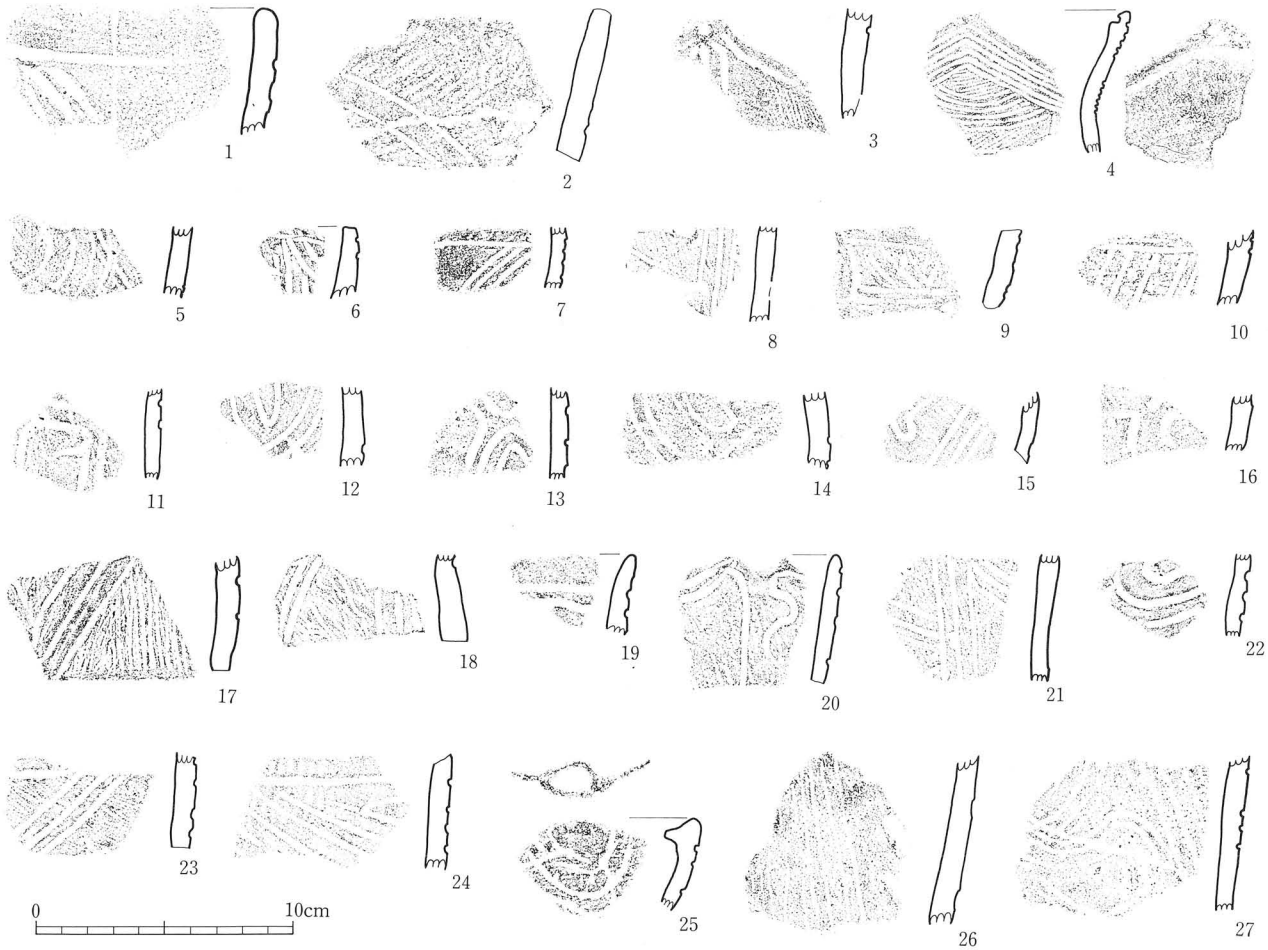
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	4T	2層上	波状口縁	ⅠA類	磨消縄文、平行沈線文、縄文（RL）		A-105	26-1
2	4T	2層上	波状口縁	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、円文、縄文（LR）		A-116	26-2
3	4T	2層上	波状口縁	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、円文、縄文（LR）		A-115	26-3
4	1T	2a 層	口縁部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、刺突文、縄文（LR）		A-6	26-4
5	4T	2層上	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）		A-110	26-5
6	5T	2a 層	口縁部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）	内面に沈線状の浅い凹	A-269	26-6
7	4T	2層上	口縁部	ⅠA類	区画沈線、撚糸文、磨消縄文	口縁端内面に沈線が巡る	A-188	26-7
8	4T	2層	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（RL）		A-248	26-8
9	5T	2b 層	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）	表面に炭化物付着	A-305	26-9
10	4T	2層下	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線	円盤状土製品？	A-178	26-10
11	4T	2層上	頸部	ⅠA類	区画沈線、磨消縄文、撚糸文		A-166	26-11
12	4T	2層上	体部	ⅠA類	区画沈線、磨消縄文	表面に炭化物付着	A-37	26-12
13	4T	2層上	口縁部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線	胎土に砂粒を多量に含有	A-124	26-13
14	4T	2層下	体部	ⅠA類	区画沈線、撚糸文	表面に炭化物付着	A-174	26-14
15	4T	2層上	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）		A-84	26-15
16	4T	2層下	体部	ⅠA類	磨消縄文、肯孔、区画沈線		A-151	26-16
17	4T	2層上	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）	胎土に砂粒を多量に含有	A-78	26-17
18	4T	2層下	体部	ⅠA類	磨消縄文、区画沈線、縄文（LR）		A-147	26-18
19	5T	2a 層	体部	ⅠA類	区画沈線、撚糸文		A-262	26-19
20	4T	2層下	体部	ⅠA類	撚糸文、区画沈線		A-167	26-20
21	4T	2層上	体部	ⅠA類	区画沈線、磨消縄文	表面磨滅	A-61	26-21
22	4T	2層上	口縁部	ⅠA類	平行沈線、帯縄文（LR）		A-197	26-22
23	表採		口縁部	ⅠA類	平行沈線、帯縄文	表面磨滅・胎土に砂粒を多量に含む	A-423	26-23
24	4T	2層上	口縁部	ⅠA類	撚糸文、沈線	表面磨滅、胎土に砂粒を多量に含む	A-133	26-24
25	4T	2層上	口縁部	ⅠA類	縄文・（RL）沈線		A-125	26-25
26	4T	2層下	口縁部	ⅠA類	縄文・（RL）沈線		A-137	26-26

第58図　包含層出土土器(1)



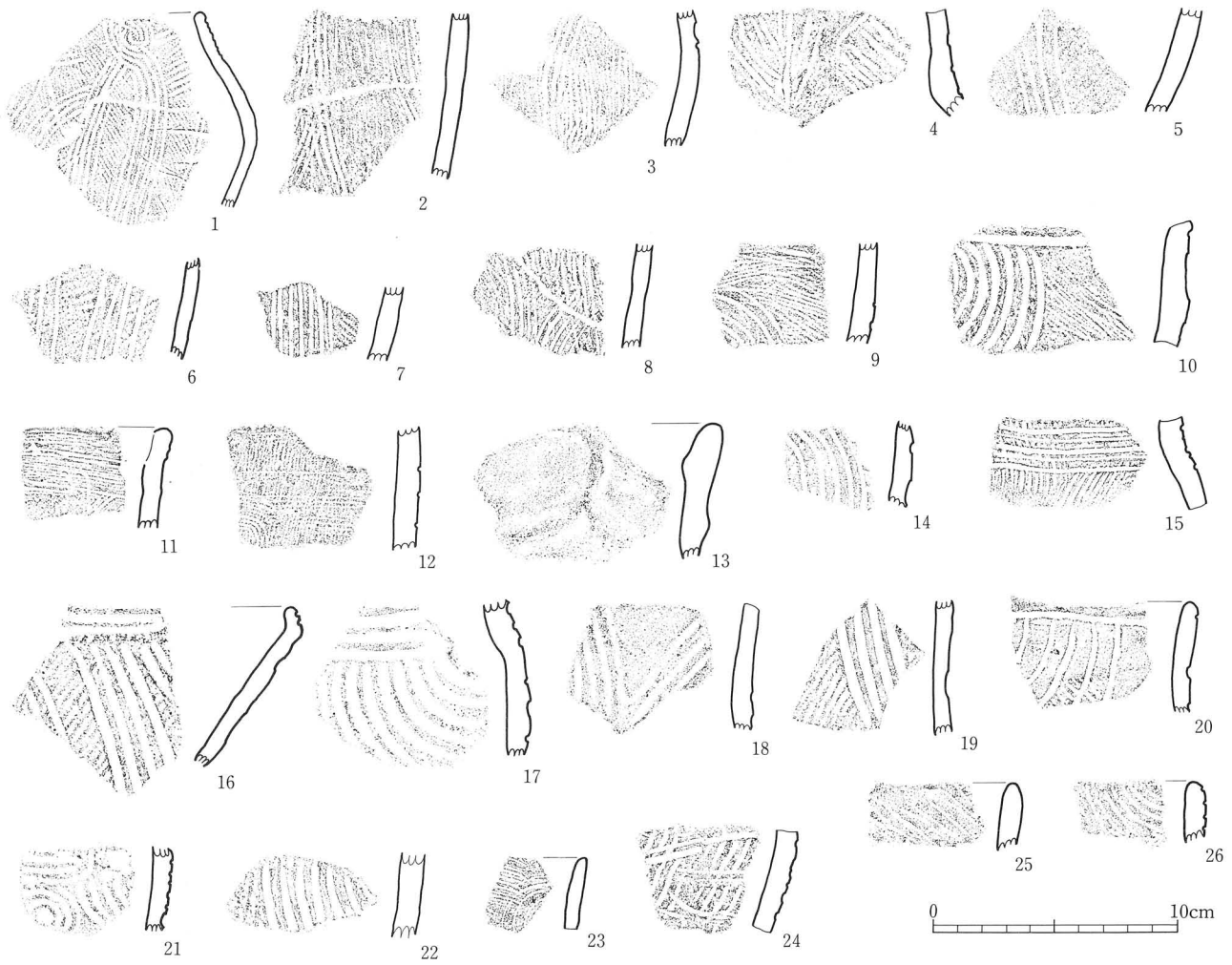
図版番号	地区	層位	部位	分類	文様の特徴	備考	登録番号	写真図版番号
1	4T	2a 層	口縁部	I 類	口縁端部に沿った沈線		A-31	27-1
2	4T	2層上	体部	I B類	区画沈線、磨消縄文、縄文（LR）		A-64	27-2
3	4T	2層上	体部	I B類	区画沈線、磨消縄文、縄文（RL）	内面に炭化物付着	A-83	27-3
4	4T	2層上	波状口縁	I B類	磨消縄文、区画沈線		A-186	27-4
5	4T	2層上	体部	II類	無節縄文（R）平行沈線	胎土に砂粒を多量に含む	A-86	27-5
6	1T	2a 層	口縁部	I 類	沈線、縄文（LR）	表面磨滅	A-10	27-6
7	5T	2b 層	口縁部	III A類	平行沈線文、多条沈線文、縄文（不明）		A-297	27-7
8	5T	2b 層	体部	I A類	磨消縄文、沈線区画	表面磨滅、胎土に砂粒多い	A-336	27-8
9	4T	2層上	体部	I A類	区画沈線、磨消縄文（不明）		A-109	27-9
10	5T	2b 層	体部	I 類	撚糸文、区画沈線	胎土に砂粒多い	A-351	27-10
11	4T	2層上	口縁部	II類	平行沈線文、撚糸文	表面磨滅	A-48	27-11
12	4T	2層	体部	I A類	沈線、磨消縄文		A-242	27-12
13	1T	2a 層	体部	I 類	複節（RLR）沈線		A-23	27-13
14	4T	P1	体部	II類	撚糸文・平行沈線		A-45	27-14
15	4T	P1	体部	II類	撚糸文・平行沈線	表面磨滅	A-252	27-15
16	4T	2層上	頸部	II類	平行沈線、縄文（不明）	胎土に砂粒を多量に含む	A-53	27-16
17	4T	2層下	体部	II類	平行沈線（端部孤状）		A-39	27-17
18	4T	P1	体部	II類	撚糸文（R）沈線		A-43	27-18
19	4T	2層上	体部	II類	撚糸文（R）平行沈線（端部孤状）		A-36	27-19
20	4T	2層上	体部	II類	撚糸文（R）沈線		A-34	27-20
21	4T	P1	体部	II類	沈線・撚糸文（R）		A-129	27-21
22	4T	P1	体部	II類	沈線・撚糸文（R）		A-130	27-22
23	4T	2層上	体部	II類	平行沈線、撚糸文（R）		A-38	27-23
24	4T	P1	口縁部	II類	平行沈線、撚糸文	表面磨滅	A-44	27-24
25	4T	P1	体部	II類	平行沈線、撚糸文（R）		A-46	27-25
26	4T	P1	体部	II類	平行沈線、撚糸文（R）		A-131	27-26
27	4T	2層上	体部	II類	撚糸文（R）沈線		A-35	27-27

第59図　包含層出土土器(2)



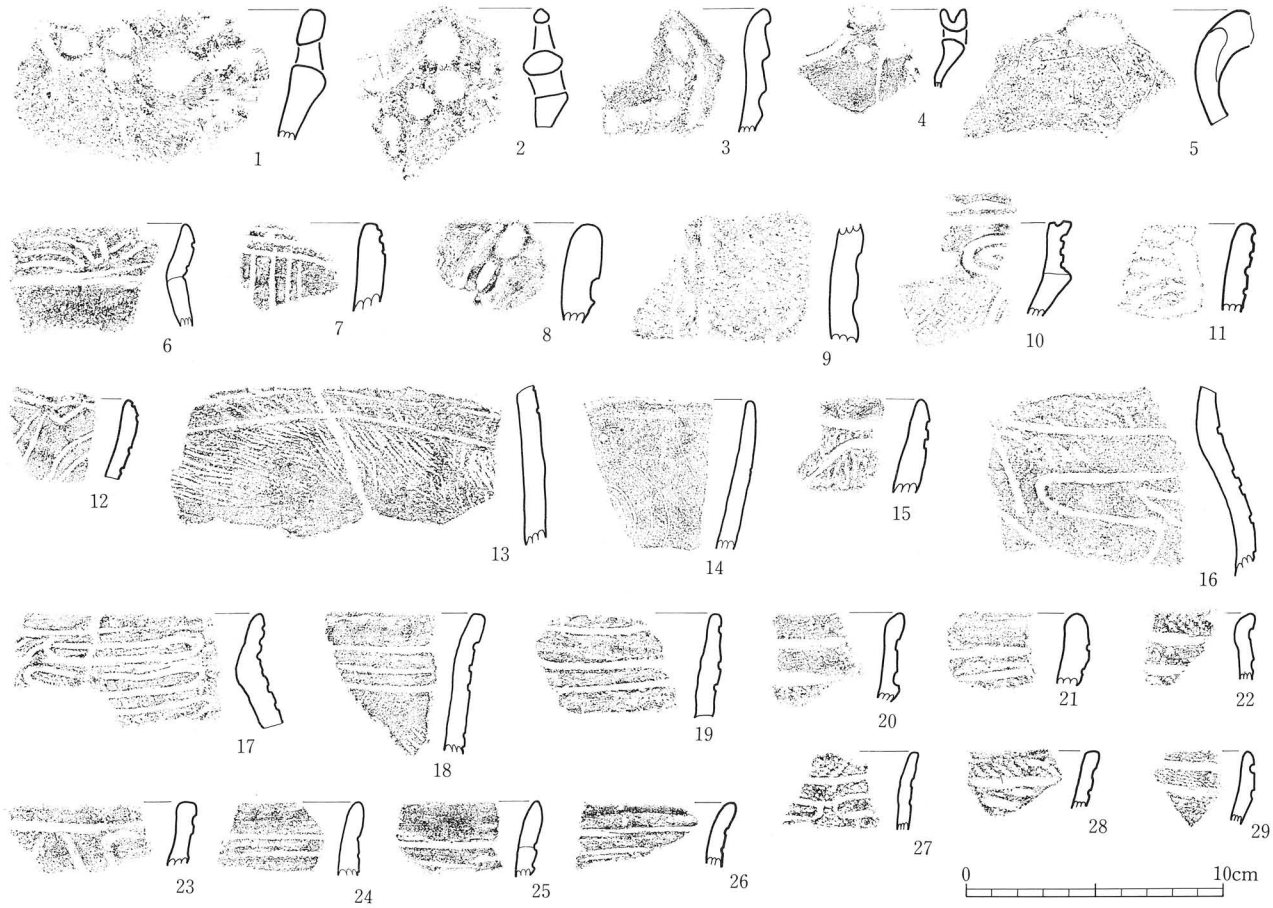
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	6T	2b 層	口縁部	ⅢA類	沈線、多条沈線文	胎土に砂粒を多く含む	A-378	28-1
2	4T	2層上	体部	Ⅲ類	平行沈線文、縄文（LR）磨消縄文	表面磨滅	A-67	28-2
3	表採		体部	ⅢA類	肓孔、沈線		A-416	28-3
4	4T	2層上	波状口縁	ⅢB類	多条沈線文、肓孔、縄文（LR）	内面波頂部に刺突、表面炭化物	A-185	28-4
5	5T	2a 層	体部	ⅢA類	多条沈線文、細く深い沈線	表面磨滅	A-268	28-5
6	5T	2a 層	口縁部	ⅢA類	多条沈線文		A-324	28-6
7	4T	2層上	体部	ⅢA類	多条沈線文		A-119	28-7
8	5、6T	2b 層	体部	ⅢA類	撚糸文、沈線文、貫通孔	胎土に金雲母含む	A-374	28-8
9	4T	2層上	体部	Ⅰ類	区画沈線、短沈線		A-58	28-9
10	5T	2a 層	体部	ⅢA類	多条沈線文	胎土に砂粒多く含む	A-308	28-10
11	5、6T	2層上	体部	ⅢC類	区画沈線文、撚糸文	表面磨滅	A-375	28-11
12	5T	2b 層	体部	Ⅰ類	区画沈線文、撚糸文		A-352	28-12
13	5T	2b 層	体部	Ⅰ類	区画沈線文	表面磨滅、胎土に砂粒多い	A-343	28-13
14	5T	2b 層	体部	Ⅰ類	区画沈線文	表面磨滅、胎土に砂粒多い	A-344	28-14
15	5T	2b 層	体部	Ⅰ類	区画沈線文		A-349	28-15
16	5T	2b 層	体部	Ⅰ類	区画沈線文、撚糸文、刺突文、沈線間磨消	表面磨滅	A-341	28-16
17	4T	2層上	体部	Ⅰ類	沈線文、撚糸文（R）		A-213	28-17
18	4T	2層下	体部	ⅢA類	撚糸文（R）沈線		A-149	28-18
19	4T	2層上	口縁部	Ⅰ類	沈線		A-134	28-19
20	5、6T ベルト	2a 層	波状口縁	ⅢC類	厥手状沈線、撚糸文（R）	2単位小突起状口縁	A-370	28-20
21	5T	2b 層	体部	ⅢA類	撚糸文、多条沈線文	胎土に金雲母を含む	A-356	28-21
22	4T	2層上	体部	Ⅲ類	区画沈線	胎土に砂粒を多く含む	A-80	28-22
23	4T	2層	体部	ⅢA類	沈線文、撚糸文		A-251	28-23
24	5T	2b 層	体部	ⅢA類	沈線、縄文（LR）沈線区画		A-350	28-24
25	4T	2層上	波状口縁	ⅢA類	沈線、撚糸文	波頂部に円形の凹み	A-194	28-25
26	5T	2b 層	体部	ⅢA類	多条沈線文	胎土に砂粒多く含む	A-281	28-26
27	5T	3層	体部	ⅢA類	多条沈線文	表面磨滅、表面に炭化物付着、胎土に砂粒多く含む	A-362	28-27

第60図　包含層出土土器(3)



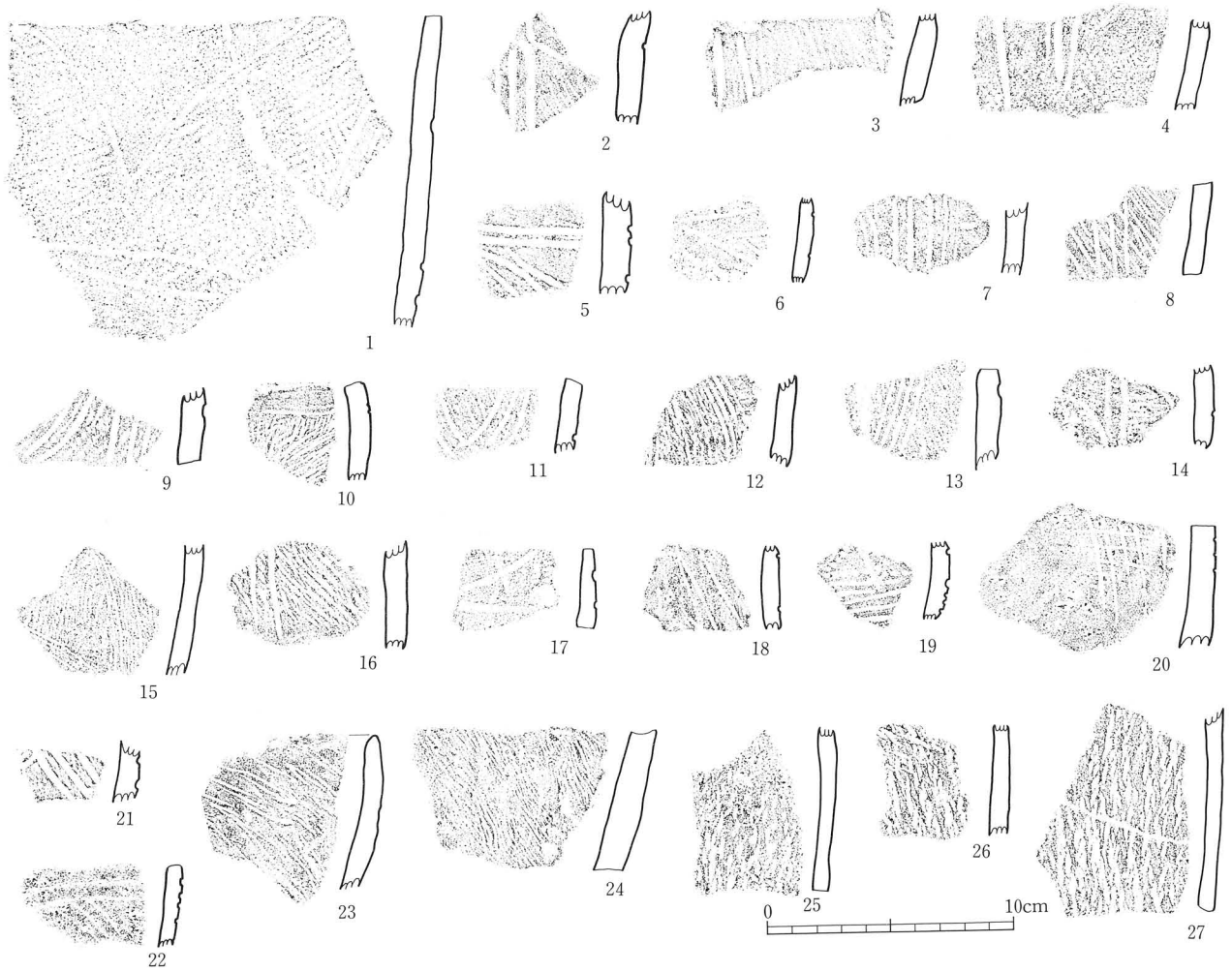
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	4T	2層上	体部	ⅢB類	櫛歯状沈線文、縄文（LR）		A-126	29-1
2	4T	2層上	体部	ⅢA類	撚糸文、多条沈線文	表面磨滅	A-222	29-2
3	5T	2b 層	体部	ⅢB類	多条沈線文、撚糸文（R）		A-282	29-3
4	4T	2層下	頸部	ⅢA類	多条沈線文、縄文		A-154	29-4
5	1T	2a 層	体部	ⅢA類	縄文、多条沈線文	表面磨滅、胎土に砂粒多く含む	A-2	29-5
6	5T	2b 層	体部	ⅢA類	多条沈線文、縄文	表面磨滅、胎土に砂粒多く含む	A-348	29-6
7	4T	2a 層	体部	ⅢA類	多条沈線文、撚糸文		A-164	29-7
8	1T	2a 層	体部	ⅢA類	多条沈線文、縄文（LR）		A-19	29-8
9	4T	2層下	体部	ⅢA類	多条沈線文、撚糸文（R）		A-138	29-9
10	4T	2層上	体部	ⅢA類	多条沈線渦文、撚糸文（R）		A-113	29-10
11	5T	2a 層	口縁部	ⅢB類	櫛歯状沈線文		A-309	29-11
12	4T	2層上	体部	ⅢB類	撚糸文、櫛歯状沈線文	表面磨滅	A-81	29-12
13	5T	2b 層	波状口縁	Ⅰ類？	内外に孤状隆線		A-295	29-13
14	5T	2b 層	体部	ⅢA類	多状沈線文	表面磨滅	A-337	29-14
15	4T	2層上	頸部	ⅢB類	櫛歯状沈線文		A-88	29-15
16	5T	2b 層	口縁部	ⅢA類	多状沈線文、縄文（LR）	表面磨滅	A-329	29-16
17	5T	2b 層	体部	ⅢA類	多状沈線渦文	胎土に砂粒を多く含む	A-355	29-17
18	5、6T ベルト	2a 層	体部	ⅢA類	多状沈線文		A-367	29-18
19	5T	2b 層	体部	ⅢA類	多状沈線文、縄文（LR）		A-303	29-19
20	4T	2層上	波状口縁	ⅢA類	多状沈線文、撚糸文（R）	小波状口縁を呈する	A-184	29-20
21	5T	2a 層	体部	ⅢA類	多条沈線渦文、刺突	内面に炭化物付着	A-266	29-21
22	5T	2a 層	体部	ⅢA類	多状沈線文、縄文		A-264	29-22
23	4T	2層下	口縁部	ⅢB類	櫛歯状沈線文		A-153	29-23
24	4T	2層上	体部	ⅢA類	沈線、撚糸文（R）押圧		A-66	29-24
25	5T	2b 層	口縁部	ⅢA類	撚糸文（R）	表面磨滅	A-306	29-25
26	5T	2b 層	口縁部	ⅢA類	多状沈線文	内外面磨滅	A-301	29-26

第61図　包含層出土土器(4)



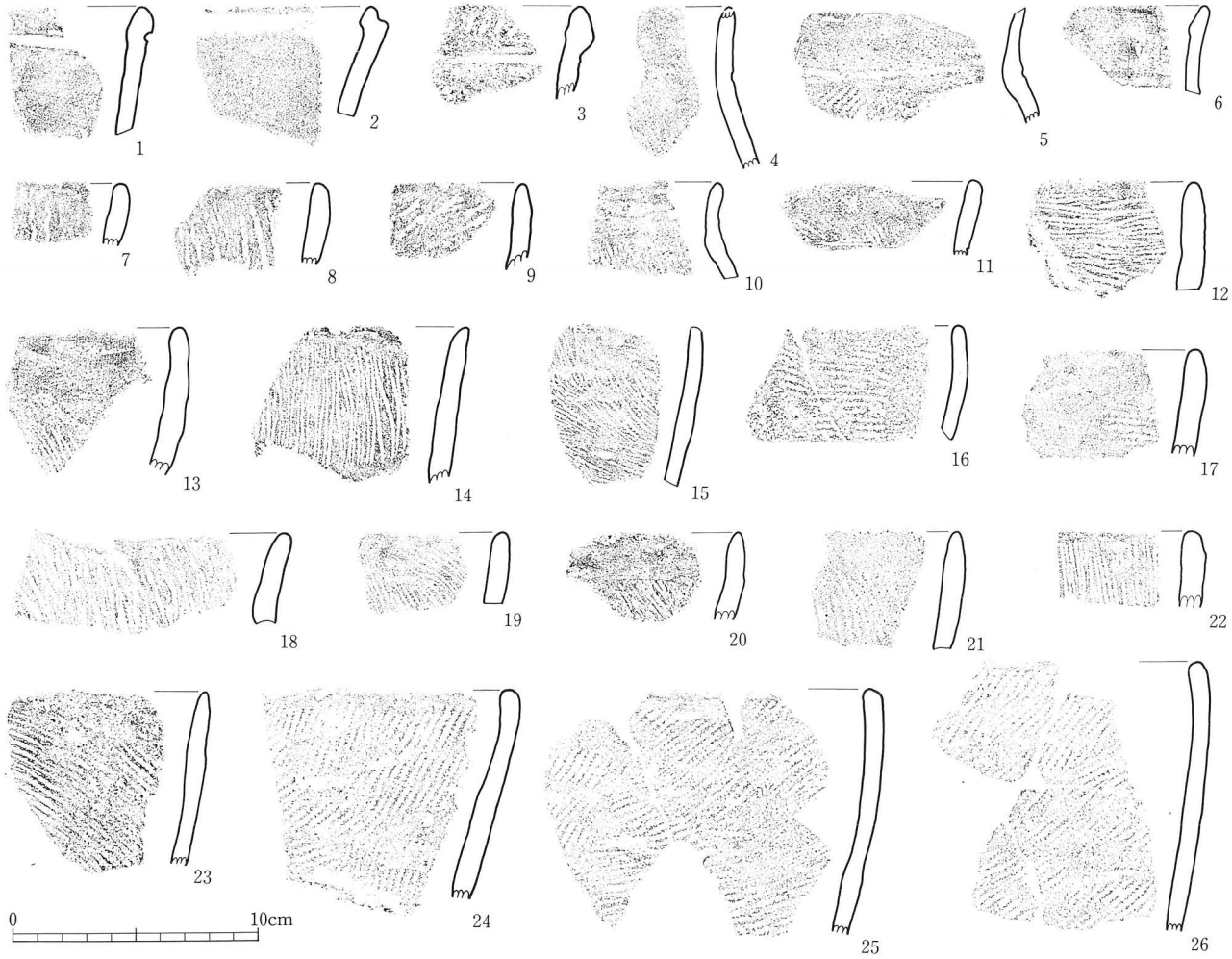
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	表採		口縁部		突起頂部に窓がつく。盲孔	磨滅、胎土に砂粒多く含む	A-415	30-1
2	5、6間ベルト	2a 層	口縁部		環状突起の下に 2 対の窓、突起側面に刺突		A-365	30-2
3	1T	2a 層	口縁部		突起につけられた円孔を囲む刺突		A-25	30-3
4	4T	2層上	口縁部		小突起頂部に刺突、下に 2 対の円孔、口唇部に沈線		A-205	30-4
5	4T	2層上	口縁部		小突起（頂部欠損）	胎土に砂粒を多く含む	A-209	30-5
6	4T	2層上	口縁部	III類	沈線	胎土に砂粒を多く含む	A-193	30-6
7	5T	2a 層	口縁部	IIIA類	多条沈線文	表面に炭化物付着	A-313	30-7
8	5T	2a 層	波状口縁		連鎖状隆線		A-319	30-8
9	5T	3層	体部		連鎖状隆線、楕円の窓がつく	表面磨滅、胎土に砂粒が多い	A-363	30-9
10	表採		口縁部		区画沈線、口唇部に短沈線、縄文（LR）		A-417	30-10
11	6T	3層	口縁部	III類	沈線文	胎土に砂粒を多く含む	A-389	30-11
12	4T	2層上	口縁部	III類	沈線、小突起		A-208	30-12
13	4T	2層上	体部	III類	平行沈線文、撚糸文（R）一部を磨消		A-212	30-13
14	4T	2層上	波状口縁	III類	沈線	内外面共に丁寧な磨	A-189	30-14
15	5T	2a 層	口縁部	III類	沈線、撚糸文（L）		A-307	30-15
16	4T	2層下	体部	III類	沈線	表面磨滅	A-175	30-16
17	4T	2層上	口縁部	II類	沈線（長楕円）、縄文、蛇行して垂下する沈線文		A-196	30-17
18	4T	2層上	口縁部	II類	平行沈線文、撚糸文（R）		A-127	30-18
19	5T	2a 層	口縁部	II類	沈線文		A-322	30-19
20	5T	2層	口縁部	II類	平行沈線文	表面磨滅	A-332	30-20
21	4T	2層下	口縁部	II類	平行沈線文		A-144	30-21
22	4T	2層上	口円部	II類	平行沈線文、縄文（RL）		A-204	30-22
23	表採		口縁部	III類	沈線	表面磨滅	A-418	30-23
24	4T	2層上	口縁部	II類	平行沈線文		A-187	30-24
25	4T	2層上	口縁部	II類	平行沈線文		A-192	30-25
26	4T	2層下	口縁部	II類	平行沈線		A-139	30-26
27	4T	2層下	口縁部	II類	区画沈線、楕円区画内磨消、縄文（LR）		A-140	30-27
28	1T	2a 層	波状口縁	II類	縄文（LR）沈線		A-13	30-28
29	4T	2層上	口縁部	II類	平行沈線文、撚糸文（R）		A-201	30-29

第62図　包含層出土土器(5)



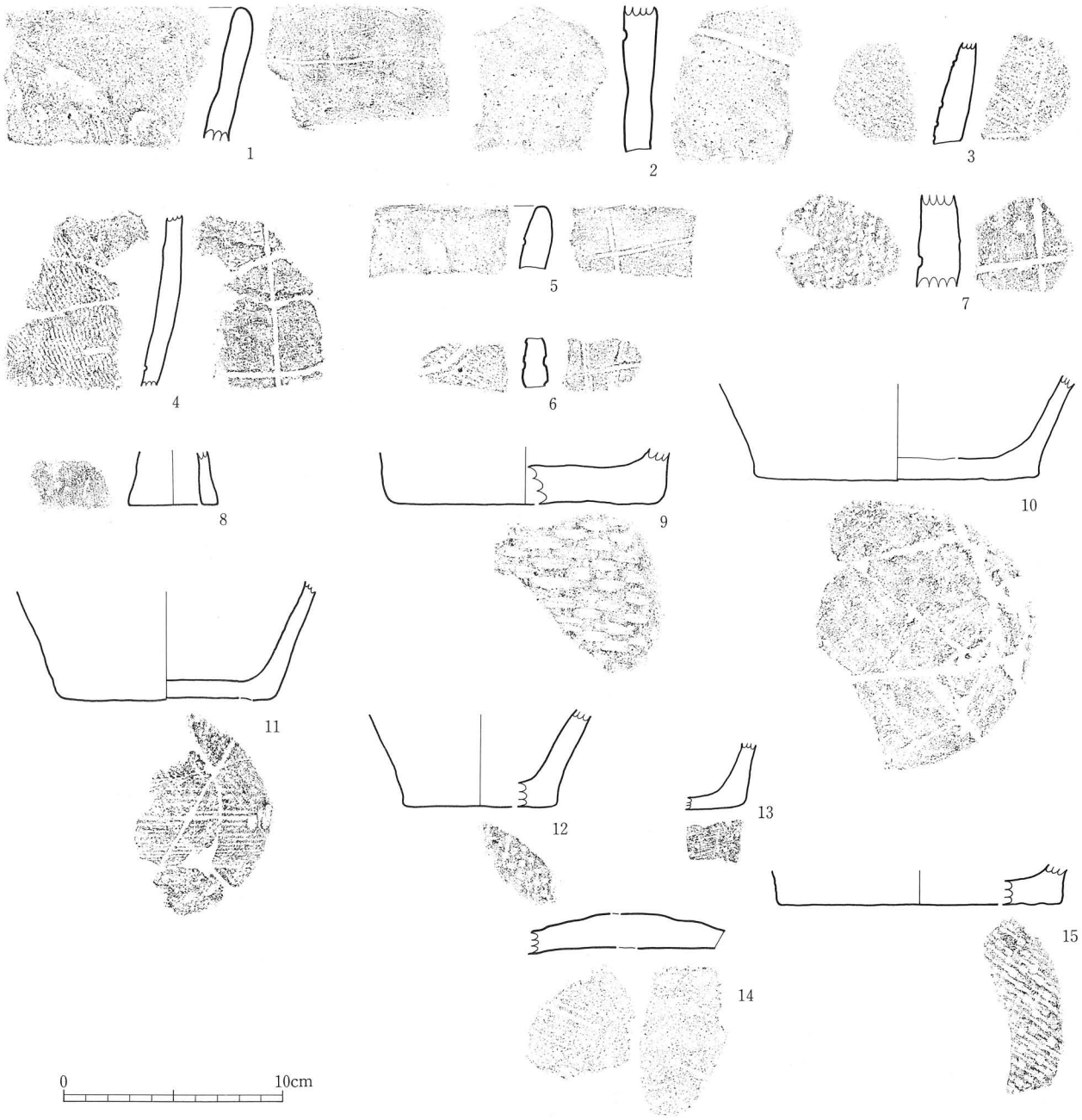
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	1T		体部	ＩＣ類	区画沈線文、磨消縄文	表面磨滅	A-408	31-1
2	4T	2層下	体部	ⅢＡ類	多条沈線文、撚糸文		A-230	31-2
3	5T	3層	体部	ⅢＡ類	沈線、撚糸文（R）		A-360	31-3
4	4T	2層下	体部	ⅢＡ類	多条沈線文、縄文（RL）	表面磨滅	A-90	31-4
5	5T	2b 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文		A-333	31-5
6	5T	2b 層	体部	ＩＣ類	区画沈線文	表面磨滅	A-335	31-6
7	5T	2a 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文		A-270	31-7
8	5T	2a 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文、撚糸文（R）		A-321	31-8
9	5T	2b 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文、縄文		A-347	31-9
10	4T	2層上	体部	ⅢＢ類	沈線、撚糸文		A-214	31-10
11	6T	2b 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文、撚糸文（R）	表面磨滅	A-386	31-11
12	4T	2層上	体部	ⅢＡ類	撚糸文、多条沈線文		A-225	31-12
13	5T	2b 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文		A-290	31-13
14	5,6T ベルト	2a 層	体部	Ⅲ類	沈線		A-369	31-14
15	4T	2層下	体部	ⅢＢ類	櫛歯状状沈線文、撚糸文（R）		A-179	31-15
16	4T	2層	体部	ⅢＡ類	沈線、撚糸文（L）		A-246	31-16
17	4T	2層下	体部	ＩＣ類	沈線、縄文（RL）	内外面磨滅	A-148	31-17
18	5,6T ベルト	2a 層	体部		撚糸文（R）押圧	内外面磨滅	A-368	31-18
19	5T	3層	体部		列点刺突、沈線		A-361	31-19
20	5T	2b 層	体部	Ⅲ類	格子状沈線	胎土に砂粒を多く含む	A-291	31-20
21	4T	2層上	体部	ⅢＡ類	多条沈線渦文、撚糸文		A-52	31-21
22	5T	2a 層	体部	ⅢＡ類	多条沈線文	内外面磨滅	A-310	31-22
23	5T	2a 層	口縁部	ⅣＢ類	撚糸文（R）		A-317	31-23
24	5T	2a 層	体部	ⅣＢ類	撚糸文（R）		A-316	31-24
25	4T	2層下	体部	ⅣＢ類	撚糸文	表面磨滅	A-218	31-25
26	4T	2層下	体部	ⅣＢ類	撚糸文（L）	同一個体	A-219	31-26
27	4T	2層下	体部	ⅣＢ類	撚糸文		A-217	31-27

第63図　包含層出土土器(4)



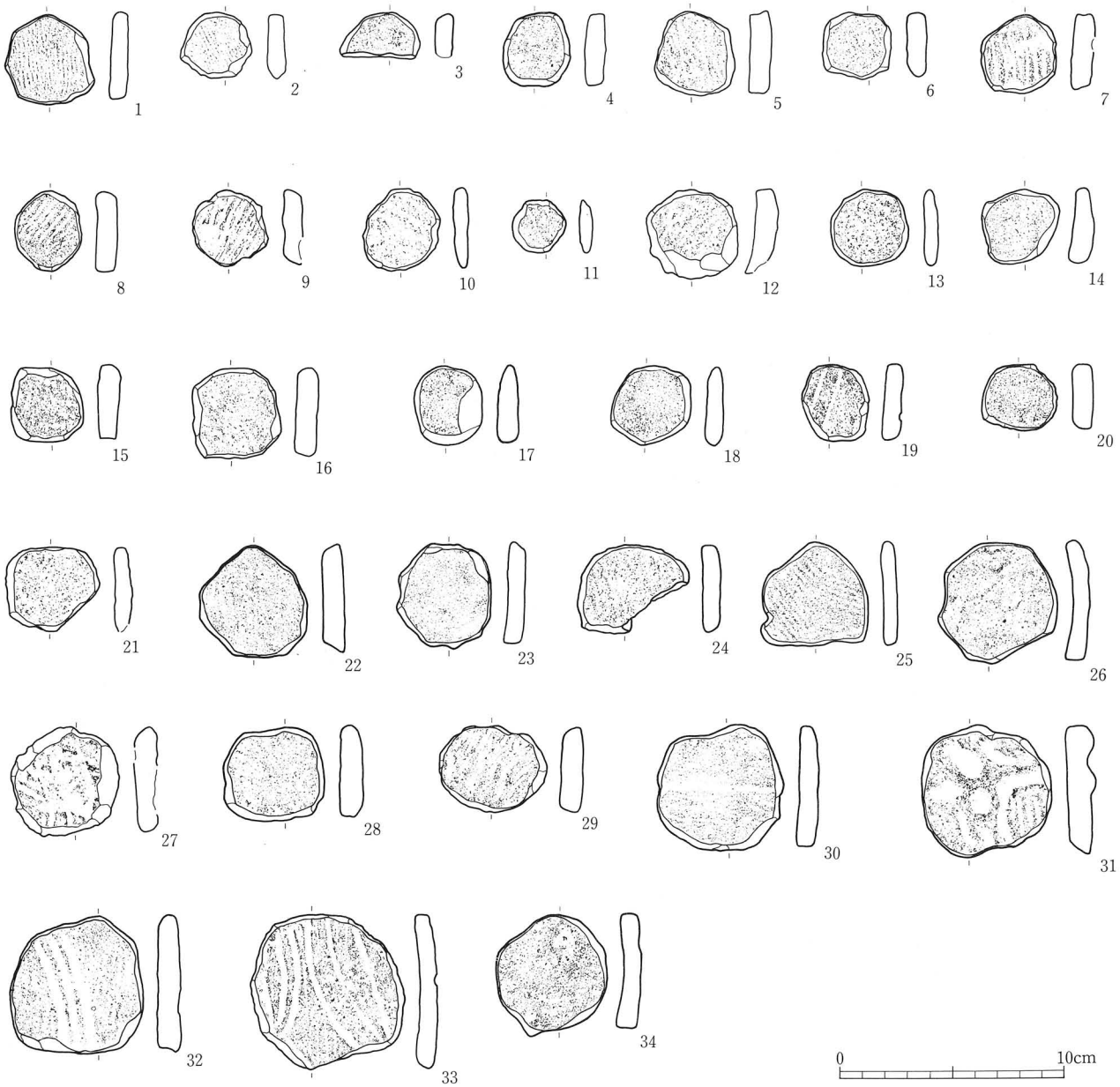
図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	5T	2b 層	口縁部		沈線文、内面に稜	内外面共に丁寧な磨	A-354	32-1
2	4T	2層上	波状口縁		口縁端部に沈線、内面に稜		A-206	32-2
3	4T	2層上	口縁部		口縁部肥厚、短沈線	表面磨滅	A-200	32-3
4	4T	2層上	口縁部	ⅣB-a 類	頸部撚糸圧痕文、撚糸文		A-69	32-4
5	4T	2層上	頸部	ⅣA-a 類	頸部撚糸圧痕文、縄文		A-82	32-5
6	5〜6T ベルト	2a 層	口縁部	Ⅳ類	無文、内面に稜		A-371	32-6
7	4T	2層下	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文（縦位）	表面炭化物付着	A-143	32-7
8	4T	2層下	波状口縁	ⅣB-b 類	撚糸文（縦位）（L）		A-142	32-8
9	5T	2b 層	口縁部	ⅣB-b 類	（斜位）縄文	内面磨滅	A-296	32-9
10	4T	2層	口縁部	ⅣB-a 類	撚糸文（縦位）		A-198	32-10
11	4T	2層上	波状口縁	ⅣA-a 類	沈線文、縄文	表面磨滅	A-104	32-11
12	4T	2層上	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文（横位）（R）		A-207	32-12
13	5T	2a 層	口縁部	ⅣB-a 類	撚糸文（R）		A-320	32-13
14	4T	2層上	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文（R）		A-211	32-14
15	4T	2層上	体部	ⅣB-b 類	撚糸文（R）	内面炭化物付着	A-156	32-15
16	4T	2層上	口縁部	ⅣA-b 類	縄文（LR）		A-107	32-16
17	5T	2b 層	口縁部	ⅣA-b 類	縄文（無節？）	表面磨滅	A-298	32-17
18	5T	2b 層	波状口縁	ⅣB-b 類	撚糸文（縦位）（R）		A-345	32-18
19	5T	2a 層	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文（R）		A-280	32-19
20	4T	2層上	波状口縁	ⅣB-a 類	撚糸文		A-183	32-20
21	5〜6T ベルト	2a 層	波状口縁	ⅣA-a 類	縄文	表面磨滅	A-364	32-21
22	4T	2層上	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文（縦位）（R）		A-191	32-22
23	4T	2層下	口縁部	ⅣB-b 類	撚糸文	表面磨滅	A-141	32-23
24	4T	2層	口縁部	ⅣA-b 類	縄文（LR）	内面丁寧な磨	A-239	32-24
25	4T	2層	口縁部	ⅣA-b 類	縄文（LR）	〃　同一個体	A-240 A-241	32-25
26	4T	2層	口縁部	ⅣA-b 類	縄文（LR）	〃	A-238	32-26

第64図　包含層出土土器(7)



図版番号	地　区	層　位	部　位	分　類	文様の特徴	備　考	登録番号	写真図版番号
1	5T	2b 層	口縁部	IVC類	（外面）磨滅（内面）格子状沈線	胎土に砂粒を多く含む	A-330	33-1
2	5T	2b 層	体部	IVC類	（外面）磨滅（内面）沈線文	胎土に砂粒を多く含む	A-294	33-2
3	6T	2b 層	底部	IVC類	（外面）磨滅（内面）沈線文		A-383	33-3
4	4T	2層上	体部	IVC類	（外面）撚糸文（L）（内面）格子状沈線文	胎土に砂粒を多く含む	A-108	33-4
5	4T	2層下	口縁部	IVC類	（外面）磨滅（内面）格子状沈線文		A-145	33-5
6	4T	2層下	体部	IVC類	（外面）撚糸文（R）、沈線文（内面）格子状沈線文		A-135	33-6
7	5T	2b 層	体部	IVC類	（外面）縄文（RLR）（内面）格子状沈線文	胎土に砂粒を多く含む	A-288	33-7
8	表採		脚部		無文	ミニチュア土器？	A-421	33-8
9	5T	2a 層	底部		網代痕		A-285	33-9
10	4T	2層上	底部		木葉痕、体部下半撚糸文（L）		A-132	33-10
11	2T	2層	底部		沈線？		A-30	33-11
12	4T	2層上	底部		網代痕		A-93	33-12
13	2T	2層底	底部		無文（磨）		A-29	33-13
14	4T	2層	底部		沈線？ 磨		A-157	33-14
15	4T	2層上	底部		網代痕		A-95	33-15

第65図 包含層出土土器(8)



図版番号	地　区	層　位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	整　形	登録番号	写真図版番号	図版番号	地　区	層　位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	整　形	登録番号	写真図版番号
1	4T	2層上	39.7	38.4	8.3	13.7	b	B-5	34-1	18	5T	2b 層	37.9	34.1	7.8	10.2	c	B-21	34-18
2	4T	2層上	29.5	31.5	7.3	7.7	c	B-7	34-2	19	不明	2層	34.1	29.7	7.6	8.9	c	B-32	34-19
3	4T	2層下	(20.1)	34.9	7.8	5.9	c	B-6	34-3	20	6T	2b 層	29.8	32.7	9.4	10.0	b	B-29	34-20
4	1T	2a 層	33.1	30.5	8.9	10.6	a	B-2	34-4	21	5T	2b 層	38.4	42.0	8.2	11.3	b	B-18	34-21
5	5T	2a 層	39.3	35.1	9.8	13.7	a	B-13	34-5	22	5T	2b 層	50.1	48.0	9.3	23.5	c	B-16	34-22
6	5T	2a 層	30.1	30.5	8.5	9.6	b	B-8	34-6	23	5T	2b 層	47.7	43.9	8.1	18.8	a	B-15	34-23
7	5･6間ベルト	2b 層	32.9	34.4	9.3	11.9	b	B-27	34-7	24	排土中		40.0	47.5	8.6	16.3	c	B-34	34-24
8	4T	2層上	35.8	29.7	8.8	10.5	c	B-4	34-8	25	1T	2a 層	46.1	47.6	5.5	12.1	c	B-1	34-25
9	2T	2層	34.8	33.4	7.9	9.0	c	B-3	34-9	26	5T	2b 層	54.0	54.0	8.2	24.3	a	B-19	34-26
10	不明	2層	36.7	32.4	6.5	8.0	c	B-33	34-10	27	5T	2a 層	51.0	48.8	10.2	27.7	a	B-12	34-27
11	5T	2a 層	24.7	21.9	6.2	3.4	c	B-11	34-11	28	5T	2b 層	42.1	46.0	10.9	23.0	c	B-17	34-28
12	5T	2a 層	40.7	39.3	10.4	16.1	b	B-9	34-12	29	5T	2b 層	38.6	48.2	9.9	20.4	c	B-20	34-29
13	5T	2b 層	34.5	34.4	6.7	8.1	c	B-22	34-13	30	5T	2b 層	55.4	55.3	8.5	31.6	c	B-23	34-30
14	5T	2a 層	32.4	35.1	10.2	11.4	b	B-10	34-14	31	6T	2b 層	59.1	58.6	14.1	42.4	c	B-30	34-31
15	5T	2b 層	33.1	32.2	8.4	11.3	b	B-24	34-15	32	5T	2b 層	60.5	59.3	10.4	42.1	a	B-26	34-32
16	5･6間ベルト	2b 層	40.4	38.7	10.3	20.4	c	B-28	34-16	33	5T	2b 層	67.4	65.1	9.0	46.3	a	B-25	34-33
17	6T	3層下～4層直上	34.2	30.1	9.5	10.5	b	B-31	34-17	34	5T	2a 層	54.5	50.2	9.9	24.5	c	B-14	34-34

第66図　包含層出土円盤状土製品

②包含層出土石器

遺物包含層及び表面採集遺物として、石鏃・石錐・石匙・スクレイパーなどの剥片石器、磨石・磨凹石・石皿などの礫石器、有溝石製品などが出土している。これらの石器の所属時期については、共伴している土器からみて後期前葉～中葉初頭のものと考えられる。

『剥片石器』

石　鏃　（第67図A-26・A-46／第69図A-74・A-53）　A-26・A-46は凹基無茎鏃で、直線的な側辺をもち基部にU字状 の深い抉りが入る。A-74は平基無茎鏃で、左側辺を欠いているが基部近くでやや外湾する側辺をもっている。A-53は基部の一部を欠損しているが有茎鏃で、やや外湾する側辺をもっている。A-46の腹面の一部に素材面が残っている以外は、いずれも表裏全面に加工が施されている。

石　錐　（第67図A-11）　基部と太くて短い尖端部の境が明瞭で、基部にも丁寧な調整が施されている。尖端部に摩滅痕はみられない。

石　匙　（第67図A-10）　先端部が平坦幅広で、両側辺に刃部をもつ二側縁構成となっている。両側辺から抉りを入れることにより作出されたつまみ部があまり明瞭ではない。

スクレイパー　スクレイパー・エッジを有する石器。形態及び特徴により2群に分けられた。

Ⅰ　群　（第67図A-17・A-14／第68図A-20／第69図A-47）

二次加工が全周に及び、素材の形態を大きく変化させ、刃部以外にも一定の形態的なまとまりを指向する石器。A-14は裏面にはほとんど調整がされず、背面側の両側辺から入れられた加工によって先端部を作出している。A-47の裏面は平坦でほとんど調整がされず、刃部は背面の周辺に急角度に調整されている。

Ⅱ　群　（第67図A-30・A-82）

素材の形態をあまり変化させずに、部分的な二次加工によって刃部を作り出す石器で、1～2側辺に加工が集中している。

不定形石器　（第67図A-81／第68図A-21・A-9／第69図A-54・A-83）

剥片を素材とした、二次加工や使用痕跡のみられる石器で、定形石器の分類に含まれないものを不定形石器とした。A-83はピエス・エスキーユの可能性がある。

石核（コア）（第67図A-1・A-2／第68図A-56）　剥片剥離作業の行われた残核である。

『礫石器』

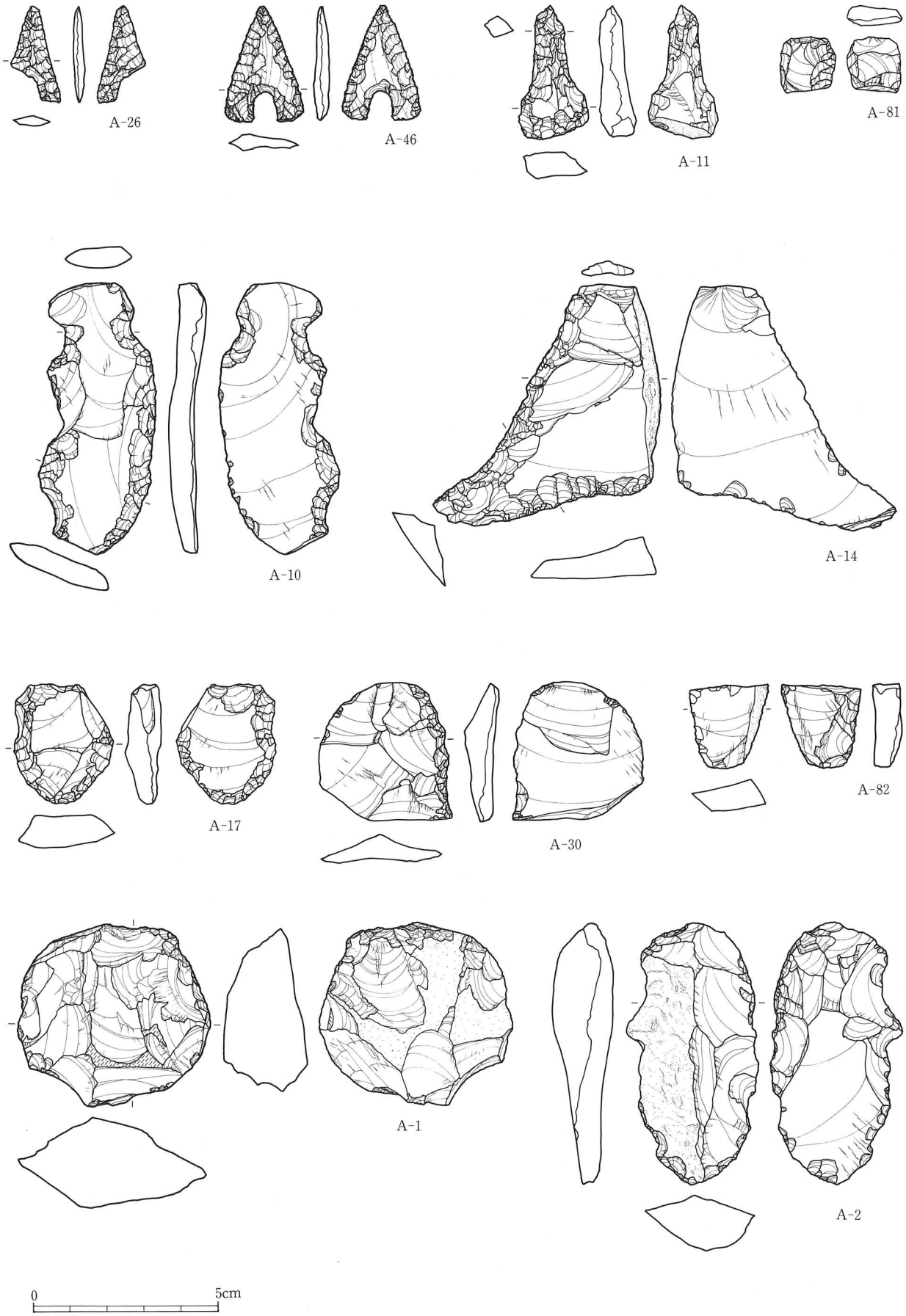
磨　石　（第70図B-2）　欠損品で、両面に使用痕跡（磨面）がみとめられる。

磨凹石　（第70図B-1・B-3・B-4）　B-1・B-3は、使用痕跡としての磨面と凹部が同一面にあり、両面にみとめられる。B-4は、使用痕跡としての磨面は片面のみにあり、凹部は両面にみとめられる。

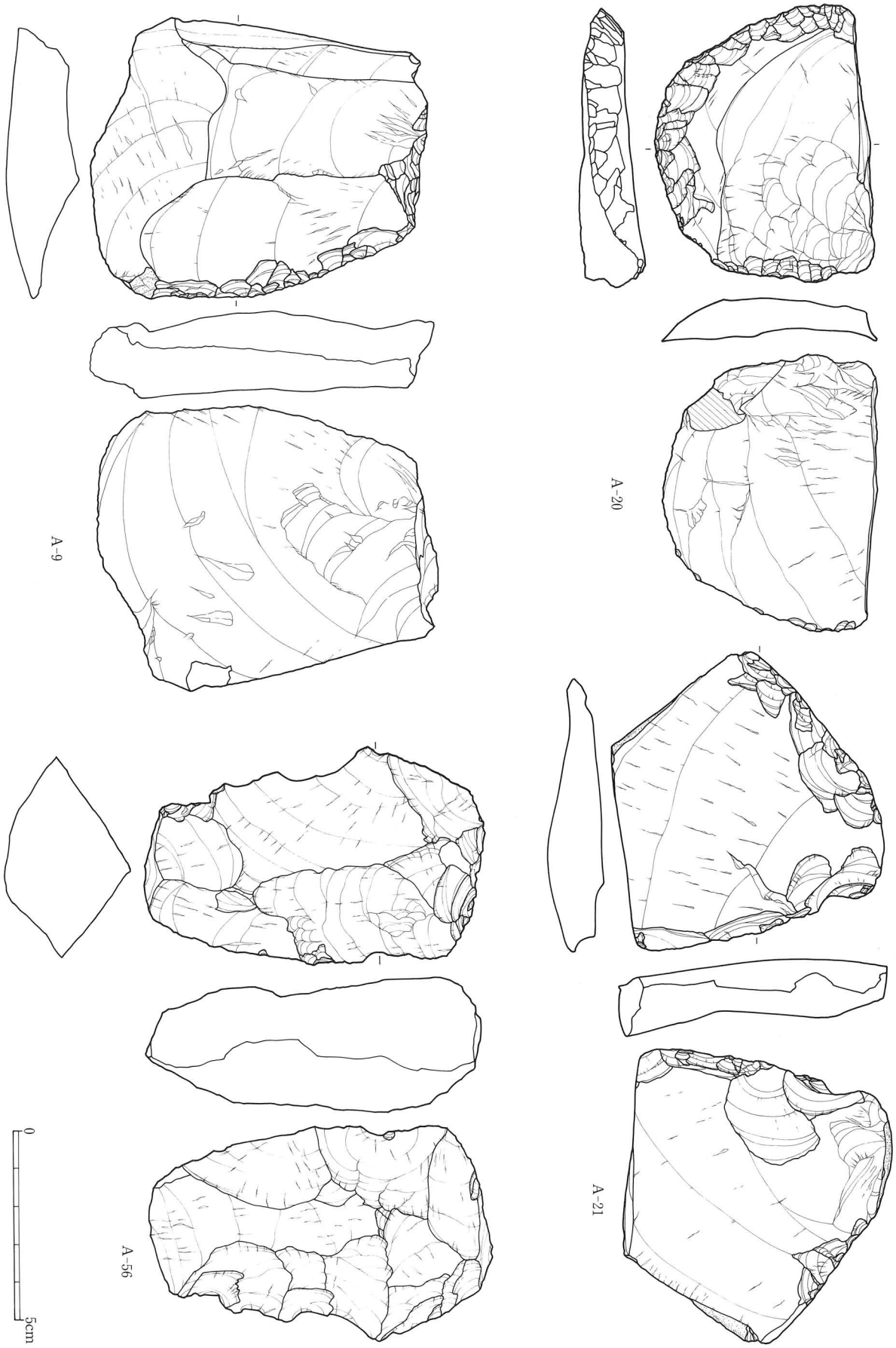
石　皿　（第70図B-6）欠損品であるが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。凹部は浅いが皿状である。

『石製品』

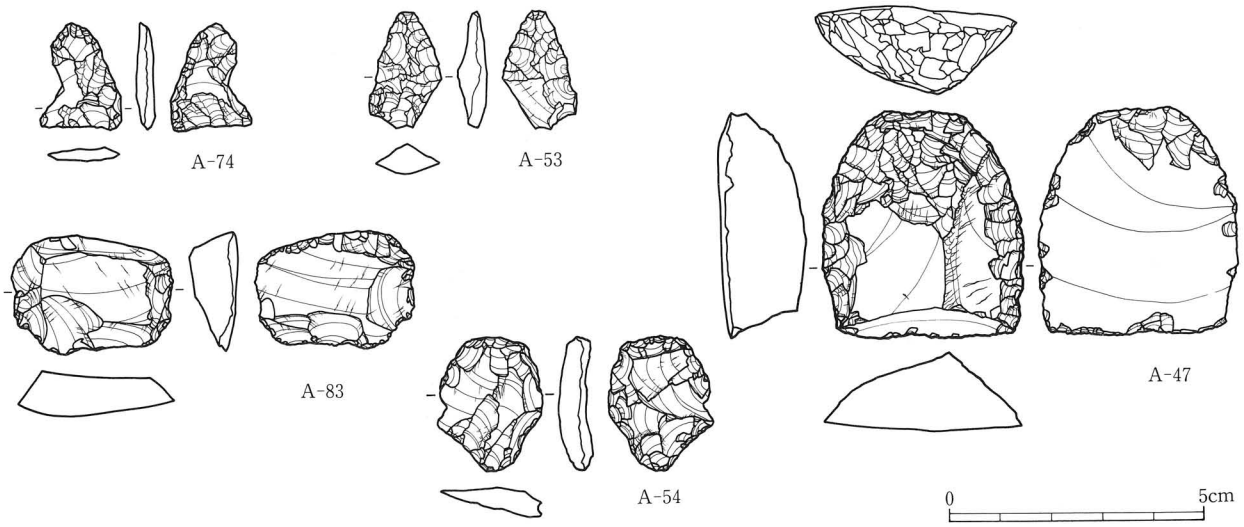
有溝石製品　（第70図B-5）　軟質の砂岩質の石材を用いており、長軸にたいして直交または右傾する2条の磨溝をもっている。平面形は不整な三角形状を呈しており、断面形は扁平で、下面及び左側面・下端側は割れ面となっている。溝の断面形は、幅広のほうはゆるく半円状の弧をえがいており、幅の狭いほうはV字形に観察される。幅広の溝は底面に細い溝が交差してみられ、太さの異なるものを一つの溝で繰り返し研磨した結果と考えられる。大きさ・重さ・形態などからみて、手持ちで何らかの加工物を研磨した、いわゆる「有溝砥石」と考えたい。



第67図　包含層出土石器 (1)



第68図　包含層出土石器（2）

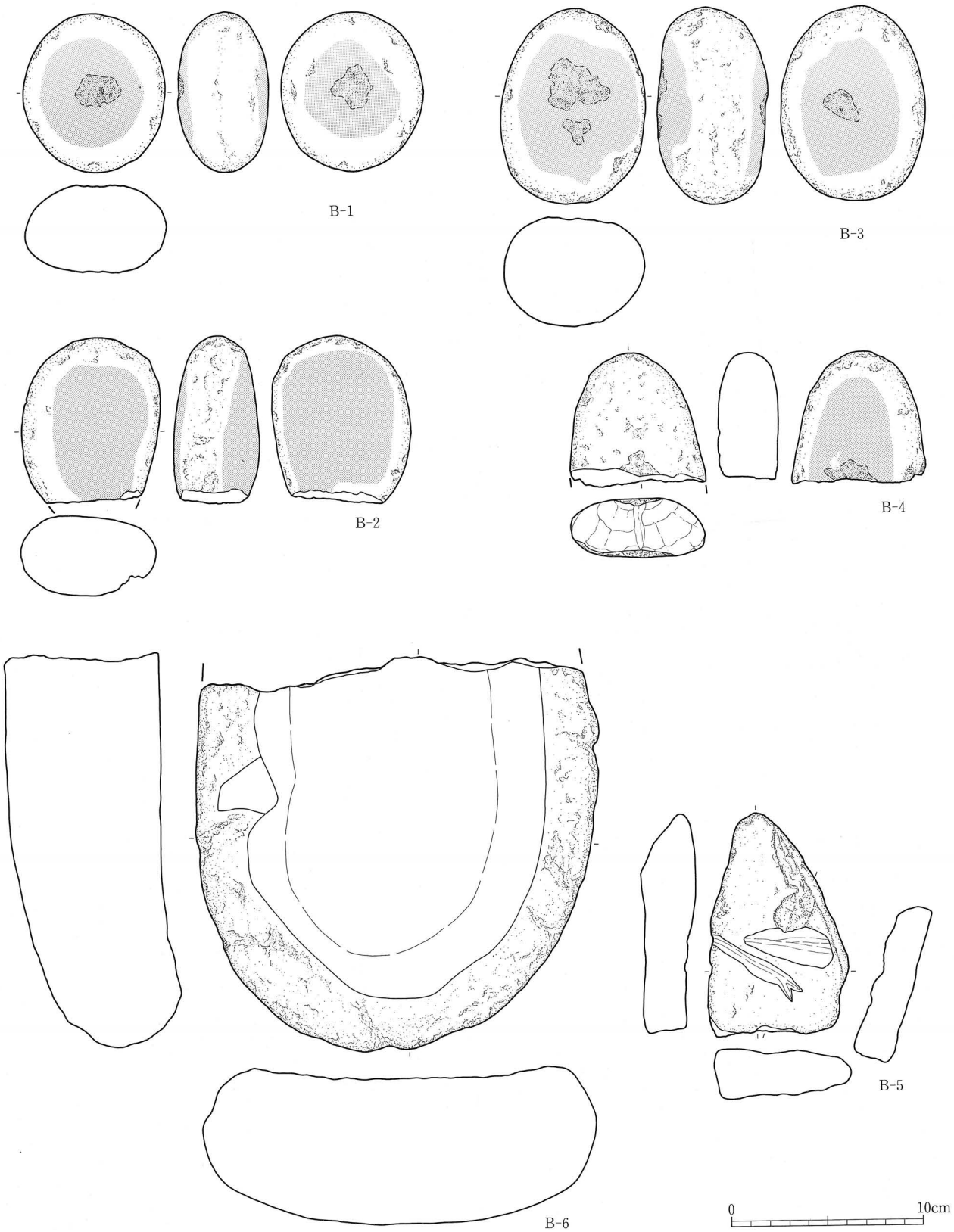


第69図　表面採集石器

図版番号	登録番号	出土地点	層　位	器　種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石　材	写真図版番号	備　考
第67図	A-26	6トレンチ	2b 層	石鏃	25.2	11.3	3.2	0.7	頁岩	写真35	基部欠
第67図	A-46	5～6トレンチ	2層	石鏃	30.7	20.8	3.5	1.8	頁岩	写真35	
第67図	A-11	4トレンチ	2層上部	石錘	35.8	18.6	7.8	4.2	頁岩	写真35	基部に自然面残す
第67図	A-81	1、2トレンチ		不定形石器	14.4	14.5	4.0	1.4	頁岩	写真35	
第67図	A-10	4トレンチ	2層上部	石匙	72.4	30.4	6.8	19.1	頁岩	写真35	
第67図	A-14	5トレンチ	2b 層	スクレイパー	67.9	62.9	8.8	30.4	頁岩	写真35	右側辺自然面残す
第67図	A-17	5トレンチ	2b 層	スクレイパー	33.2	26.8	8.2	8.8	鉄石英	写真35	
第67図	A-30	6トレンチ	2a 層	スクレイパー	37.6	36.1	8.5	9.5	頁岩	写真35	
第67図	A-82	1～2トレンチ		スクレイパー	22.3	20.1	7.0	4.3	頁岩	写真35	右側辺自然面残す
第67図	A-1	1トレンチ		コア	48.9	51.9	25.4	62.9	頁岩	写真35	
第67図	A-2	4トレンチ	2層上部	コア	70.4	36.1	15.2	32.9	頁岩	写真36	背面に自然面残す
第68図	A-20	5トレンチ	2b 層	スクレイパー	56.1	72.1	11.6	54.4		写真36	
第68図	A-21	5トレンチ	2a 層	不定形石器	70.1	82.5	15.2	85.8		写真36	
第68図	A-9	4トレンチ	3層	不定形石器	87.7	75.3	19.2	136.0		写真36	
第68図	A-56	5トレンチ	2b 層	コア	90.3	56.5	34.2	145.7		写真36	
第69図	A-74	表採		石鏃	21.9	16.4	3.5	1.0	頁岩	写真37	左側辺欠
第69図	A-53	表採		石鏃	23.3	13.5	5.6	1.3		写真37	基部欠
第69図	A-83	表採		ピエス・エスキーユ	23.6	31.7	8.3	7.0	頁岩	写真37	
第69図	A-54	表採		不定形石器	26.7	20.5	6.0	3.1	頁岩	写真37	
第69図	A-47	表採		エンド・スクレイパー	45.4	39.3	16.6	32.3	頁岩	写真37	
第70図	B-1	表採		磨凹石	82.3	74.2	46.0	378.9		写真37	
第70図	B-3	5トレンチ	2a 層	磨凹石	102.4	75.6	56.4	654.3		写真37	
第70図	B-2	表採		磨　石	88.6	71.2	42.5	379.2		写真37	
第70図	B-4	4トレンチ	2層上部	磨凹石	67.2	70.0	30.6	218.3		写真37	
第70図	B-6	4トレンチ	2層上部	石　皿	260.0	70.6	80.0	-		写真37	
第70図	B-5	4トレンチ	2層上部	有溝石製品	116.9	73.7	27.9	234.4		写真37	

蒲沢山遺跡出土石器（第72回）

図版番号	登録番号	出土地点	層　位	器　種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石　材	写真図版番号	備　考
第72図	K-2	10住外		片刃石斧	109.6	27.6	23.2	85.2		写真39	
第72図	K-3	7住 S-4		スクレイパー	54.6	35.6	12.4	32.9	頁岩	写真39	
第72図	K-1	L 区	表採	局部磨製石斧	96.5	59.8	24.6	191.6		写真39	
第72図	K-7	7住 S-1		剝片	107.9	98.8	32.7	362.9	頁岩	写真38	4-1
第72図	K-8	7住 S-2		剝片	140.2	99.7	13.5	159.3	頁岩	写真38	4-2 接合資料
第72図	K-8	7住 S-2		剝片	89.7	82.8	22.3	118.2	頁岩	写真38	4-3
第72図	K-9	7住 S-3		剝片	105.1	86.1	21.0	159.7	頁岩	写真38	4-4
第72図	K-4			剝片	67.2	127.9	32.5	272.0	頁岩		



第70図　包含層出土石器 (3)

VI 分 析

宮城県仙台市野川遺跡土坑の縄文草創期層から得られたとされる炭化木片の加速器^{14}C年代

中 村 俊 夫
名古屋大学年代測定資料研究センター

1 はじめに

1991年8月29日～9月27日に宮城県仙台市青葉区熊ケ根字町地内に所在する野川遺跡で発掘調査が行なわれた（吉岡・工藤1992）際に、縄文時代草創期の石器や土器片が集中的に出土した層で、土壌資料が採取された。これらの土壌につき、1994年9月に水洗選別が行なわれた際に、炭化木片の細片が得られた。これらの炭化木片は、同じ地層から発掘された縄文草創期の石器や土器片の^{14}C年代を知る手がかりとなるはずである。そこで、これらのわずかな量の炭化木片について、炭素資料の量が小量ですむ加速器質量分析法を用いて^{14}C年代測定を行なった。

隆起線文土器－爪形文土器－多縄文土器という草創期の土器編年の中で、野川遺跡の土器は多縄文系を中心としながらも爪形文もみられる。福島県仙台内前出土の爪形文土器については、住居の埋土の分析から10,000年前に近い年代が与えられており、青森県鴨手出土の爪形文土器についても火山灰の検討から9,000～10,000年前と想定されている。今回の年代測定によって、当該期の東北における年代が確定できる可能性が期待された。

2 炭化木片の採取

縄文時代草創期の石器が集中して出土した第1土坑および第2土坑（吉岡・工藤1992）の埋土から得られた3点および1点、さらに同じく縄文時代草創期の石器や土器片が出土した第6トレンチ「ム」区および「ロ」区の基本層4層の埋土から得られた1点づつの計6点の炭化木片について^{14}C年代測定のための処理を行なった。しかしながら、これらの資料のうち、第2土坑の資料については炭素量が少なく年代測定ができなかった。

3 加速器質量分析法による^{14}C年代測定

生きている生物の体内にある炭素には、ごく微量の放射性炭素（^{14}C）が含まれている。^{14}Cのような放射性同位体は、β線などの放射線を放射して、それぞれ固有の半減期で崩壊し、別の元素に変わる。半減期とは、放射性同位体の個数が半分に減少するまでの時間で、^{14}Cの場合には、5,730年である。天然の炭素は、安定で放射性崩壊をしない同位体^{12}Cと^{13}Cとで構成されるが、ごくわずか^{14}Cを含んでいる。それぞれの炭素同位体は、互いによく混合されており、存在の割合は、^{12}Cが98.88％、^{13}Cが1.12％で、^{14}Cはゼロが10個並ぶほどに少ない（1.2×10^{-10}％）。

放射性同位体^{14}Cはどこで造られるのか、エネルギーの高い放射線（宇宙線）が宇宙から地球上へと絶え間なく降り注いでいることはよく知られている。これらの宇宙線が直接生物に降り注げば、核弾頭からの放射線と同様に、生物にとってきわめて有害である。しかし、地球の磁場の作用で宇宙線のうちエネルギーの低い成分は跳ね返されるし、さらに厚い地球の大気がおおかたの宇宙線が地上まで達するのを阻んで、地上の生物を保護している。地上の生命を守るこの大気のなかで、^{14}Cなどの放射性同位体が生成されている。^{14}Cのほか、^{3}H、^{7}He、^{10}Be、^{26}Al、^{36}Clなどの放射性同位体が生成されており、宇宙線生成放射性同位体と呼ばれる。計算上は、大気中で1年あたり約10kgもの^{14}Cが生成されている。しかし、崩壊により減少する量が生産量と釣り合い、安定な炭素である^{12}Cや^{13}Cの個数に対する^{14}Cの個数の比は、ほとんど時間的変動はない。

大気中で造られる^{14}Cは、酸素と化合して二酸化炭素として存在する。植物の光合成により、^{14}Cからできている

二酸化炭素は、^{12}Cや^{13}Cからできている二酸化炭素と同様にして、ほぼ同じ割合で植物中に取り込まれる。食物の循環により^{14}Cは体内にも取り込まれる。生物が生きている間は、絶えず新陳代謝を繰り返すので、生物体内の^{14}Cと^{12}C(または^{13}C)との比はほぼ一定で、大気中二酸化炭素についてのそれらの比と同じである。さらに、大気中の^{14}Cと^{12}C(または^{13}C)との比は、数千年、数万年にわたってそれほど大きくは変動していないと考えられている。ところが、生物が死ぬと、新陳代謝は止まるので、^{14}Cの量だけが放射性崩壊によって次第に減少する。そこで人骨化石などについて、^{14}Cの残存量を^{12}C(または^{13}C)の存在量に対する比として測定し、それを定常状態の比と比較することにより、放射性崩壊の原理に基づいて、その人が死んだときの年代を知ることができる。

炭素中に存在する^{14}Cの量は、きわめてわずかであり、マイクロ天秤をもってしても測ることはできない。^{14}Cの測定法は二つ挙げられる。一つは、^{14}Cが崩壊するときに放射されるβ線を測定する方法である。もう一つは、イオン源を用いて、炭素資料を構成する炭素の原子のレベルまでバラバラに分割して、これを加速し、質量分析により重さの違う^{12}C、^{13}C、^{14}Cを振り分けて、原子を直接計数する方法である。この2番目の方法が、名古屋大学で行なっている加速器質量分析法による^{14}Cの測定法である。この方法では、炭素資料に含まれる^{14}Cを直接計数する。生きている生物の炭素1mgには約6,000万個の^{14}C原子が含まれている。6,000万個の^{14}C原子があっても 半減期が5,730年と長いため、^{14}Cの崩壊の個数は1時間あたり0.8個と少なく、放射線計数法では計数を増やして 測定精度を高めることがたいへん困難であるが、直接計数法では1mgの炭素があれば充分な精度で測定できる。

名古屋大学に設置されているタンデトロン加速器質量分析計の特徴としては、まず、分析計に充塡する炭素資料の量は1mg程度のごく微量でよいこと、古い年代値が正確に測れること、測定資料が1試料あたり2～3時間と短いことなどがあげられる(中村・中井、1988)。

4 炭化木片の調整

炭化木片試料については、中村・中井(1988)の方法に基づいて以下のような処理を行なった。炭化木片の細片を200mℓのビーカーに入れ、蒸留水を加えて放置し水になじませる。炭化木片は、最初は浮いているが、次第に 見ずになじんで沈む。そこで、これを超音波洗浄して表面の汚れを取り除いた。次に、試料に付着している可能性のある不純物を化学処理によって取り除いた。まず、1.2規定塩酸で90°Cで2時間の処理を2回行い炭酸塩等を溶解除去した。次に、1.2規定水酸化ナトリウム水溶液を用いて90°Cで2時間処理してフミン酸などを溶解除去した。このアルカリ処理は、水溶液がほとんど着色しなくなるまで繰り返した。さらに、1.2規定塩酸で90°Cで2時間の処理を2回行い、蒸留水でよく洗浄して塩酸分を完全に取り除いたあと乾燥した。これを、パイレックス管に入れ、排気して封管し、500°Cで2時間加熱して試料を完全に炭化した。炭化試料をよく乾燥し、その約5mgを銀粉末45mgと混合し、混合物の一部をアルミニウム製の試料台に圧入して、分析計のイオン源の検査試料とした。残りの炭素－銀化合物は、再測定の必要な場合を考慮して保存してある。

5 ^{14}C年代測定の結果

上述のようにして調整した固形の炭素資料について、タンデトロン加速器質量分析計を用いて^{14}C年代測定を行った。タンデトロン分析計では、^{14}Cと^{13}Cとの存在比(^{14}C／^{13}C(＝R))が未知試料(R_{sample})と^{14}C濃度が既知の標準体(R_{AD1950})とについて交互に繰り返して測定され、R_{sample}/R_{AD1950}比が得られる(Nakamura et al,1985)。この比から試料の^{14}C年代値が算出される。^{14}C濃度の標準体としては、国際的な標準体であるNBS-SRM-4990シュウ酸を用いた。また、^{14}Cの半減期としては、国際的な慣例に従って、Libbyの半減期5,570年を用いた。^{14}C年代値は、西暦1950年を遡った年数として与えられる。

測定結果を表1に示す。年代値の誤差は、1標準値(one sigma)で示してある。これは、同様な条件で年代測定

を100回繰り返したと想定したとき、年代値が誤差範囲内に入る割合は68回と予想されることを意味する。

表1には、^{14}C年代から暦年代への較正年代を示す。すなわち、樹木年輪を用いた^{14}C年代－暦年代較正法(Calib ETH 1.5b(Niklaus,1991))に基づき、^{14}C年代値から暦年代への較正を行った。暦年較正値は、暦年代の範 囲及び真の年代がその範囲内に入る確立が百分率で示してある。暦年較正の詳細については、中村（1995）を参照頂きたい。

6 考 察

野川遺跡の出土遺物は、土器の文様および石器の組成から縄文時代草創期に位置づけられている。旧石器時代と草創期の境としては、12,000年前の前後とするのが一般的ではあるが、野川遺跡の出土遺物については土器の文様から10,000年前の前後の年代と推定されている。一方、縄文時代草創期と判断される石器や土器の出土した層から採取された炭化木片の^{14}C年代値は、3,160～5,940 y.B.P.と、予想よりずっと若く得られている。今回処理し た炭化木片は、しっかりとした塊であったことから、現代炭素による汚染とは考え難い。実際、10,000 y.B.P.の年代の炭素が3,160 y.B.P.の年代値を示すためには、計算上では、10,000 y.B.P.の炭素に現代炭素が約54％も混入する必要があるが、そのような大規模な混入は到底考えられない。

縄文時代草創期の土器や石器が出土した地層の上部には、縄文時代前期～後期の土器が出土する地層が存在したとされることから、土壌試料を採取する際に、上層の地層中にあった炭化木片の細片が、きちんと除去されずに混入したものと考えられる。

今回の^{14}C年代測定の結果から示されるように、米粒1個程度の小さな炭化木片でも、加速器質量分析法を用いると、高精度で年代測定が可能である。今後の発掘に際しては、現場で特定の地層を確認して発掘しながら、直接に試料を採取し、これを汚染の無いようにきちんと保存しておき、年代測定に用いることが大切であろう。

表1　仙台市野川遺跡出土炭化木片の^{14}C年代測定結果

試料番号	試料採取地点	材料	^{14}C年代値* (y.B.P.,±1σ)	暦年較正値** BC, AD(1σprobability)	測定番号 (NUTA-)
1	第1土坑	炭化木片	5,940±90	4936-4754 BC(90.1%) 4746-4721BC(9.9%)	-3545
2	第1土坑埋土1層	炭化木片	3,320±70	1673-1521 BC(100.0%)	-3550
3	第1土坑埋土1・2層	炭化木片	3,710±80	2199-1958 BC(100.0%)	-3551
4	第2土坑	炭化木片	測定不可		
5	NO.6トレンチ4層ロ区	炭化木片	3,730±80	2274-2250 BC(7.8%) 2205-2018BC(84.5%) 2003-1981BC(7.7%)	-3552
6	NO.6トレンチ4層ム区	炭化木片	3,160±80	1515-1372 BC(81.4%) 1354-1315BC(18.6%)	-3553

* ^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,570年を用いた
^{14}Cの代値（y.B.P.）は西暦1950年から過去へ遡った年数で表す。また、誤差は、1標準偏差（1 σ）を示す。

** ^{14}C年代から歴年代への較正は、CalibETH1.5b(1991)(スイス、中間エネルギー物理学研究所、ETH、AMS施設で開発された）を用いて行った。^{14}C年代一暦年代較正曲線は、Stuiver&Pearson(1993)を用いた。

参考文献

中村俊夫・中井信之（1988）「放射性炭素年代測定の基礎－加速器質量分析法に重点をおいて－」地質学論集、29，83-106。

中村俊夫（1995）「加速器質量分析（AMS）法による^{14}C年代測定の高精度化および正確度向上の検討」第四紀研究（投稿中）。

吉岡恭平・工藤信一郎（1992）「宮城県仙台市野川遺跡の調査」考古学ジャーナル、349，40-44。

Nakamura,T., Nakai,N., Sakase,T., kimura,M., Ohishi,S., Taniguchi,M., and Yoshioka,S. (1995) Direct detection of radiocarbon using accelerator techniques and its application to age measurements. Jpn.J. Appl. Phys.,24, 1706-1723.

Niklaus, T.,R. (1991) CalibETH 1.5b, Program for calibration of radiocarbon dates. Institure for intermediate energy physics, ETH. Zurich, Switzerland.

Stuiver, M. and Pearson, G.(1993) High-precision bidecadal calibration of radiocarbon time-scale AD1950-6000BC. Radiocarbon, 35,1-34.

Ⅶ 考　察

1．野川遺跡出土土器の編年的位置付けについて

草創期の土器編年についてはいくつか提起されてきたが、その一つに隆起線文系→爪形文系→押圧縄文系→多縄文系という考えがあった(鈴木：1969)。しかし近年の発掘資料の増加によって、複雑な状況が提示されている。 たとえば、爪形文は隆起線文土器や多縄文土器と組み合わされて施文され、爪形文土器群そのものは存在しないという見解もある（大塚：1982)。しかし一方で、青森県鴨平２遺跡（春日：1982)・岩手県大新町遺跡（千田他：1986他）などのように、爪形文土器を単独で出土する遺跡もある。

宮城県内では現在のところ、当該期の遺跡としては９遺跡が知られている程度であり、出土している土器片も、それぞれ１点ないし数点程度である。しかし岩出山町の座散乱木遺跡からは、爪形文・絡条体圧痕文・表裏縄文土器の出土層の下層から羽状縄文土器が出土しており、色麻町の大原Ｂ遺跡からは、口唇部に絡条体圧痕がつけられた微隆起線文土器が出土している(加藤他：1990)。また多賀城市の志引遺跡でも、爪形文土器と微隆起線文土器とが共伴する可能性が報告されている(鎌田：1984)。しかし、資料数が少なく、これまで知られている資料のなかでの編年的位置付けについては難しいものがあったといえる。

今回の野川遺跡の資料には、絡条体圧痕土器、縄文圧痕による土器、縄文圧痕と爪形文が施された土器などがみられ、その構成には各種の施文方法が考えられる。これらの土器群は宮城県内では初めてのものであり、出土数は約30点と少ないものの多様な文様のバリエーションをもっている。しかし、類似した文様・施文方法をもつ遺跡は広範囲に広がっており、しかも比較できる資料も少ないことから、野川遺跡の土器を地域性の面からとらえるよりも、全国的な視点で比較検討することで編年的位置付けを考えてみたい。

当該期の遺跡として野川遺跡に近い内容をもつ遺跡として東北地方では、福島市の仙台内前遺跡(武田：1988)・南諏訪原遺跡（(財)福島市振興公社：1991)、山形県高畠町の日向洞窟（佐々木：1971)・一ノ沢洞窟（加藤：1962）などがあげられる。この中では「ハ」字形爪形文と多縄文土器が伴っている点で、仙台内前遺跡・日向洞窟に近いものと考えられる。「ハ」字形爪形文と多縄文の共伴例としては、埼玉県西谷遺跡（栗原他：1961)・新潟県小瀬ケ沢遺跡（中村：1960）などがあるが、東京都多摩ニュータウン№426遺跡では隆起線文系土器との共伴例がある（原

川他：1981)。「ハ」字形爪形文については、隆起線文系土器と爪形文系土器をつなぐものとしていわゆる爪形文土器とは別に考えられているが、今後共伴関係をもつ資料が増加することで「ハ」字形爪形文の系譜についてあきらかになってくるものと思われる。

№695のような短縄文圧痕による土器については、新潟県壬遺跡資料(国学院大学：1982他)に類例があり、№453のように爪形文と押圧縄文が組み合わされて施文されている土器については、新潟県の本ノ木遺跡・小瀬ケ沢遺跡資料に類例が求められるようである（小野・鈴木編：1994)。同じ爪形文＋縄文押圧土器や回転縄文では、埼玉県宮林遺跡資料（宮井他：1985）に類似している。また絡条体圧痕土器は、埼玉県西谷遺跡（栗原他：1961）・水久保遺跡（小林他：1979）資料に近く、西谷遺跡には、口唇部に絡条体圧痕がつけられた土器がある。

№203～205の土器にみられる羽状を呈する文様の施文具としては、刻みを入れた軸による圧痕か、コイル状に巻かれた絡条体の側面圧痕によって施文されたと考えられる。この施文具については、太めの3本撚りによる自縄自巻によって施文されている可能性もある。自縄自巻によるものであれば、静岡県仲道A遺跡資料（渋谷：1986）に近いものと考えられる。自縄自巻による施文について筆者は実見していないが、この資料は、一つひとつの条の端の部分が角張っており、圧痕の深さが一様であることなど、これまで自縄自巻として報告されている資料とは若干の違いがみうけられ、なお検討を要すると思われる。

野川遺跡の土器を文様構成からみると、2基の土坑を中心とした4ヵ所の遺物集中地点は大きく2つに分けることが出来る。土坑周辺のN－3～8区については、短縄文の押圧が羽状を呈する土器が主体となっているが、N－12～15区については、絡条体の側面圧痕による土器が主体となっている(第6図)。こうした出土状況からみて、絡条体圧痕文による土器群と縄文圧痕による土器群には時間差があるものと考えられる。

遺跡間の比較でいえば、仲道A遺跡や新潟県の室谷洞窟（中村：1964）の資料よりは古手で、本ノ木遺跡・小瀬ケ沢遺跡・宮林遺跡に近いものと考えられる。編年的位置については、隆起線文系土器群以降のある段階に位置付けられるものと考えるが今後の資料の増加をまちたい。

※宮城県内出土の草創期の土器について分類・整理すると下表のようになる。

	座散乱木	馬場壇B	馬場壇C	大原B	鹿原D	小梁川東	除	志引	野川
隆起文系		○		○	○	○		○	
押圧縄文									○
絡条体圧痕	○		○	○					○
回転縄文	○								○
爪形文	○							○	○

※除遺跡で出土している土器は無文土器である。

※これらの遺跡以外に、柴田郡川崎町の下窪遺跡から隆起線文土器が出土しているとの報告がある。「宮城県柴田郡川崎町下窪遺跡出土の隆起線文土器について」宮城史学13号（後藤勝彦：1990）

2．遺構と遺物の関連性と遺跡の性格

⑴遺構と遺物の関連性

①遺物集中地点

第5・第6トレンチ4層上面からの遺物出土状況は、2基の土坑を中心として、土器と石器の分布に4ヵ所のまとまりが認められた。前述のように、各遺物集中地点出土土器の文様構成に違いがみられることから、2つのまとまりに分けることができる。また、剝片について接合関係は認められなかった。

こうした構成の違いについては、2つの遺物集中地点が同時に存在したというよりは、時間差を示している可能性が高いと考えられよう。

②遺物集中地点と土坑

2基の土坑を中心とした遺物の集中が認められ、水洗選別によって検出される微細遺物の数量別分布状況もこれとほぼ重なっている（第55図）。選別された微細遺物のなかには土坑から出土している石器・剝片類と、同一母岩によるものと考えられるものもある。

水洗選別による微細遺物の検出結果から、土坑の周辺で石器製作が行なわれた可能性が高く、土坑の東側では微細遺物の分布が少ないことから、石器製作にはかかわらない場であったと考えられる。また、N－0区から西側の調査区では、土器および石器の出土がほとんどない無遺物空間となっている。

土坑と遺物集中地点との剝片接合関係でみると、土坑間での接合資料が1点（S－20）と、第2土坑とその西側の第4遺物集中地点との折面での接合資料1点（S－61）がある。こうした点からみると土坑と周辺に遺された遺物はほぼ時間を同じくしていることが考えられる。

また選別された微細遺物のなかには、加熱による火はねのある資料がみられ、2基の土坑の間に集中している。

以上のことから、検出された遺物と遺構には密接な関連のあることがわかった。旧石器時代の調査では、こうした遺物集中は一般的に「ブロック」または「ユニット」と呼称されている。その性格については、(a)石器製作作業場、(b)石器製作作業以外の（石器を使用して何らかの作業を行なう）作業場、(c)ゴミ捨て場、(d)居住の場、(e)墳墓、(f)(a)～(e)のいずれかが複合した場、などがあげられている（柳沢：1979）。

野川遺跡についてこれに当てはめてみると、それぞれの間で時間差をもっている可能性もあるが、(a)や(b)といった行為が複合して行なわれた場としての可能性を考えることが出来る。

⑵土坑出土石器の使用痕分析について

使用痕分析においては、主に光沢・線状痕・すい星状の凹み・微細剝離痕を観察の対象として、モデル化・タイプ分類がおこなわれている。使用痕光沢による石器の機能同定法は、L.H.Keeleyによって体系化されたもので、これまで東北大学考古学研究室において、実験研究と使用痕モデル作成といった使用痕研究が続けられ、その結果と遺物との対比という方法で応用されてきている。

使用痕研究の方向としては、梶原・阿子島によって次の点があげられている（1981・1982）。

①石器の型式学的分類が、石器の機能（どこが、どのように、何に対して使われたか）とどのように関連しているかを明らかにする。（Keeley：1980）

②特定の機能と属性（刃角、刃の幅、刃の形、大きさ、重さetc）の関連を明らかにすることによって、石器製作技術と使用との関係を具体的に把握する。

③遺構や遺物集中地点と石器の機能の関わりを探り、先史時代の具体的な生活の復元をめざす。

④刃部再生（使用による形態変化）の有無とその頻度を明らかにし、石器形態の柔軟性を立証する。

今回、野川遺跡から出土した石器のうち、土坑出土資料を中心とする石器（Tool）及び剝片など次の14点について、東北大学考古学研究室に予備的な顕微鏡観察をお願いしている。

［第１土坑］　№109（第20図）・№398・№71・№210・№130・№334

［第２土坑］　№631（第24図）・№663（第23図）・№649（第24図）・№606-b(第23図)・№614（第26図）・№612（第23図）

［第６トレンチ４層］　№195・№682（第11図）

その結果、「石器表面の状態には資料によって差があり、またしばしば「輝斑」現象が認められるが、全般に表面変化の程度は軽度であり、『石器の使用痕』（阿子島：1989）の方法による使用痕分析は可能である。」との所見をいただいている。

［№682（第11図・写真20）］　エンドスクレイパー

刃部の摩滅は軽微であり、使用痕光沢（Ｄ１、Ｅ２タイプ）と刃部に直交する線状痕が認められ、骨角・皮などにスクレイパーとして使用した可能性が高い。

［№606-b（第23図・写真13）］　スクレイパー

両側辺の刃部に使用痕光沢（Ｅ２、Ｂタイプ）が認められ、皮や草木に対して用いた可能性が高い。

報告書作成時点では、時間的な制約もあり詳細な分析を行うことはできなかったが、今後別の形で使用痕分析の報告を行いたいと考えている。

⑶石器の集積と遺跡の性格

２基の土坑からの石器の一括出土は、意図的な一括貯蔵の痕跡と考えられるが、このような出土状況は、縄文時代草創期における特異な遺物の出土状況とされ、「デポ－Deposit－」と呼称されてきた。これまでデポとして識別された遺跡とそこから出土した遺物は少なく、なかには明確な出土状況を示す図や写真等の資料が残されていない遺跡もある。

野川遺跡の場合、２基の土坑からの石器の出土状況は非常に印象的であった。第１土坑Ｂでは、へら状の石器の上に大型の両面加工石器３点が重ねられた状態で検出され、多量の剝片が出土した。剝片は、中心部のものは水平状態で密着しているが、周辺に向かって斜めになり壁際の剝片はほぼ直立した状態であるなど、樹皮または獣皮など袋状のものに入れられていたようである。一方第２土坑のほうは、第１土坑Ｂの剝片に比べ大型の剝片で構成され、石器（Tool）の完形品９点と大型の剝片が積み重ねられたように出土している。２基の土坑は近接して発見されているが、第１土坑Ｂと第２土坑の剝片に接合関係があったことから、２基の土坑の石器はほぼ時間を同じくして集積されたと思われる。しかし２基の土坑からの石器の出土状況には、構成や内容に微妙な違いが認められ、同じ集積という行為でありながらその性格・成因を別に考えられる可能性をもっている。

当該期のこのような集積行為についてはこれまで多くの論考がださているが、それらと野川遺跡を比較することで遺跡の性格を考えてみたい。

一般的なデポの形としては、①石槍や石斧といった単一或いは特定器種を主体として、②未製品や完成品などが極めて狭い範囲から集中または折り重なった状態で検出され、③石器製作の痕跡や他の器種をほとんど組成していない。そして④デポから出土する遺物は、まとめられた石器を単位として材質・製作技術・形態が同一であるという一定の特質がある(栗島：1990)。これまでデポとされてきた遺構を構成している基本的な石器形態は石槍と石斧であり、野川遺跡の場合、これらの石器をもたないことや、①や③の点でこれまでのデポの認識からは外れていると思われる。

野川遺跡の石器のように、石材として日本海側の最上川流域で産する頁岩を主として、地元産の石材を使わない石器群のあり方は、石器を残した集団が一時的（季節的）に訪れた結果かまたは、本来の拠点集落から遠く離れた特殊なキャンプであったことを示し、残された石器は意図的に残していった（貯蔵）可能性があるとの見方がある(梶原：1991)。

集団の一部が居住地を離れ野営をしながら、特定のターゲット（石材）に対して計画的に収集・獲得活動を行なう場合、資源の貯蔵は一般的に行なわれ、その結果特定の場所が繰り返し占地され物資が埋納されている遺跡がある。こうした貯蔵の場は「キャッシュ－Cache－」と呼ばれ、移動する領域の特定の場所におかれ、獲得された資源（石材）は計画的に消費されるという民族考古学による研究にもとづいた考えがある（阿子島：1991）。石器製作が行なわれかったと考えられる遺跡の場合、再び石器を取りに戻ることを想定して、テリトリーのなかにいくつかのキャッシュとなる場所をおいて石器などの補給場としたことが考えられる。

野川遺跡において、何らかの石器製作に伴う作業が行なわれた可能性については先に述べたとおりである。接合資料は、原石の形状復元が可能なものはなく、いずれの資料も数枚の接合にとどまっている。このことは石器製作あるいは剥片剥離のなかの限られた工程が行なわれたことを示しているものと考えられる。

このような特定の作業工程が行なわれた遺跡としては、群馬県石山遺跡・千葉県南大溜袋遺跡・神奈川県寺尾遺跡などが知られている。３遺跡では石槍の未製品を比較的多く含み、調整剥片や砕片類を多く出土している。石材として原石である礫や分割礫、あるいは大型剥片などがみられないことから、両面調製品としてある程度の形態を整えた未製品を搬入して石器を製品に仕上げた結果とされている。すなわち、未製品の仕上げ（製品）を行なったという意味での製作跡としての性格を暗示している（栗島：1990）。

こうした点からみて、野川遺跡の場合も礫や分割礫といった原石あるいは大型剥片を持ち込んで、加工して石器を製作したのではなく、両面加工石器というある程度の形態を整えた未製品として搬入した石器を、製品に仕上げた場として考えることは出来ないだろうか。大型の両面加工石器（円盤状石核）を考えると、原産地において石器としての余分な部分は除去し、半製品に仕上げることによって移動に際しての運搬コストの削減を図ったことが考えられる。

調査範囲が狭く遺跡の性格を語る上で十分な資料があるとはいえないが、野川遺跡の遺物のあり方からは、長期的な居住地というよりは短期的な生活跡と考えられる。石材の分割や剥片の生産・加工といった、石器製作に伴う作業ののち、一定の数量の石器だけが他地域へと持ち出されたのであろう。予備的な観察とはいえ、第２土坑から出土したスクレイパーには、すでに使用されたものも含まれていることが明らかになっている。こうした点からも、残された石器は再び戻ってくることを想定して貯蔵されたものであろう。こうした野川遺跡のあり方からは、デポの場というよりはキャッシュの場として考えることができる。

これまでデポやキャッシュと認識された遺跡の場所・立地としては、拠点となる遺跡から遠く離れた場所、河岸段丘の直上、扇状地の扇端部、平地と丘陵、丘陵と山地といった地形的な変換点に立地する例が多いようである。そうした点からも、季節的に変わる活動の接点区域にこうした遺構が設置されていたと考えられるが、野川遺跡の場合も同様に、奥羽山系から流れでた広瀬川の形成した河岸段丘上に位置している。

遺跡と遺跡群の関係から、縄文時代草創期における宮城県内の遺跡立地をみてみると、県北部の江合川・鳴瀬川水系に位置する座散乱木遺跡・馬場壇遺跡群、県中央部の広瀬川・名取川水系の野川遺跡・下窪遺跡、県南部の白石川・阿武隈川水系の小梁川東遺跡となっている。いずれの水系も源流は分水嶺である奥羽山系にあり、石材供給地である最上川上流域と近接している。石材獲得のための交易ルートとしてみると、その一つの形態として河川沿いに移動しながら複数の河川領域を移動していくことが考えられる。野川遺跡の場合、広瀬川上流に位置しており、北側の七北田川下流部には志引遺跡、南側の名取川流域には下窪遺跡といった草創期の遺跡が分布しており、野川遺跡を含めた交易ルートが考えられる。

前述のとおり、遺物集中地点での土器の文様構成の違いは時間差を表している可能性が高い。遺物構成からみて、２基の土坑に石器を貯蔵したのは短縄文による土器をもった集団で、貯蔵行為は土坑間での接合関係や土坑と周辺の調査区との接合関係により、ほぼ同時期に行なわれたものと考えられる。一方絡条体による土器を残した集団は、

再び戻ってきた同一集団か、あるいは先の集団と関係（接触）のあった集団であった可能性がある。

このことから集団間の関係として、石器や石材という「モノ」の交易だけでなく、情報や人の交換という形での交流のあったことを考えることができる。

3．蒲沢山遺跡出土石器について【参考資料】

蒲沢山遺跡は、JR 仙山線愛子駅から北へ約 2.5 km、仙台市立大沢中学校の北側に位置していた。調査は区画整理事業に伴う事前調査として実施され、現在は赤坂ニュータウンとなっている。

遺跡は、愛子盆地北側の七北田・国見丘陵の西南端を流れる広瀬川水系の一つである芋沢川の支流赤坂川左岸の丘陵上にある。遺跡内の標高は 140～230 m 程である。野川遺跡からは直線距離にして約 8 km程のところである（第1図）。

1983～84 年にかけて、旧宮城町教育委員会によって発掘調査が行なわれた。調査面積は約 20,000 m²ほどである。調査の結果、縄文時代前期初頭の竪穴住居跡２２軒と多数の土坑が発見されるなど、早期末から前期初頭の集落跡であることが明らかになった。

出土した土器としては、早期末の素山II式に比定される条痕文土器・表裏縄文土器や船入島下層式、前期初頭の上川名II式・大木１式に比定される羽状縄文土器などがある。石器は 600 点以上出土しているが、その中に今回参考資料としてあげた局部磨製石斧・片刃石斧といった、草創期のものと考えられる石器がある。珪質頁岩の大型剝片の接合資料は、第 71 図のとおり、直立した状態で一括出土している。周辺には、15～30 cm大の礫がみられた。この石器に伴う明確な掘りこみは検出されなかった。所属する時期については、土器との共伴関係がみられなかったことから縄文時代早期以前のものとしておきたい。

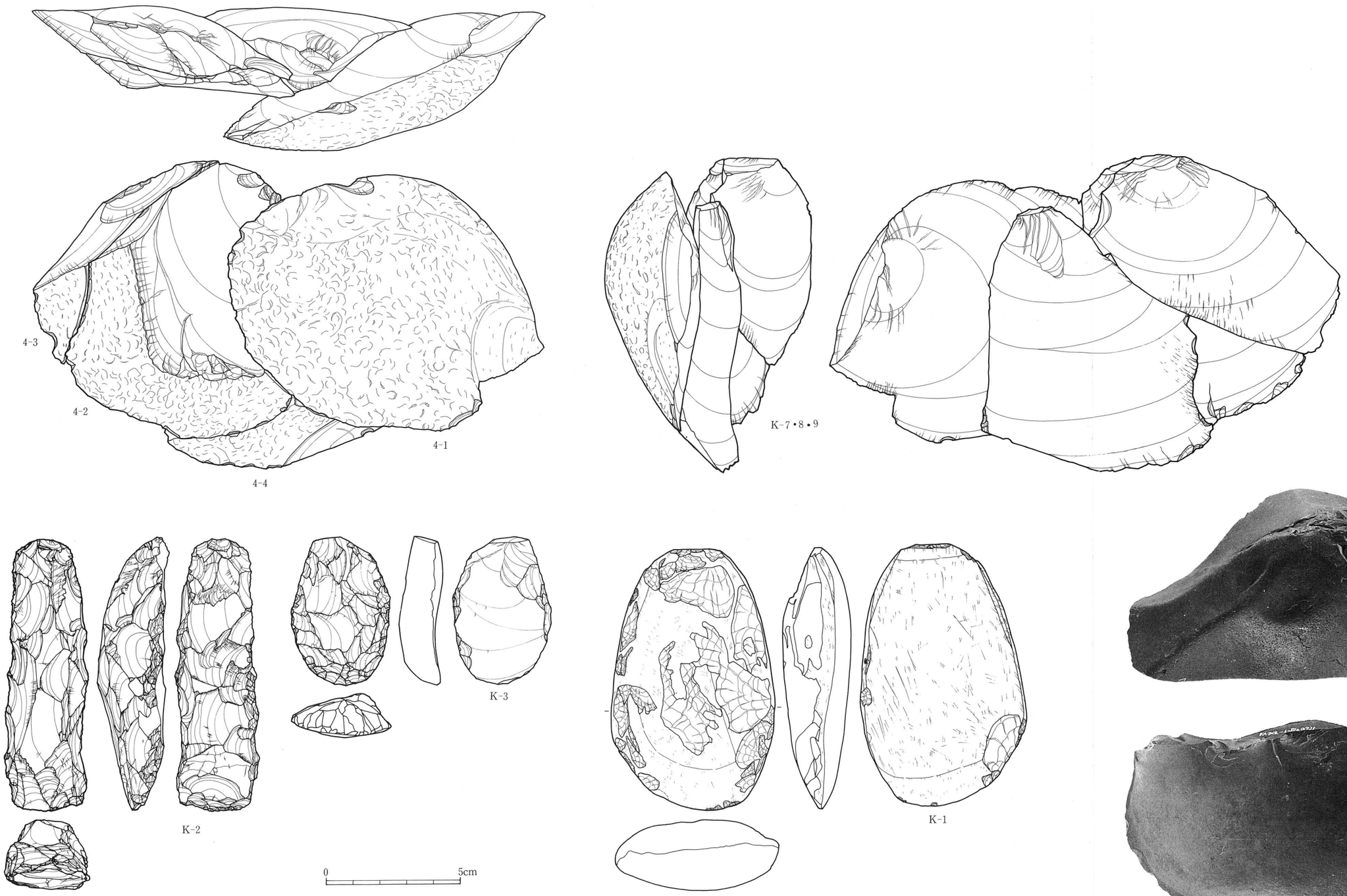
大型剝片接合資料（K－７・８・９）　打点を左右に移動させて剝片を剝離している。背面に自然面を大きく残す剝離の初期段階のものである。原石個体の形状復元が可能な資料で、かなり大きな礫であったと思われる。調査時周辺には剝片はなく、分割されたうえで持ち込まれたものと考えられる。

片刃石斧（K－２）　裏面は平坦で、縦断面形は片刃形を呈する。刃部は表裏面ともに基部方向への加工により作り出されている。長さ 100.8 ㎜、幅 27.7 ㎜、厚さ 23.8 ㎜を計る。

エンドスクレイパー（K－３）　基部に打面を残している。刃部は弧状を呈し、急角度に調整されている。裏面はほとんど加工されていない。長さ 55.7 ㎜、幅 36.2 ㎜、厚さ 13.3 ㎜を計る。

局部磨製石斧（K－１）　刃部が丸みをおびた両刃の石斧で、最大幅は刃部近くにある。両側辺は研磨によりわずかに平坦になっている。表面は全体を粗く打欠いたのちにタテ～ナナメ方向に研磨している。裏面は刃部付近を中心にタテ～ナナメ方向に研磨している。長さ 97.2 ㎜、幅 60.3 ㎜、厚さ 24.9 ㎜を計る。

第71図　蒲沢山遺跡剝片接合資料出土状態



第72図　蒲沢山遺跡出土石器

Ⅷ　まとめと今後の課題

野川遺跡は、仙台市西北部の広瀬川上流の河岸段丘上に位置する縄文時代草創期と後期の遺跡であり、今回の調査区外に当該期の遺構が存在している可能性が高い。今回調査した部分は、遺跡範囲内のほぼ中央部に細長いトレンチを入れた形となっている。この狭長な調査区から、当初予想することも出来なかった草創期の遺構・遺物が確認された。第１土坑Ｂ、第２土坑からの石器の一括出土は、意図的な一括貯蔵の痕跡と考えられるが、いわゆる「デポ－Deposit－」と呼ばれるものよりは、「キャッシュ－Cache－」と呼ばれる様相を示していると考える。

この時期の石器の一括出土は宮城県内では初めての確認例であり、ほぼ同時期の類例としては、福島県福島市の仙台内前遺跡、山形県高畠町日向洞窟遺跡などがあげられる。

大型の両面加工石器は、それ自体が製品（Tool）として用いられたものと、半製品あるいは円盤状石核のひとつと考えられる。同時に出土した多量な剥片の存在からみて、この場所で石器の製作が行なわれた可能性が高い。

今後の課題としては、時間的制約などから行なうことができなかった遺物についての科学的分析があげられる。今回予備的な観察にとどまった石器の使用痕分析についても、石器の形態と機能との関連、遺構や遺物集中地点と石器の機能との関係を探ることで、野川遺跡で行なわれた具体的な作業の復元が可能になると思われる。年代測定についても、今回行なった加速器質量分析法による^{14}C 年代測定では、予想された年代値を得ることはできなかったが、土器の熱ルミネッセンス分析を行なうことで出土土器の絶対年代を推定し、草創期における野川遺跡の位置付けを考えることができる。また不明な点の多い土器の施文方法についても、レプリカ法によって施文具の復元を行ない、走査型電子顕微鏡で観察することで明らかになるものと思われる。

この他にも、筆者の力不足から十分行なうことの出来なかった遺物についての検討がある。土器の編年的位置付け、両面加工の石器とへら状の石器の問題、多量に出土した剥片の形態的分類と観察、剥片接合資料など詳細な遺物の検討とともに、石器の石材の供給地の特定などによって、遺跡の性格や位置付けがよりはっきりと見えてくるものと思われる。

報告書作成にいたるまで、多くの方々より遺構・遺物についてのご教示をいただいた。私的なことではあるが、野川遺跡は中学時代の私に考古学の世界への窓を開いてくれた思い出の遺跡でもある。調査を担当したものとしてこれからも資料の検討を続け、野川遺跡の姿を明らかにしていきたいと思う。

引　用　参　考　文　献

山内清男「日本先史土器の縄文」先史考古学会（1979）
佐々木洋治「山形県における縄文草創期の研究Ⅰ・Ⅱ」山形県立博物館研究報告（1973・1975）
佐々木洋治「隆起線文土器」縄文文化の研究３／縄文土器Ⅰ・雄山閣（1982）
日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会「日本の洞穴遺跡－山形県下の洞穴遺跡－」（1967）
柏倉亮吉・加藤　稔「山形県高畠町火箱岩洞穴の概要」洞穴遺跡調査会会報（1963）
加藤　稔・佐々木洋治「山形県一ノ沢岩陰遺跡」上代文化第 31・32 号
加藤　稔「東北裏日本における早期縄文土器の編年１」山形史学研究第３号
加藤　稔「山形県日向洞穴における縄文時代初頭の文化」山形県の考古の歴史（1967）
加藤　稔「関東北における隆線文土器」歴史教育（1969）
加藤　稔　「東北日本における中石器文化に関する覚書」東北考古学の諸問題（1976）
白石浩之「縄文時代草創期の爪形文土器の研究とその課題」大和市研究 10 号（1984）
小林達雄・安岡路洋「縄文時代草創期における回転施文縄文への一様相－埼玉県大里郡岡部町水久保遺跡－」
埼玉県史研究第４号（1979）
佐藤達夫「縄文土器研究の課題－特に草創期前半の編年について－」日本歴史第 276 号（1971）

小林達雄他（座談会）「縄文土器の起源」国学院雑誌第81巻第11号（1980）
宮下健司「土器の出現と縄文文化の起源（試論）」信濃32－4（1980）
大塚和義「縄文草創期に関する問題点」古代文化20－8・9（1968）
渡辺　誠「日本列島における土器出現の背景をめぐって」古代文化20－8・9（1968）
田中英司「神子柴遺跡におけるデポの認識」考古学研究115（1982）
栗島義明「デポの意義」（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要第7号（1990）
工藤利幸「北部北上山地出土の草創期・早期資料」（財）岩手県埋蔵文化財センター紀要V（1985）
粕谷　崇「縄文時代草創期における多縄文系土器の研究」国学院大学考古資料館紀要第7号（1991）
山形真理子「多縄文土器編年に関する一考察」東京大考古学研究室研究紀要第10号（下）（1991）
大塚達朗「隆起線文土器瞥見」東京大考古学研究室研究紀要第10号（下）（1991）
大塚達朗「草創期の土器」縄文土器大観1・小学館（1989）
鎌田俊昭「宮城県における旧石器文化の諸問題」宮城の研究1・清文堂（1974）
稲田孝司編「旧石器時代」日本の美術№188・至文堂（1982）
小林達雄「縄文土器の研究」小学館（1994）
竹岡俊樹「石器研究法」言叢社（1989）
岡村道男「日本旧石器時代史」雄山閣（1990）
中島　宏「埼玉県北部の草創期遺跡群について」土曜考古第3号（1981）
渋谷昌彦「仲道A遺跡出土草創期土器における縄文回転押捺方向の研究」丘陵第12号（1986）
鈴木保彦「草創期の土器型式」縄文文化の研究3／縄文土器Ⅰ・雄山閣（1982）
羽曳野市遺跡調査会・京都大学文学部考古学研究室編「旧石器のアトリエ」（1995）
宮井他「大林Ⅰ・Ⅱ　宮林　下南原」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第50集（1985）
神奈川県大和市月見野上野遺跡調査団「月見野上野遺跡第2地点」（1984）
（財）福島市振興公社「南諏訪原遺跡」福島市埋蔵文化財報告書第44集（1991）
武田他「仙台内前遺跡」福島市埋蔵文化財報告書第25集（1988）
磯上・本間「天光遺跡」福島県埋蔵文化財調査報告書第219集（1989）
芹沢長介編「聖山」東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2（1979）
国学院大学考古学研究室「壬遺跡1982・1983・1987」国学院大学文学部考古学実習報告第3・5・13集
三宅他「大平山元Ⅰ遺跡」青森県郷土館調査報告書第5集考古2（1979）
春日・相馬「鴨平2遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第73集（1982）
千田・八木他「大館遺跡群－大新町遺跡・大館町遺跡－」盛岡市教育委員会（1986）
千田・八木他「大館遺跡群－大新町遺跡－」盛岡市教育委員会（1987）
千田・八木他「大館遺跡群－大新町遺跡－」盛岡市教育委員会（1990）
原川・鈴木「多摩ニュータウン№426遺跡」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第1集第分3冊（1981）
神村・新谷「お宮の森裏遺跡」上松町教育委員会・木曽郡町村会（1995）
太田・斎野「富沢遺跡第30次調査報告書第Ⅱ分冊－旧石器時代編－」仙台市文化財調査報告書第160集（1992）
佐藤・吉岡「山口遺跡」仙台市文化財調査報告書第33集（1981）
田中・柳沢「六反田遺跡」仙台市文化財調査報告書第34集（1981）
田中・主浜「山口遺跡Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第61集（1984）
佐藤・渡部「六反田遺跡Ⅲ」仙台市文化財調査報告書第102集（1987）
工藤「仙台市宮城地区大倉遺跡範囲確認調査報告書」仙台市文化財調査報告書第180集（1994）
渡部「伊古田遺跡」仙台市文化財調査報告書第193集（1995）
宮城町教育委員会「蒲沢山遺跡－遺跡詳細分布調査－」宮城町文化財調査報告書第4集（1984）
宮城町誌編纂委員会「宮城町誌－資料編－」（1967）
宮城町誌編纂委員会「宮城町誌－本編－」（1969）
加藤・阿部他「東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ－二屋敷遺跡－」宮城県文化財調査報告書第99集（1984）
東北歴史資料館・石器文化談話会「馬場壇A遺跡Ⅰ」東北歴史資料館資料集16（1986）
東北歴史資料館・石器文化談話会「馬場壇A遺跡Ⅱ」東北歴史資料館資料集23（1988）
東北歴史資料館・石器文化談話会「馬場壇A遺跡Ⅲ」東北歴史資料館資料集26（1989）

加藤・山田「古川市馬場壇Ｂ遺跡・色麻町大原Ｂ遺跡」東北歴史資料館資料集 29（1990）
石器文化談話会「座散乱木遺跡発掘調査報告書Ｉ」石器文化談話会誌第１集（1978）
石器文化談話会「座散乱木遺跡発掘調査報告書II」石器文化談話会誌第２集（1981）
石器文化談話会「座散乱木遺跡」石器文化談話会編（1983）
鎌田「志引遺跡」多賀城市文化財調査報告書第６集（1984）
鎌田「柏木遺跡Ｂ地区」多賀城市文化財調査報告書第 36 集（1994）
金子昭彦「十腰内Ｉ式と大湯式における形式としての諸問題」岩手考古学第７号（1995）
東北日本の旧石器文化を語る会「山形県日向洞窟遺跡・西地区」第２回研究会資料（1988）
日本考古学協会「北からの視点」宮城・仙台大会シンポジウム資料集（1991）
橿原考古学研究所編「一万年前を掘る」吉川弘文館（1994）
小野・鈴木編「1993 年度日本考古学協会シンポジウム・環日本海地域の土器出現期の様相」雄山閣（1994）
埼玉考古学会「埼玉考古－埼玉考古学会 30 周年記念シンポジウム資料－」（1986）
縄文文化検討会シンポジウム「東北地方北部の縄文時代中期末葉～後期前半の土器編年について」（1986）
吉岡・工藤「宮城県仙台市野川遺跡の調査」考古学ジャーナル 349（1992）
吉岡・工藤「宮城県仙台市野川遺跡の調査」考古学研究 39－１（1992）

写　真　図　版

写真１　調査区近景（東から）

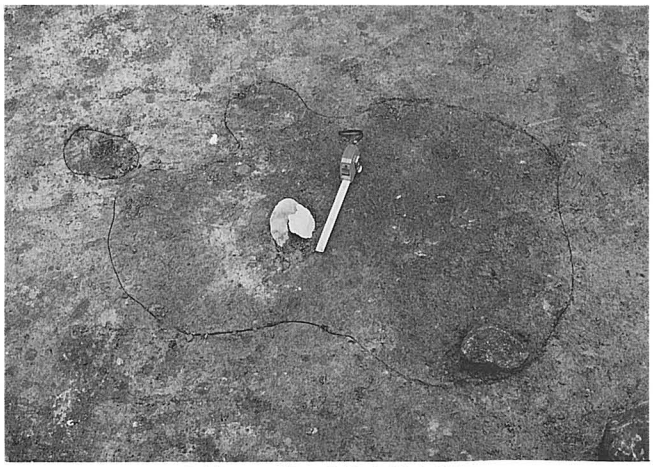


写真２　第１土坑Ａ検出状況

写真３　第１土坑Ｂ検出状況

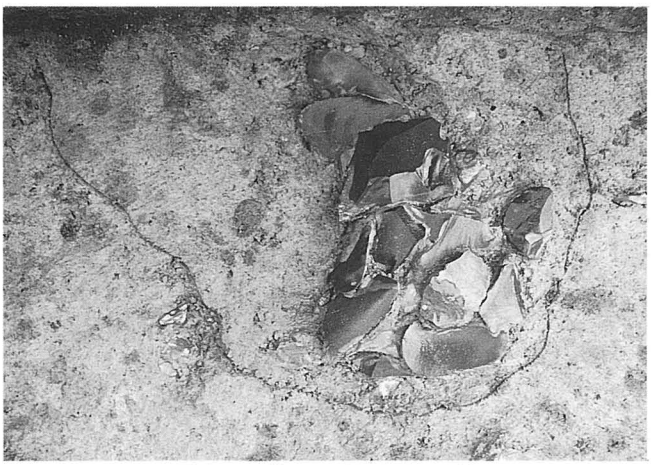


写真４　第２土坑石器出土状況

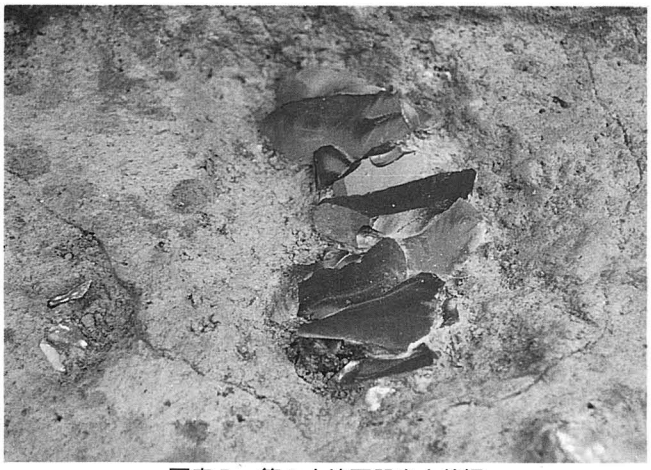


写真５　第２土坑石器出土状況

写真６　第６トレンチ４層面№189出土状況

写真７　第１土坑出土石器 (1)　S＝2/3

写真８　第１土坑出土石器 (2)　S＝2/3

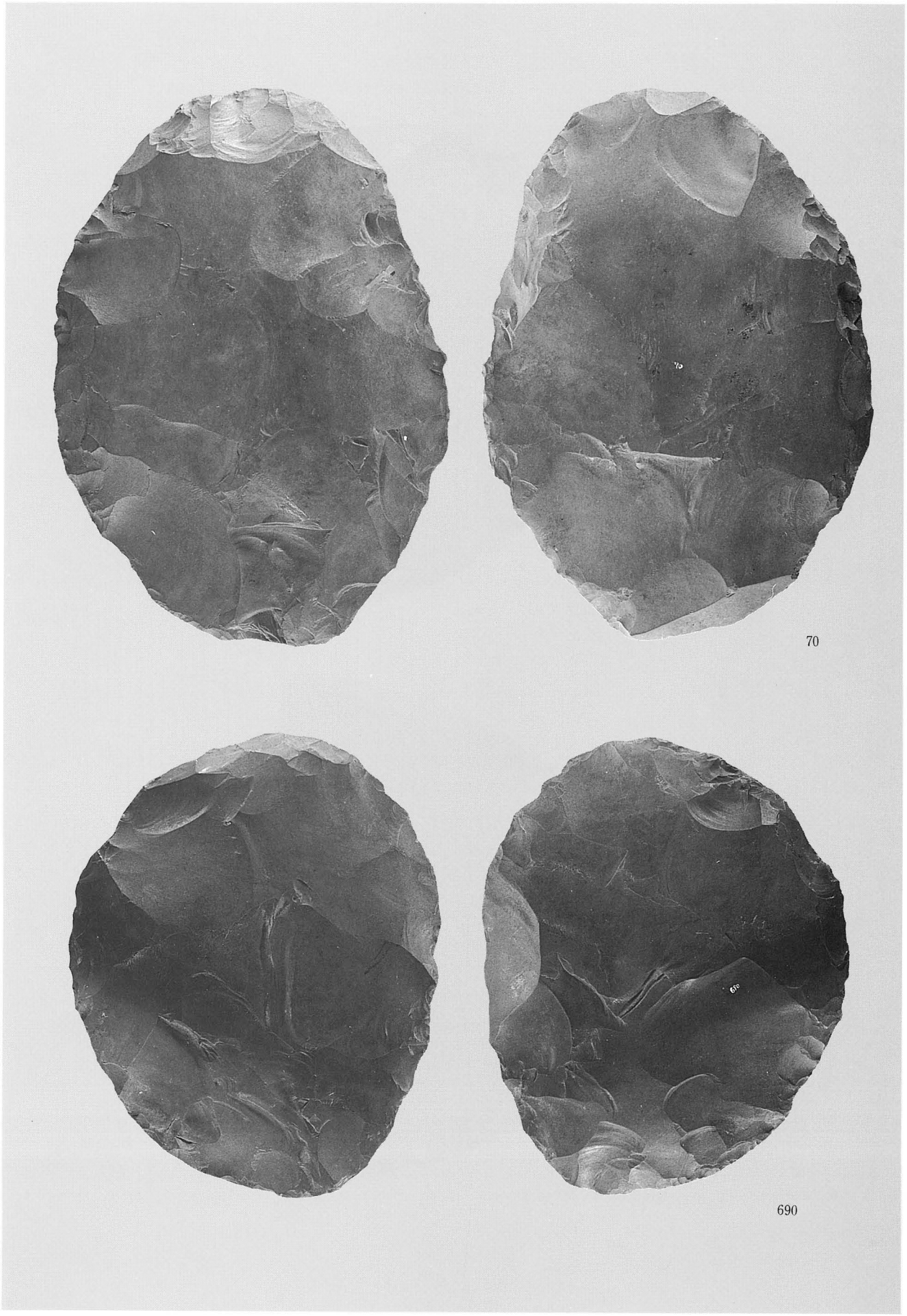


写真９　第１土坑出土石器 (3)　S＝2/3

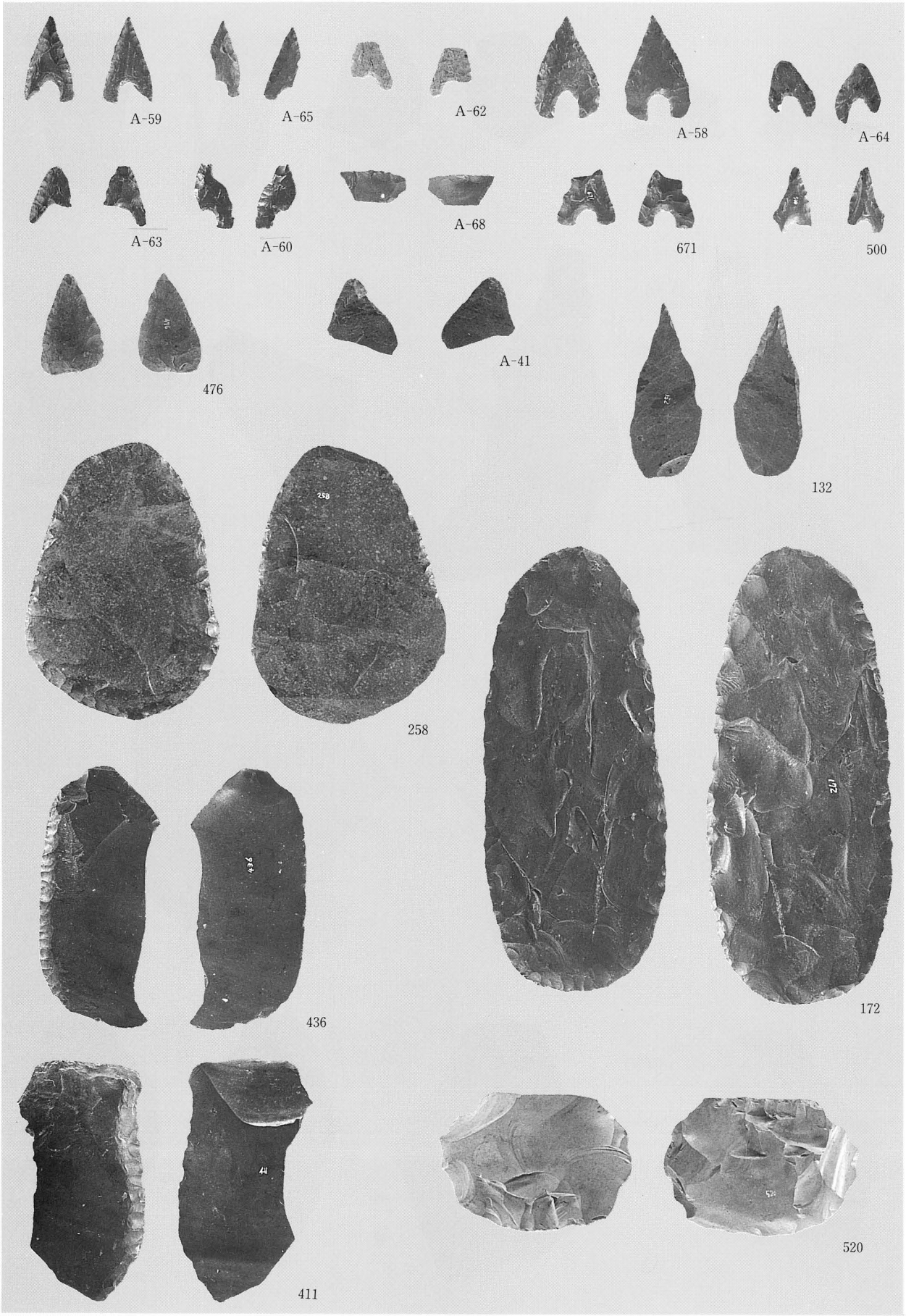


写真10　第１土坑出土石器 (4)　S＝2/3

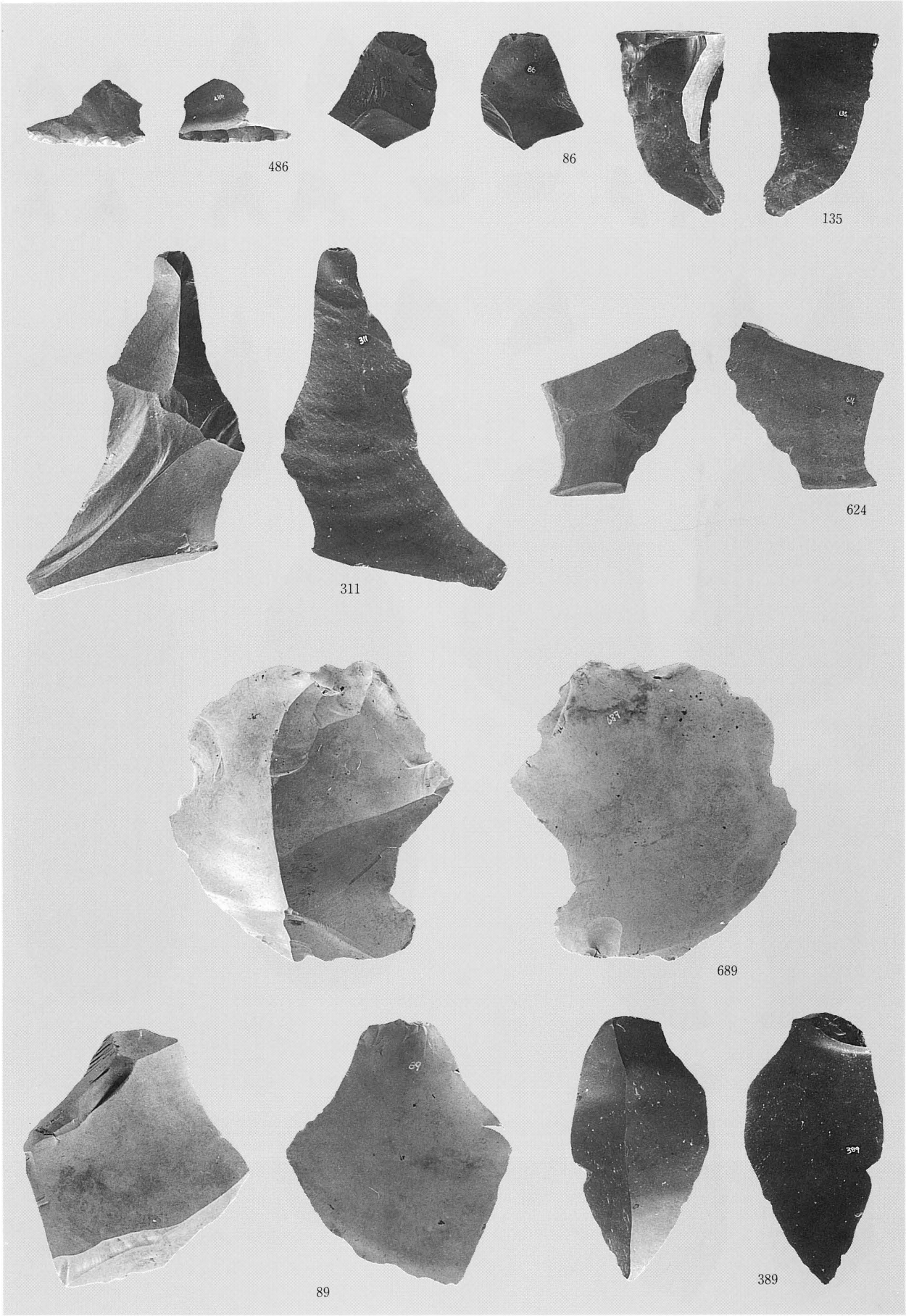


写真11　第１土坑出土石器 (5)　S＝2/3

写真12　第１土坑出土石器 (6)　S＝2/3

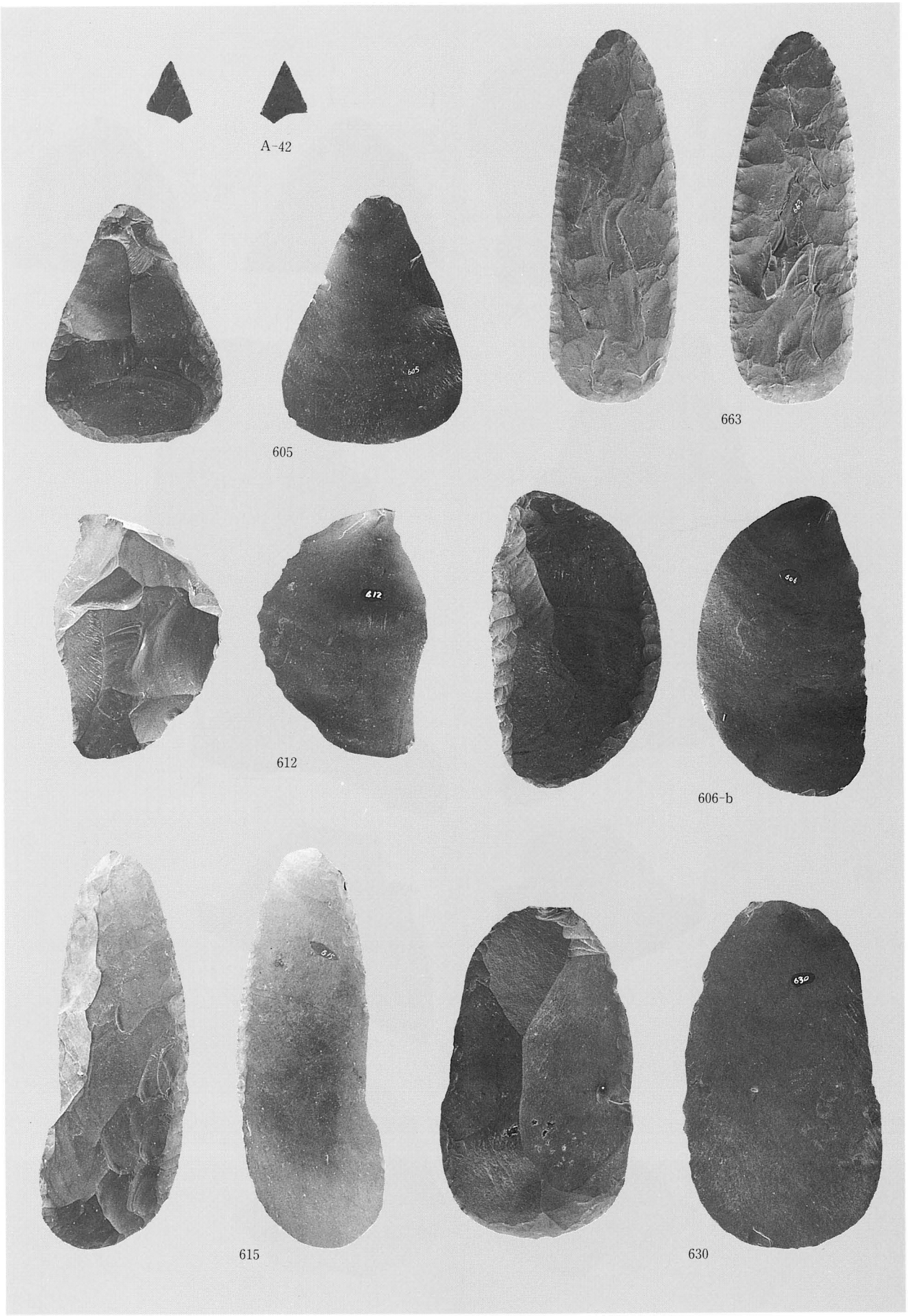


写真13　第２土坑出土石器 (1)　S＝2/3

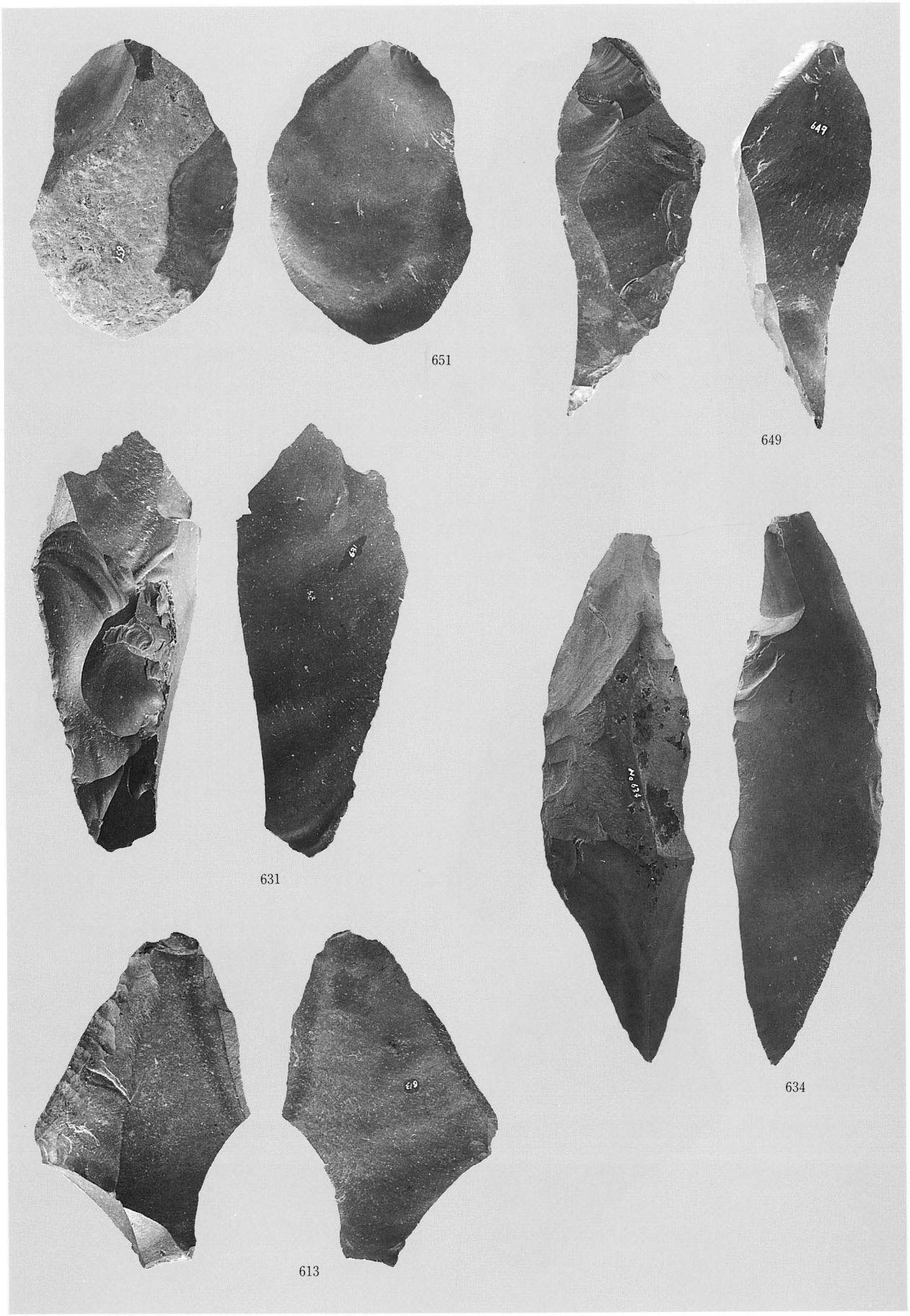


写真14　第２土坑出土石器 (2)　S＝2/3

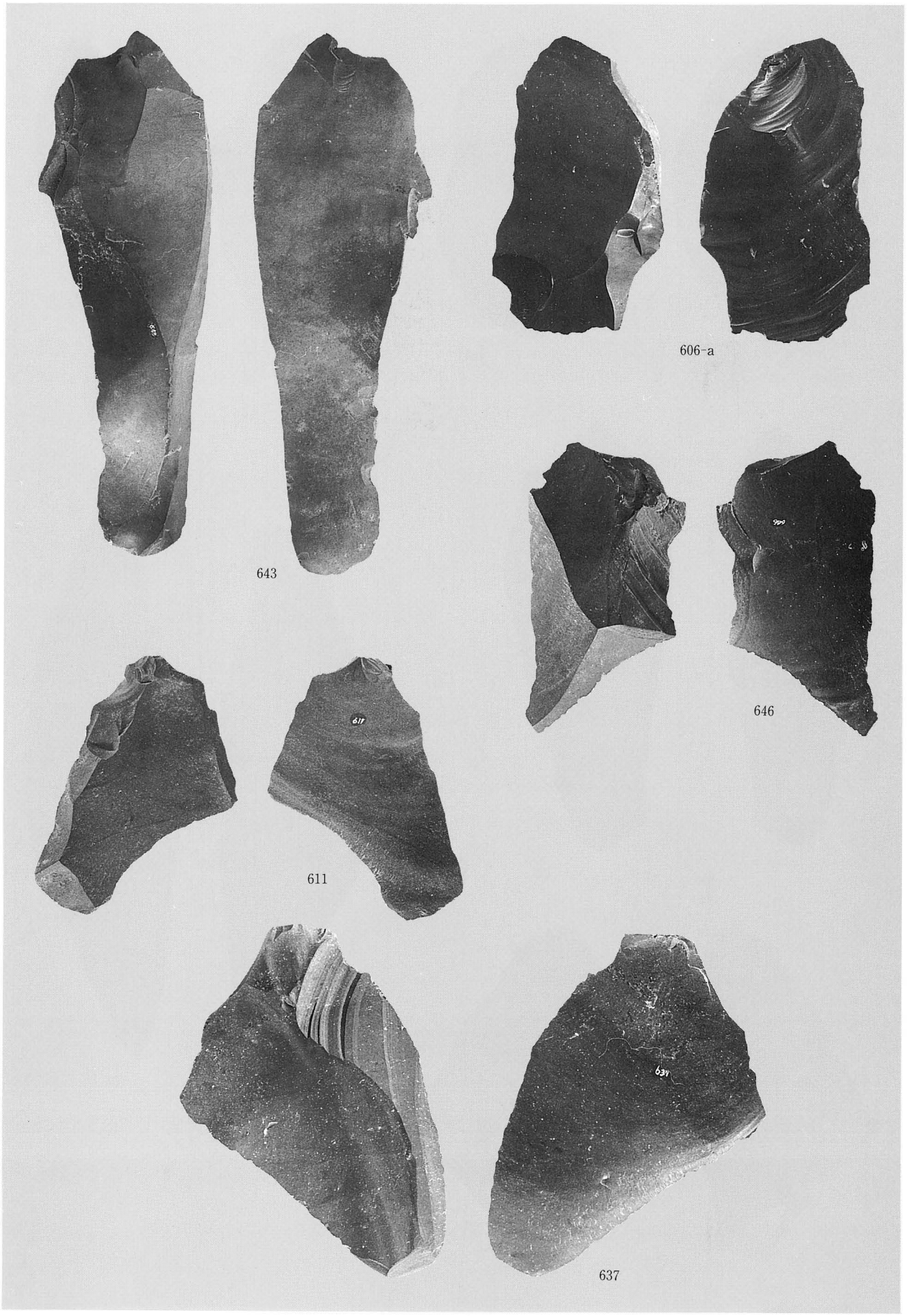


写真15　第２土坑出土石器 (3)　S＝2/3

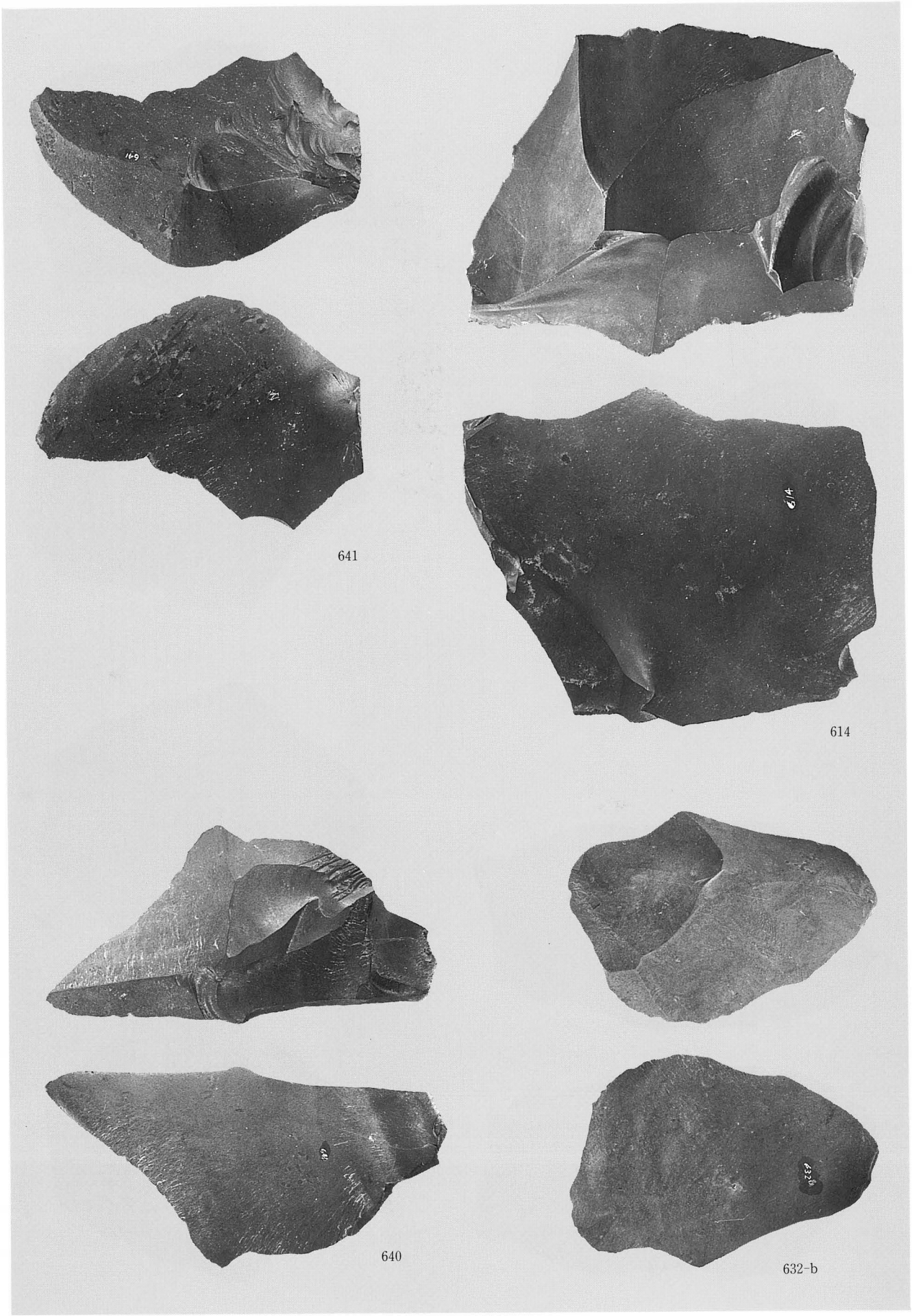


写真16　第２土坑出土石器 (4)　S＝2/3

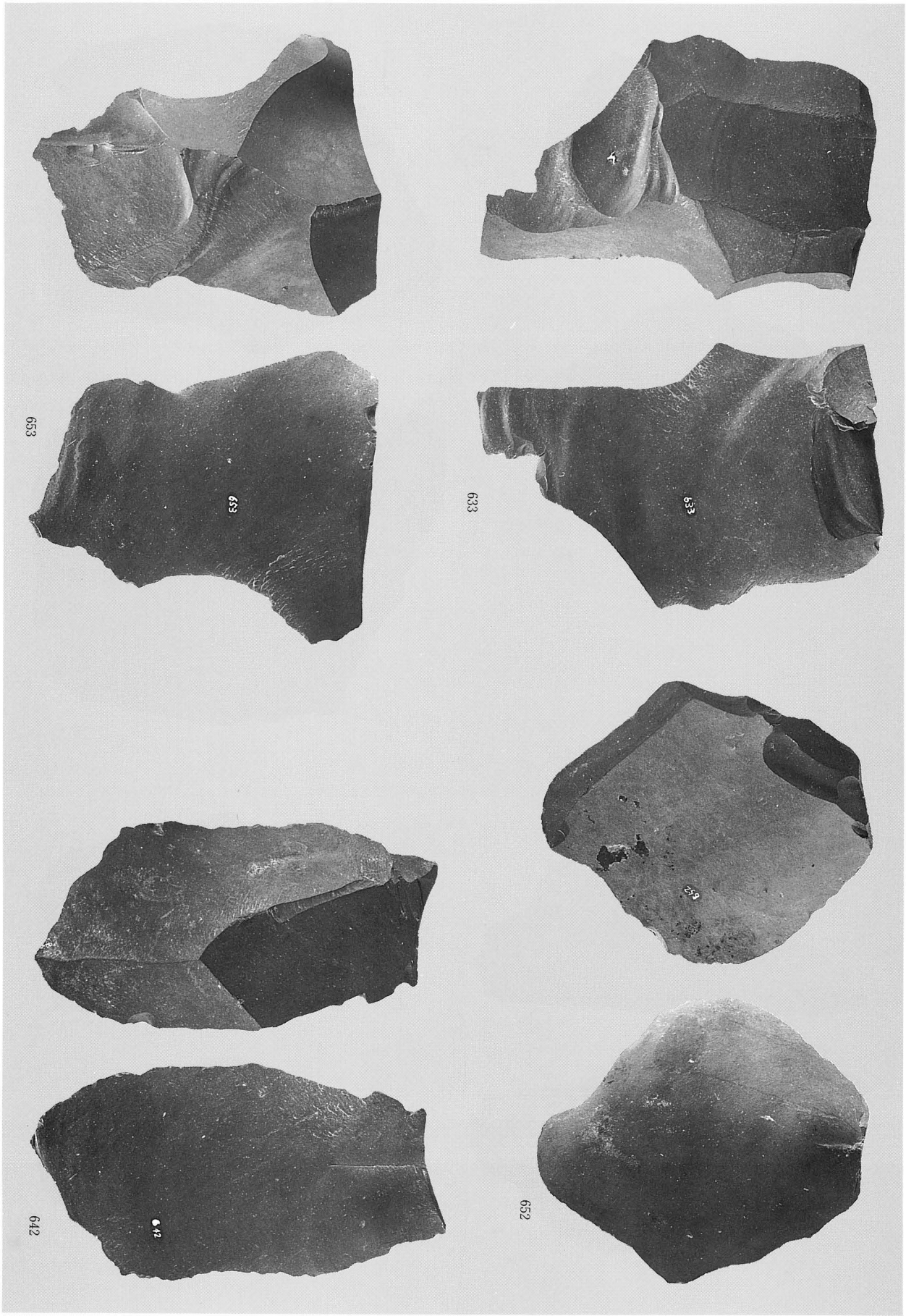


写真17　第２土坑出土石器 (5)　S＝2/3

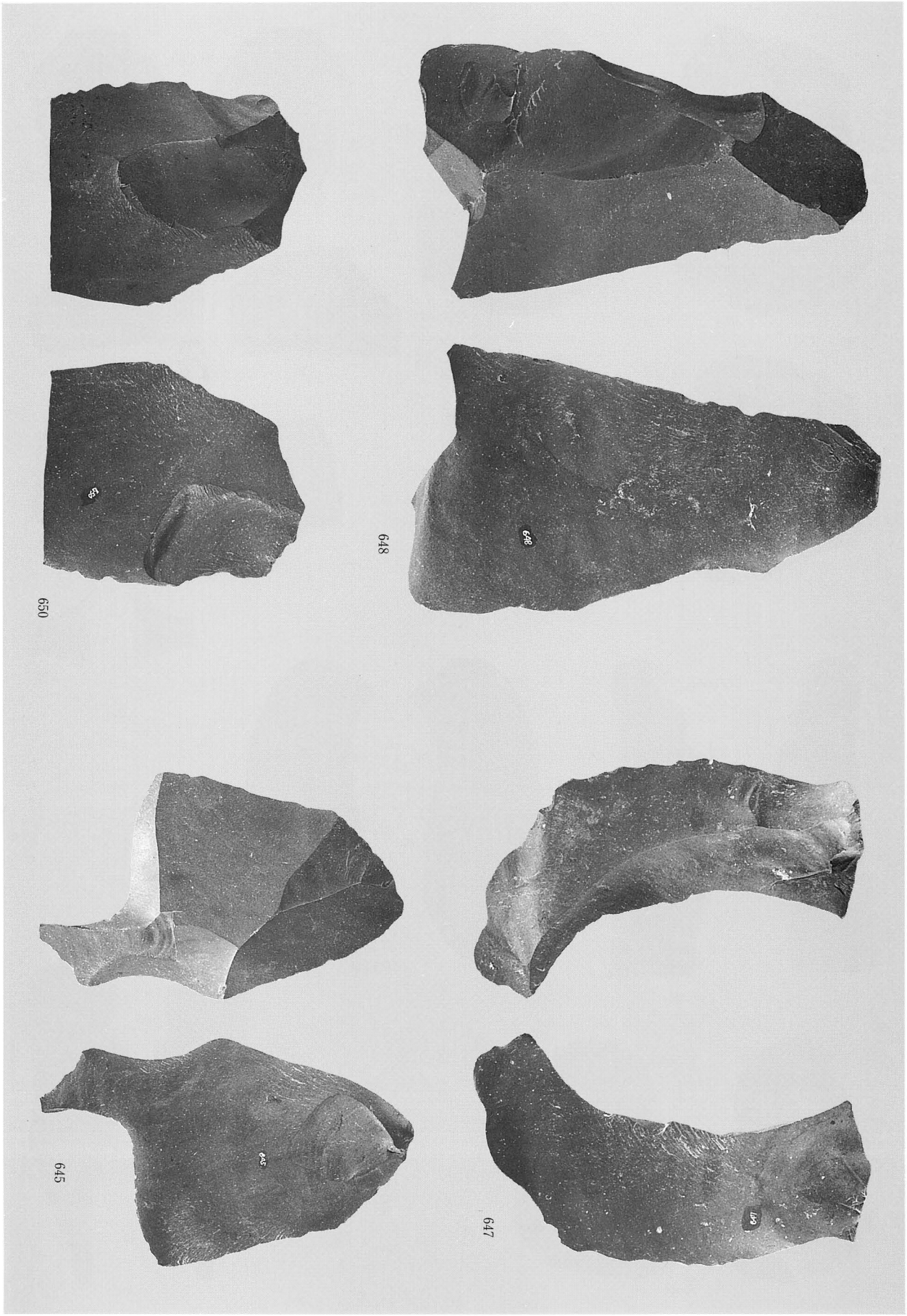


写真18　第２土坑出土石器 (6)　S＝2/3

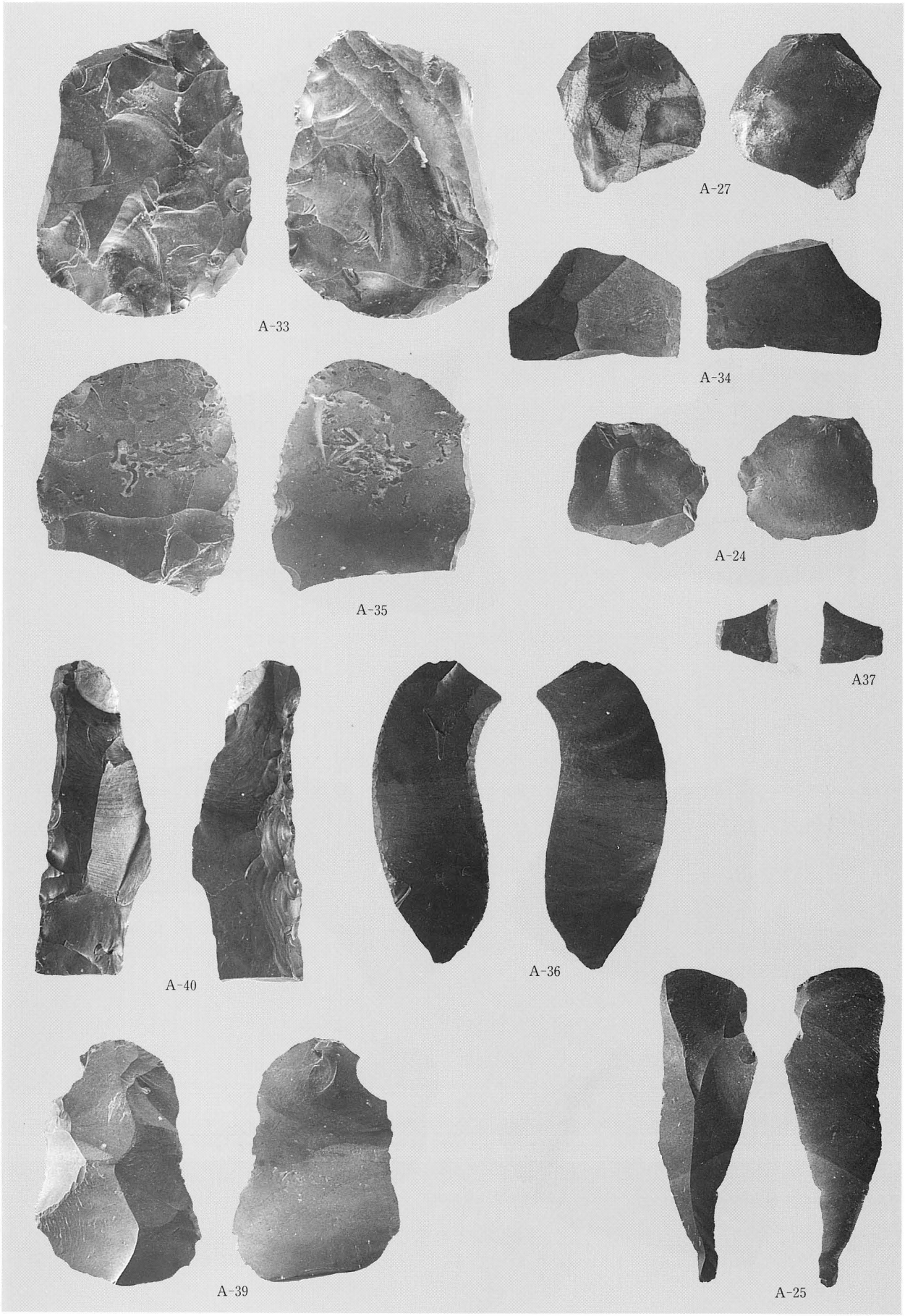


写真19　第６トレンチ３層～４層出土石器 (1)　S＝2/3

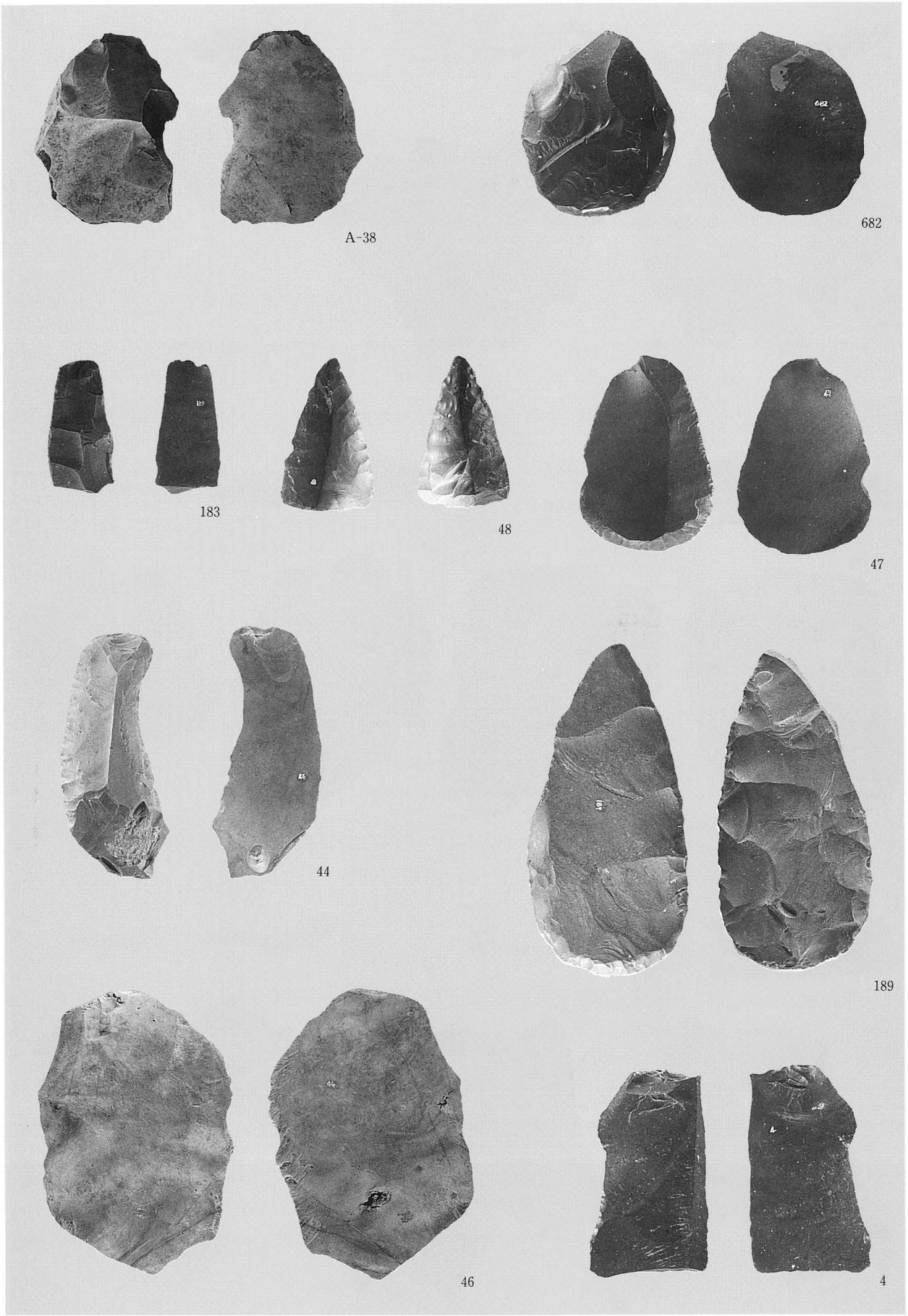


写真20　第６トレンチ３層～４層出土石器 (2)　S＝2/3

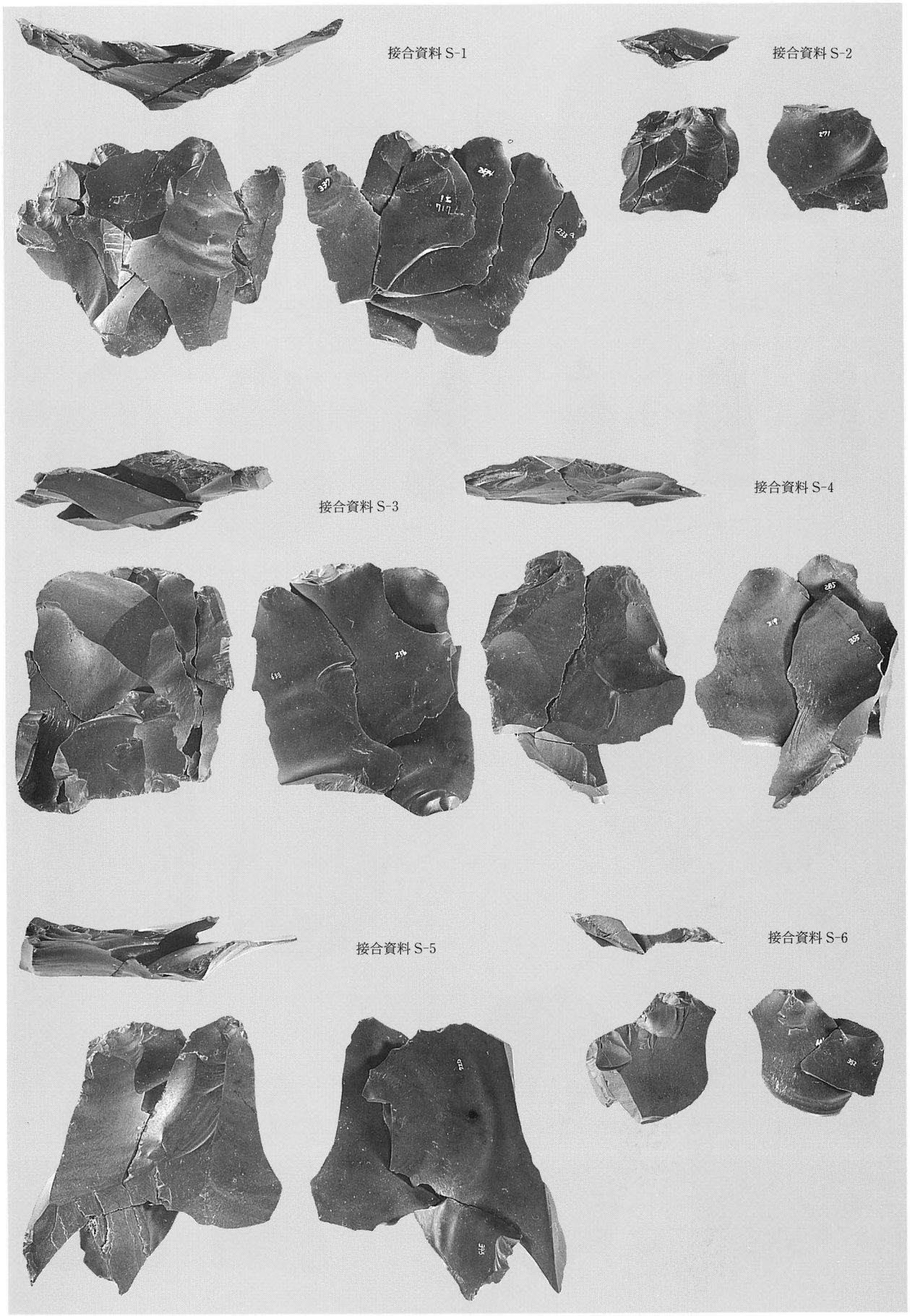


写真21　第１土坑出土石器　接合資料 (1)　S＝2/3

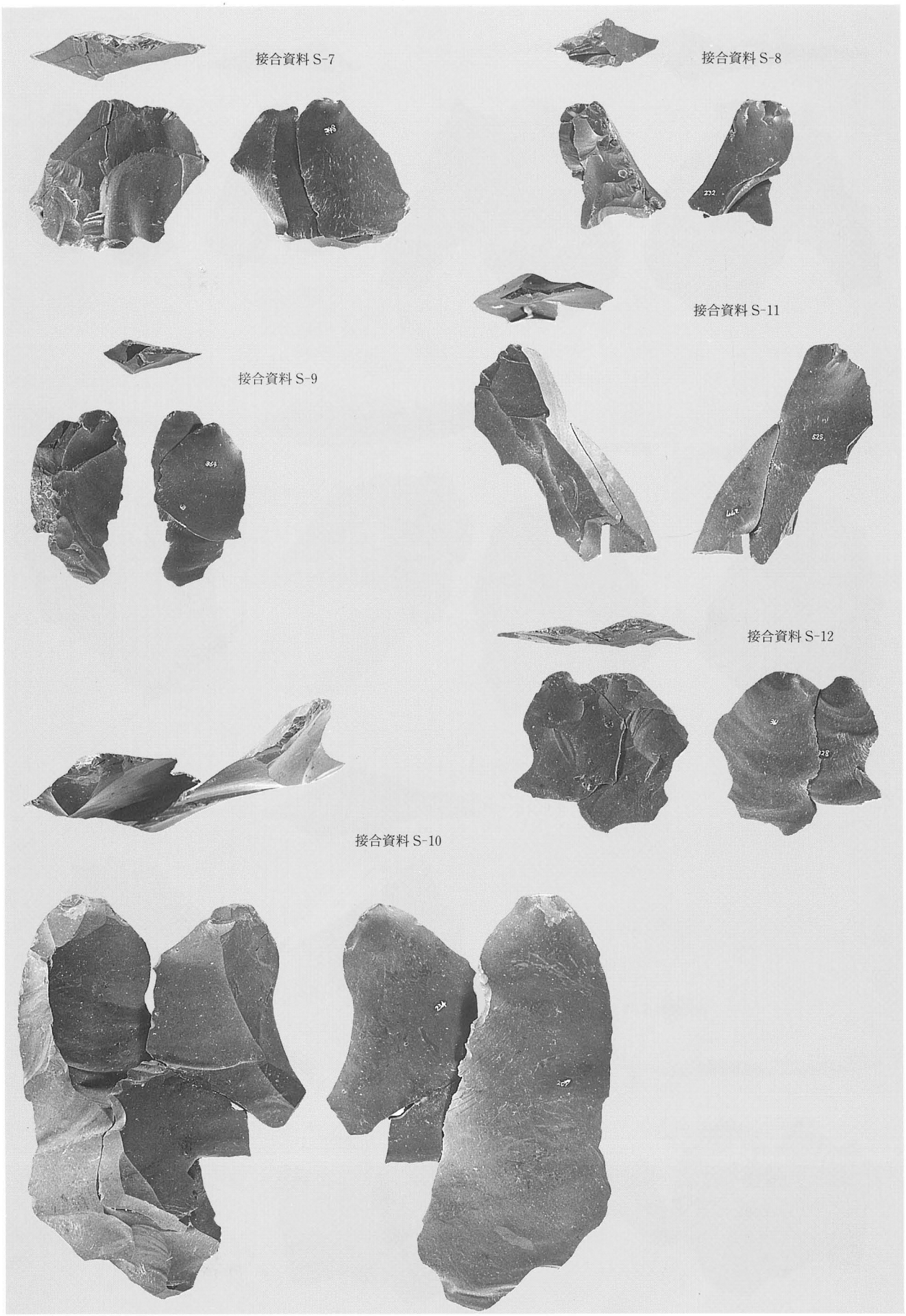


写真22　第１土坑出土石器　接合資料 (2)　S＝2/3

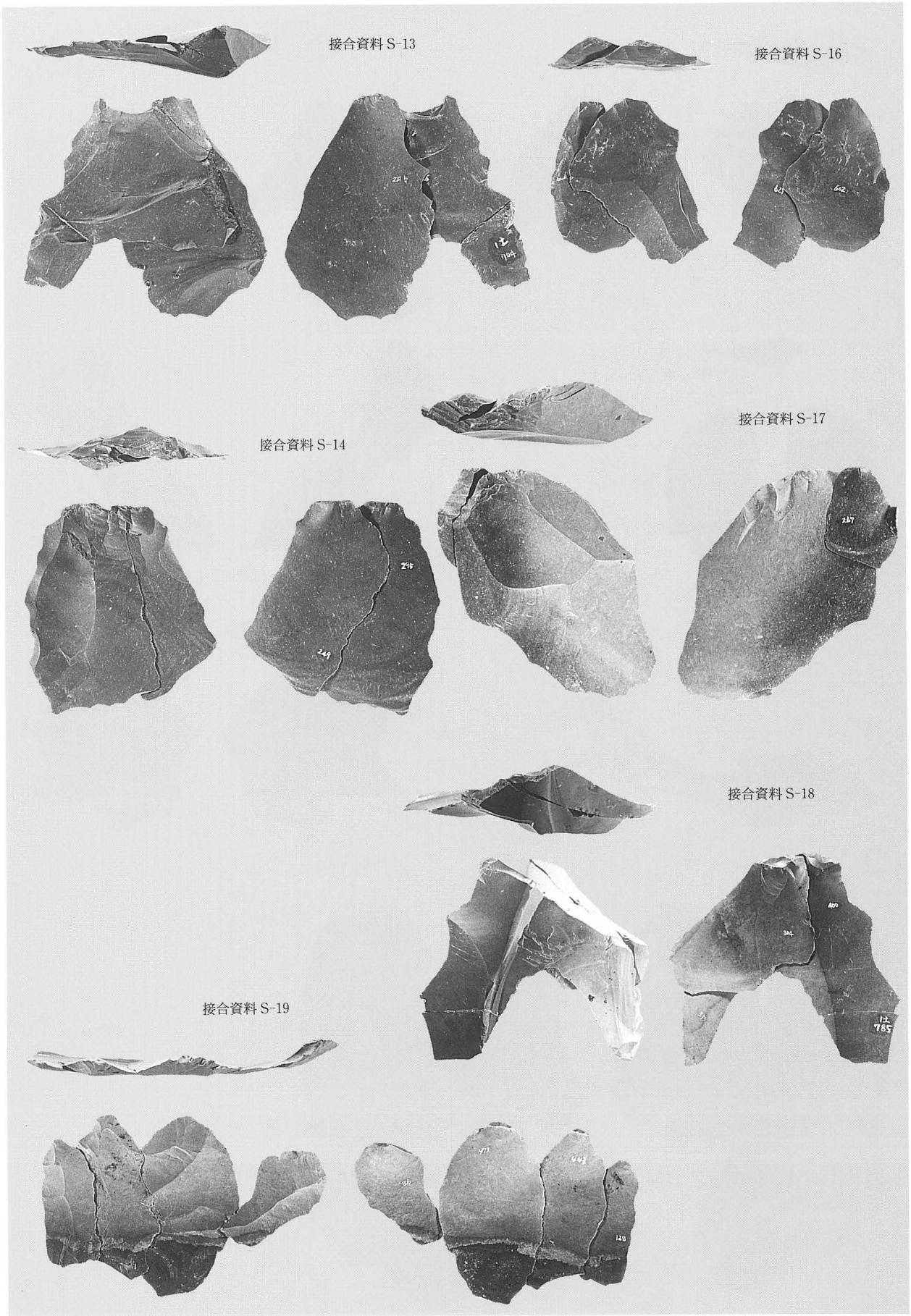


写真23　第１土坑出土石器　接合資料 (3)　S＝2/3

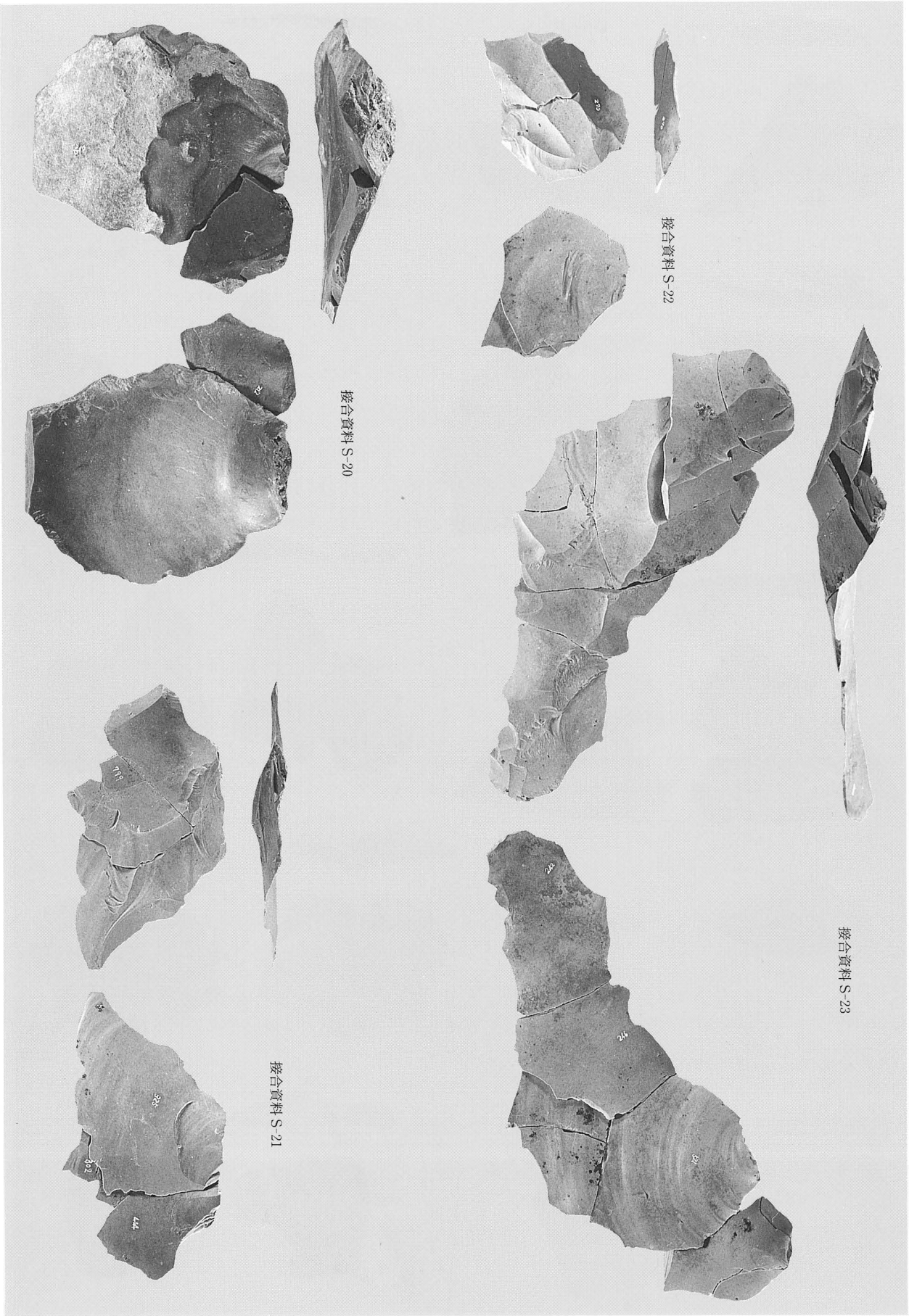


写真24　第１土坑出土石器　接合資料 (4)　S＝2/3

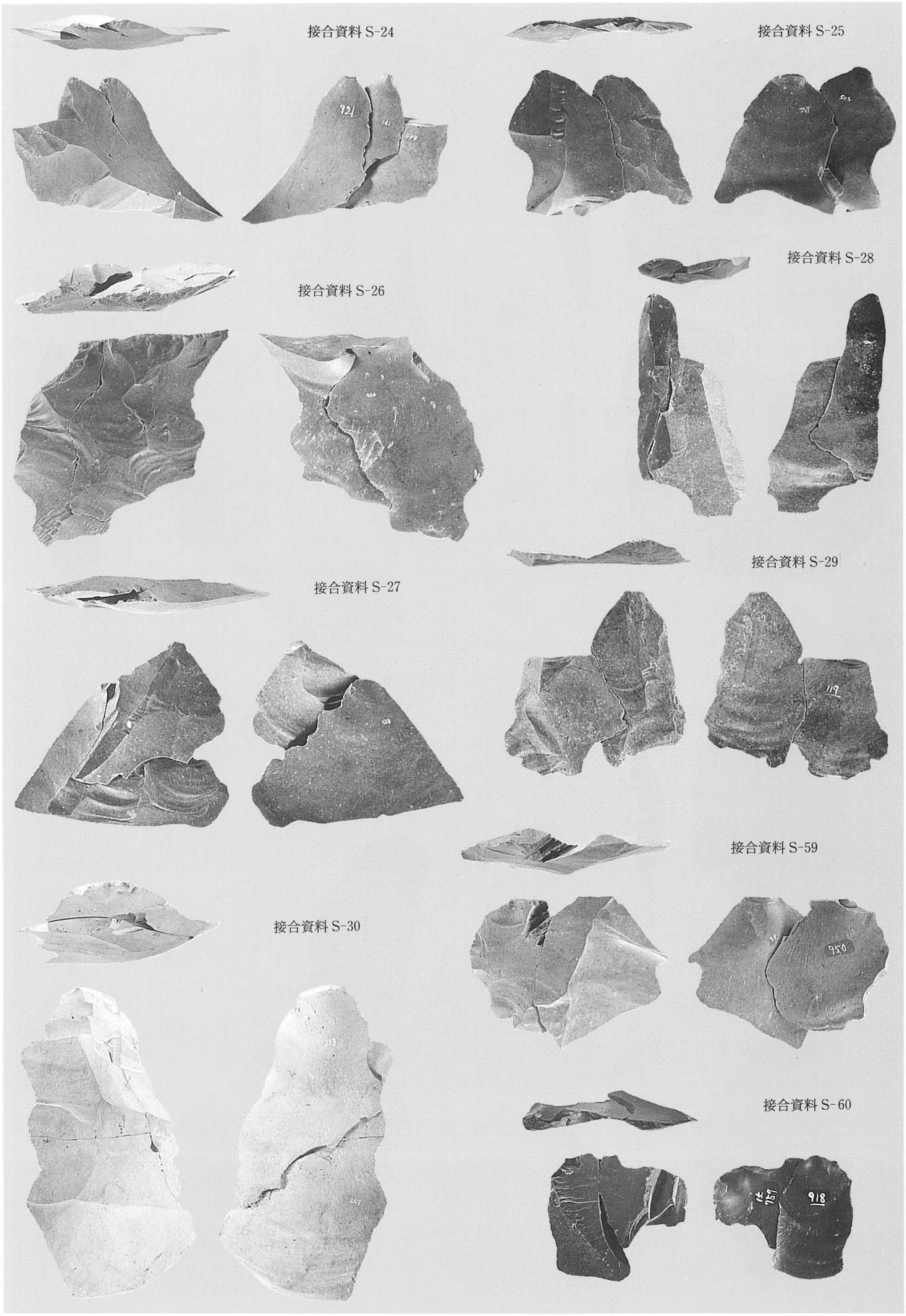


写真25　第１土坑出土石器　接合資料 (5)　S＝2/3

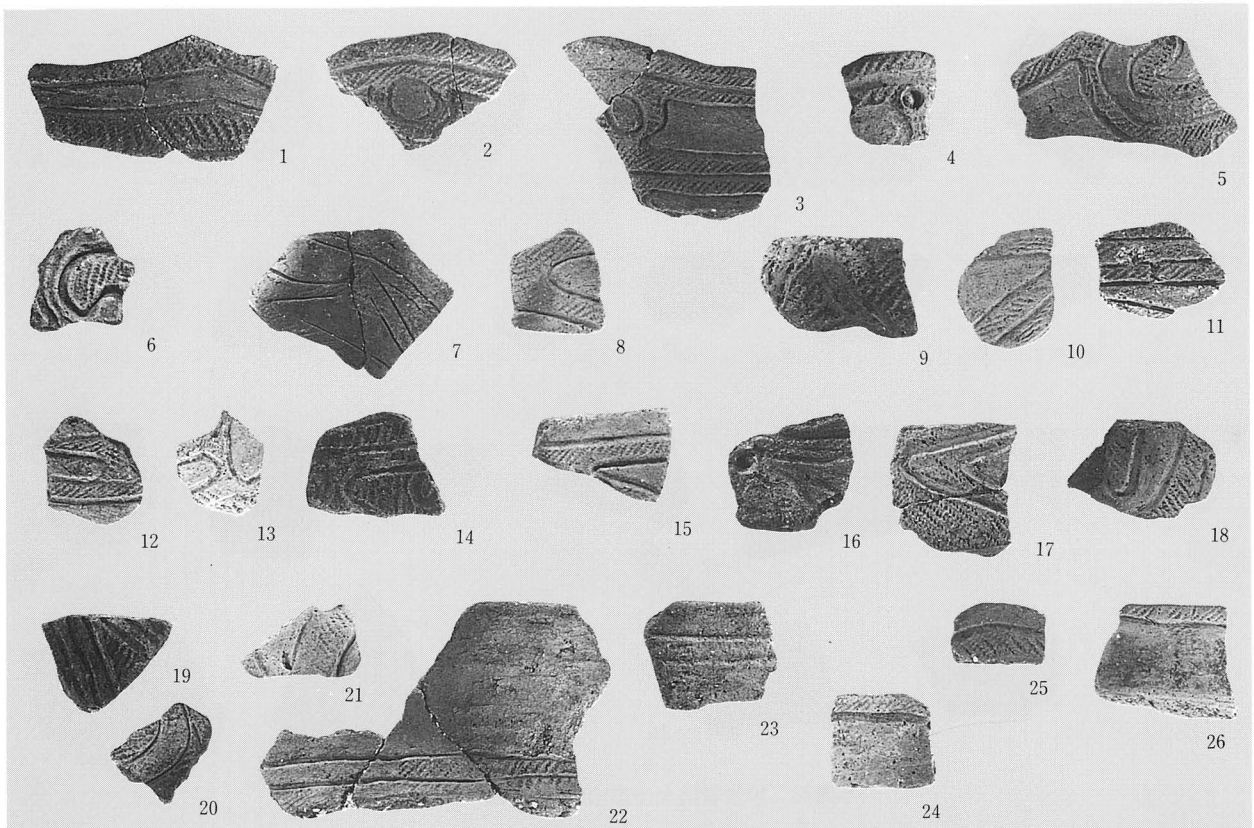


写真26　包含層出土土器 (1)　第57図　S＝1/3

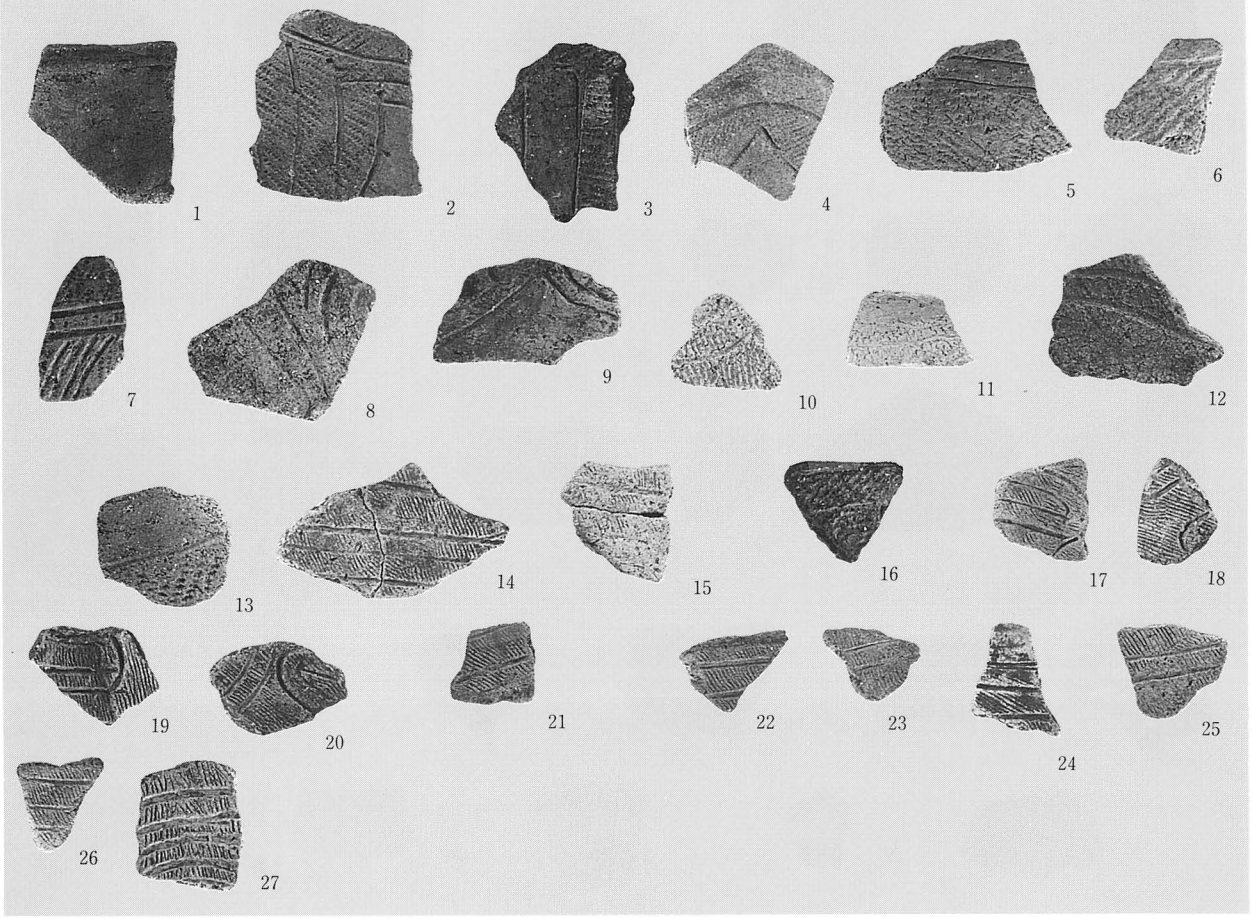


写真27　包含層出土土器 (2)　第58図　S＝1/3

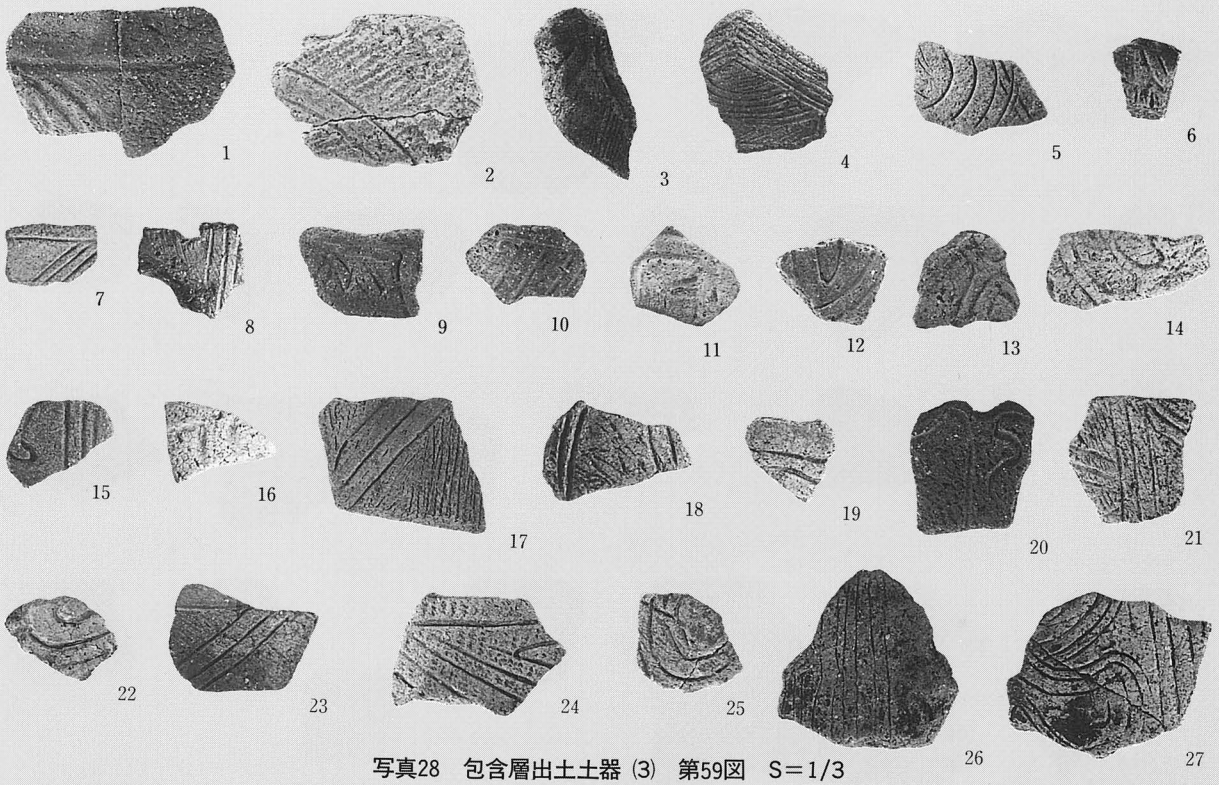


写真28　包含層出土土器 (3)　第59図　S＝1/3

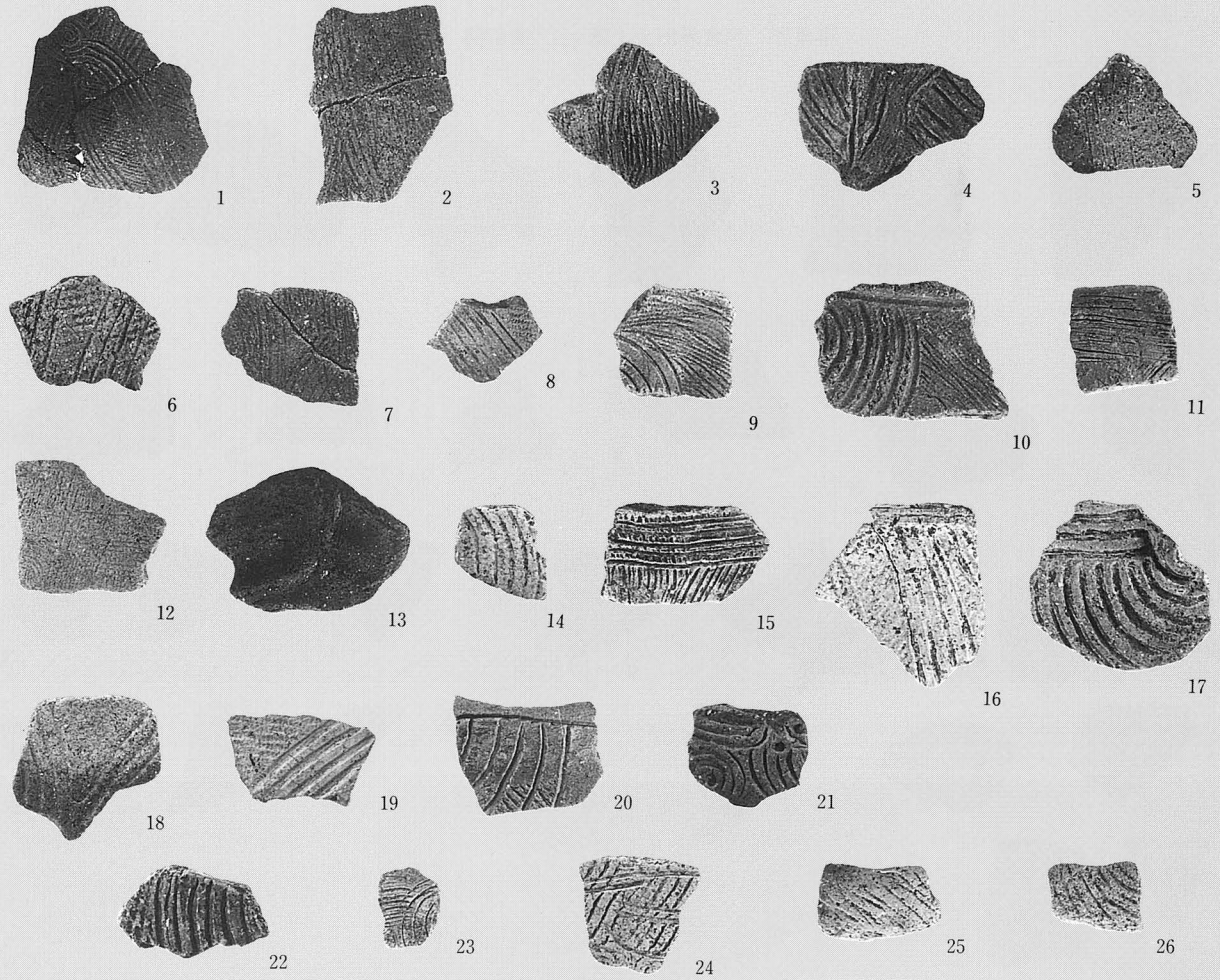


写真29　包含層出土土器 (4)　第60図　S＝1/3

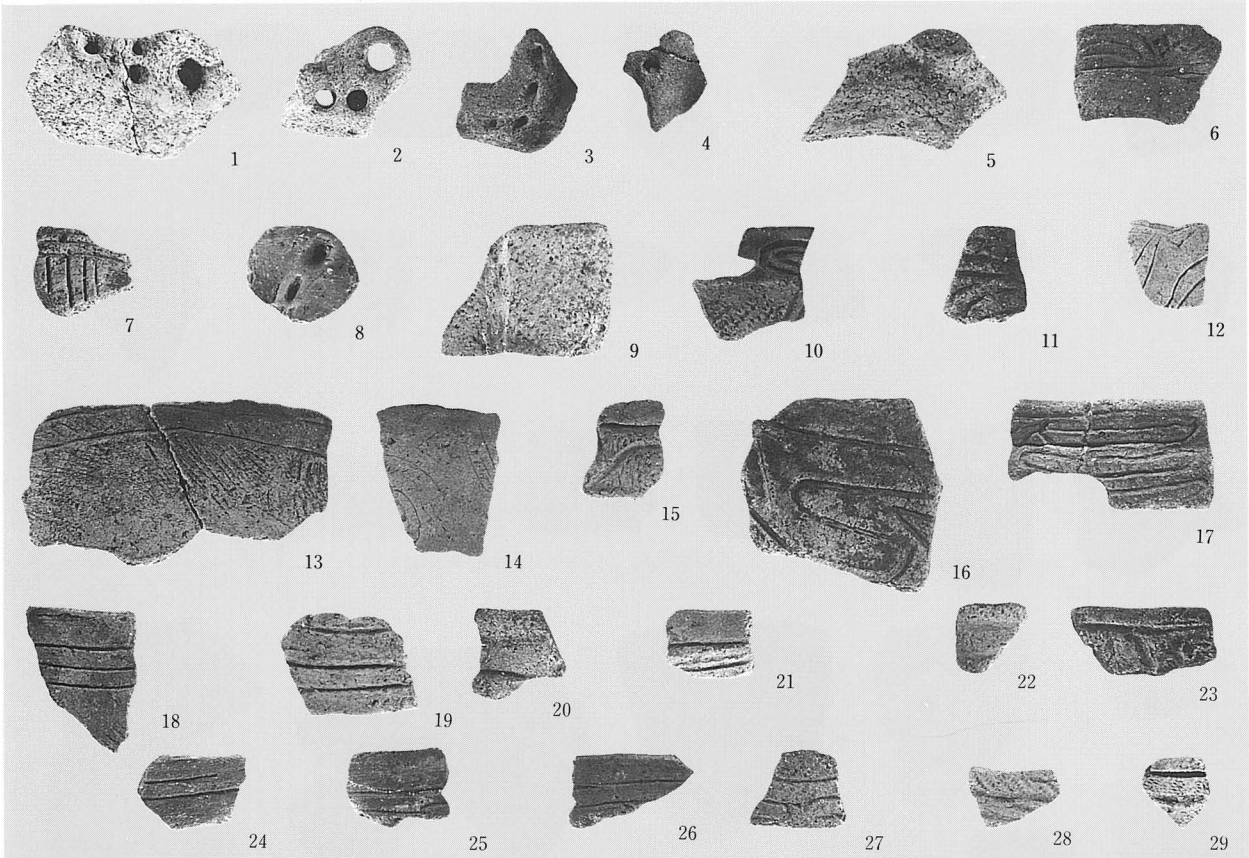


写真30　包含層出土土器 (5)　第61図　S＝1/3

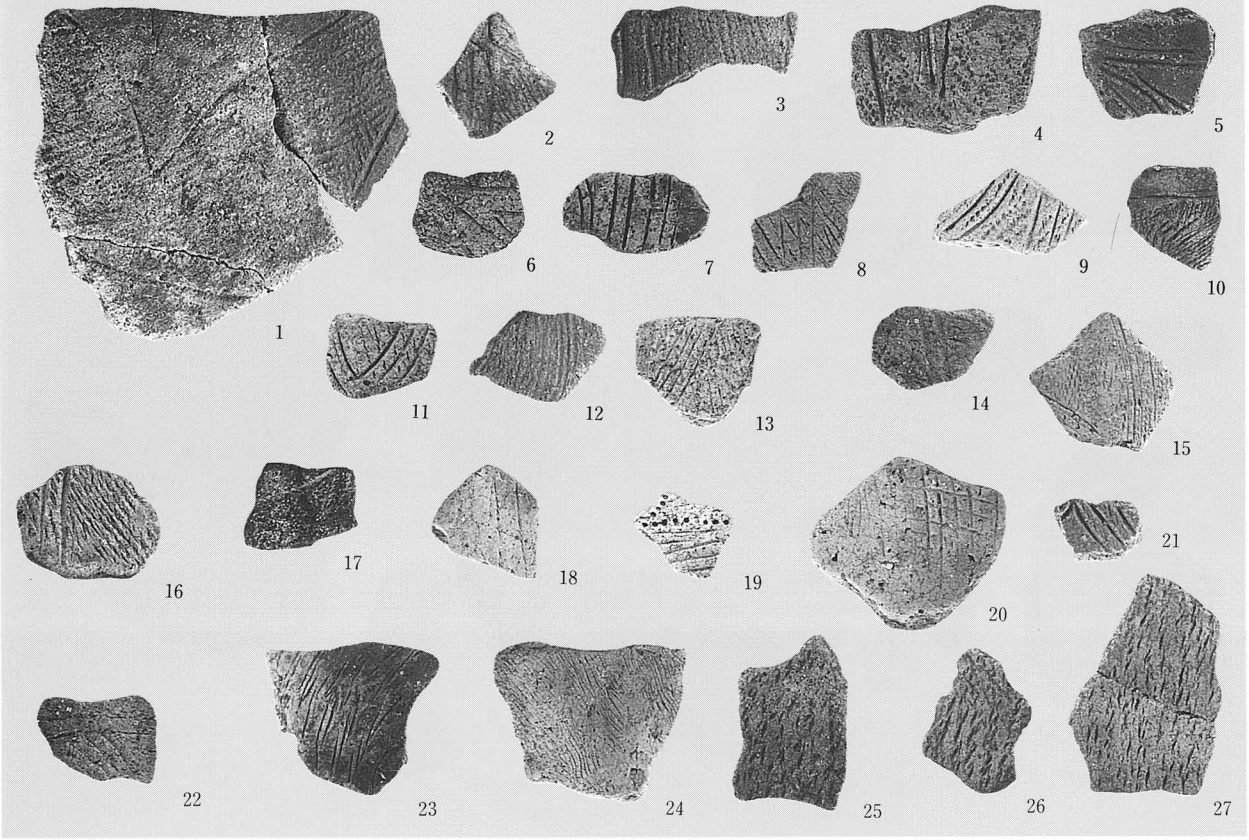


写真31　包含層出土土器 (6)　第62図　S＝1/3

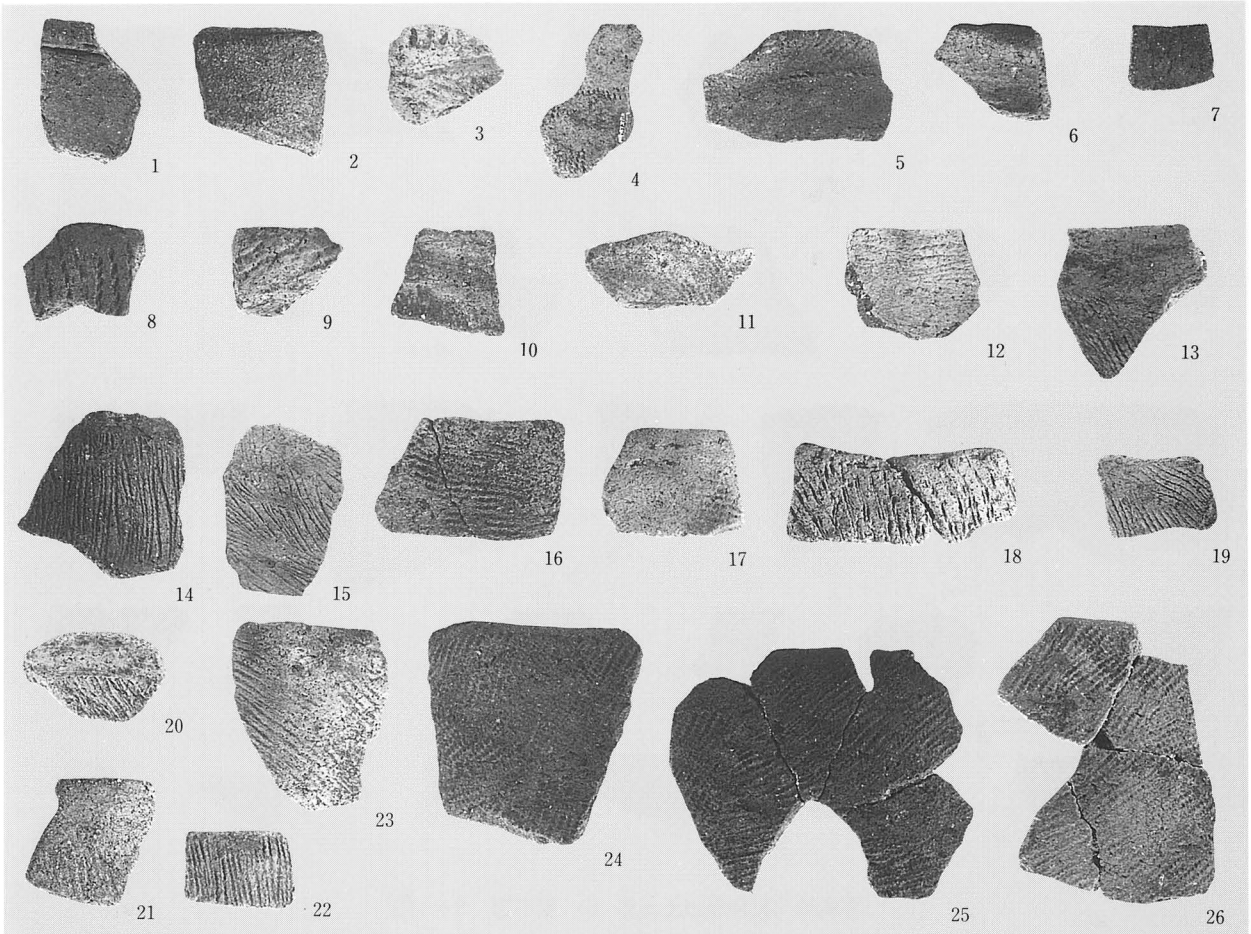


写真32　包含層出土土器 (7)　第63図　S＝1/3

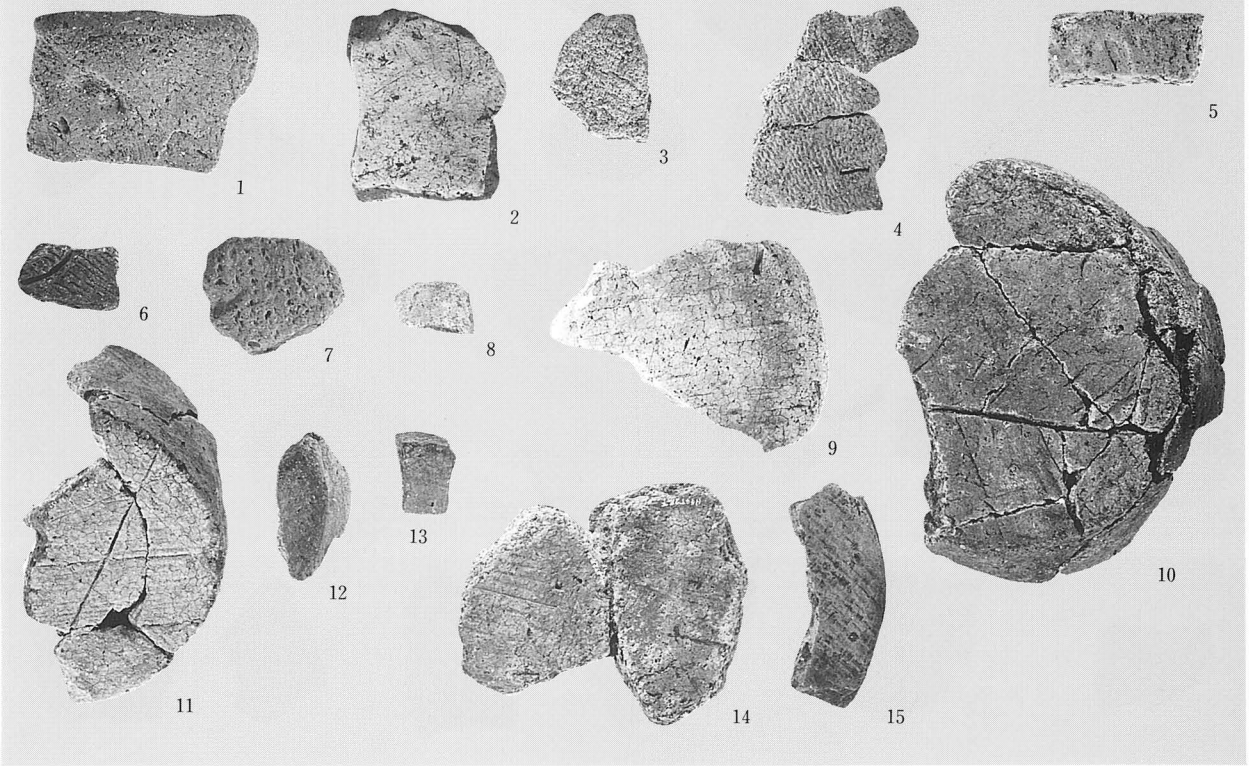


写真33　包含層出土土器 (8)　第64図　S＝1/3

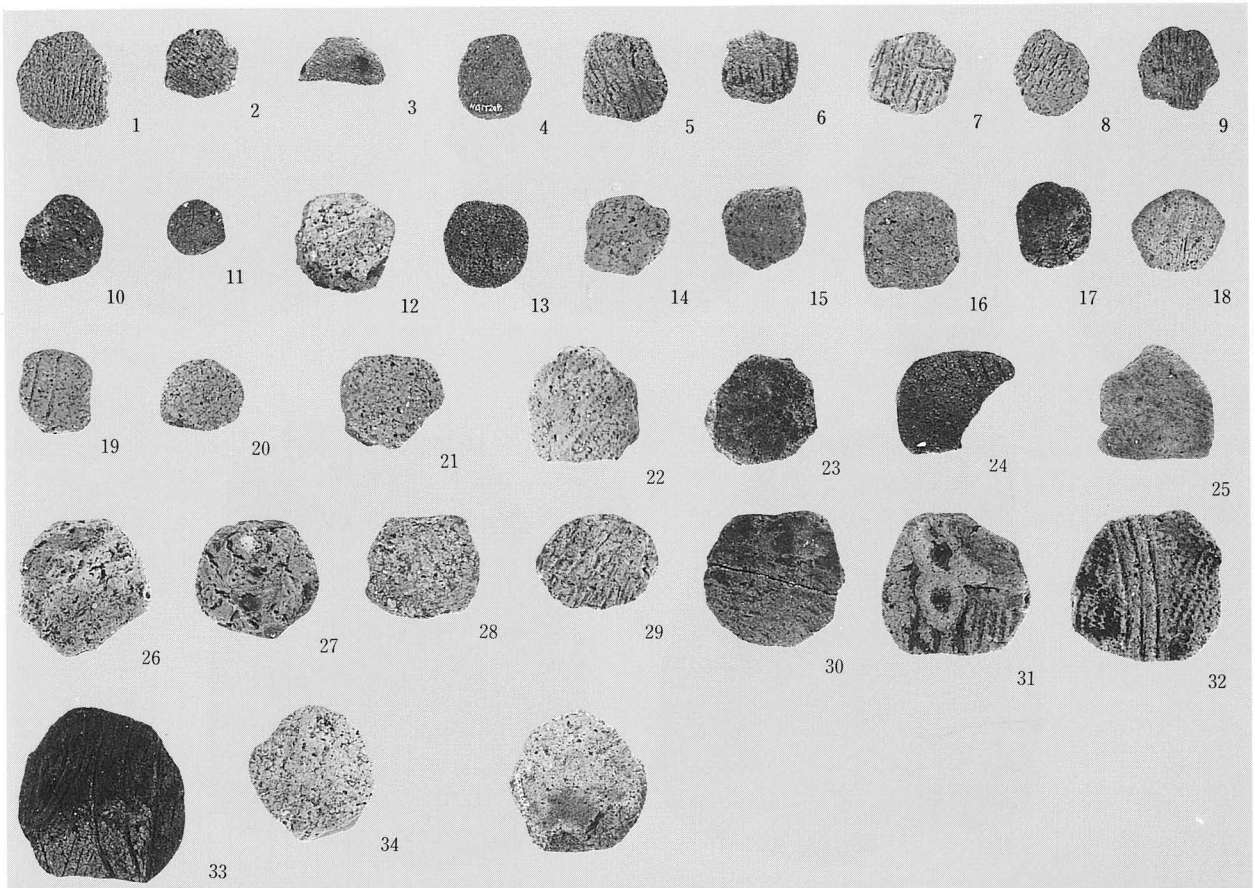


写真34　包含層出土円盤状土製品　第65図　S＝1/3

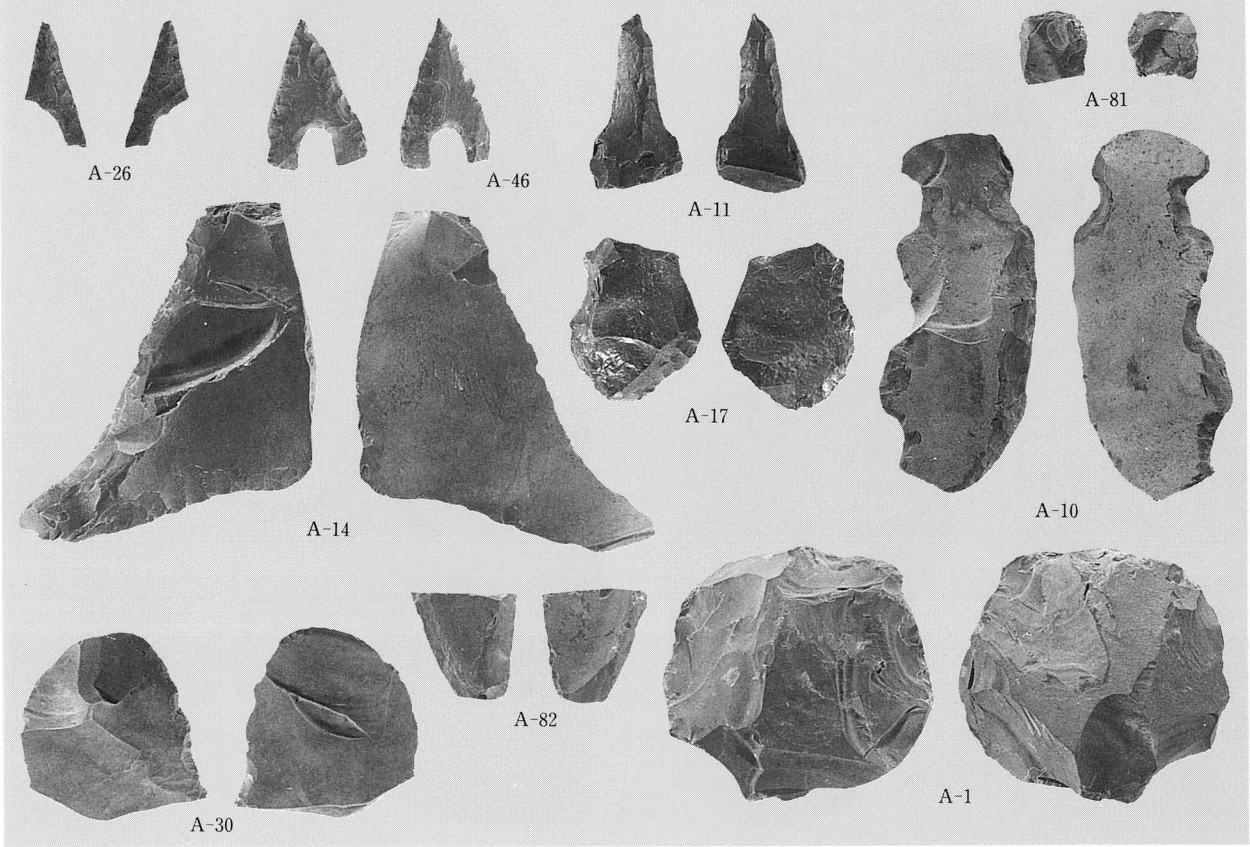


写真35　包含層出土石器 (1)　S＝2/3

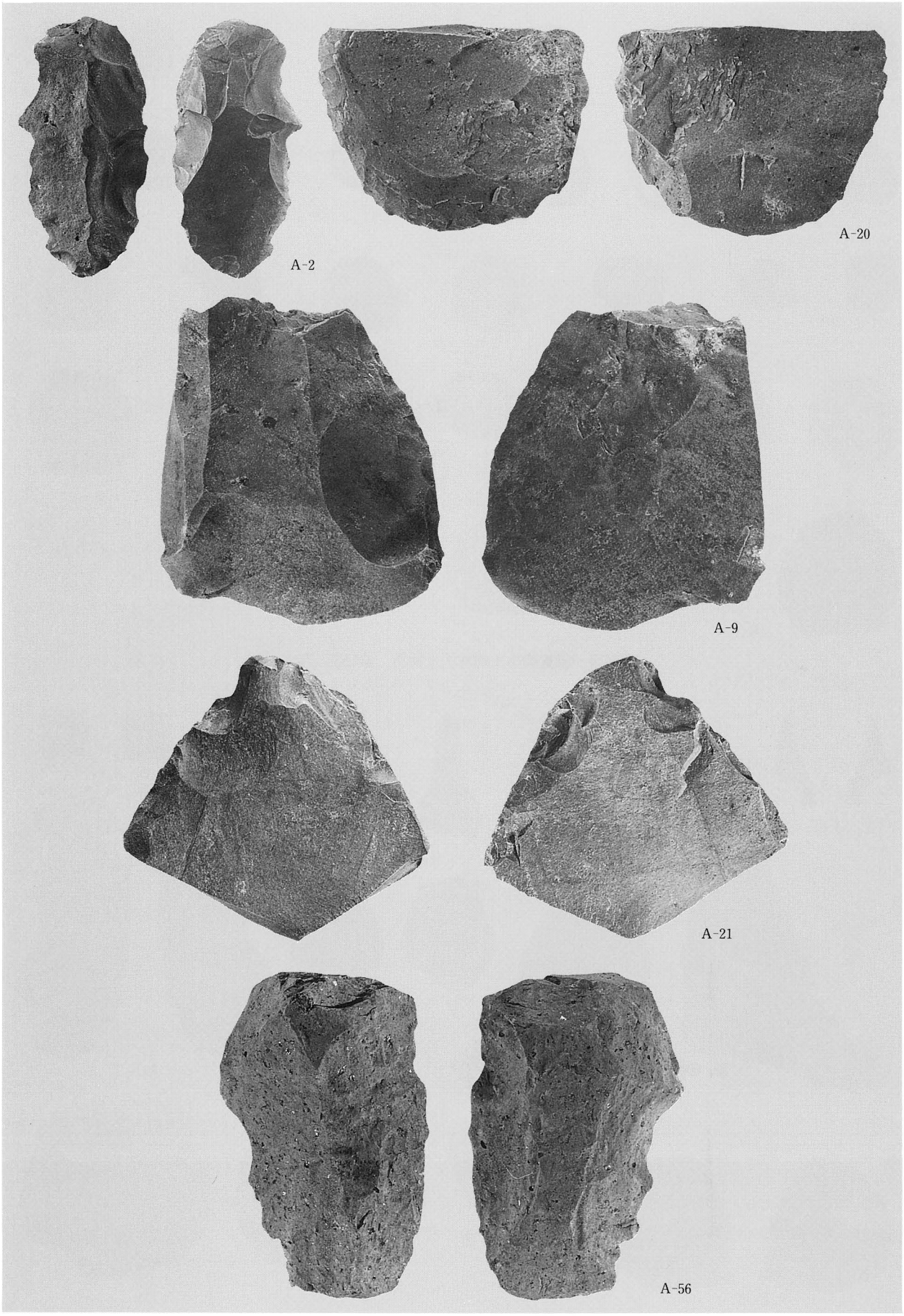


写真36　包含層出土石器 (2)　S＝2/3

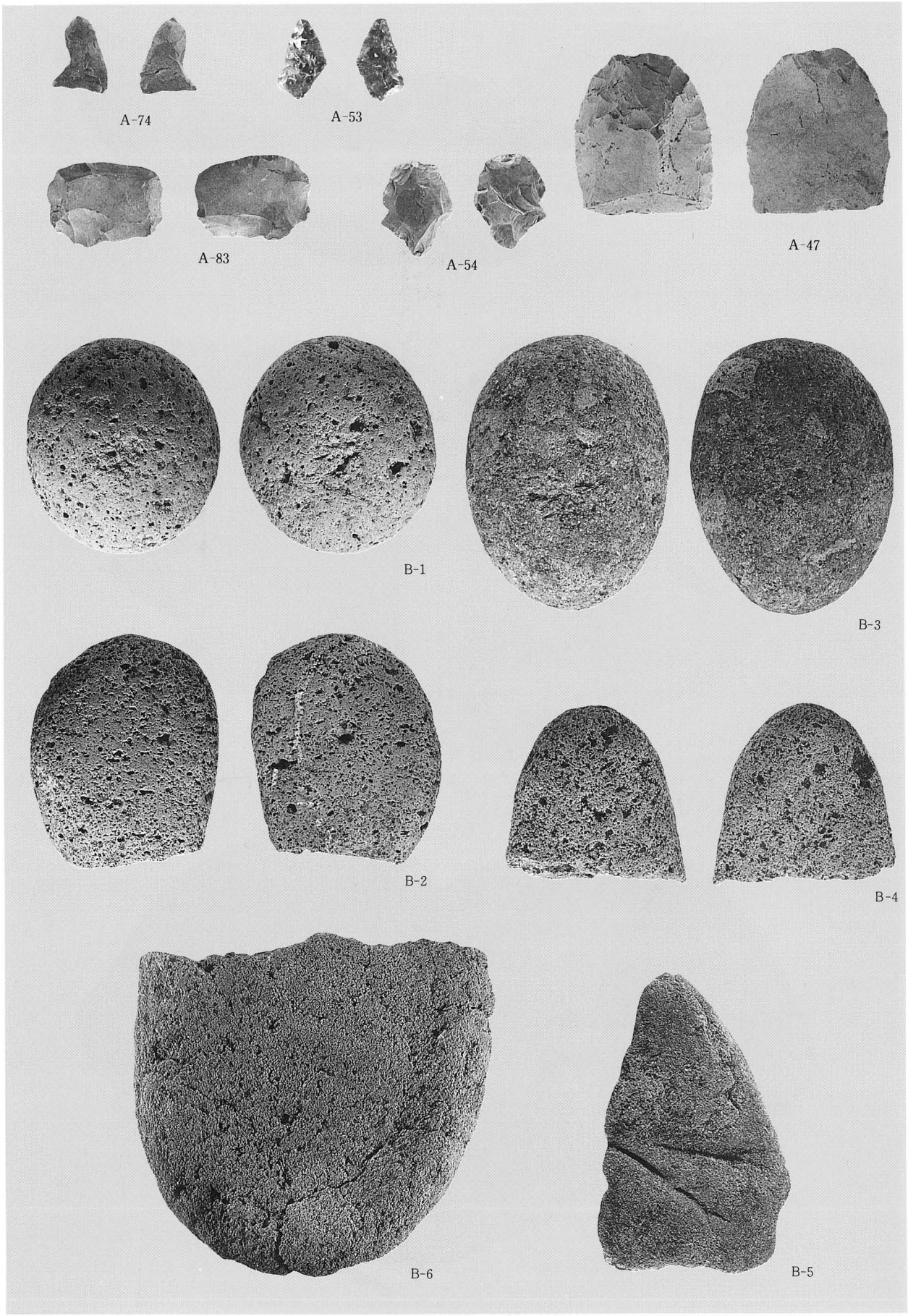


写真37　包含層出土石器 (3)　剝片石器 S＝2/3　礫 石 器 S＝1/3

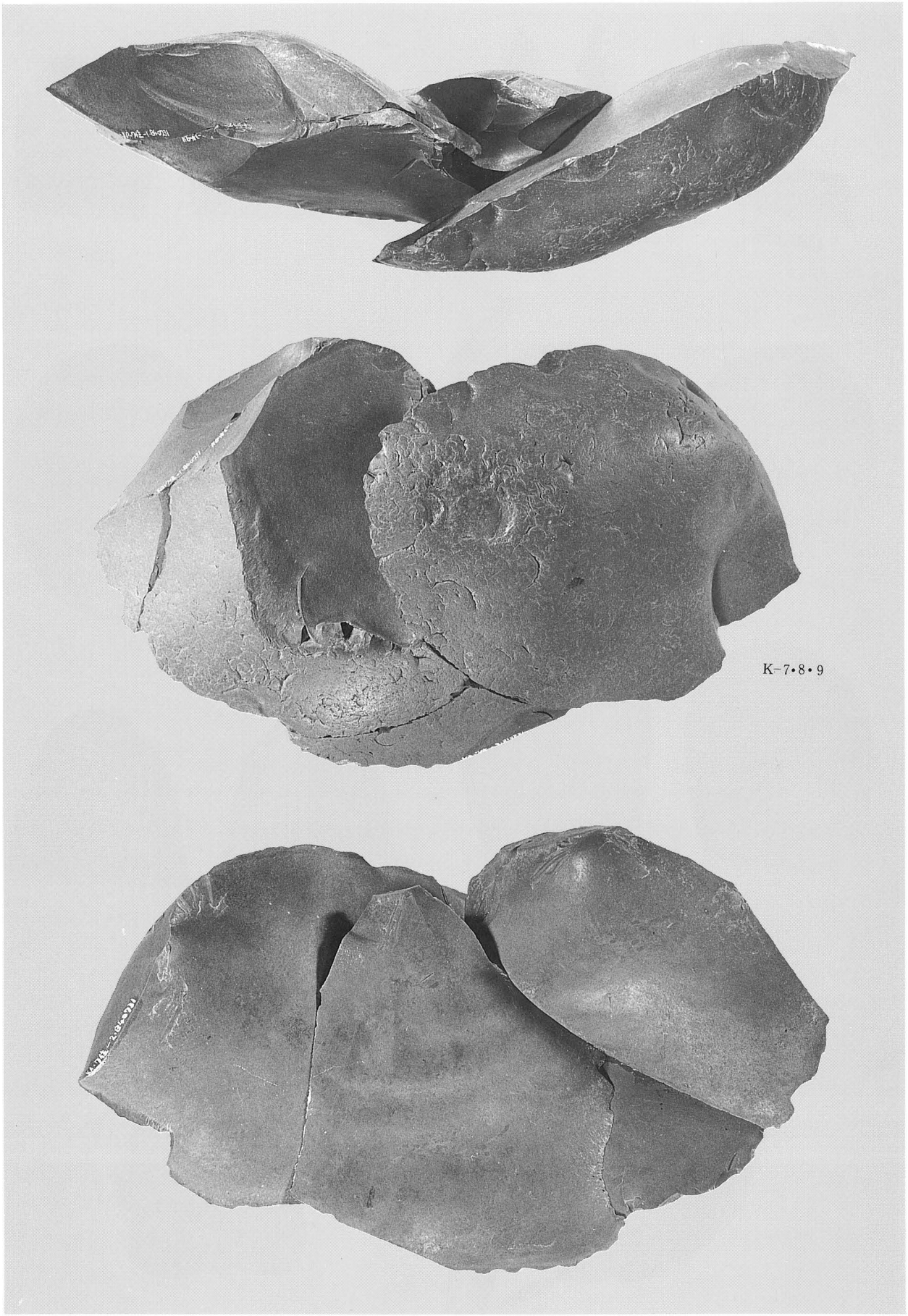


写真38　蒲沢山遺跡出土石器 (1)　S＝2/3

写真39　蒲沢山遺跡出土石器 (2)　S＝2/3

写真40　野川遺跡航空写真（1956年撮影）

第4表　水洗選別遺物グリッド別集計表（第55図参照）

Grid名称	石器出土有無	総　数	打　面　有		黒色系	グレイ系	白色系	打面無	受　熱	
			点　数	%					点　数	%
イ		383	30	7.8	1	29		353	30	7.8
ロ		981	233	23.8	2	229	2	748	31	3.2
ハ	1	776	297	38.3	2	288	7	479	24	3.1
ニ		341	142	41.6		136	6	199	5	1.5
ホ	1	661	47	7.1	6	41		614	134	20.3
ヘ	3	1,325	331	25.0	5	322	4	994	70	5.3
ト		840	303	36.1	3	290	10	537	16	1.9
チ		219	58	26.5	1	57		161	4	1.8
リ	2	329	67	20.4	1	66		262	14	4.3
ヌ	1	933	213	22.8	3	205	5	720	43	4.6
ル		283	80	28.3	2	78		203	20	7.1
ヲ	4	285	80	28.1	3	77		205	24	8.4
ワ		893	159	17.8	14	145		734	20	2.2
カ	石鏃1　3	1,817	640	35.2	2	637	1	1,177	27	1.5
ヨ	石鏃2　1	1,090	188	17.3	24	164		902	57	0.5
タ		568	93	16.4	13	79	1	475	82	14.4
レ	石鏃1　1	758	131	17.3		125	6	627	7	0.9
ン		866	264	30.5	9	254	1	264	27	3.1
ツ		509	107	21.0	5	102		402	40	7.9
ネ	1	527	145	27.5	31	112	2	382	49	9.3
ナ	石鏃1　1	377	61	16.2	1	60		316	3	0.8
ラ		185	61	33.0		56	5	124	2	1.1
ム		368	105	28.5	4	101		263	17	4.6
ウ		150	26	17.3	4	22		124	8	5.3
キ		21	8	38.1		8		13	0	0
ノ		451	123	27.3	1	119	3	328	5	1.1
オ	石鏃1	443	72	16.3	1	71		371	4	0.9
ク		98	35	35.7		35		63	0	0
ヤ		100	26	26.0	1	25		74	2	2.0
マ		163	47	28.8		45	2	116	13	8.0
ケ		246	99	40.2	2	96	1	147	0	0
フ		79	20	25.3		19	1	59	3	3.8
コ	1	142	49	34.5		46	3	93	17	12.0
エ		175	52	29.7		51	1	123	1	0.6
テ		132	34	25.8	3	31		98	1	0.8
ア		10	3	30.0		3		7	0	0
Grid不明		5							0	0
総点数	26	17,529	4,429	25.3	144	4,224	61	13,100	800	4.6
					3.3%	95.4%	1.4%	74.7%		

報告書抄録

ふりがな	のがわ いせき
書名	野川遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第２０５集
編著者名	工藤信一郎　吉岡恭平　荒井格
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-71　仙台市青葉区国分町三丁目７－１　☎022－214－8893～8894
発行年月日	1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
のがわ いせき 野川遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県　仙台市 くまがねあざまちちない 熊ケ根字町地内	04100	21001	38°17′30″	140°41′30″	19910828 ～19910927	120	市道拡幅工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野川遺跡	散布地	縄文時代 草創期 後期	草創期の石器貯蔵跡 後期の遺物包含層	縄文土器・石器 草創期多縄文系土器群 絡条体圧痕文 縄文圧痕＋爪形文 縄文圧痕文	「キャッシュ（貯蔵）」あるいは「デポ（一括埋納）」を示す石器の一括貯蔵跡

仙台市文化財調査報告書第205集

仙台市宮城地区

野　川　遺　跡

１９９６年３月

発　行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目７番１号

印　刷　株式会社　東北プリント
仙台市青葉区立町24—24　TEL 263—1166